

感染症発生動向調査事業報告書

平成31年・令和元年
(2019年)

序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、一類感染症から五類感染症および新型インフルエンザ等感染症のうち全症例の届出が義務付けられている疾患や、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、都内の発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っています。

さて、2019年前半は、2018年に引き続き風しんの国内感染例が多く、前年同様に20—50代の男性に集中していました。2018年（947件）ほどではありませんが、それでも2019年も860件と例年に比べると高い発生数でした。また、先天性風しん症候群が2014年以来5年ぶりに2例報告されました。今後もワクチン非接種（特に昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれ）の男性や風しん抗体の低い妊娠可能年齢の女性とその同居者に対して、検査やワクチンを積極的に受けてもらうための取り組みを続けていく必要があります。

手足口病の報告数は、最近10年程は隔年で多い年と少ない年が繰り返されています。2019年は多い年に当たり34,136人（定点当たり132.46人）の発生報告があり、感染症法施行後、最高となりました。

インフルエンザの2019年の報告数は、148,861人で最近10年では2014年に次いで2番目に多い発生数でした。2019/20シーズンの流行のきざしが46週以降始まり、52週には定点当たり23.19人まで上昇していました。しかし、2020年に入ると暖冬と新型コロナウイルス感染症による予防行動の活発化、いわゆる「手洗い」「マスク着用」の徹底などによるためか、一度も流行警報発令基準（定点当たり30人以上）に達することなく終息を見ました。詳細な検証結果を待たないとはっきりとしたことは言えませんが、予防行動の徹底がインフルエンザ感染対策に効果的であったと思われました。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における2019年の感染症発生情報の評価や予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の発生動向につきまして、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹定点における疾患」は桜山豊夫委員長に、「眼科疾患」は吉見裕美子委員に執筆をお願いしました。また、「一、二、三、四、五類感染症（全数届出）」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報担当が、「病原体情報」につきましては同じく微生物部が担当しました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力くださいました東京都医師会、定点医療機関および保健所等の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として本書を広くご活用くださいますようお願い申し上げます。

令和2年7月

東京都健康安全研究センター所長 吉村 和久

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患	3
(2) 定点医療機関	3
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	3
(3) 運営方法	3
(4) 情報発信	4

2 本年（2019年）の概況

(1) 一～四類、五類（全数把握対象）	4
(2) 五類感染症（定点把握対象）	5
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	8
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一～四類、五類全数）	9
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	10
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	11
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	12
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	12
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	13
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）	13
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）	13

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）	14
ア 一類感染症	14
イ 二類感染症	14
ウ 三類感染症	14
エ 四類感染症	17
オ 五類感染症（全数把握対象）	22
表3-1 一、二、三類、四類、五類（全数把握）感染症 週別患者報告数	40
表3-2 一、二、三類、四類、五類（全数把握）感染症 保健所別患者報告数	43
表3-3 一、二、三類、四類、五類（全数把握）感染症 年齢階級別患者報告数	46
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	49
イ R S ウイルス感染症	51
ウ 咽頭結膜熱	52
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	53

オ	感染性胃腸炎	54
カ	水痘	55
キ	手足口病	56
ク	伝染性紅斑	57
ケ	突発性発しん	58
コ	ヘルパンギーナ	59
サ	流行性耳下腺炎	60
シ	不明発しん症	61
ス	川崎病	62
(3)	眼科疾患	
ア	急性出血性結膜炎	63
イ	流行性角結膜炎	64
(4)	基幹定点医療機関における週報告疾患	
ア	細菌性髄膜炎	65
イ	無菌性髄膜炎	66
ウ	マイコプラズマ肺炎	67
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	68
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	69
カ	インフルエンザ入院	70
(5)	基幹定点医療機関における月報告疾患	
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	71
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	72
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	73
(6)	性感染症	
ア	性器クラミジア感染症	74
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	75
ウ	尖圭コンジローマ	76
エ	淋菌感染症	77
オ	臈トリコモナス症	78
表 4-1	週別患者報告数	79
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	81
表 5-1	保健所別患者報告数	83
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	85
表 6	年齢階級別患者報告数	87
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	88
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	89
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	90

表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	90
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	90
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	91
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	91
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	91
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	92
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	92
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	93
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	93
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	95
表 10	検査結果別報告数（基幹）	95

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア	インフルエンザ	99
イ	RSウイルス感染症	104
ウ	咽頭結膜熱	105
エ	感染性胃腸炎	106
オ	水痘	107
カ	手足口病	108
キ	伝染性紅斑	110
ク	突発性発しん	110
ケ	ヘルパンギーナ	111
コ	流行性耳下腺炎	112
サ	不明発しん症	113
シ	川崎病	115
ス	無菌性髄膜炎	115

(2)	眼科病原体定点医療機関からの搬入検体	115
(3)	性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	116
(4)	積極的疫学調査による搬入検体	117

2 細菌検査結果

(1)	四類感染症の病原体検索	119
(2)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	119
(3)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	120
(4)	性感染症（STI）病原体定点医療機関からの搬入検体	121

第3章 資料

1	東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	127
2	東京都感染症予防検討委員会委員名簿	144
3	東京都感染症発生動向調査事業の流れ	145
	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	146
	別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1	一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	157
2	五類感染症（全数把握）	158
3	新型インフルエンザ等感染症	159
4	五類感染症（定点把握）	159
5	疑似症	159
	別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	160
	別表3 疑似症の調査単位と報告時期	161

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、膣トリコモナス症を性感染症に加えている。

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症定点 36 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点はインフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たし、内科定点は疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

(2019 年 12 月 31 日現在)

定点種別 (疾患数)	患者定点数	病原体定点数
小児科定点 (14)	264	26
内科定点 (1)	155	15
眼科定点 (2)	39	4
基幹定点 (9)	25	21
性感染症定点 (5)	55	4
疑似症単独定点	36	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診察された場合に、所定の調査票を直ちに保健所に送付する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>) で公開され、広く都民に情報還元が図られている。さらに都医ニュースの特定の感染症を取り上げ、週報に「感染症豆知識」として掲載している。

また、隔月第4木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近2か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。

2 本年(2019年)の概況

(1) 一～四類、五類(全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

コレラ：2件の届出があった。

細菌性赤痢：27件の届出があった。菌種は *sonnei* 16件、*flexneri* 9件、*boydii* 1件、不明1件であった。推定感染地は国内3件、国外21件、不明3件であった。

腸管出血性大腸菌感染症：388件の届出があった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が120件で最多であった。症状別では患者272人(うちHUS7人)、無症状病原体保有者116人で、推定感染地は国内303件、国外31件、国内又は国外3件、不明51件であった。

腸チフス：3件の届出があった。

パラチフス：4件の届出があった。

エ 四類感染症

E型肝炎：128件の届出があった。推定感染地は国内99件、国外5件、国内又は国外1件、不明23件であった。

A型肝炎：143件の届出があった。推定感染地は国内112件、国外12件、国内又は国外3件、不明16件であった。推定感染経路は、経口感染51件、性的接触53件、経口感染又は性的接触7件、その他8件、不明24件であった。

オウム病：3件の届出があった。

重症熱性血小板減少症候群：1件の届出があった。本例は東京都における初めての報告となった。推定感染地は国内(長崎県)で、感染経路は不明であった。

チクングニア熱：11件の届出があった。推定感染地は全て国外であった。

つつが虫病：12件の届出があった。推定感染地は全て国内で、東京都6件(多摩地区5件、島しょ地区1件)、千葉県3件、沖縄県1件、埼玉県又は新潟県1件、不明1件であった。

デング熱：130件（デング出血熱はなし）の届出があった。推定感染地は国内3件、国外127件であった。

ブルセラ症：1件の届出があり、推定感染地は国内であった。

マラリア：22件の届出があった。熱帯熱マラリア16件、三日熱マラリア3件、四日熱マラリア1件、卵型マラリア1件、不明1件であった。

ライム病：1件の届出があり、推定感染地は国内であった。

レジオネラ症：187件の届出があった。病型は肺炎型163件、ポンティアック熱型19件、無症候5件で、死亡例は1人報告された。推定感染地は国内151件、国外12件、国内又は国外3件、不明21件であり、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは43件だった。

レプトスピラ症：9件の届出があった。推定感染地は国内5件、国外4件であった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢：155件の届出があった。腸管アメーバ症144件、腸管外アメーバ症8件、腸管及び腸管外アメーバ症3件であった。推定感染地は国内107件、国外17件、国内又は国外2件、不明29件であった。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）：98件の届出があった。B型肝炎76件、C型肝炎13件、サイトメガロウイルス（CMV）肝炎6件、エプスタインバーウイルス（EBV）肝炎3件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：237件の届出があった。推定感染地は国内213件、不明24件であった。

急性弛緩性麻痺：7件の届出があった。推定感染地はすべて国内であった。

急性脳炎：81件の届出があった。病原体はインフルエンザウイルス34件、ヘルペスウイルス9件、その他の病原体9件、不明29件であった。

クリプトスポリジウム症：4件の届出があった。

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）：19件の届出があった。孤発性プリオン病・古典型CJD17件、孤発性プリオン病・その他1件、遺伝性プリオン病・家族性CJD1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：126件の届出があり、過去10年で最も多い届出数となった。血清群別では、A群53件、B群18件、C群3件、F群1件、G群49件、C群又はG群2件であった。死亡例は29人報告された。

後天性免疫不全症候群：406件の届出があり、AIDS患者72人、HIV感染者334人（指標疾患以外の有症者59人、無症候性キャリア275人）であった。推定感染地は国内347件、国外24件、国内又は国外6件、不明29件であった。推定感染経路は、性的接触380件（同性間310件、異性間46件、両性間6件、不明18件）、静注薬物使用2件、輸血3件、2経路以上1件、その他2件、不明18件であった。

ジアルジア症：12件の届出があった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：85件の届出があった。血清型は、a型1件、b型1件、e型2件、f型2件、型別不明64件、検査未実施15件であった。4回が8件、3回が5件、2回が1件、1回が2件のほか、なし23件、不明46件であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：5件の届出があった。血清群はW-135群2件、B群1件、未実施2件であった。推定感染地は国内4件、国外1件で、ワクチン接種歴は、なし4件、不明1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症：382 件の届出があった。死亡例は 19 人報告された。ワクチン接種歴は 4 回 35 件、3 回 27 件、2 回 6 件、1 回 29 件、接種歴なし 134 件、不明 151 件であった。

水痘（入院例）：80 件の届出があった。死亡例の報告はなかった。推定感染地は国内 73 件、国外 2 件、不明 5 件であった。

先天性風しん症候群：2 件の届出があった。妊娠中の風しん罹患歴は妊娠 9 週 1 件、不明 1 件であった。

梅毒：1,712 件の届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期 504 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 671 件、晩期顕症梅毒 40 件、無症候 497 件であった。

播種性クリプトコックス症：12 件の届出があった。推定感染地は国内 10 件、国外 1 件、不明 1 件であった。

破傷風：8 件の届出があった。推定感染地はすべて国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：8 件の届出があった。耐性遺伝子型は *vanB* 7 件、*vanA* 1 件であった。

百日咳：1,340 件の届出があった。百日咳含有ワクチン接種歴は、4 回 726 件、3 回 39 件、2 回 7 件、1 回 31 件、なし 68 件、不明 469 件であった。

風しん：届出は 860 件であった。検査診断例 849 件（うち PCR 陽性例は 550 件）、臨床診断例 11 件であった。

麻疹：124 件の届出があった。検査診断例 94 件、臨床診断例 1 件、修飾麻疹 29 件であった。推定感染地は国内 91 件、国外 17 件、国内又は国外 1 件、不明 15 件であった。PCR 検査で麻疹ウイルスが確認された 103 件の遺伝子型別は D8 型 61 件、B3 型 42 件であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：2 件の届出があった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2018 年と比較して、報告数が 10%以上減少した疾患は伝染性紅斑、突発性発しん、流行性耳下腺炎、不明発しん症、川崎病の 5 疾患であった。咽頭結膜熱、A 群溶結性レンサ球菌咽頭炎の 2 疾患も、やや減少した。感染性胃腸炎は報告数が前年並みであった。報告数が 10%以上増加した疾患は RS ウイルス感染症、水痘、手足口病、ヘルパンギーナの 4 疾患であった。インフルエンザはやや増加した。

【前年比減少疾患】

咽頭結膜熱：2019 年の報告数は 4,405 人、定点当たり 17.04 人であった。前年比（定点当たり）は 0.95 であった。

A 群溶結性レンサ球菌咽頭炎：2019 年の報告数は 29,223 人、定点当たり 112.95 人であった。前年比（定点当たり）は 0.92 であった。

伝染性紅斑：2019 年の報告数は 6,071 人、定点当たり 23.60 人であった。前年比（定点当たり）は 0.57 であった。

突発性発しん：2019 年の報告数は 5,872 人、定点当たり 22.77 人であった。前年比（定点当たり）は 0.87 であった。

流行性耳下腺炎：2019 年の報告数は 994 人、定点当たり 3.85 人であった。前年比（定点当たり）は 0.80 であった。

不明発しん症:2019年の報告数は817人、定点当たり3.17人であった。前年比(定点当たり)は0.77であった。

川崎病:2019年の報告数は150人、定点当たり0.58人であった。前年比(定点当たり)は0.71であった。

【前年並みであった疾患】

感染性胃腸炎:2019年の報告数は77,421人、定点当たり299.71人であった。前年比(定点当たり)は0.98であった。

【前年比増加疾患】

インフルエンザ:2019年の報告数は148,861人、定点当たり361.04人であった。前年比(定点当たり)は1.09であった。

RSウイルス感染症:2019年の報告数は8,682人、定点当たり34.00人であった。前年比(定点当たり)は1.12であった。

水痘:2019年の報告数は5,739人、定点当たり22.25人であった。前年比(定点当たり)は1.28であった。

手足口病:2019年の報告数は34,136人、定点当たり132.46人であった。前年比(定点当たり)は4.06であった。

ヘルパンギーナ:2019年の報告数は10,341人、定点当たり40.26人であった。前年比(定点当たり)は1.26であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎:報告者は11人、定点あたり0.29人、定点あたりの当年/前年比は0.78であった。

流行性角結膜炎:報告数は649人、定点あたり17.35人、定点あたりの当年/前年比は0.61であった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎:2019年の報告数は39人、定点当たり1.57人であった。前年比(定点当たり)は1.23であった。

無菌性髄膜炎:2019年の報告数は48人、定点当たり1.93人であった。前年比(定点当たり)は1.46であった。

マイコプラズマ肺炎:2019年の報告数は349人、定点当たり14.02人であった。前年比(定点当たり)は1.52であった。

クラミジア肺炎(オウム病を除く):2019年の報告数は39人、定点当たり1.56人であった。前年比(定点当たり)は0.98であった。

感染性胃腸炎(ロタウイルスによる):2019年の報告数は188人、定点当たり7.53人であった。前年比(定点当たり)は1.71であった。

インフルエンザ入院:2019年の報告数は1,511人、定点当たり60.49人であった。前年比(定点当たり)は1.36であった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:2019年の報告数は894人、定点当たり35.76人であった。前年比(定点当たり)は1.01であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:2019年の報告数は96人、定点当たり3.84人であった。前年比(定点当たり)は0.91であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症:2019年の報告数は8人、定点当たり0.32人であった。前年比(定点当たり)は0.89であった。

オ 性感染症

2019年における東京都の年間患者報告数で前年より増加が認められた性感染症は、性器クラミジア感染症 尖圭コンジローマ、淋菌感染症で、減少したのは性器ヘルペスウイルス感染症、膣トリコモナス症だった。

性器クラミジア感染症:年間患者報告数は2,767人(定点あたり50.93人)で、前年より216人(定点あたり4.47人)増加し、過去10年で最も多い報告数となった。男性1,679人(前年比1.19)、女性1,088人(0.97)であった。

性器ヘルペスウイルス感染症:年間患者報告数は977人(定点あたり17.98人)で、前年より60人(定点あたり0.95人)減少し、過去10年の中で初めて年間1000人を下回った。男性581人(前年比0.87)、女性396人(前年比1.10)であった。

尖圭コンジローマ:年間患者報告数は1,564人(定点あたり28.81人)で、前年より513人(定点あたり9.67人)増加し、過去10年で最も多い報告数となった。男性1,122人(前年比1.53)、女性442人(前年比1.36)であった。

淋菌感染症:年間患者報告数は1,185人(定点あたり20.11人)で、前年より81人(定点あたり1.7人)増加した。男性883人(前年比1.09)、女性302人(前年比1.07)であった。

膣トリコモナス症:年間患者報告数は118人(定点あたり2.17人)で、前年より10人(定点あたり0.16人)減少した。男性6人(前年比1.01)、女性112人(前年比0.93)であった。

(3) 疑似症(法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)

1月から3月までの間に、摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、発熱及び発しん又は水疱のいずれも報告はなかった。

4月から12月までの間に、2件の疑似症として届け出られたが、いずれも取り下げとなった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数)

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核	2,671	2,533	2,306	2,340	2,213	1,970	1,810
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 *10	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *1	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9) *7	-	-	-	-	-	-	-
三类	コレラ	-	3	1	2	2	-	2
	細菌性赤痢	36	41	53	40	34	109	27
	腸管出血性大腸菌感染症	382	362	335	452	467	466	388
	腸チフス	23	27	14	18	8	11	3
	パラチフス	20	8	9	8	6	10	4
四類	E型肝炎	32	27	39	37	57	101	128
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	19	38	39	65	65	421	143
	エキノコックス症	-	-	1	-	1	-	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	2	3	-	2	-	2	3
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	2	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	3	-	-	-	-	2	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	4	-	2	2	1	-	-
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症 *11	-	-	-	3	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群 *4	-	-	-	-	-	-	1
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 *2	4	5	7	4	3	-	11
	つつが虫病	12	18	14	7	13	12	12
	デング熱	66	163	92	90	65	61	130
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	1	-	1	-	-
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	4	2	1	-	-	1
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	
発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	
ボツリヌス症	-	-	-	1	2	1	-	

		2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
四 類	マラリア	12	27	16	18	27	14	22
	野兔病	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	7	2	2	-	1	1	1
	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	1	-	1	-	1	1	-
	レジオネラ症	80	107	153	143	159	164	187
	レプトスピラ症	6	6	10	7	9	5	9
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	187	229	205	222	219	163	155
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	72	48	53	69	67	69	98
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*8}	/	56	236	190	212	233	237
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) ^{*13}	/	/	/	/	/	8	7
	急性脳炎	46	52	47	85	74	65	81
	クリプトスポリジウム症	7	82	3	2	2	3	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	19	17	24	16	19	25	19
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	37	41	62	65	72	87	126
	後天性免疫不全症候群	469	512	435	464	464	422	406
	ジアルジア症	22	15	19	17	24	19	12
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*5}	12	22	29	46	56	40	85
	侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*5}	11	9	8	5	3	6	5
	侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*5}	124	225	323	356	390	401	382
	水痘(入院例) ^{*8}	/	11	55	56	55	61	80
	髄膜炎菌性髄膜炎 ^{*6}	-	/	/	/	/	/	/
	先天性風しん症候群	13	3	-	-	-	-	2
	梅毒	419	507	1,044	1,673	1,788	1,775	1,712
	播種性クリプトコックス症 ^{*8}	/	4	11	20	15	18	12
	破傷風	4	10	2	4	9	8	8
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	8	6	2	2	8	7	8
	百日咳 ^{*12}	/	/	/	/	/	2,434	1,340
	風しん ^{*3}	3,445	99	33	19	22	947	860
麻しん ^{*3}	69	94	10	22	28	23	124	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*9}	/	3	13	1	6	4	2	

*1 2008年5月12日より追加指定。

*2 2011年2月1日より追加指定。

*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*4 2013年3月4日より追加指定。

*5 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

*6 2003年11月5日より四類(全数把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった後、2013年4月1日より届出対象から除外。

*7 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

*8 2014年9月19日より追加指定。

*9 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。

*10 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*11 2016年2月15日より追加指定。

*12 2018年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*13 2018年5月1日より追加指定。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数(全数動物)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
ペストのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
重症急性呼吸器症候群のハクペシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	-	-	-	-	-	-	-
中東呼吸器症候群のラクダ ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
細菌性赤痢のサル	-	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

*1 2014年7月26日より追加指定

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
小児科定点数	150	264	264	264	264	264	264	264	264	264
インフルエンザ定点数	290	419	419	419	419	419	419	419	419	419
インフルエンザ	12,614 43.97	99,940 240.03	135,064 323.29	75,328 181.11	152,421 367.55	59,435 145.11	125,207 302.31	129,813 314.14	137,262 331.57	148,861 361.04
RSウイルス感染症 ^{*1}	2,153 14.52	3,628 13.94	6,349 24.51	6,058 23.48	6,183 23.70	7,197 27.82	7,021 27.06	8,838 34.47	7,830 30.49	8,682 34.00
咽頭結膜熱	1,979 13.37	4,936 18.95	5,510 21.20	6,184 23.89	5,607 21.54	5,385 20.77	5,026 19.38	7,322 28.21	4,671 17.96	4,405 17.04
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	11,231 75.80	25,487 97.66	25,224 96.60	24,801 95.29	27,581 105.60	35,039 134.57	31,211 120.13	30,664 117.71	32,120 123.25	29,223 112.95
感染性胃腸炎	63,372 427.41	95,910 367.56	118,967 455.28	102,987 395.81	84,091 322.84	91,052 350.13	110,239 423.72	84,981 326.63	79,282 304.52	77,421 299.71
水痘	9,472 63.93	15,679 60.11	12,995 49.75	11,452 44.22	10,314 39.69	6,765 26.04	5,541 21.34	5,135 19.73	4,515 17.35	5,739 22.25
手足口病	6,257 42.52	24,786 95.84	5,411 20.90	29,320 114.72	6,089 23.44	32,599 126.39	6,993 26.97	33,056 129.10	8,452 32.65	34,136 132.46
伝染性紅斑	2,929 19.79	6,317 24.23	1,626 6.23	1,608 6.19	5,069 19.44	10,174 39.08	2,485 9.57	1,311 5.04	10,733 41.36	6,071 23.60
突発性発しん	4,397 29.74	8,447 32.44	8,547 32.85	8,299 32.00	8,120 31.18	7,816 30.10	7,231 27.87	7,056 27.13	6,771 26.05	5,872 22.77
百日咳 ^{*2}	506 3.42	450 1.73	286 1.10	91 0.35	158 0.61	300 1.15	181 0.70	113 0.44		
ヘルパンギーナ	8,400 57.06	14,431 55.78	13,548 52.28	8,480 33.06	15,874 61.25	7,200 27.91	13,094 50.69	6,812 26.54	8,188 32.01	10,341 40.26
流行性耳下腺炎	5,154 34.87	4,488 17.23	3,089 11.88	2,549 9.83	3,003 11.57	4,883 18.83	8,526 32.88	2,903 11.16	1,246 4.79	994 3.85
不明発しん症 ^{*3}	622 4.21	1,506 5.78	1,400 5.40	1,094 4.24	1,158 4.45	1,312 5.06	983 3.79	1,101 4.25	1,073 4.14	817 3.17
川崎病 ^{*3}	89 0.60	217 0.83	177 0.68	221 0.85	180 0.69	199 0.77	208 0.80	205 0.79	214 0.82	150 0.58

*1 2003年45週より実施

*2 2018年1月1日から全数把握対象疾患

*3 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定点数	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	74	31	19	17	13	14	11	12	14	11
	1.91	0.84	0.50	0.45	0.34	0.36	0.28	0.31	0.37	0.29
流行性角結膜炎	951	842	1,140	891	913	1,256	1,201	1,219	1,060	649
	24.60	22.73	30.01	23.68	23.79	32.49	31.03	31.48	28.22	17.35

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	18	52	42	48	22	38	33	41	32	39
	0.76	2.14	1.68	1.93	0.88	1.52	1.32	1.64	1.28	1.57
無菌性髄膜炎	38	96	121	126	102	73	77	39	33	48
	1.61	3.91	4.86	5.06	4.09	2.92	3.08	1.56	1.32	1.93
マイコプラズマ肺炎	416	1,143	1,067	514	234	770	1,047	237	230	349
	17.76	46.78	42.84	20.66	9.37	30.85	41.88	9.48	9.20	14.02
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	20	18	14	40	21	59	50	46	40	39
	0.85	0.74	0.56	1.60	0.84	2.36	2.00	1.84	1.60	1.56
感染性胃腸炎 ^{*1} (ロタウイルスによる)				22	134	99	108	235	110	188
				0.88	5.36	3.96	4.32	9.40	4.40	7.53
インフルエンザ入院 ^{*2}		12	610	518	735	486	649	902	1,113	1,511
		0.48	24.40	20.89	29.40	19.44	25.96	36.08	44.52	60.49

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定点数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26	908 36.44	877 35.21	867 34.68	881 35.24	804 32.16	894 35.76
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94	186 7.47	158 6.36	138 5.52	105 4.20	102 4.08	96 3.84
薬剤耐性緑膿菌感染症	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29	21 0.84	28 1.12	22 0.88	3 0.12	9 0.36	8 0.32
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00					

* 2011年2月より2014年9月18日まで実施。

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定点数	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46	2,427 44.90	2,678 49.09	2,712 49.39	2,294 41.77	2,551 46.46	2,767 50.93
性器ヘルペスウイルス感染症	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60	1,298 24.00	1,329 24.36	1,400 25.49	1,279 23.29	1,037 18.88	977 17.98
尖圭コンジローマ	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84	986 18.22	1,237 22.68	1,321 24.06	1,021 18.58	1,051 19.14	1,564 28.81
淋菌感染症	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87	1,259 23.31	1,394 25.55	1,528 27.82	1,109 20.20	1,104 20.11	1,185 21.81
膣トリコモナス症*	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10	127 2.36	151 2.77	117 2.13	110 2.00	128 2.33	118 2.17
梅毒様疾患*	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53	135 2.50	221 4.05				

* 東京都独自疾患、梅毒様疾患は2015年末で終了

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(疑似症定点)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
定点数	315	443	443	443	443	443	443	443	443	443
発熱及び呼吸器症状*	20	9	10	38	147	126	49	26	3	0
発熱及び発しん・水疱*	9	4	15	16	20	21	5	3	4	0

* 2008年7月より2019年3月まで実施

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

ウ 三類感染症

① コレラ

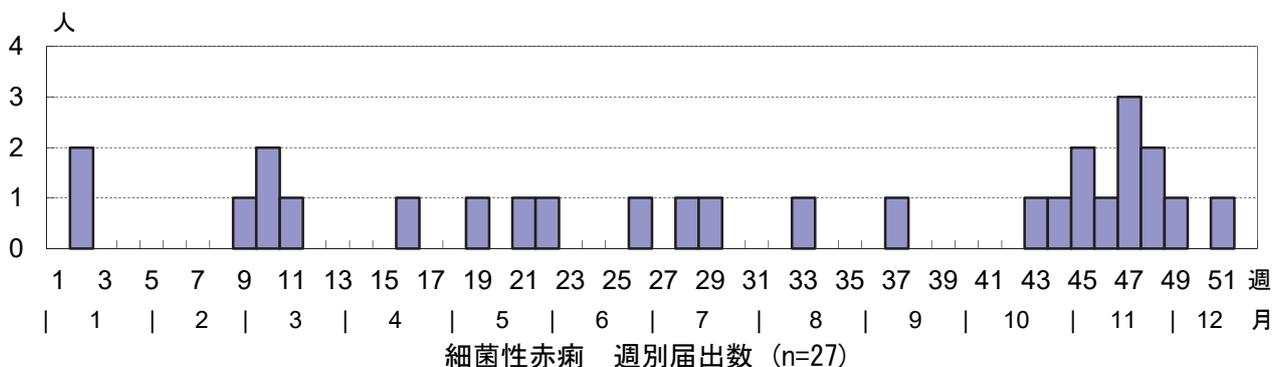
2019年は2件の届出があった。性別は男性1人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳1人であった。、全て、血清型はO1、抗原型は小川型、生物型はエルツール型、推定感染地域はインドであった。感染経路は、経口感染1件（屋台での喫食）、不明1件であった。

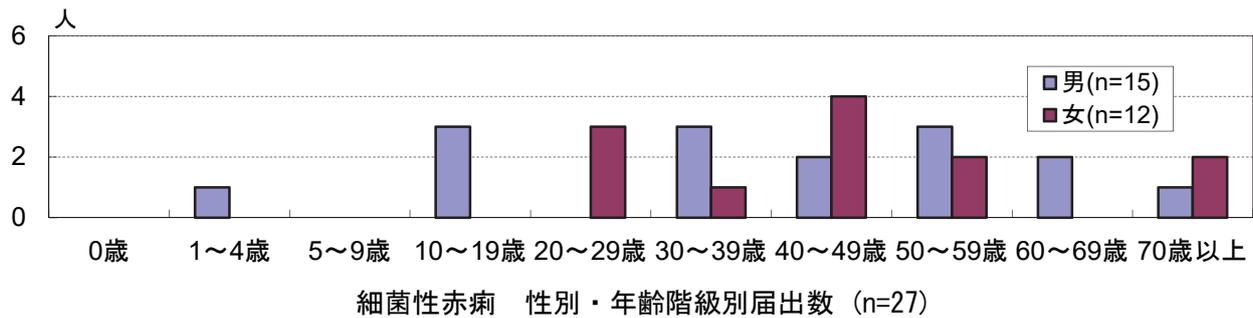
② 細菌性赤痢

2019年は27件の届出があった。菌種は *sonnei* 16件、*flexneri* 9件、*boydii* 1件、不明1件であった。性別は男性15人、女性12人で、年齢階級別では10歳未満1人（1～5歳）、10～19歳3人、20～29歳3人、30～39歳4人、40～49歳6人、50～59歳5人、60～69歳2人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内3件、国外21件（フィリピン7件、インド4件、インドネシア、エチオピア各3、タイ、ミャンマー、トルコ、ケニア1件）、不明3件であった。

感染経路は、経口感染20件（国外18件、国内1件、不明1件）、接触感染1件（国内・幼稚園内）、不明6件であった。





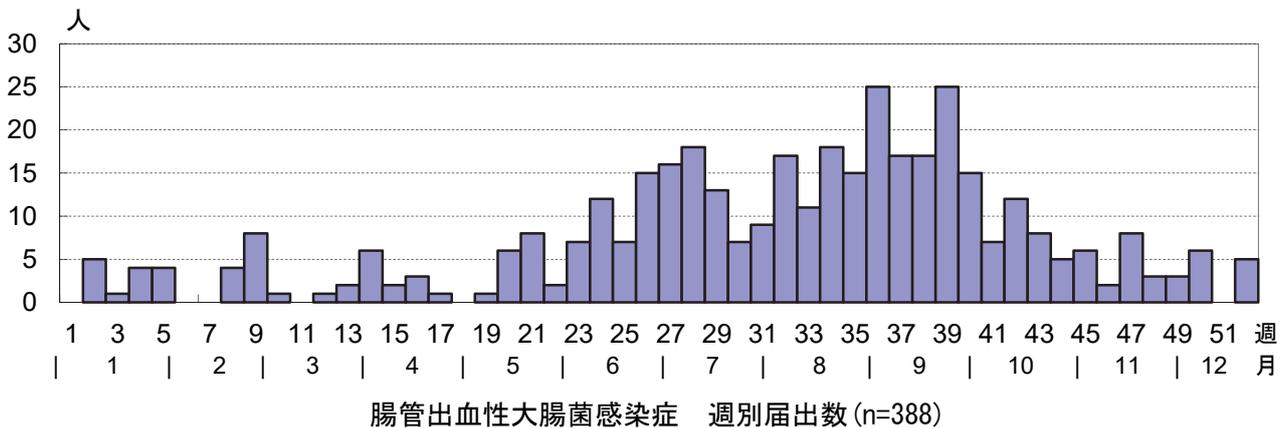
③ 腸管出血性大腸菌感染症

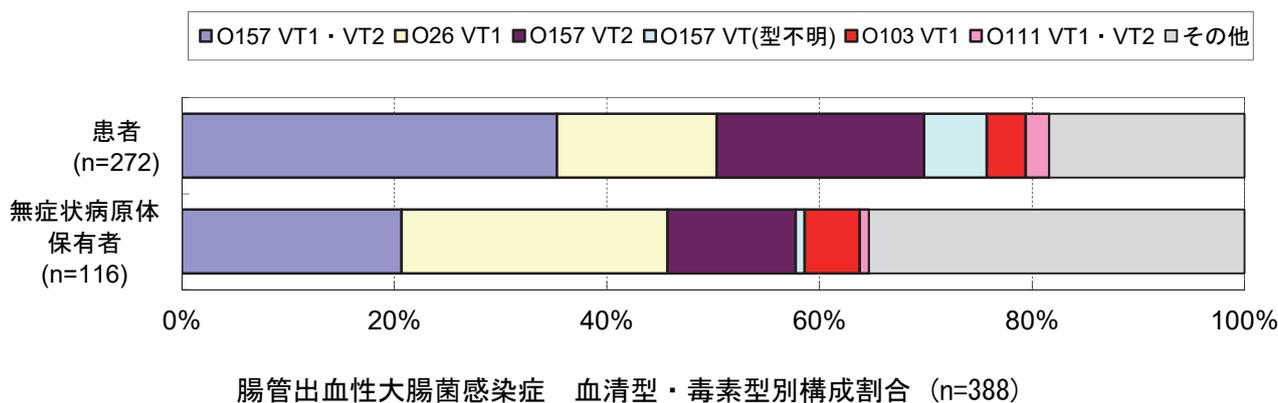
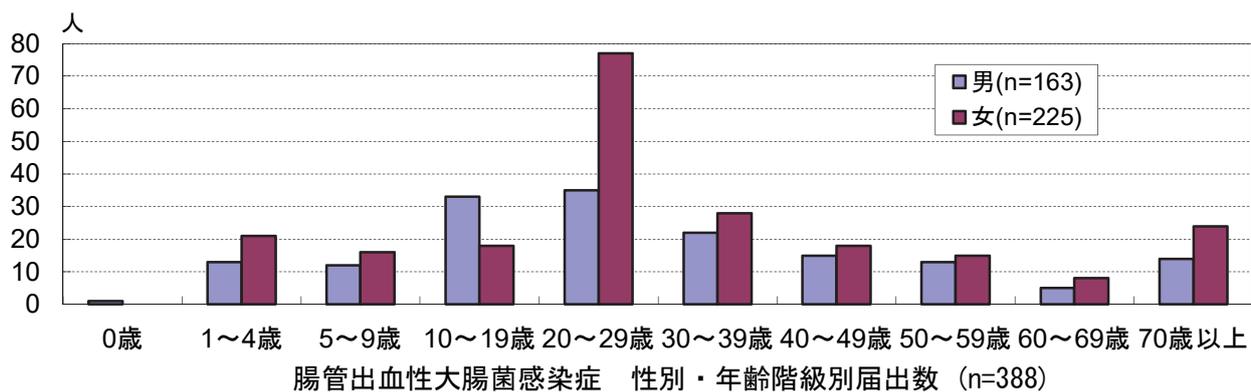
2019年は388件の届出があった。症状別では患者272人、無症状病原体保有者116人であった。届出はほぼ1年を通して見られたが、特に9月に集団事例の発生に伴い増加した。性別は男性163人、女性225人で、年齢階級別では10歳未満63人（うち5歳未満35人）、10～19歳51人、20～29歳112人、30～39歳50人、40～49歳33人、50～59歳28人、60～69歳13人、70歳以上38人であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が120件で最多であった。

推定感染地は国内303件、国外31件（韓国15件、インドネシア、ニュージーランド、ネパール、モロッコ、ペルー各2件、中国、タイ、ウズベキスタン、ジブチ、米国各1件、インド又はネパール1件）、国内又は国外3件（フィリピン、ニュージーランド、米国各1件）、不明51件であった。

症例の集積は、第35～36週にO26 VT1による保育園関連が9人、第38～39週にO157 VT1・VT2によるレストランでの食中毒事例で8人、第33～36週にO26 VT1による保育園関連事例の4人が認められた。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは7人おり、内訳は10歳未満5人（うち5歳未満3人）、70歳代1人、80歳代1人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=388)

血清型	毒素型	人数	血清型	毒素型	人数
O1	不明	1	O121	VT2	6
O15	VT1・VT2	1		不明	2
O26	VT1	70	O125	VT1・VT2	1
	不明	2	O128	VT1・VT2	1
O55	VT1	1	O145	VT2	6
	VT1	2		不明	1
O91	VT1・VT2	1	O146	VT1・VT2	1
	不明	1	O152	VT1	1
	VT1	16		VT1	5
O103	VT1・VT2	1	O157	VT2	67
	不明	2		VT1・VT2	121
	VT1	3		不明	16
O111	VT1・VT2	7		VT1	13
	不明	1		VT2	17
O115	VT1	2	不明	VT1・VT2	9
				不明	10

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=7)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	推定感染経路等
4/15	男	3	血清型・毒素型不明	国内	焼肉、兄との接触
7/11	女	83	O157 VT1・VT2	国内	甘夏、夫との接触
7/14	女	3	血清型・毒素型不明	国内	不明

8/30	女	5	0157 VT2	不明	不明
9/19	男	7	0157 VT1・VT2	国内	不明
10/29	男	71	血清型・毒素型不明	国内	不明
12/27	男	0	血清型・毒素型不明	国内	母乳、離乳食

④ 腸チフス

2019年は3件の届出があった。性別では男性1人、女性2人、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳2人であった。

ファージ型別はUVS2が1株、UVS4が1株、不明が1株であった。

推定感染地はインドネシア1件、インド1件、不明1件であった。

⑤ パラチフス

2019年は4件の届出があった。性別は男性3人、女性1人であり、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳2人、50～59歳1人であった。

ファージ型別は1型が2株、13型が1株、UT (Untypable) が1株であった。

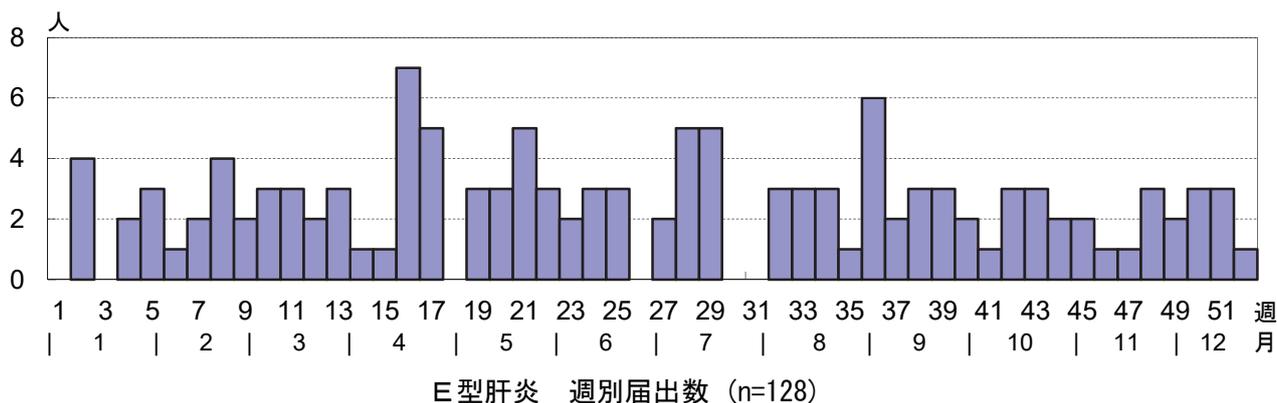
推定感染地は全て国外で、インド3件、インドネシア1件であった。

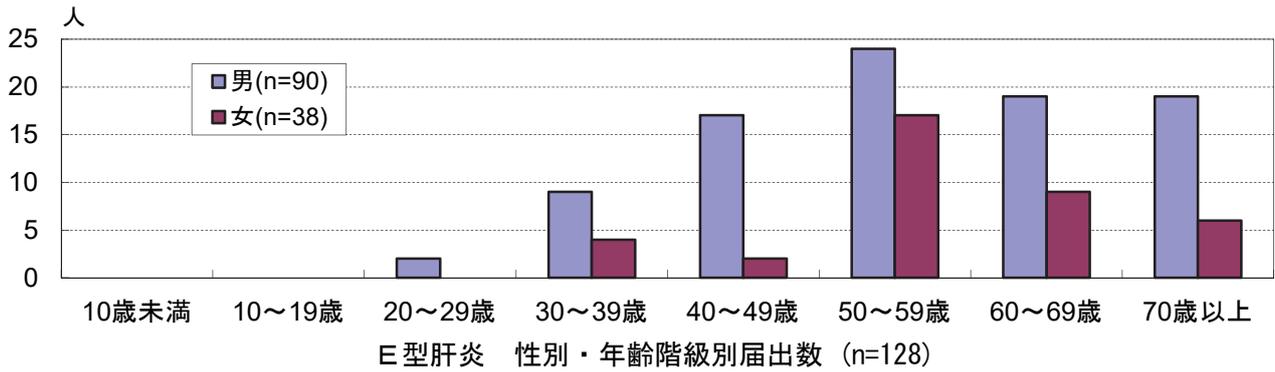
エ 四類感染症

① E型肝炎

2019年は128件の届出があった。性別は男性90人、女性38人で、年齢階級別では20～29歳2人、30～39歳13人、40～49歳19人、50～59歳41人、60～69歳28人、70歳以上25人であった。

推定感染地は国内99件、国外5件（インド2件、中国1件、タイ1件、米国1件）、国内又は国外1件（米国）、不明23件であった。推定感染経路は経口感染81件、輸血1件、不明46件であった。経口感染81件の推定原因食品は、肉類40件、魚介類1件、魚介及び肉類1件、不明39件であった。



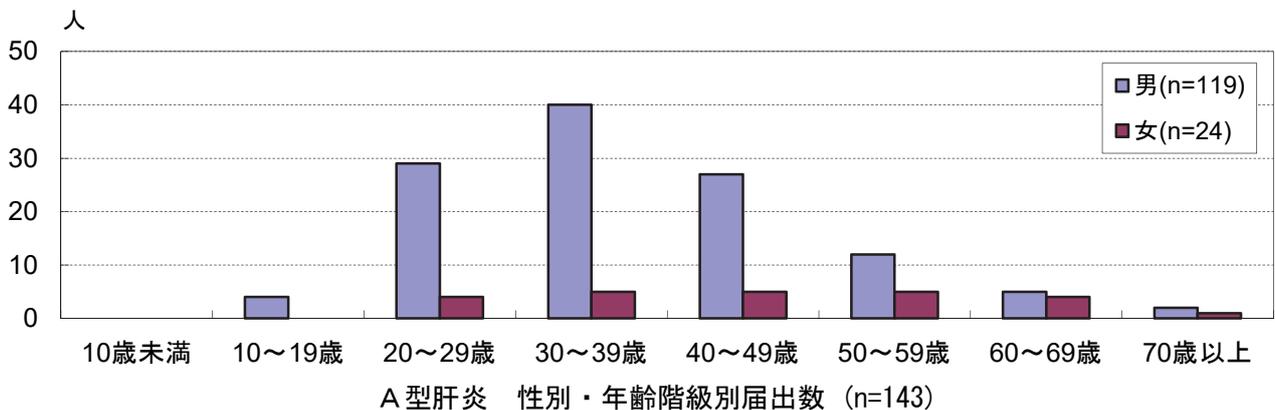
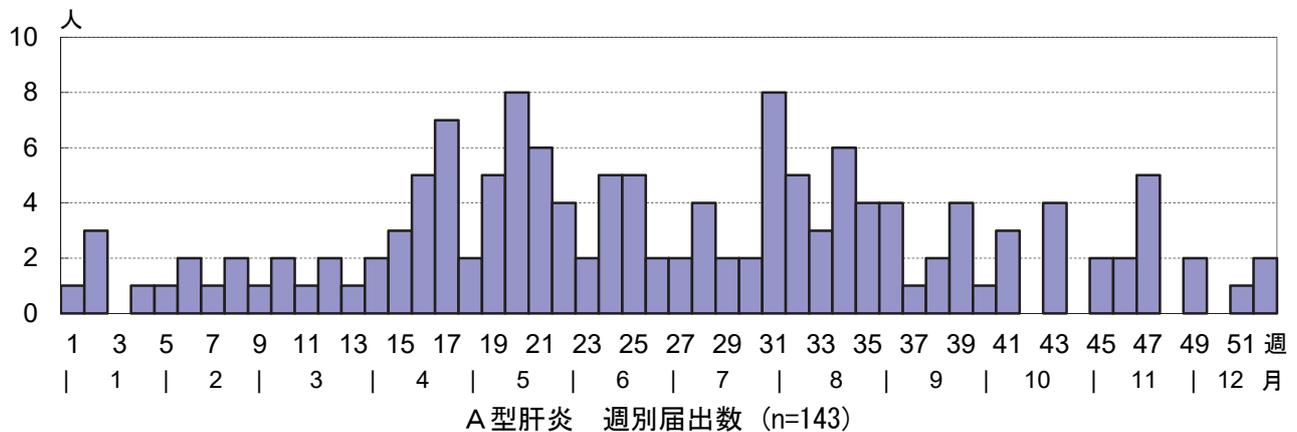


② A型肝炎

2019年は143件の届出があった。性別は男性119人、女性24人で、年齢階級別では10～19歳4人、20～29歳33人、30～39歳45人、40～49歳32人、50～59歳17人、60～69歳9人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内112件、国外12件（韓国3件、フィリピン2件、インド、エジプト、タイ、バングラデシュ、マレーシア各1件、タイ又は台湾1件、メキシコ又はキューバ1件）、国内又は国外3件（韓国、インド、中国又は香港各1件）、不明16件であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染51件、性的接触53件、経口感染又は性的接触7件、その他8件、不明24件であった。経口感染51件の推定原因食品は、魚介類が19件（うちカキ5件、その他の貝類6件、その他8件）、その他8件、不明24件であった。性的接触53件の内訳は、男性51件（同性間38件、異性間5件、両性間2件、性別不明6件）、女性2件（全て性別不明）であった。



③ オウム病

2019年は3件の届出があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別では30～39歳1人、60～69歳1人、70歳以上1人、であった。推定感染地は国内2人、不明1人であった。感染経路は鳥類との接触2人、不明1人であった。

④ 重症熱性血小板減少症候群

2019年は1件の届出があった。本例は東京都における初めての報告となった。性別は男性で、年齢階級別では50～59歳あった。推定感染地は国内（長崎県）で、感染経路は不明であった。

⑤ チクングニア熱

2019年は11件の届出があった。性別は男性5人、女性6人で、年齢階級別では5～9歳1人、20～29歳4人、30～39歳3人、40～49歳3人であった。推定感染地は全て国外（ミャンマー8件、ラオス、インド、モルディブ各1件）であった。感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

⑥ つつが虫病

2019年は12件の届出があった。性別は男性9人、女性3人であった。年齢階級別は5～9歳1人、30～39歳1人、40～49歳1人、50～59歳2人、60～69歳2人、70歳以上5人であった。推定感染地は全て国内で、東京都6件（多摩地区5件、島しょ地区1件）、千葉県3件、沖縄県1件、埼玉県又は新潟県1件、不明1件であった。

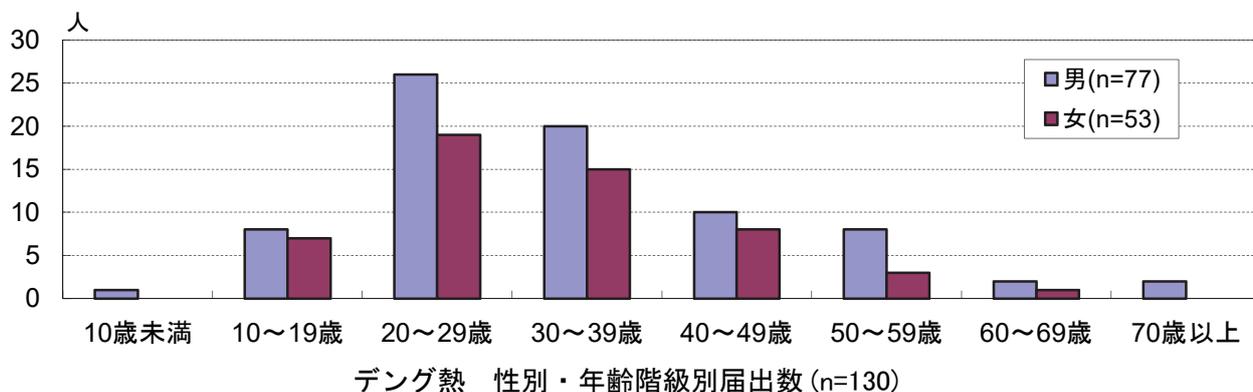
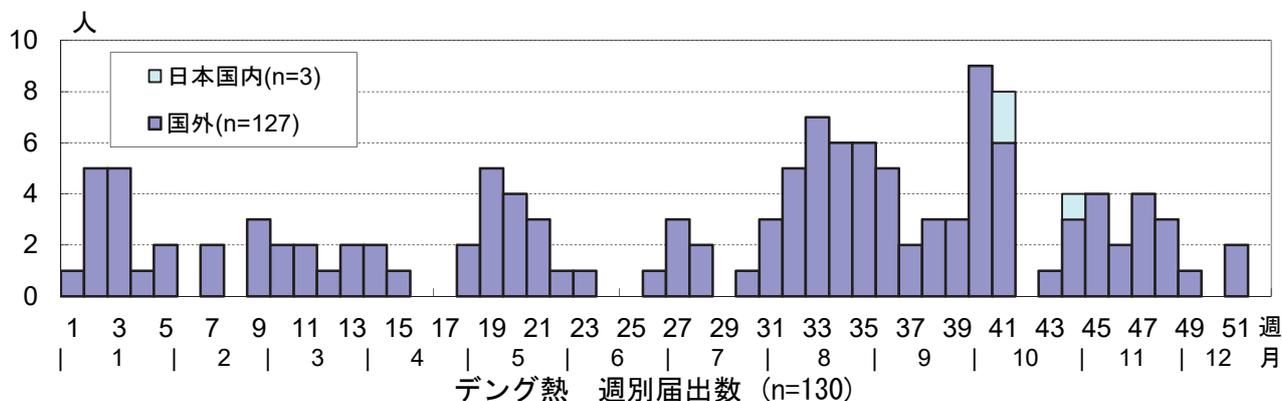
つつが虫病届出例（n=12）

受理日	性別	年齢	推定感染地	媒介動物との接触状況
10/04	男	8	埼玉県又は新潟県	森の中でカブトムシ捕獲等
11/18	女	55	沖縄県	
11/19	男	76	東京都（多摩）	畑仕事、台風後の土砂片付け
11/22	男	73	東京都（多摩）	藪の中で草刈り
12/05	女	76	千葉県	
12/10	男	54	千葉県	林の中にボールを探しに入った
12/12	男	85	東京都（多摩）	土木作業
12/16	男	68	東京都（島しょ）	
12/17	女	63	東京都（多摩）	野良猫を屋内で飼育
12/19	男	34	不明	
12/19	男	49	千葉県	山林にて数回転倒
12/26	男	79	東京都（多摩）	畑作業

⑦ デング熱

2019年は130件の届出があった。デング出血熱の届出はなかった。性別は男性77人、女性53人、年齢階級別は5～9歳1人、10～19歳15人、20～29歳45人、30～39歳35人、40～49歳18人、50～59歳11人、60～69歳3人、70歳以上2人であった。血清型は65件報告されており、その内訳は1型22件、2型26件、3型14件、4型3件であった。

推定感染地は国内 3 件、国外 127 件（インドネシア 19 件、フィリピン 15 件、カンボディア 12 件、ベトナム、マレーシア各 10 件、タイ、インド各 9 件、ミャンマー、ネパール、モルディブ各 5 件、タンザニア 3 件、メキシコ、キューバ、フィジー各 2 件、シンガポール、ラオス、スリランカ、東ティモール、コートジボアール、ツバル、マーシャル諸島 1 件、二か国以上 12 件）であった。国内感染の 3 件は、修学旅行で奈良市、京都市を訪れた中学生の症例であった。



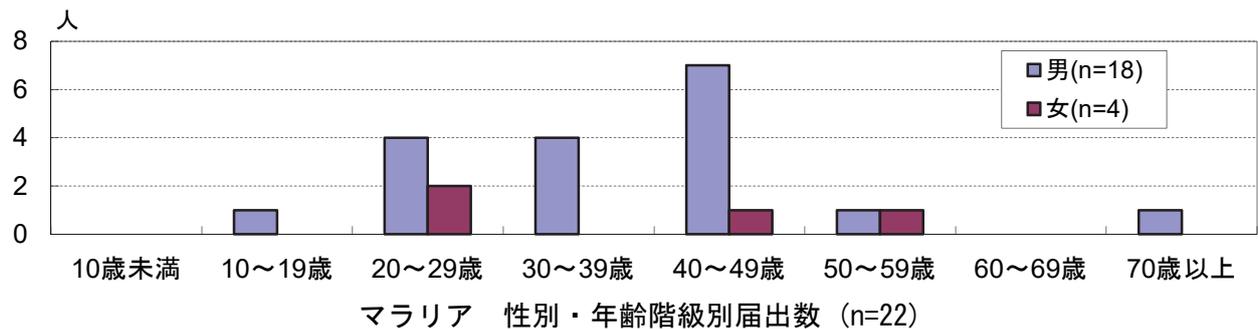
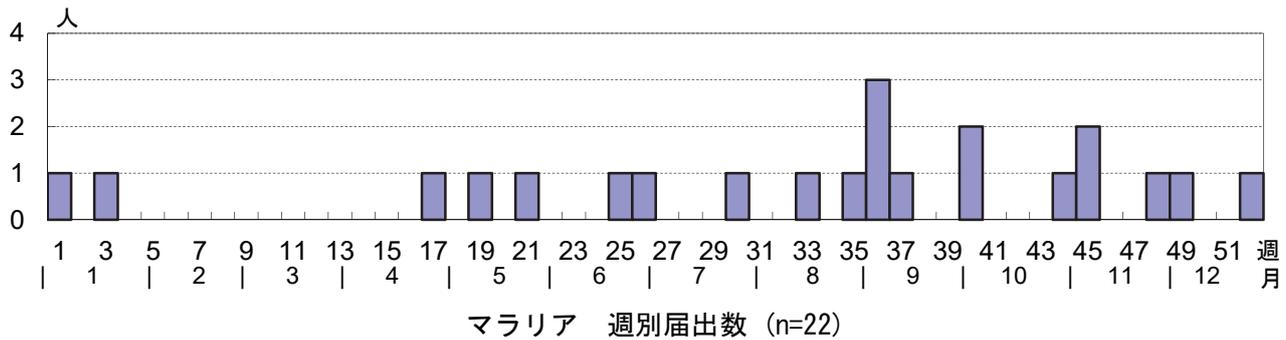
⑧ ブルセラ症

2019 年は 1 件の届出があった。性別は男性で、年齢階級別では 20～29 歳であった。推定感染地は国内で、実験動物からの感染が疑われた。

⑨ マラリア

2019 年は 22 件の届出があった。熱帯熱マラリア 16 件、三日熱マラリア 3 件、四日熱マラリア 1 件、卵型マラリア 1 件、不明 1 件であった。性別は男性 18 人、女性 4 人、年齢階級別は 10～19 歳 1 人、20～29 歳 6 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 8 人、50～59 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は、熱帯熱 16 件ではナイジェリア 4 件、カメルーン 3 件、ウガンダ 2 件、ガーナ、ギニア、シエラレオネ、トーゴ、ベナン、南スーダン各 1 件、ブルキナファソ又はマリ 1 件、三日熱 3 件では中国、インドネシア、ジブチ各 1 件、四日熱 1 件ではカメルーン、卵型 1 件ではケニア又はナイジェリア、不明 1 件ではブルンジであった。



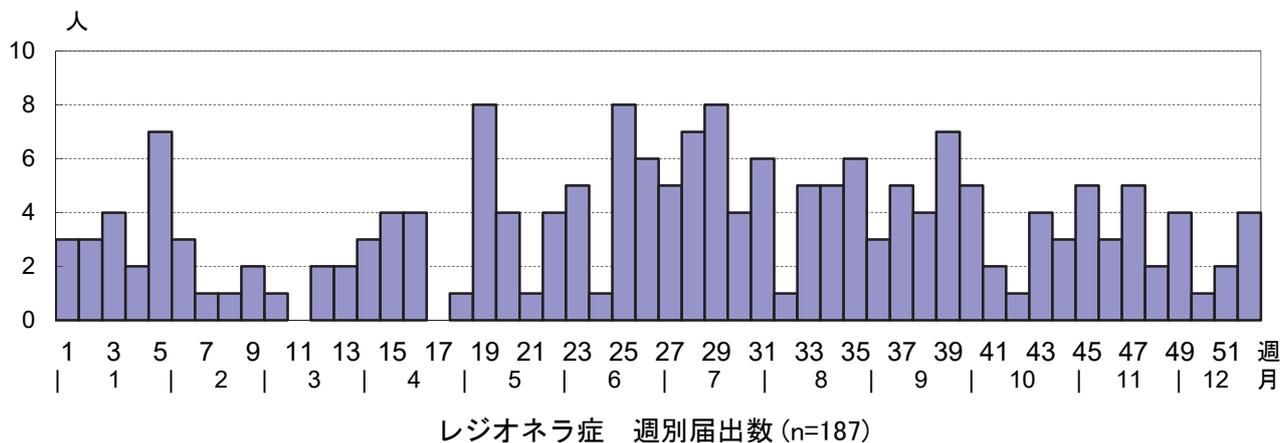
⑩ ライム病

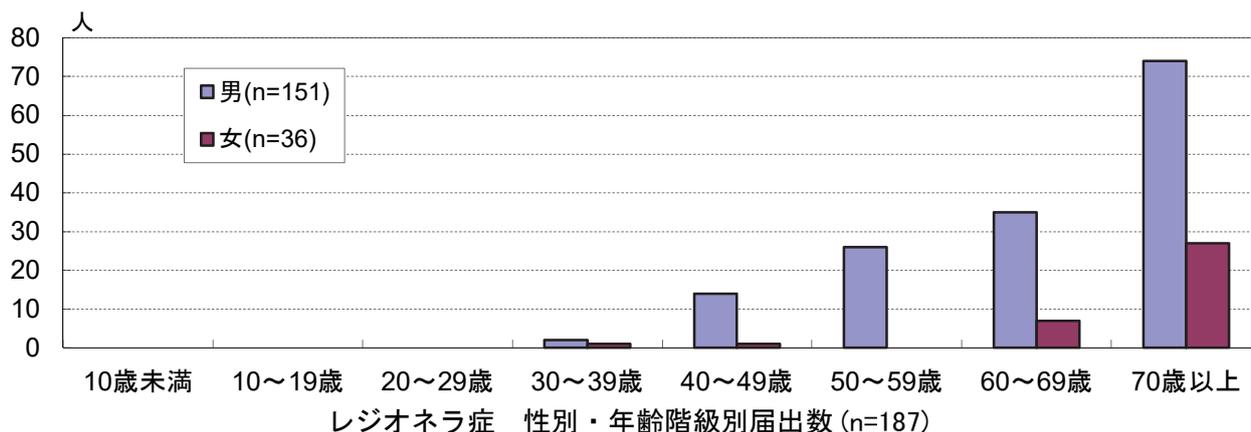
2019年は1件の届出があった。症例は30歳代の男性で、推定感染地は国内であった。

⑪ レジオネラ症

2019年は187件の届出があった。病型は肺炎型163件、ポンティアック熱型19件、無症候病原体保有者5件であった。死亡例は1人報告された。性別は男性151人、女性36人、年齢階級別は30～39歳3人、40～49歳15人、50～59歳26人、60～69歳42人、70歳以上100人、年齢不明1人であった。

推定感染地は国内151件、国外12件（タイ5件、中国、北朝鮮、ベトナム、インド各1件、中国又はタイ、中国又はインド、ニュージーランド又はトンガ1件）、国内又は国外3件（全てタイ）、不明21件であった。推定感染経路は、水系感染68件、塵埃感染6件、その他4件、不明109件であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは43件であった。





⑫ レプトスピラ症

2019年は9件の届出があった。性別は男性8人、女性1人、年齢階級別は5～9歳1人、10～19歳1人、20～29歳3人、30～39歳1人、40～49歳3人であった。推定感染地は国内5件、国外4件（インドネシア2件、ラオス1件、ペルー1件）であった。

レプトスピラ症届出例 (n=9)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路、接触場所
3/11	男	19	インドネシア	河川
8/22	男	42	ペルー	河川
8/28	男	21	国内	河川
9/13	女	9	国内	河川
9/13	男	23	ラオス	河川
9/13	男	47	国内	
10/15	男	20	国内	河川
10/15	男	37	インドネシア	河川
11/07	男	42	国内	河川

⑬ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

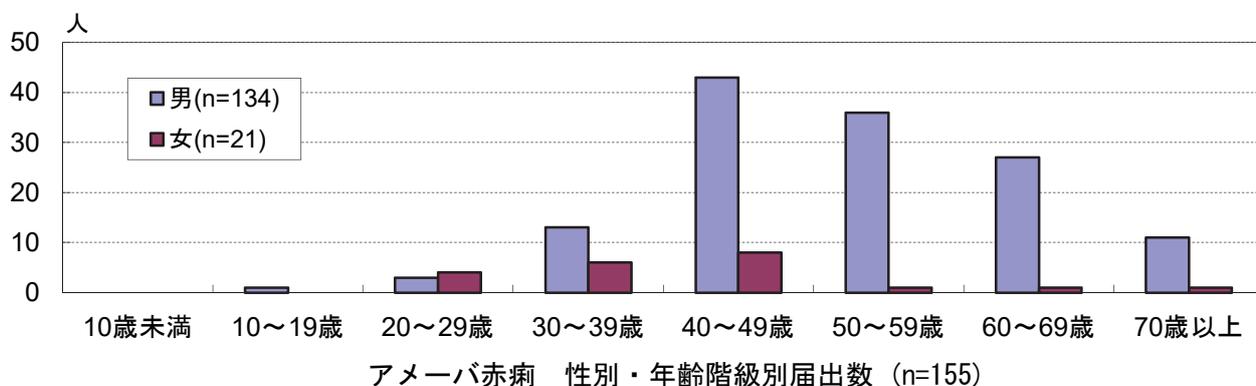
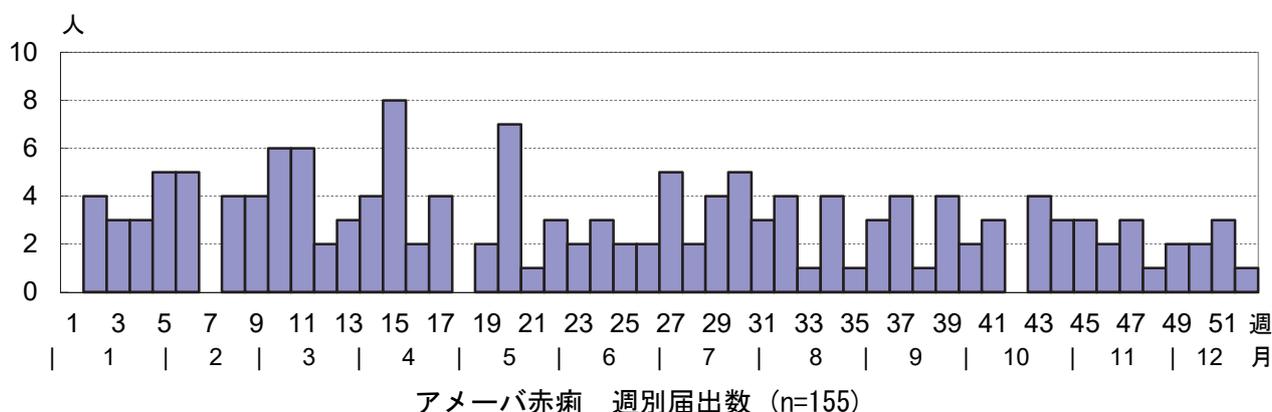
オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2019年は155件の届出があった。腸管アメーバ症144件、腸管外アメーバ症8件、腸管及び腸管外アメーバ症3件であった。性別は男性134人、女性21人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳7人、30～39歳19人、40～49歳51人、50～59歳37人、60～69歳28人、70歳以上12人であった。

推定感染地は国内107件、国外17件（タイ3件、中国2件、ベトナム、フィリピン、カンボディア、米国、ブラジル各1件、中国又は香港、ベトナム又はシンガポール又はインドネシア、フィリピン又はシンガポール又はトルコ、タイ又はインド、ネパール又はカザフスタン又はサイパン、パラオ又はグアム又はニューカレドニア各1件、渡航先不明1件）、国内又は国外2件（モンゴル、ガンビア各1件）、不明29件であった。

推定感染経路は、性的接触62件（同性間24件、異性間32件、性別不明6件）、飲食物による経口感染27件、飲食物による経口感染または性的接触4件、不明62件であった。



② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

2019年は98件の届出があった。内訳は、B型肝炎76件、C型肝炎13件、サイトメガロウイルス（CMV）肝炎6件、エプスタインバールウイルス（EBV）肝炎3件であった。

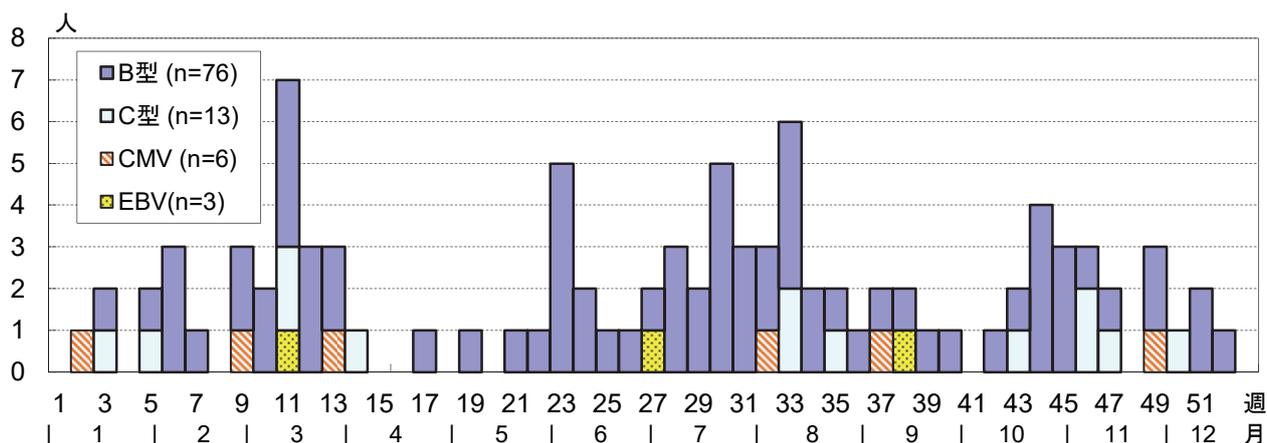
B型肝炎76件の届出のうち男性は66人、女性は10人で、年齢階級別では10～19歳3人、20～29歳26人、30～39歳18人、40～49歳13人、50～59歳12人、60～69歳2人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内63件、国外6件（中国2件、フィリピン2件、ベトナム、ネパール各1件）、不明7件、推定感染経路は性的接触63件（同性間22件、異性間34件、性別不明7件）、刺青又は性的接触（異性間）1件、不明12件であった。

C型肝炎13件の届出は全て男性で、年齢階級別は20～29歳2人、30～39歳5人、40～49歳5人、50～59歳1人であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路は性的接触11件（全て同性間）、静注

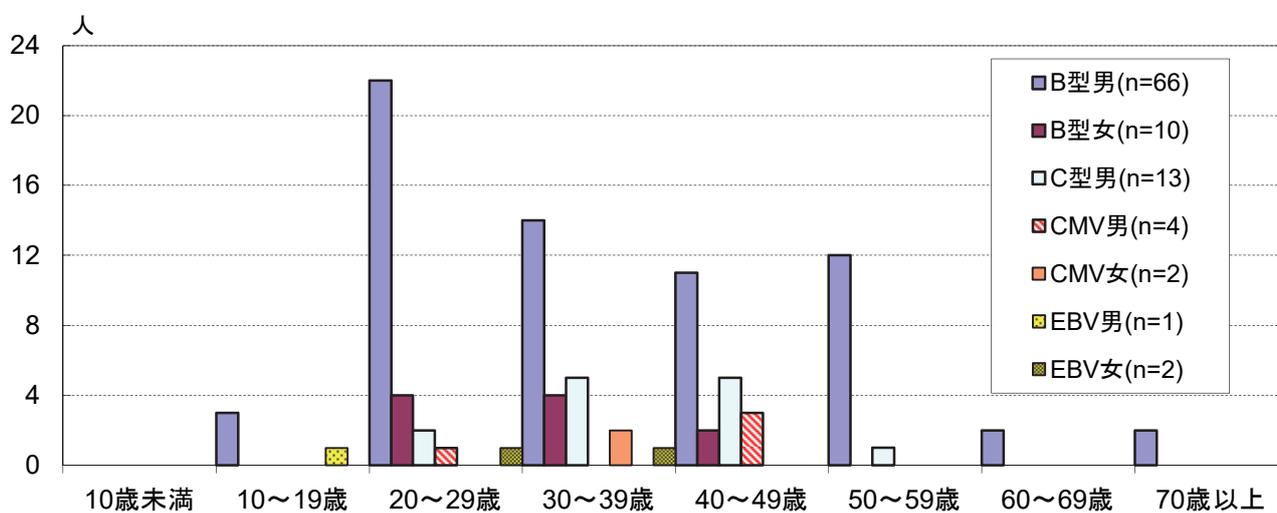
薬物常用又は性的接触（同性間）2件であった。

サイトメガロウイルス（CMV）肝炎の6件の届出のうち男性は4人、女性は2人で、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳2人、40～49歳3人であった。推定感染地は国内5件、不明1件、推定感染経路は全て不明であった。

エプスタインバーウイルス（EBV）肝炎の3件の届出のうち男性は1人、女性は2人で、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳1人であった。推定感染地は全て国内、推定感染経路は、その他（経口感染）1件、不明2件であった。



ウイルス性肝炎 週別届出数 (n=98)



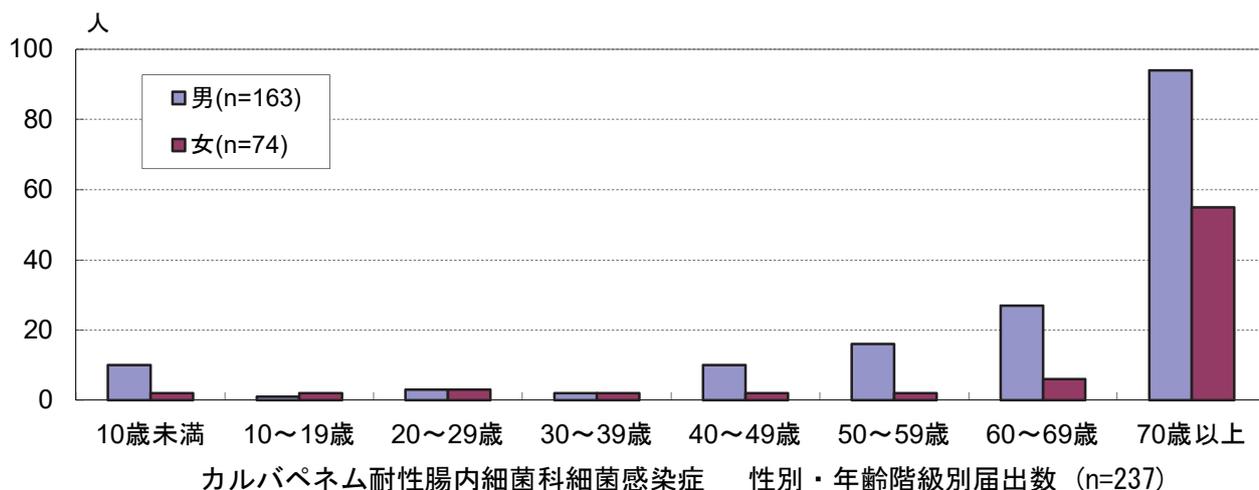
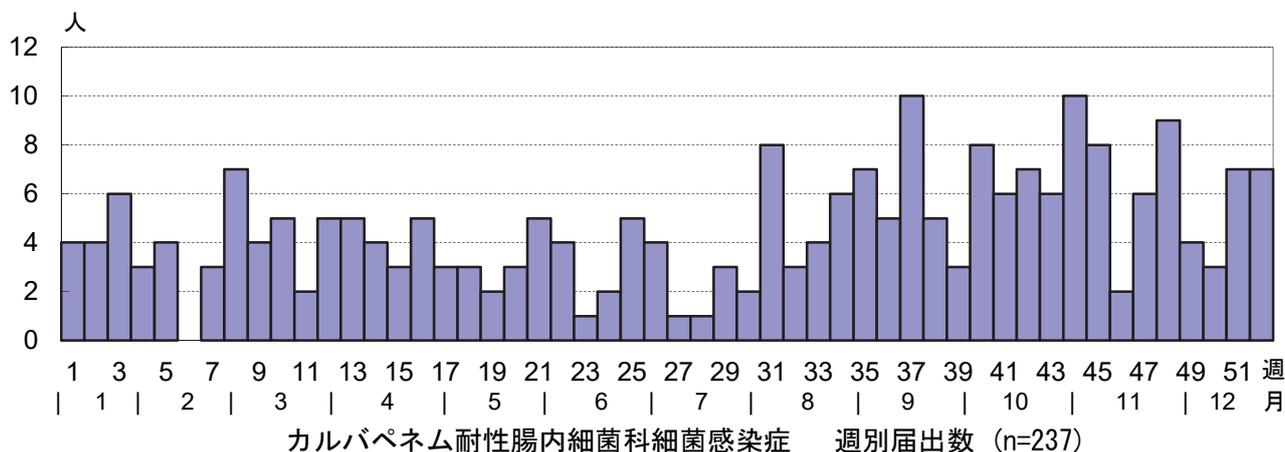
ウイルス性肝炎 性別・年齢階級別届出数 (n=98)

③ カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症

2019年は237件の届出があった。性別は男性163人、女性74人で、年齢階級別では10歳未満12人（5歳未満10人）、10～19歳3人、20～29歳6人、30～39歳4人、40～49歳12人、50～59歳18人、60～69歳33人、70歳以上149人であった。死亡例は5人（70～79歳2人、80～89歳2人、90歳以上1人）報告された。

推定感染地は国内213件、不明24件であった。

分離された菌種は、*Enterobacter cloacae* 87件、*Klebsiella aerogenes* 86件、*Klebsiella pneumoniae* 21件、*Citrobacter freundii* 及び *Escherichia coli* 各 8件、*Klebsiella oxytoca* 6件、*Enterobacter asburiae* 及び *Serratia marcescens* 各 2件、*Enterobacter sakazaki*、*Proteus mirabilis* 及び *Roultella ornithinolytica* 各 1件であり、その他 *Enterobacter* sp. 10件、*Klebsiella* sp. 2件、*Citrobacter* sp. 及び *Serratia* sp. 各 1件であった。



④ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）

2019年は7件の届出があった。性別は男性1人、女性6人で、年齢階級別では、10歳未満6人（うち5歳未満3人）、10～19歳1人であった。全て、推定感染地は国内、病原体は不明であった。

ポリオワクチン接種歴は、4回3件、2回2件、不明2件であった。

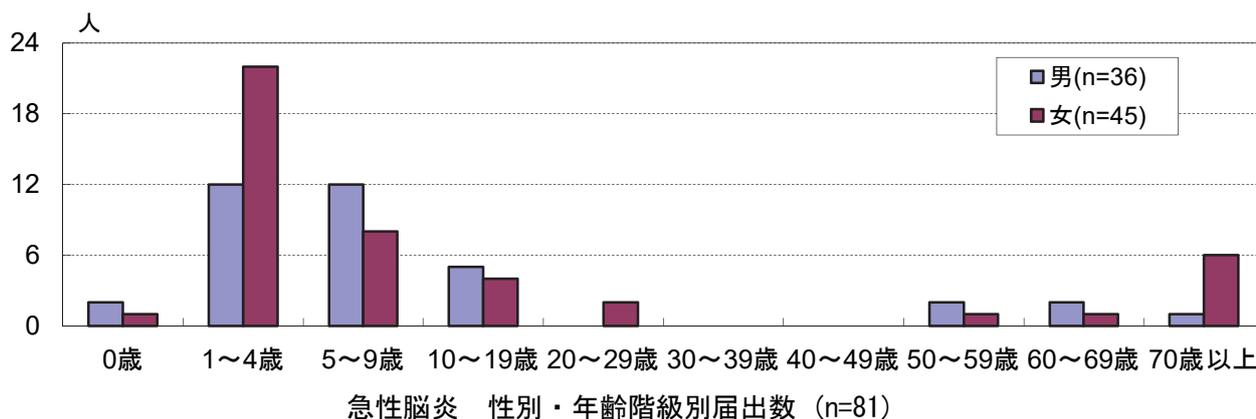
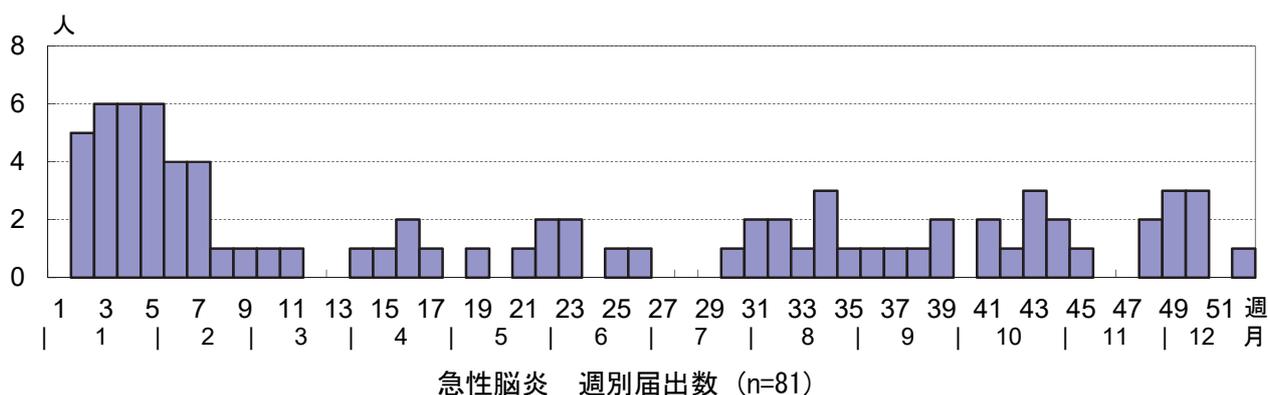
⑤ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2019年は81件の届出があった。原因と推定された病原体は、インフルエンザウイルス34件、ヘルペスウイルス9件（単純ヘルペスウイルス1型2件、単純ヘルペスウイルス型不明2件、ヒトヘルペスウイルス6型3件、ヒトヘルペスウイルス7型1件、不明1件）、RSウイルス、エンテロウイルス、コクサッキーウイルス、パレコウイルス、ムンプスウイルス、百日咳菌、RSウイルス及び溶連菌、ノロウイルス及びロタウイルス各1件、不明30件であった。

性別は男性 36 人、女性 45 人で、年齢階級別では 10 歳未満 57 人（5 歳未満 37 人）、10～19 歳 9 人、20～29 歳 2 人、50～59 歳 3 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 7 人であった。

死亡例は 2 人（10 歳未満 1 人、80 歳以上 1 人）報告されており、病原体は、インフルエンザウイルス 1 件、ノロウイルス及びロタウイルス 1 件であった。

推定感染地は国内 76 件、国外 1 件（マレーシア）、不明 4 件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 45 件、接触感染 5 件、経口感染 1 件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 2 件、その他 2 件、不明 26 件であった。



⑥ クリプトスポリジウム症

2019 年は 4 件の届出があった。性別は男性 2 人、女性 2 人で、年齢階級別は 20～29 歳 2 人、40～49 歳 2 人であった。推定感染地は国内、国外（コンゴ民主共和国）、国内または国外（インド）、不明各 1 件で、経口感染 2 件、性的接触（同性間）1 件、経口感染または性的接触（同性間）1 件であった。

⑦ クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

2019 年は 19 件の届出があった。性別は男性 9 人、女性 10 人で、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、60～69 歳 6 人、70 歳以上 12 人であった。

孤発性プリオン病・古典型 CJD が 17 件（確実 1 件、ほぼ確実 13 件、疑い 3 件）、孤発性プリオン病・その他が 1 件、遺伝性プリオン病・家族性 CJD（ほぼ確実）1 件であった。

孤発性プリオン病 18 件の進行性認知症以外の症状は、記憶障害 17 件、錐体外路症状 14 件、ミオクローヌス 13 件、精神・知能障害 13 件、無動性無言状態 10 件、錐体路症状 9 件、視覚異常 9 件、小脳症状 8 件、筋強剛 8 件、その他 1 件であった。

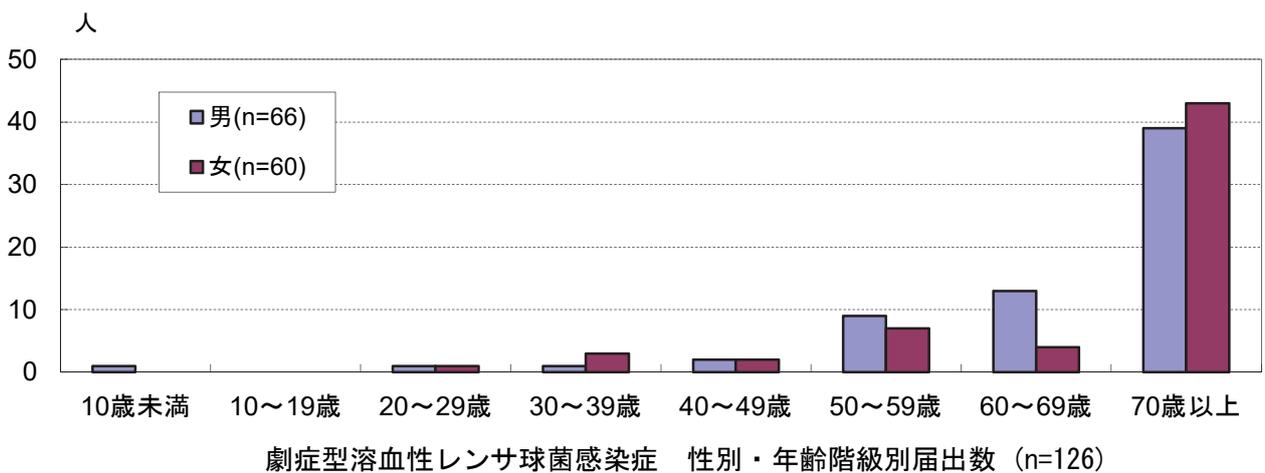
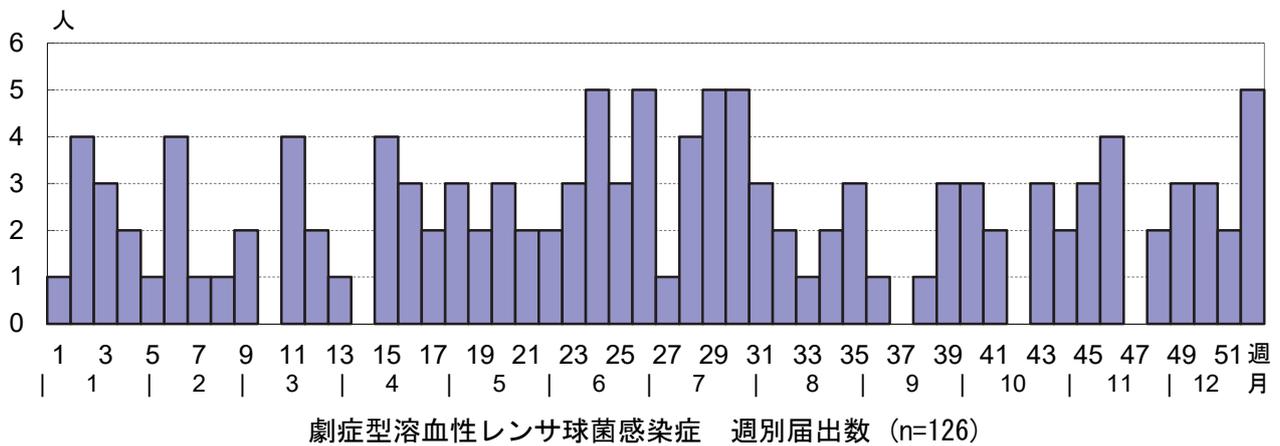
家族性 CJD 1 件の症状は、進行性認知症、ミオクローヌス、錐体路症であった。
 プリオン遺伝子検査による診断がなされたのは 2 件 (古典型 CJD 1 件、家族性 CJD 1 件) であった。

⑧ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2019 年は 126 件の届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。性別は男性 66 人、女性 60 人で、年齢階級別では 5 歳未満 1 人、20～29 歳 2 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 16 人、60～69 歳 17 人、70 歳以上 82 人であった。死亡例は 29 人 (20～29 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 22 人) 報告された。

推定感染地は国内 123 件、不明 3 件であった。推定感染経路は創傷感染 47 件、飛沫・飛沫核感染 2 件、その他 13 件、不明 64 件であった。

血清群は、A 群 53 件 (42.1%)、B 群 18 件 (14.3%)、C 群 3 件 (2.4%)、F 群 1 件 (0.8%)、G 群 49 件 (38.9%)、C 群又は G 群 2 件 (1.6%) であった。

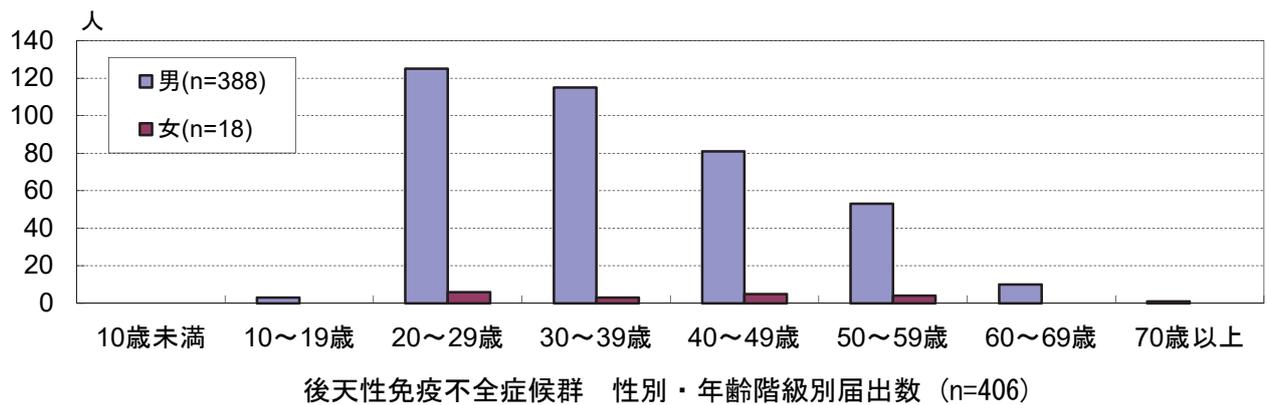
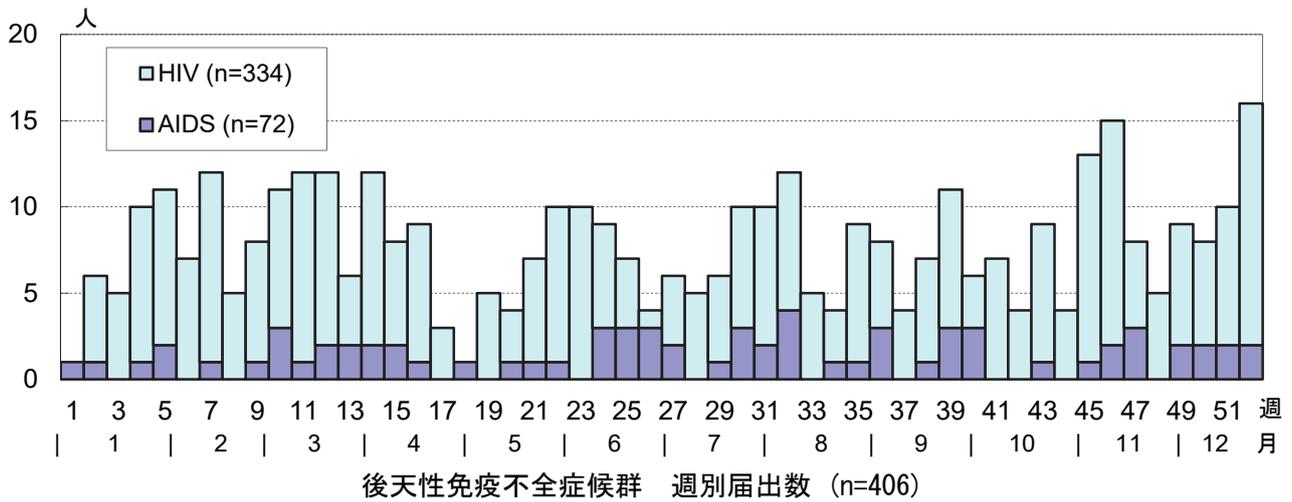


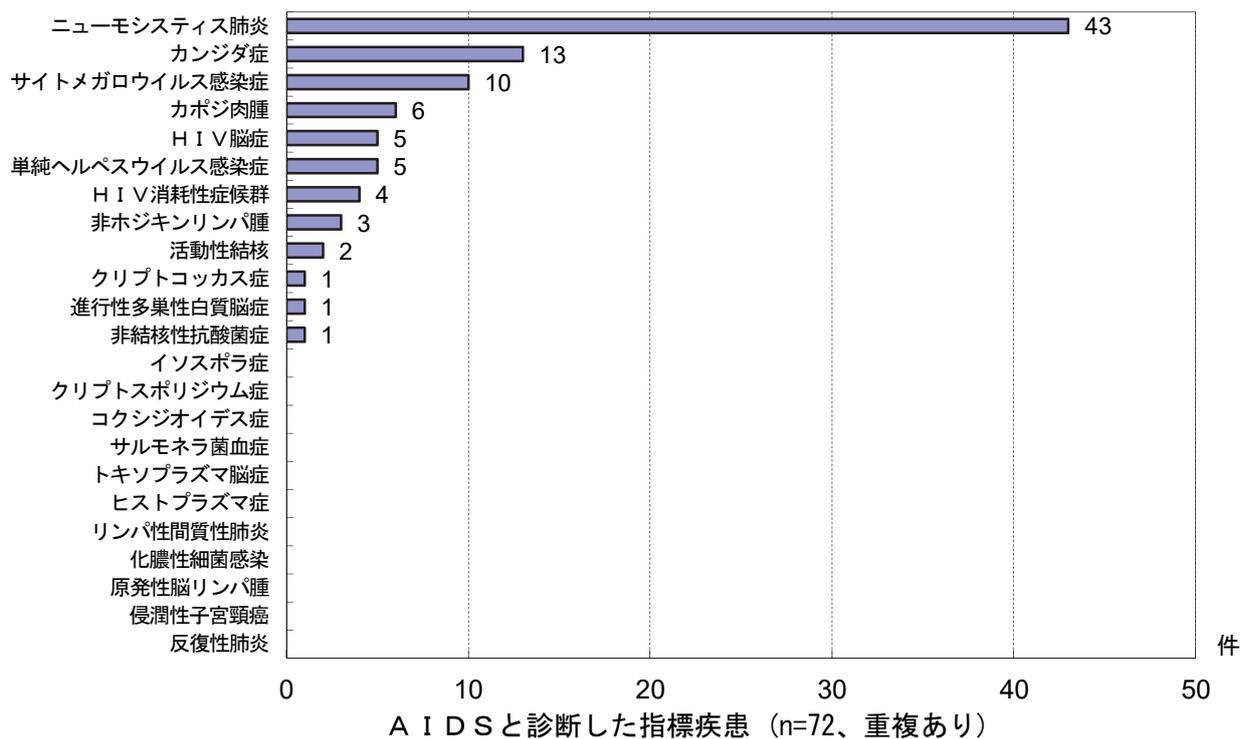
⑨ 後天性免疫不全症候群

2019 年は 406 件の届出があり、AIDS 患者 72 人、HIV 感染者 334 人 (指標疾患以外の有症者 59 人、無症候性キャリア 275 人) であった。AIDS 患者 72 人の内訳は男性 70 人、女性 2 人で、年齢階級別では 20～29 歳 8 人、30～39 歳 16 人、40～49 歳 26 人、50～59 歳 16 人、60～69 歳 6 人であった。

HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 59 人内訳は男性 56 人、女性 3 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 23 人、30～39 歳 14 人、40～49 歳 9 人、50～59 歳 10 人、60～69 歳 2 人であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 275 人の内訳は男性 262 人、女性 13 人で、年齢階級別では 10～19 歳 2 人、20～29 歳 100 人、30～39 歳 88 人、40～49 歳 51 人、50～59 歳 31 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。





推定感染地は国内 347 件、国外 24 件（中国、インドネシア各 4 件、タイ、ミャンマー各 2 件、台湾、フィリピン、ベトナム、マレーシア、シンガポール、ロシア、オーストラリア、ウガンダ、南アフリカ、米国各 1 件、米国又はオーストラリア各 1 件、渡航先不明 1 件）、国内又は国外 6 件（韓国、タイ、ミャンマー、ナイジェリア、韓国又は台湾、ベトナム又はカンボディア又はイタリア各 1 件）、不明 29 件であった。

届出のうち外国籍は 50 人で、AIDS 患者 5 人、HIV 感染者 45 人（指標疾患以外の有症者 7 人、無症候性キャリア 38 人）であった。

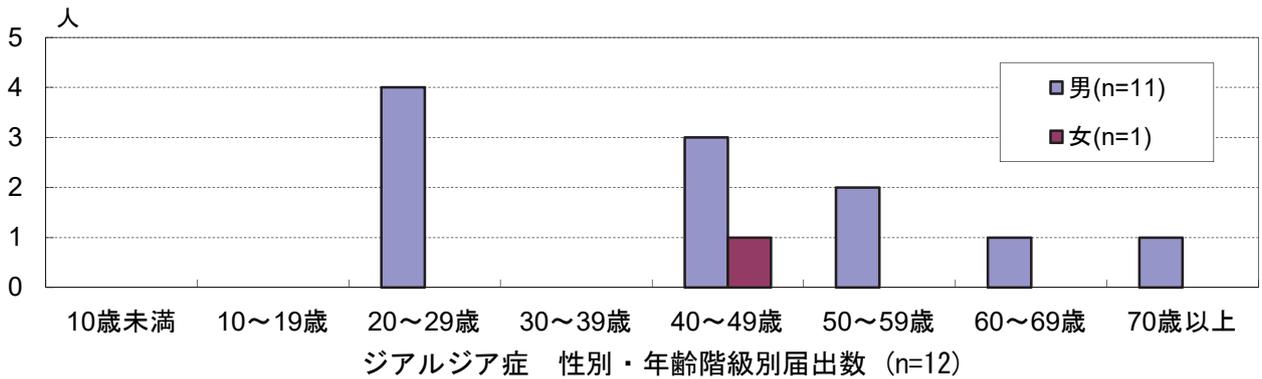
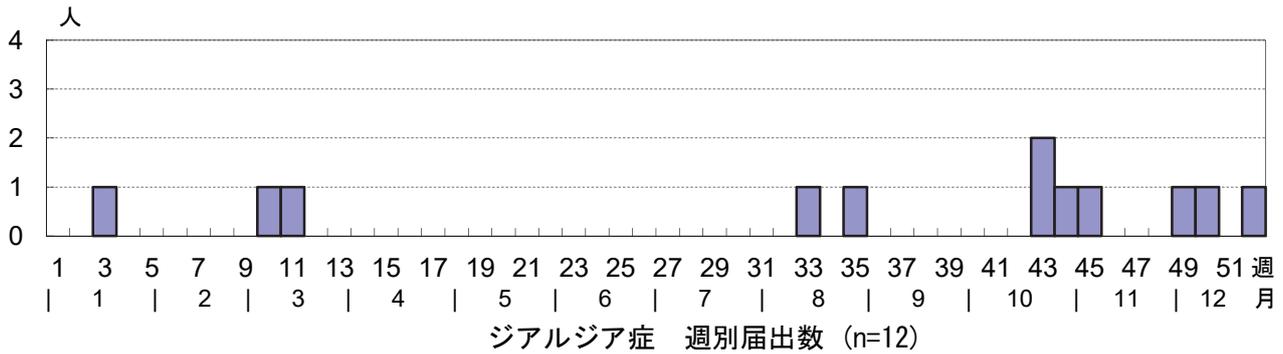
推定感染経路は性的接触 380 件（同性間 310 件、異性間 46 件、両性間 6 件、不明 18 件）、静注薬物使用 2 件、輸血 3 件、2 経路以上 1 件（同性間性的接触又は静注薬物使用）、その他 1 件、不明 19 件であった。

⑩ ジアルジア症

2019 年は 12 件の届出があった。性別は男性 11 人、女性 1 人で、年齢階級別では 20～29 歳 4 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 6 件、国外 4 件（インド 3 件、台湾 1 件）、国内又は国外 1 件（インド）、不明 1 件であった。

推定感染経路は、経口感染 3 件、性的接触 4 件（同性間 2 件、異性間 1 件、性別不明 1 件）、経口感染又は水系感染 2 件、経口感染又は性的接触（同性間）1 件、不明 2 件であった。



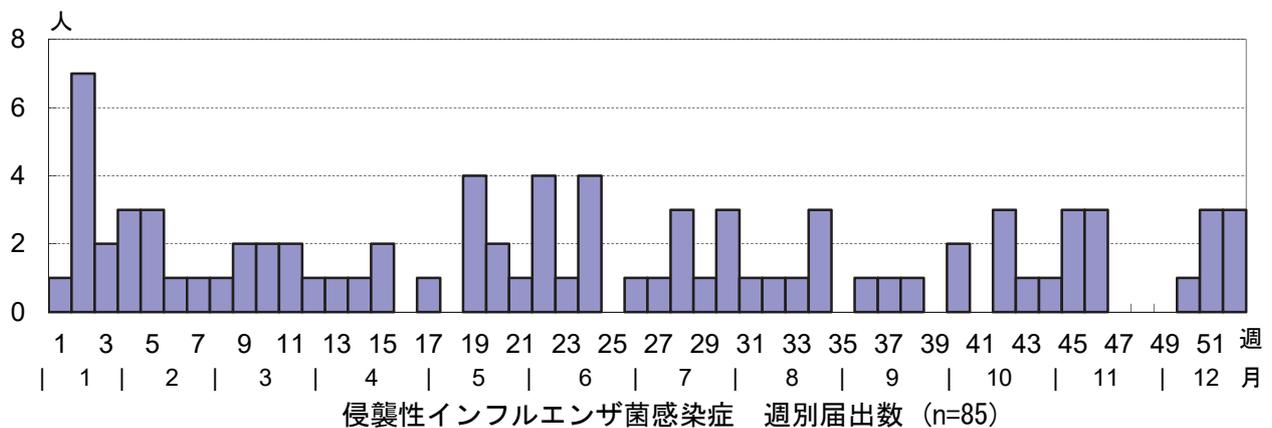
⑪ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

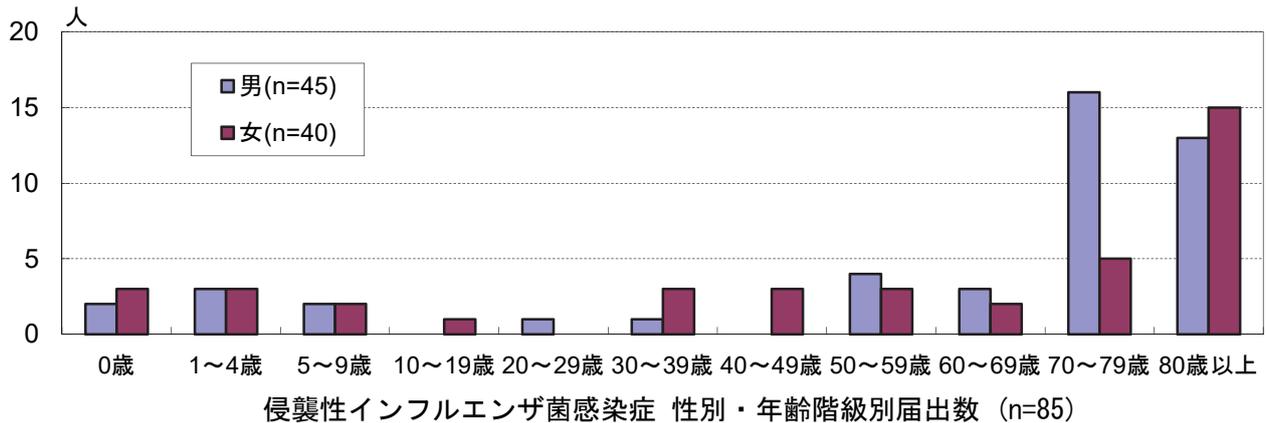
2019年は85件の届出があった。性別は男性45人、女性40人で、年齢階級別では10歳未満15人(0歳5人、1～4歳6人)、10～19歳1人、20～29歳1人、30～39歳4人、40～49歳3人、50～59歳7人、60～69歳5人、70歳以上49人(71歳代21人、80歳代18人、90歳以上10人)で、死亡例は6人報告された。

血清型は、a型1件、b型1件、e型2件、f型2件、型別不明64件、検査未実施15件であった。

推定感染地は国内84件、国内又は国外1件(渡航先不明)であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染27件、接触感染4件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染3件、その他9件、不明42件であった。

Hibワクチン接種歴は4回が8件、3回が5件、2回が1件、1回が2件(接種者の年齢階級は0～9歳15人、30～39歳1人)のほか、なし23件、不明46件であった。





⑫ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2019年は5件の届出があった。性別は男性2人、女性3人であった。年齢階級別では40～49歳1人、60～69歳2人、70歳以上2人で、死亡例の報告はなかった。

血清群は、W-135群2件、B群1件、未実施2件であった。

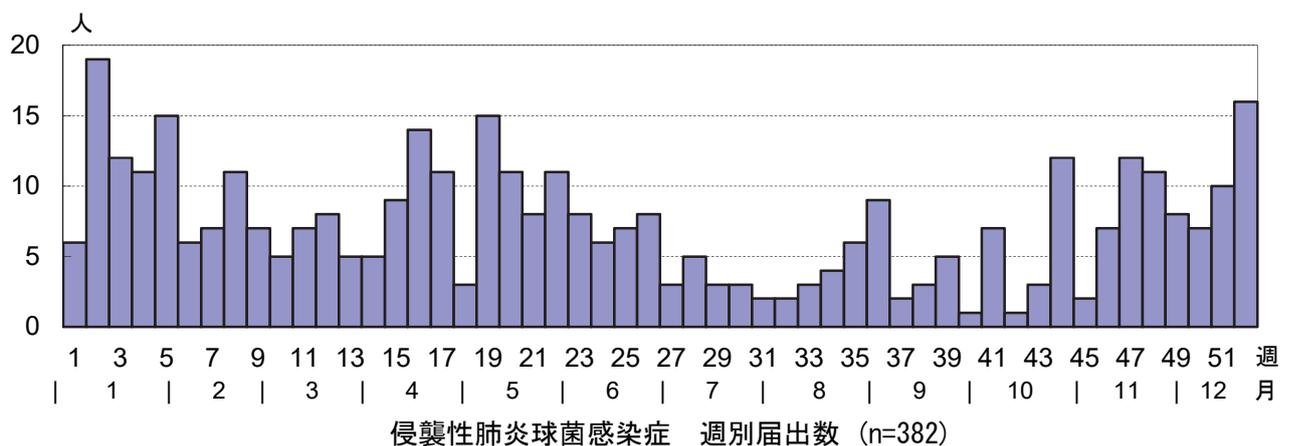
推定感染地は国内4件、国外1件（アルゼンチン）で、感染経路は飛沫・飛沫核感染1件、不明4件であった。ワクチン接種歴は、なし4件、不明1件であった。

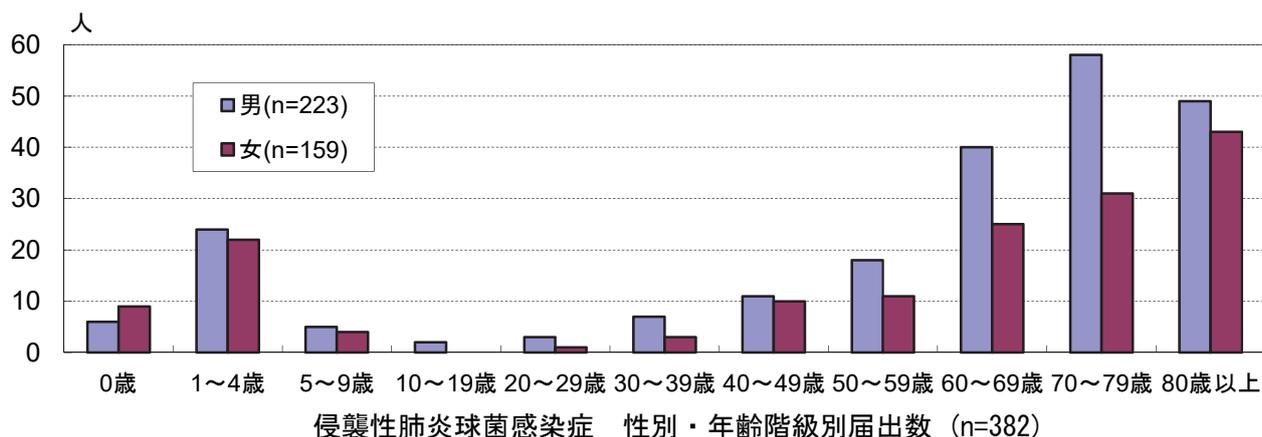
⑬ 侵襲性肺炎球菌感染症

2019年は382件の届出があった。性別は男性223人、女性159人であった。年齢階級別では10歳未満70人（0歳15人、1～5歳46人）、10～19歳2人、20～29歳4人、30～39歳10人、40～49歳21人、50～59歳29人、60～69歳65人、70歳以上180人（70歳代89人、80歳代64人、90歳以上27人）、年齢不明1人で、死亡例は19人報告された。

推定感染地は国内351件、国外2件（スウェーデン、フランス各1件）、国内又は国外2件（米国、スペイン又はイタリア又はフランス各1件）、不明27件であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染128件、接触感染6件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染2件、その他19件、不明227件であった。

ワクチン接種歴は4回35件、3回27件、2回6件、1回29件、なし134件、不明151件であった。届出のうち、血清型が判明したのは115件で、最も多い血清型は24B型9件で、次に12F型8件であった。





年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=382)

	7価	7価3回	13価			13価3回	23価	13価1回	価数不明接			
	4回	13価1回	1回	3回	4回	価数不明1回	1回	23価1回	1回	2回	3回	4回
5歳未満			1	23	20	3				2	3	5
5~9歳	2	2		1	3							
10~64歳									1			
65歳以上							9	1	18	3		
不明												
合計	2	2	1	24	25	1	9	1	19	5	3	5

	接種歴なし	接種歴不明	総計
5歳未満	2	2	61
5~9歳		1	9
10~64歳	50	35	86
65歳以上	82	112	225
不明		1	1
合計	134	151	382

侵襲性肺炎球菌感染症 血清型 (n=115)

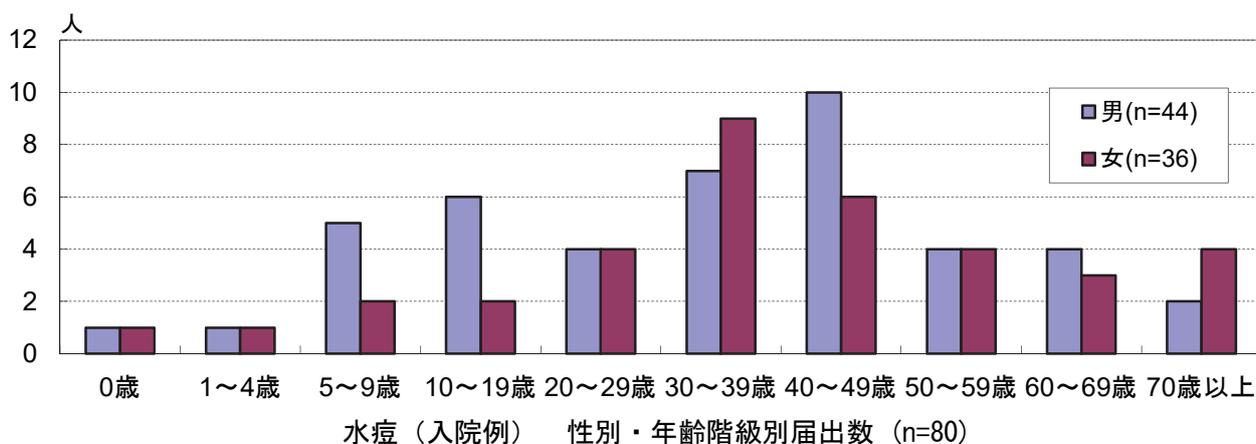
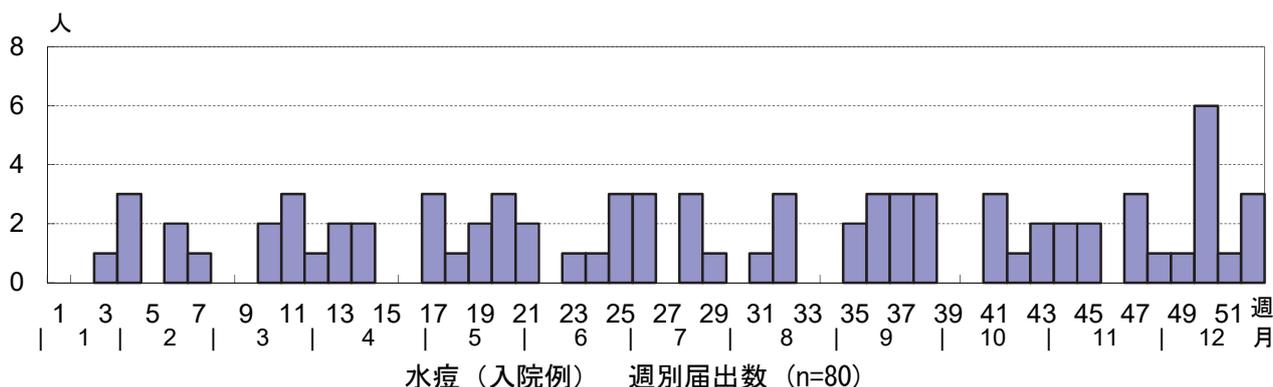
血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数	血清型	届出数
24B型	9	7C型	5	35B型	3	6C型	1
12F型	8	7F型	5	35F型	3	9N型	1
19A型	7	15A型	4	37型	3	9V型	1
24F型	7	20型	4	38型	3	19F型	1
10A型	6	33F型	4	1型	2	23F型	1
15B型	6	3型	3	16F型	2	28F型	1
22F型	6	11A型	3	31型	2	型別不能	3
23A型	6	15C型	3	34型	2		

⑭ 水痘（入院例）

2019年は80件の届出があった。性別は男性44人、女性36人で、年齢階級別では10歳未満11人、10～19歳8人、20～29歳8人、30～39歳16人、40～49歳16人、50～59歳8人、60～69歳7人、70歳以上6人であった。死亡例の報告はなかった。

推定感染地は国内73件、国外2件（中国1件、ベトナム1件）、不明5件で、推定感染経路は、飛沫・飛沫核感染30件、接触感染5件、院内感染3件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染1件、不明41件であった。

ワクチン接種歴は2回2件、1回10件、なし27件、不明41件であった。



⑮ 先天性風しん症候群

2019年は2件の届出があった。男性1人、女性1人で、母親の予防接種歴はいずれも不明であった。母親の発症時の妊娠週数は9週1件、不明1件であった。

⑯ 梅毒

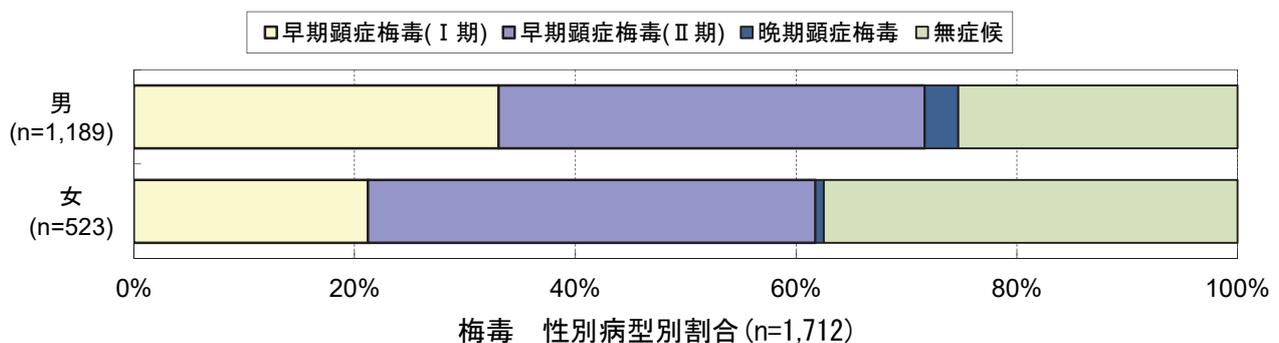
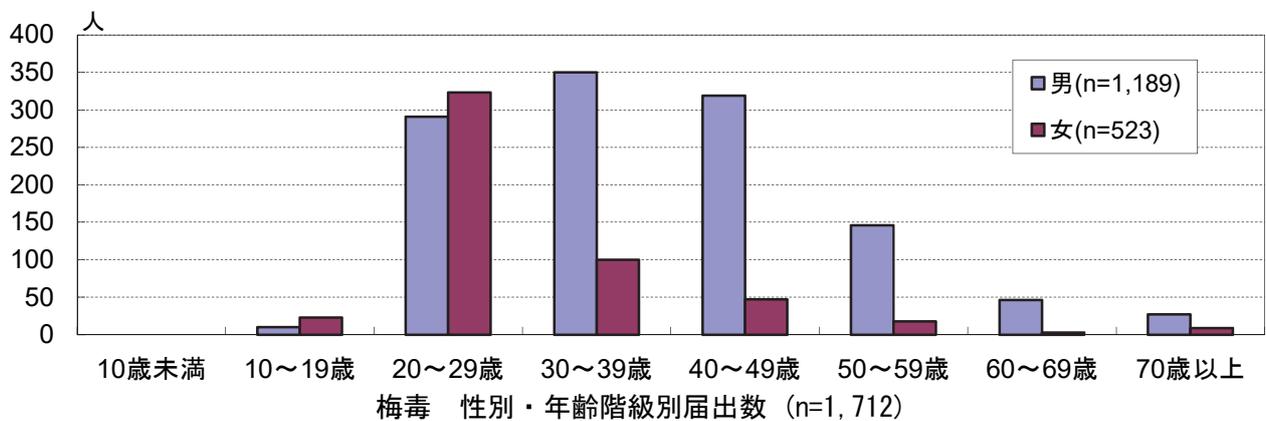
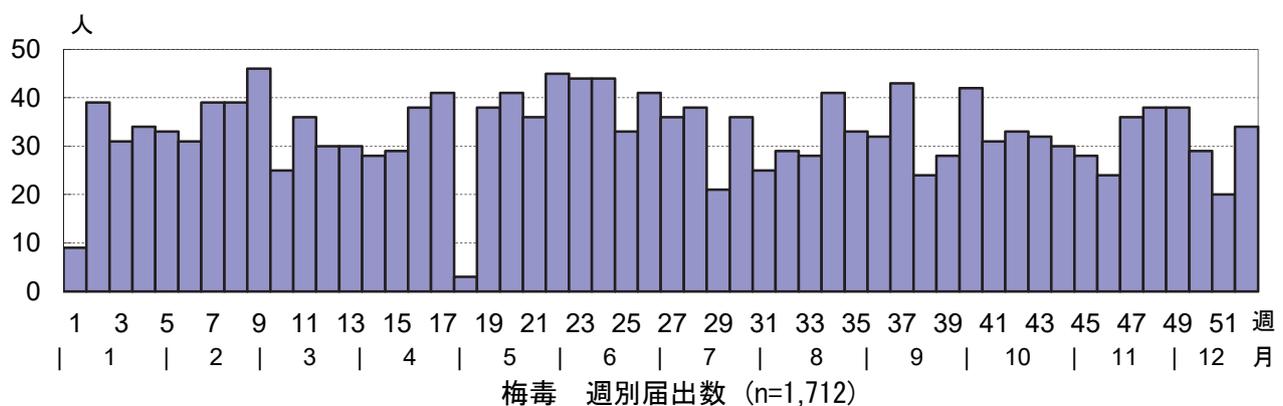
2019年は1,712件の届出があった。病型は、早期顕症梅毒Ⅰ期504件、早期顕症梅毒Ⅱ期671件、晩期顕症梅毒40件、無症候497件で、先天梅毒はなかった。性別は男性1,189人、女性523人であった。年齢階級別では10～19歳33人、20～29歳614人、30～39歳450人、40～49歳366人、50～59歳164人、60～69歳49人、70歳以上36人で、20～49歳の男性が960人で全体の56.1%を占めた。妊娠可能年齢の女性（15～49歳）は493人で女性全体の94.3%を占めた。

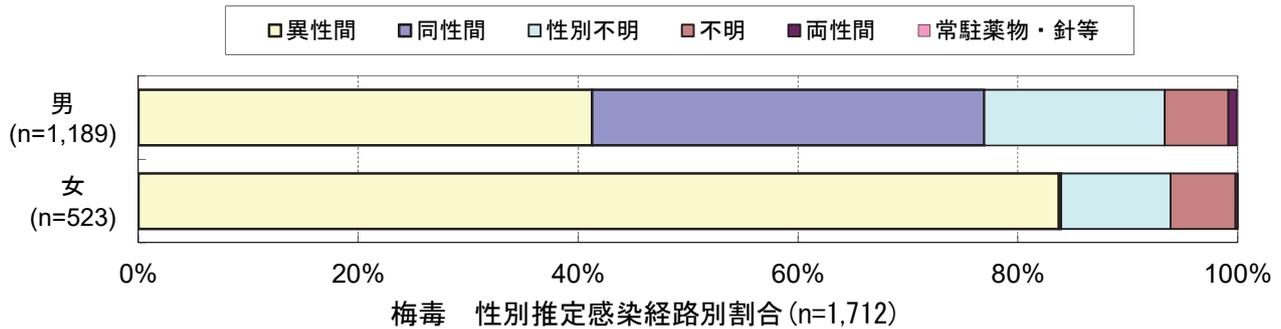
推定感染地は国内1,525件、国外29件（中国5件、タイ3件、フィリピン、インドネシア各2件、

韓国、台湾、ベトナム、シンガポール、ミャンマー、ネパール、ロシア、イタリア、米国、オーストラリア各 1 件、韓国又は台湾、中国又は韓国各 1 件、渡航先不明 5 件)、国内又は国外 7 件 (中国 5 件、韓国又はフィリピン又はタイ、中国又はタイ又はインドネシア各 1 件)、不明 151 件であった。

推定感染経路は性的接触 1,611 件 (同性間 425 件、異性間 929 件、両性間 10 件、性別不明 247 件)、不明 101 件となった。

HIV 感染症合併は 263 件 (男性 262 件、女性 1 件) で、感染経路は、男性が性的接触 258 件 (同性間 231 件、異性間 8 件、同性又は異性間 2 件、性別不明 17 件)、不明 4 件、女性が異性間性的接触であった。梅毒治療歴有りは 245 件 (男性 198 件、女性 47 件) であった。妊娠中は 31 件であった。直近 6 か月の性風俗産業の従事者は 295 件 (男性 35 件、女性 260 件) で、利用者は 283 件 (男性 278 件、女性 5 件) であった。





⑰ 播種性クリプトコックス症

2019年は12件の届出があった。性別は男性9人、女性3人で、年齢階級別では20～29歳1人、50～59歳3人、70歳以上8人であった。死亡例の報告はなかった。

推定感染地は国内10件、国外1件（ベトナム）、不明1件であった。推定感染原因は、基礎疾患のあるもの7件（HIV、多発性骨髄腫、慢性リンパ性白血病、多発血管炎、ANCA関連腎炎、骨髄異形成症候群、自己免疫関連炎症性疾患各1件）、生体肝移植後1件、詳細不明3件だった。基礎疾患のあるもののうち4件はステロイド投与中で、そのうち1件は鳥類の糞などとの接触歴があった。

⑱ 破傷風

2019年は8件の届出があった。性別は男性2人、女性6人で、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳1人、60～69歳2人、70歳以上4人であった。

推定感染地は全て国内（東京都5件、埼玉県、神奈川県各1件、都道府県不明1件）で、推定感染経路は創傷感染5件、その他1件、不明2件であった。破傷風含有ワクチン接種歴は、あり1件、なし2件、不明5件であった。

⑲ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2019年は8件の届出があった。性別は男性2人、女性6人で、年齢階級別では全て70歳以上であった。菌種は *Enterococcus faecium* 4件、*Enterococcus faecalis* 3件、*Enterococcus* sp.1件、耐性遺伝子は *vanB* 7件、*vanA* 1件であった。

推定感染地は全て国内であった。針等の鋭利なものの刺入による感染1件、その他1件、不明6件であった。

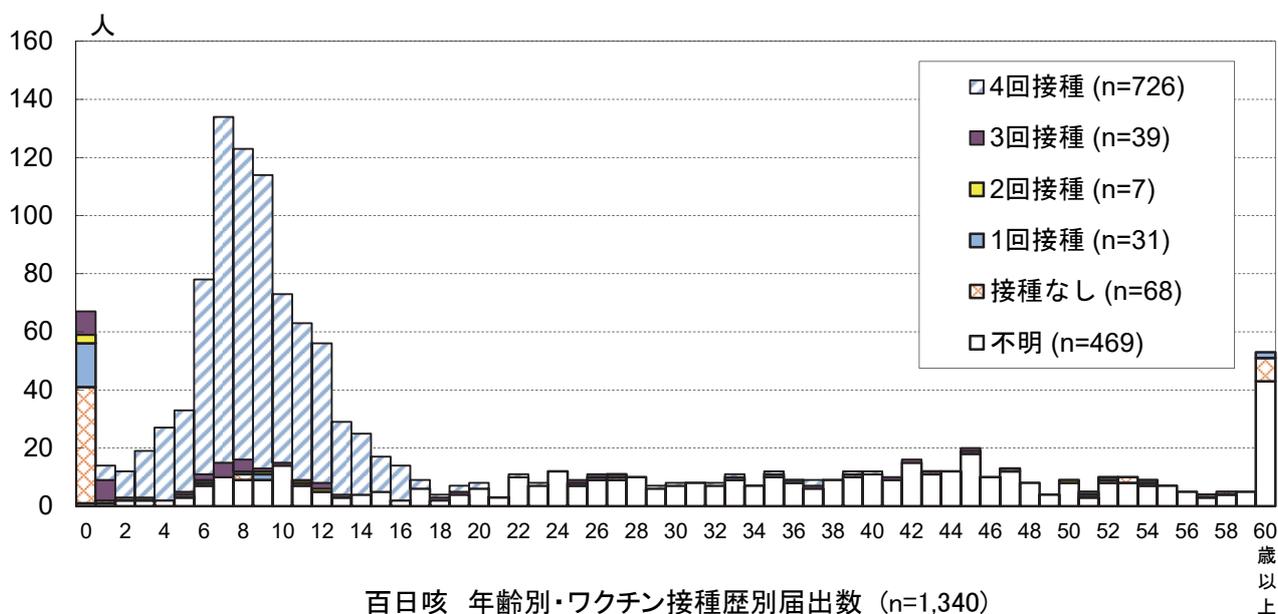
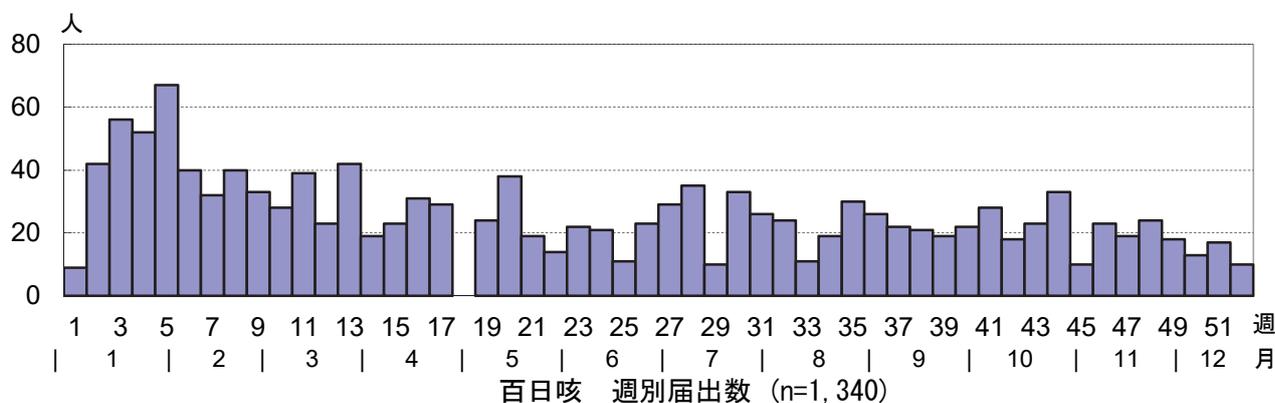
⑳ 百日咳

2019年は1,340件の届出があった。性別は男性560人、女性780人で、年齢階級別では10歳未満621人（6か月未満57人、6か月～12か月10人、1～4歳72人、5歳～9歳482人）、10～19歳297人、20～29歳90人、30～39歳93人、40～49歳117人、50～59歳69人、60～69歳27人、70歳以上26人であった。

推定感染地は国内1,095件、国外5件（中国2件、インドネシア、トリニダード・トバゴ各、中国又は香港各1件）、国内又は国外1件（米国）、不明239件であった。6か月未満57人の感染経路は家庭内感染37件、家庭内感染又は保育園1件、不明19件であった。

百日咳含有ワクチン接種歴は、4回726件、3回39件、2回7件、1回31件、なし68件、不明469件であった。このうち、6か月未満では、2回2件、1回15件、なし39件、不明1件であった。

診断方法は、遺伝子検査（LAMP法）723件、抗体検査579件、臨床決定16件、遺伝子検査（PCR法）6件、ペア血清6件、分離同定2件、分離同定及び遺伝子検査（LAMP法）2件、遺伝子検査（LAMP法）及び抗体検査2件、分離同定及び抗体検査1件、遺伝子検査（LAMP法）及び臨床決定1件、抗体検査及びペア血清1件、抗体検査及び臨床決定1件であった。



② 風しん

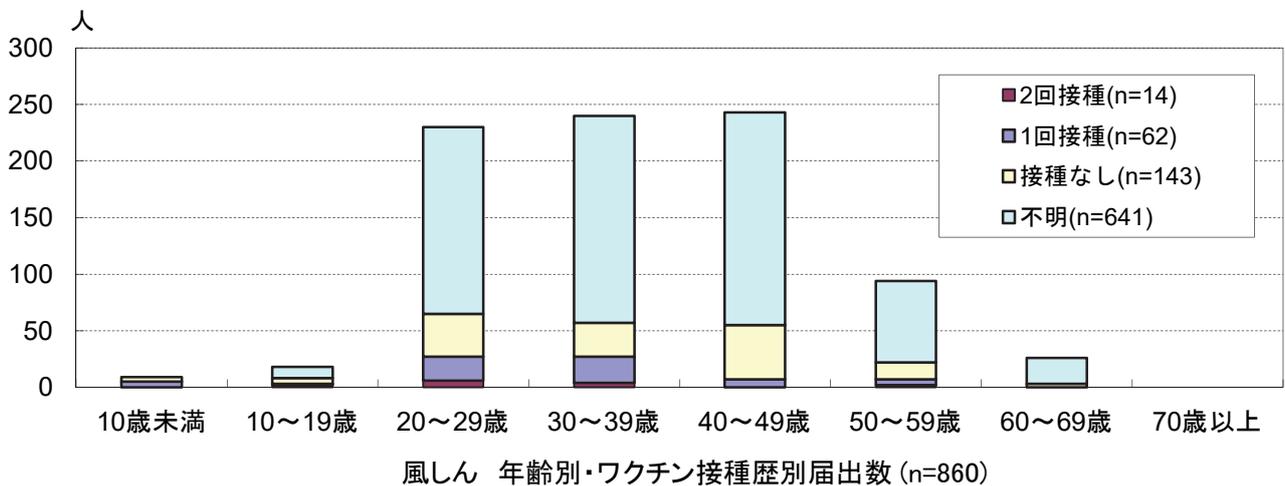
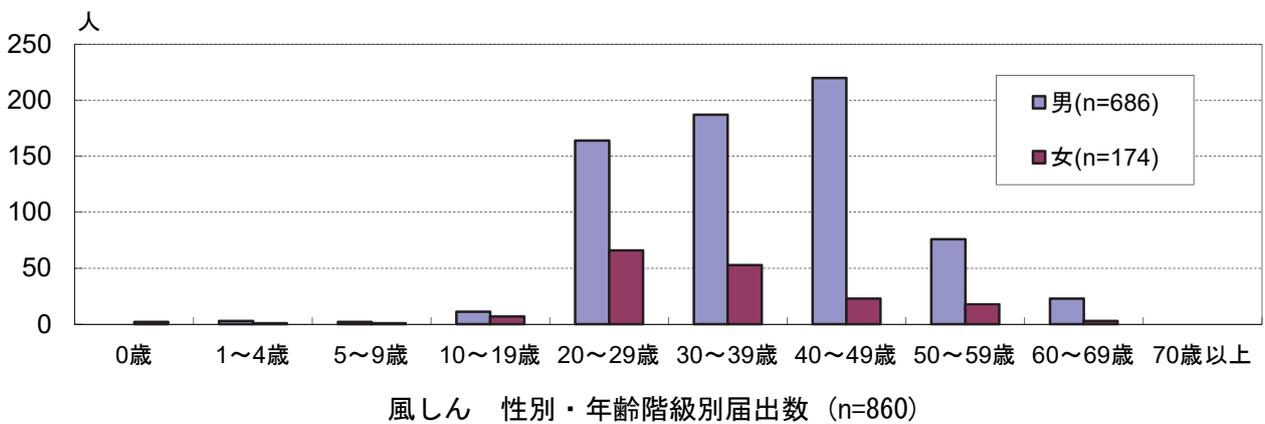
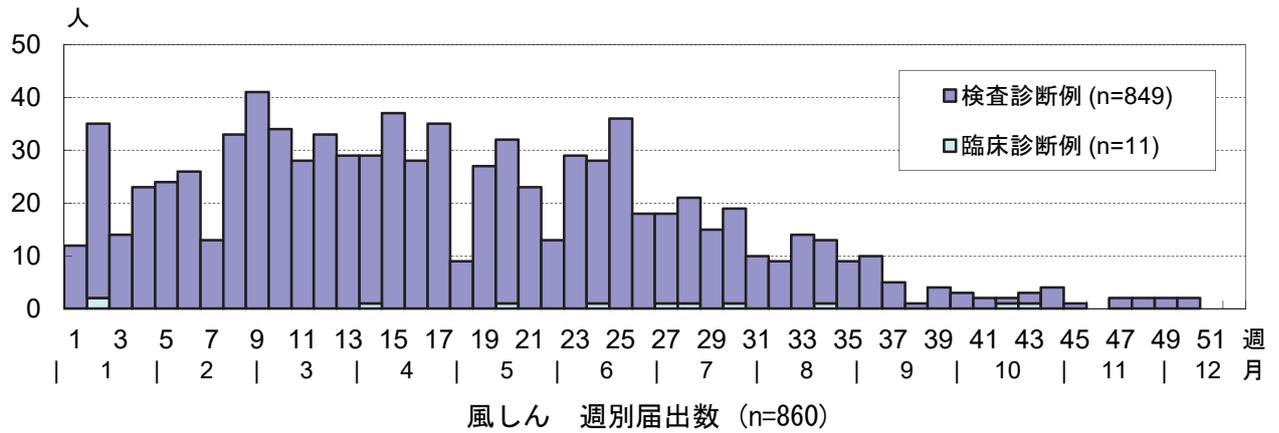
2019年は860件の届出があった。検査診断例は849件（うちPCR陽性例は550件）、臨床診断例は11件であった。

性別は男性686人、女性174人で、年齢階級別では10歳未満9人（うち5歳未満6人）、10～19歳18人、20～29歳230人、30～39歳240人、40～49歳243人、50～59歳94人、60～69歳26人であった。妊娠可能年齢の女性（15～49歳）147人のうち感染源が判明した28件の内訳は、家族12件、職場13件、友人2件、その他1件であった。

推定感染地は国内712件、国外11件（中国4件、フィリピン3件、韓国、タイ、米国、フィリピン又はグアム各1件）、国内又は国外3件（ネパール、米国、フィリピン又はインドネシア各1件）、不明134件であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2回14件、1回62件、なし143件、不明641件であった。

PCR 検査陽性例のうち遺伝子型が判明しているのは 1E 型 506 件、2B 型 8 件であった。



㊸ 麻しん

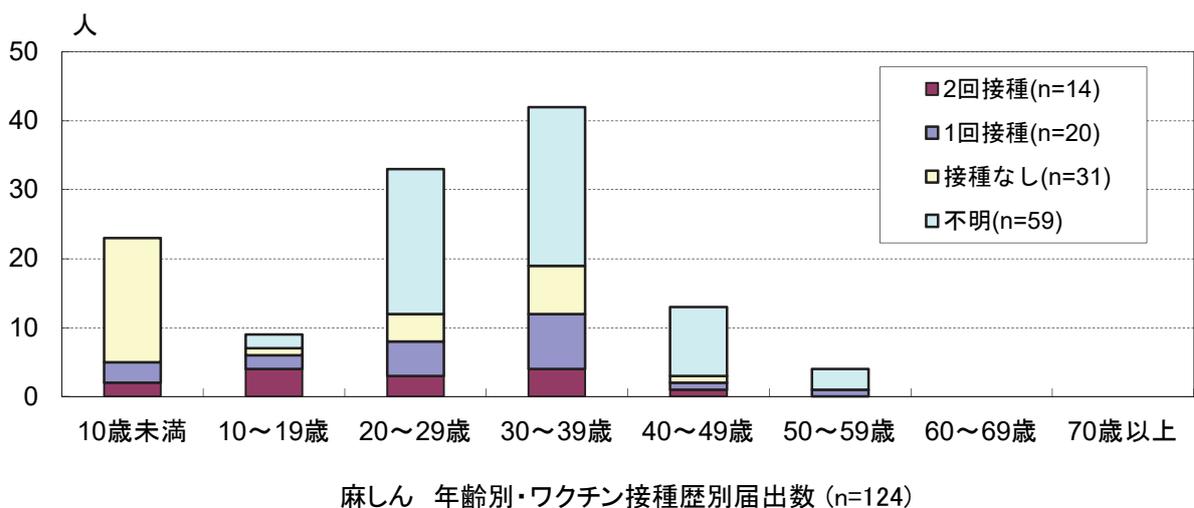
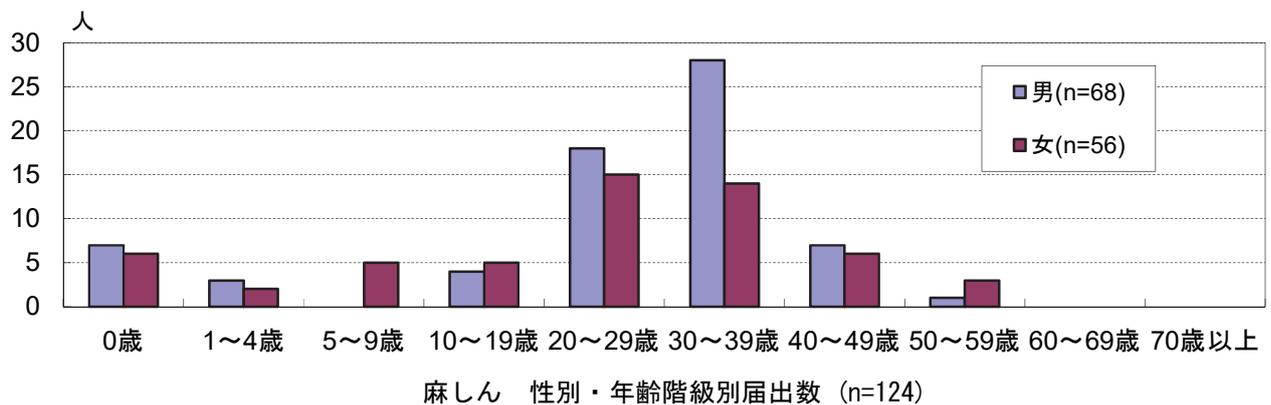
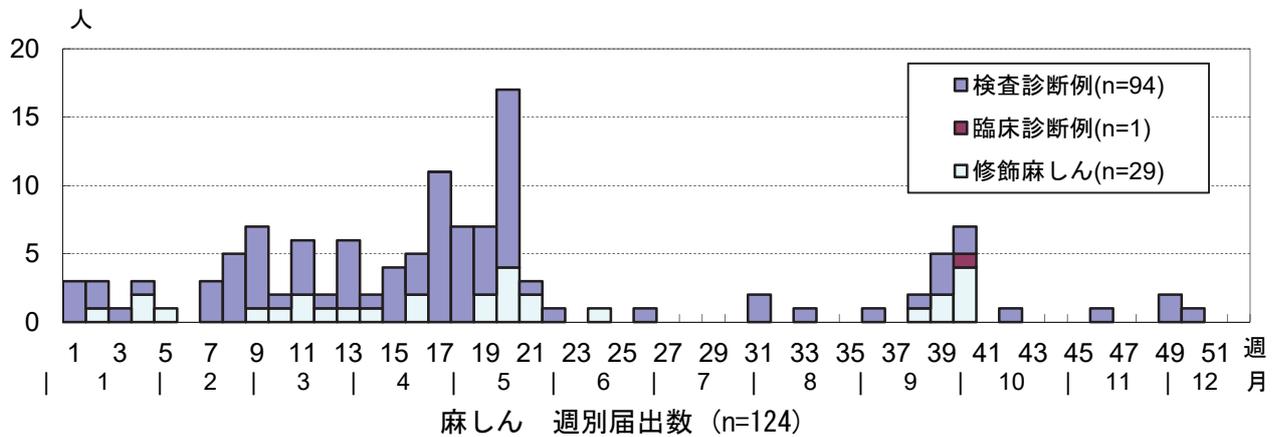
2019 年は 124 件の届出があった。検査診断例 94 件、臨床診断例 1 件、修飾麻しん 29 件であった。肺炎、脳炎の合併の報告はなかった。

性別は男性 68 人、女性 56 人で、年齢階級別では 10 歳未満 23 人（うち 5 歳未満 18 人）、10~19 歳 9 人、20~29 歳 33 人、30~39 歳 42 人、40~49 歳 13 人、50~59 歳 4 人であった。推定感染地は国内 91 人、国外 17 人（ベトナム 5 件、フィリピン、タイ各 2 件、韓国、インドネシア、ミャンマー、モルディブ、ロシア、ウクライナ、ベトナム又はタイ又はマレーシア又はシンガポール、ドイツ又はオ

ランダ又はフランス各1件)、国内又は国外1件(ベトナム又はカンボディア又はタイ)、不明15件であった。

麻しん含有ワクチン接種歴は、2回14件、1回20件、なし31件、不明59件であった。

PCR検査で麻しんウイルス陽性が確認された例は103件あり、それらの遺伝子型別の内訳はD8型62件、B3型42件で、D8型が60.2%を占めた。



㊸ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2019年は2件の届出があった。性別は全て女性で、50~59歳1人、70歳以上1人であった。推定

感染地は全て国内で、推定感染原因は院内感染、以前からの保菌各1件であった。

⑭ その他の五類感染症

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出がなかった。

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

週	期 間	一 類							二 類						三 類					
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ベスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	バラチフス
1	12.31～1.6																			
2	1.7～1.13															2	5			
3	1.14～1.20																1			
4	1.21～1.27																4	1		
5	1.28～2.3																4			
6	2.4～2.10																		1	
7	2.11～2.17																			
8	2.18～2.24																4			
9	2.25～3.3														1	8				
10	3.4～3.10														2	1				
11	3.11～3.17														1					
12	3.18～3.24																1			
13	3.25～3.31														1		2			
14	4.1～4.7																6			
15	4.8～4.14																2		1	
16	4.15～4.21														1	3				
17	4.22～4.28																1			
18	4.29～5.5																			
19	5.6～5.12														1	1				1
20	5.13～5.19															6				
21	5.20～5.26														1	1	8	1		
22	5.27～6.2														1	2				
23	6.3～6.9															7				
24	6.10～6.16															12				
25	6.17～6.23															7				
26	6.24～6.30														1	15				
27	7.1～7.7															16	1			
28	7.8～7.14														1	18				
29	7.15～7.21														1	13				
30	7.22～7.28															7				
31	7.29～8.4															9				
32	8.5～8.11															17				
33	8.12～8.18														1	11				
34	8.19～8.25															18				
35	8.26～9.1															15				
36	9.2～9.8															25				
37	9.9～9.15														1	17				
38	9.16～9.22															17				
39	9.23～9.29															25				
40	9.30～10.6															15				
41	10.7～10.13															7				
42	10.14～10.20															12				
43	10.21～10.27														1	8				
44	10.28～11.3														1	5				
45	11.4～11.10														2	6				1
46	11.11～11.17														1	2				
47	11.18～11.24														3	8				
48	11.25～12.1														2	3				
49	12.2～12.8														1	3				
50	12.9～12.15															6				
51	12.16～12.22														1					
52	12.23～12.29															5				
合 計														2	27	388	3			4

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

週	期 間	四 類											
		E型肝炎	A型肝炎	オウム病	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	12.31～1.6		1				1		1		3		
2	1.7～1.13	4	3				5				3		
3	1.14～1.20						5		1		4		
4	1.21～1.27	2	1				1				2		
5	1.28～2.3	3	1				2				7		
6	2.4～2.10	1	2								3		
7	2.11～2.17	2	1				2				1		
8	2.18～2.24	4	2								1		
9	2.25～3.3	2	1				3				2		
10	3.4～3.10	3	2	1			2				1		
11	3.11～3.17	3	1				2					1	
12	3.18～3.24	2	2	1			1				2		
13	3.25～3.31	3	1				2				2		
14	4.1～4.7	1	2				2				3		
15	4.8～4.14	1	3				1				4		
16	4.15～4.21	7	5								4		
17	4.22～4.28	5	7						1				
18	4.29～5.5		2				2				1		
19	5.6～5.12	3	5	1			5		1		8		
20	5.13～5.19	3	8		1		4				4		
21	5.20～5.26	5	6			1	3		1		1		
22	5.27～6.2	3	4				1				4		
23	6.3～6.9	2	2				1				5		
24	6.10～6.16	3	5					1			1		
25	6.17～6.23	3	5						1		8		
26	6.24～6.30		2			1	1		1		6		
27	7.1～7.7	2	2				3				5		
28	7.8～7.14	5	4				2				7		
29	7.15～7.21	5	2								8		
30	7.22～7.28		2				1		1		4		
31	7.29～8.4		8				3				6		
32	8.5～8.11	3	5				5				1		
33	8.12～8.18	3	3				7		1		5		
34	8.19～8.25	3	6				6				5	1	
35	8.26～9.1	1	4				6		1		6	1	
36	9.2～9.8	6	4			1	5		3		3		
37	9.9～9.15	2	1				2		1		5	3	
38	9.16～9.22	3	2				3				4		
39	9.23～9.29	3	4			3	3				7		
40	9.30～10.6	2	1				1		2		5		
41	10.7～10.13	1	3			1	8				2		
42	10.14～10.20	3				1					1	2	
43	10.21～10.27	3	4				1			1	4		
44	10.28～11.3	2					4		1		3		
45	11.4～11.10	2	2			1	4		2		5	1	
46	11.11～11.17	1	2				2				3		
47	11.18～11.24	1	5				3				5		
48	11.25～12.1	3					3		1		2		
49	12.2～12.8	2	2				1		1		4		
50	12.9～12.15	3					2				1		
51	12.16～12.22	3	1			2	4				2		
52	12.23～12.29	1	2				1		1		4		
合 計		128	143	3	1	11	12	130	1	22	1	187	9

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2019年第1週~2019年第52週

週	期 間	五 類																						
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く)	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘 (入院例)	先天性風しん症候群	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
1	12.31~1.6			4					1	1		1		6			9			9	12	3		
2	1.7~1.13	4	1	4		5		1	4	6		7		19			39			42	35	3	1	
3	1.14~1.20	3	2	6		6			3	5	1	2		12	1		31	1		56	14	1		
4	1.21~1.27	3		3		6			2	10		3		11	3		34			52	23	3		
5	1.28~2.3	5	2	4		6		2	1	11		3	1	15			33	1		67	24	1	1	
6	2.4~2.10	5	3			4			4	7		1		6	2		31			40	26			
7	2.11~2.17		1	3		4			2	1	12		1	7	1		39			32	13	3		
8	2.18~2.24	4		7		1		2	1	5		1		11			39			40	33	5		
9	2.25~3.3	4	3	4		1			2	8		2		7			46			33	41	7		
10	3.4~3.10	6	2	5		1				11	1	2		5	2		25			28	34	2		
11	3.11~3.17	6	7	2		1	1	1	4	12	1	2		7	3		36	1	1	39	28	6		
12	3.18~3.24	2	3	5	1				2	12		1		8	1		30			23	33	2		
13	3.25~3.31	3	3	5					1	6		1		5	2		30	2	1	42	29	6		
14	4.1~4.7	4	1	4		1	1	1		12		1		5	2		28		1	19	29	2		
15	4.8~4.14	8		3		1			4	8		2		9			29	1		23	37	4		
16	4.15~4.21	2		5		2			3	9				14			38		1	31	28	5		
17	4.22~4.28	4	1	3		1		1	2	3		1		11	3	1	41			29	35	11		
18	4.29~5.5			3		3			3	1				3	1		3				9	7		
19	5.6~5.12	2	1	2		1			2	5		4		15	2		38		1	24	27	7		
20	5.13~5.19	7		3	1				3	4		2		11	3		41			38	32	17		
21	5.20~5.26	1	1	5		1			2	7		1		8	2		36	1		19	23	3		
22	5.27~6.2	3	1	4	1	2		1	2	10		4		11			45		1	14	13	1		
23	6.3~6.9	2	5	1		2		2	3	10		1		8	1		44		1	22	29			
24	6.10~6.16	3	2	2					5	9		4		6	1		44			21	28	1		
25	6.17~6.23	2	1	5		1			3	7				7	3		33		1	11	36			
26	6.24~6.30	2	1	4		1			5	4		1		8	3		41			23	18	1		
27	7.1~7.7	5	2	1					1	6		1		3			36	1		29	18			
28	7.8~7.14	2	3	1					4	5		3		5	3		38		1	35	21			
29	7.15~7.21	4	2	3					5	6		1	1	3	1		21	1		10	15			
30	7.22~7.28	5	5	2		1			5	10		3		3			36			33	19			
31	7.29~8.4	3	3	8		2			3	10		1		2	1		25			26	10	2		
32	8.5~8.11	4	3	3		2			2	12		1		2	3		29		1	24	9			
33	8.12~8.18	1	6	4		1		1	1	5	1	1		3			28			11	14	1		
34	8.19~8.25	4	2	6		3			2	4		3		4			41			19	13			
35	8.26~9.1	1	2	7		1		1	3	9	1			6	2		33			30	9			
36	9.2~9.8	3	1	5		1	1		1	8		1		9	3		32			26	10	1		
37	9.9~9.15	4	2	10	1	1				4		1	1	2	3		43							
38	9.16~9.22	1	2	5		1		1	1	7		1		3	3		24		1	21	1	2		
39	9.23~9.29	4	1	3		2			3	11				1	5		28			19	4	5		
40	9.30~10.6	2	1	8					3	6		2		1			42			22	3	7		
41	10.7~10.13	3		6		2			2	7				7	3		31	1		28	2			
42	10.14~10.20		1	7	1	1		1		4		3		1	1		33			18	2	1		
43	10.21~10.27	4	2	6		3		1	3	9	2	1		3	2		32			23	3			
44	10.28~11.3	3	4	10		2		1	2	4	1	1		12	2	1	30	1	1	1	33	4		
45	11.4~11.10	3	3	8		1			3	13	1	3		2	2		28			10	1			
46	11.11~11.17	2	3	2					4	15		3		7			24		1	1	23		1	
47	11.18~11.24	3	2	6						8				12	3		36			19	2			
48	11.25~12.1	1		9		2			2	5				11	1		38	1		24	2			
49	12.2~12.8	2	3	4		3			3	9	1			8	1		38			18	2	2		
50	12.9~12.15	2	1	3	2	3			3	8	1	1		7	6		29			13	2	1		
51	12.16~12.22	3	2	7					2	10		3	1	10	1		20			17				
52	12.23~12.29	1	1	7		1		2	5	16	1	3		16	3		34			10				
合 計		155	98	237	7	81	4	19	126	406	12	85	5	382	80	2	1,712	12	8	8	1,340	860	124	2

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

	一類						二類						三類						
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田																5			
中央区																5		1	
みなと															3	16		1	
新宿区															3	16	2		
文京															3	14			
台東																9			
墨田区															2	9		1	
江東区														1	2	5			
品川区																15			
目黒区																9	1		
大田区															1	27		1	
世田谷																25			
渋谷区															1	7			
中野区																9			
杉並														1	1	16			
池袋																7			
北区																6			
荒川区																6			
板橋区																16			
練馬区																11			
足立															2	12			
葛飾区															2	5			
江戸川															1	21			
八王子市															1	20			
町田市																15			
西多摩																11			
南多摩															1	4			
多摩立川															1	19			
多摩府中															1	26			
多摩小平															2	21			
島しょ																1			
合計														2	27	388	3	4	

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

	四 類											
	E型肝炎	A型肝炎	オウム病	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	5	6			1	2	2		1		3	
中央区					1		7				5	
みなと	7	14			1		10		3		13	
新宿区	13	34		1	4		47	1	12		8	3
文京	17	13	1		3	1	15		1		13	
台東	1	1				1					1	
墨田区	3	6					11		2		6	1
江東区	4	1									6	1
品川区	7	1					1				2	
目黒区	6	1			1		3				6	
大田区	6	3					12				12	1
世田谷	2	2				1	3				2	
渋谷区	3	5				1	3				1	2
中野区	2	3									3	
杉並	5	5									4	
池袋		4									1	
北区	5	1									7	
荒川区	1	4										
板橋区	10	10					8				13	
練馬区	3	5									3	
足立	6										3	
葛飾区	4	2					1				7	
江戸川	2	2									3	
八王子市	1	2				1			2		10	
町田市		1					1				5	
西多摩	1					4					2	
南多摩	1	4									5	
多摩立川	2	2	2								11	
多摩府中	6	6					4			1	14	1
多摩小平	5	5					2		1		18	
島しょ						1						
合 計	128	143	3	1	11	12	130	1	22	1	187	9

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2019年第1週~2019年第52週

	五 類																						
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	先天性風しん症候群	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
千代田	9	3	4	1			2	1				1			20	2			5	22	2		
中央区	5		6		1		1	5		4		9	2		41				7	22			
みなと	16	7	22				4	14		7		16	2		153				21	39	6		
新宿区	32	24	10		4	4	2	8	178	3	9	1	28	7	740	2	2		25	133	14		
文京	6	7	11	2	6		2	4	44		3	2	19	7	84	2	2		44	17	3		
台東	2		1				1		5						108	1		1	1	24	1		
墨田区	2	1	7					2	11		1		12	4	27				25	29	1		
江東区	2	2	6					2			1		7	5	16				22	15	4		
品川区	3	2	20		1			13	10	1	1		24	3	23				45	25	3		
目黒区	3		2	1				5	7		2		14	2	14	2			27	19	7		
大田区	11	5	7		8			7	6	1	1		15	8	36	1	1		48	33	5		
世田谷	5	3	9		16			3	2	2	7		15	6	1	27			180	50	4		
渋谷区	4	1	6	1			1	1	49		4		13	2	72				19	27	18		
中野区	1	2	6				1	2	7		3		6	2	11				25	43	2		
杉並	1	5	7					4	4				6	2	15				8	30	2		
池袋	5	1	1						2				2		86				7	23	3		
北区	4	1	3		3			4	5		1	1	8		6				16	19			
荒川区	3	6	2		12			3	2		1		8	1	8				17	8			
板橋区	5	7	24				2	14	10	1	9		35	5	31		1		82	37	5	1	
練馬区		4	3	1	1			2	2	1	1		15	1	21				49	24	4		
足立	3	2	3		2		1	1	2	2			7	1	14			5	55	28	4		
葛飾区	5		4		2		2		1		2		3		1	20			32	26	3		
江戸川	3	3			1			4	2				4	4	25			1	93	16	8		
八王子市	1		15				1	3	5	1	2		11	2	6				132	13	3		
町田市	4		25		3			1			3		1	2	10				96	6	4		
西多摩	2	5	4					1	1				3	1	8		1		27	6			
南多摩	1	1	3					2	2				16	1	16				63	14	3		
多摩立川	7		4		2			4	3		7	1	17	1	29				77	32	5		
多摩府中	7	2	13	1	19		4	19	21		14		48	6	30	1	1		47	55	9	1	
多摩小平	3	4	9				2	10	5		2		19	3	15	1		1	41	24	1		
島しょ																			4	1			
合 計	155	98	237	7	81	4	19	126	406	12	85	5	382	80	2	1,712	12	8	8	1,340	860	124	2

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳																	1		
1～4歳															1	34			
5～9歳																28			
10～14歳															2	21	1		
15～19歳															1	30			
20～24歳														1	1	65	1		
25～29歳															2	47	1	1	
30～34歳															1	37		2	
35～39歳														1	3	13			
40～44歳															5	19			
45～49歳															1	14			
50～54歳																20		1	
55～59歳															5	8			
60～64歳																7			
65～69歳															2	6			
70歳以上															3	38			
合 計														2	27	388	3	4	

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

	四 類											
	E型肝炎	A型肝炎	オウム病	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳												
1～4歳												
5～9歳					1	1	1					1
10～14歳							5		1			
15～19歳		4					10					1
20～24歳	1	18			3		21		4			3
25～29歳	1	15			1		24	1	2			
30～34歳	4	23			1	1	24		1			
35～39歳	9	22	1		2		11		3	1	3	1
40～44歳	8	18			3		9		5		3	2
45～49歳	11	14				1	9		3		12	1
50～54歳	17	9		1		1	7		1		5	
55～59歳	24	8				1	4		1		21	
60～64歳	10	7				1	2				17	
65～69歳	18	2	1			1	1				25	
70歳以上	25	3	1			5	2		1		100	
不明											1	
合 計	128	143	3	1	11	12	130	1	22	1	187	9

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2019年第1週～2019年第52週

	五 類																						
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	先天性風しん症候群	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
0歳			8		3			1			5		15	2	2					67	2	13	
1～4歳			2	3	34						6		46	2						72	4	5	
5～9歳			2	3	20						4		9	7						482	3	5	
10～14歳			2	1	8						1		2	3						246	5	3	
15～19歳	1	4	1		1				3					5		33				51	13	6	
20～24歳	1	14	2		1	1		1	50	4			2	6		276				42	80	13	
25～29歳	6	16	4		1	1		1	81		1		2	2		338	1	1		48	150	20	
30～34歳	8	14	3					2	56		3		2	12		247				42	135	30	
35～39歳	11	12	1					2	62		1		8	4		203		1		51	105	12	
40～44歳	22	11	5			1		3	51	2	1		12	9		206				62	119	10	
45～49歳	29	10	7			1		1	35	2	2	1	9	7		160				55	124	3	
50～54歳	19	8	8				1	7	36	1	2		11	2		105	1			43	65	2	
55～59歳	18	5	10		3			9	21	1	5		18	6		59	2			26	29	2	1
60～64歳	14		9		3		3	7	4	1	5	1	20	5		28		1		17	20		
65～69歳	14	2	24				3	10	6				1	45	2	21		1		10	6		
70歳以上	12	2	149		7		12	82	1	1	49	2	180	6		36	8	4	8	26			1
不明													1										
合 計	155	98	237	7	81	4	19	126	406	12	85	5	382	80	2	1,712	12	8	8	1,340	860	124	2

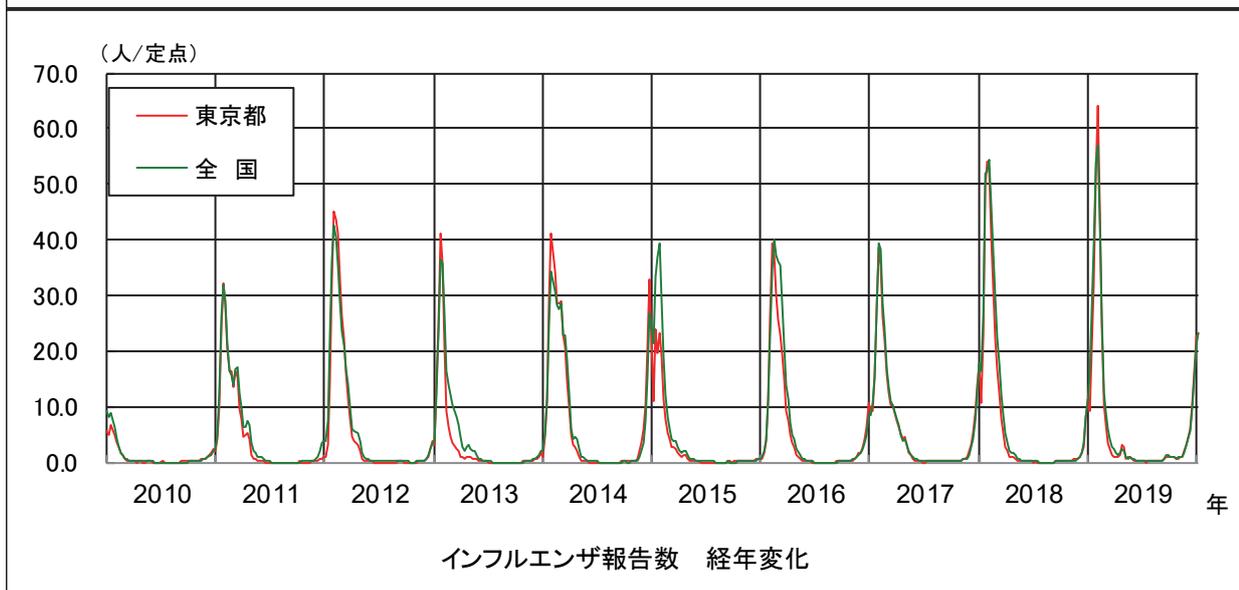
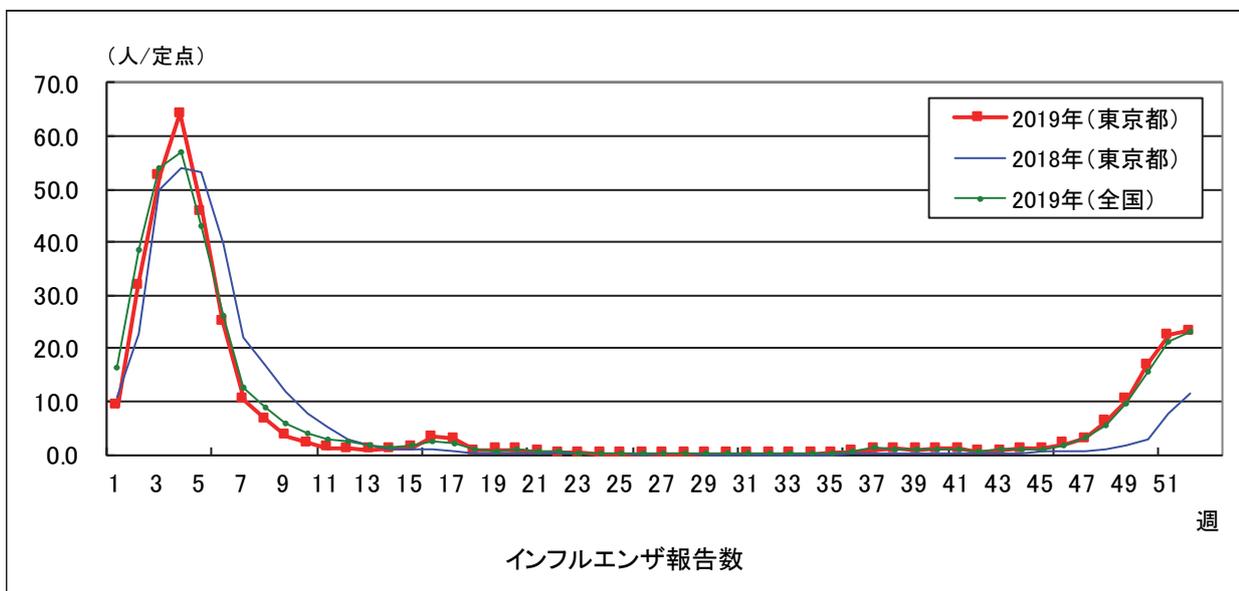
(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2019年の報告数は148,861人、定点当たり361.04人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は261.01人であり、2019年は例年と比べてここ10年では2014年に次いで多い報告数であった。

2018/19シーズンの流行は2018年49週(12.3～12.9)に定点当たり1.57人と1.0人を超え流行期に入り、52週(12.24～12.30)には11.54人と10.0人を超え、年末年始にやや減少したものの、2019年の2週(1.7～1.13)には31.71人と30.0人を超え、4週(1.21～1.27)には64.18人とピークになった。その後8週(2.18～2.24)に6.62人と10.0人を割り、12週(3.18～3.24)に0.99人と1.0人以下となり流行は終息に向かった。

2019/20シーズンの流行は2019年38週(9.16～9.22)に1.06人と1.0人を超えた後、しばらくは1.0人前後で推移したが、44週(10.28～11.3)に1.11人、45週(11.4～11.10)に1.11人と続いたのち、上昇に転じて流行が始まり、49週(12.2～12.8)には10.34人と10.0人を超え、52週(12.23～12.29)には23.19人に達した。



なお2020年に入ると年末年始に減少したあと、2週（1.6～1.12）には14.42人となったが、暖冬や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への予防行動が活発になった影響などもあってか、流行警報発令基準（定点あたり30.0人以上）に達することなく、2020年6週（2.3～2.9）には6.87人と10.0人以下となって推移した。

2019年の保健所別定点当たり患者報告数で最も多かったのは島しょ保健所の557.50人、次いで八王子市の535.90人、最も少なかったのは品川区の176.22人であった。

年齢階級別に患者報告数をみると1歳未満1,874人（1.3%）、1歳～10歳未満66,952人（45.0%）、10歳～20歳未満29,750人（20.0%）、20歳～60歳未満41,807人（28.1%）、60歳以上8,47人（5.7%）であった。

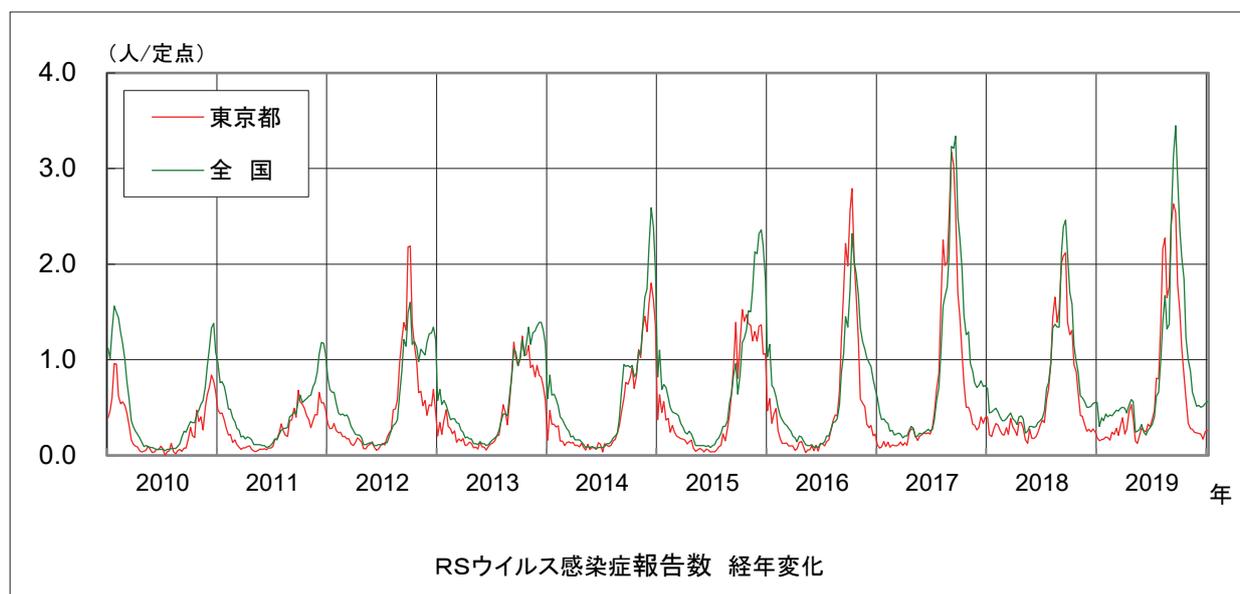
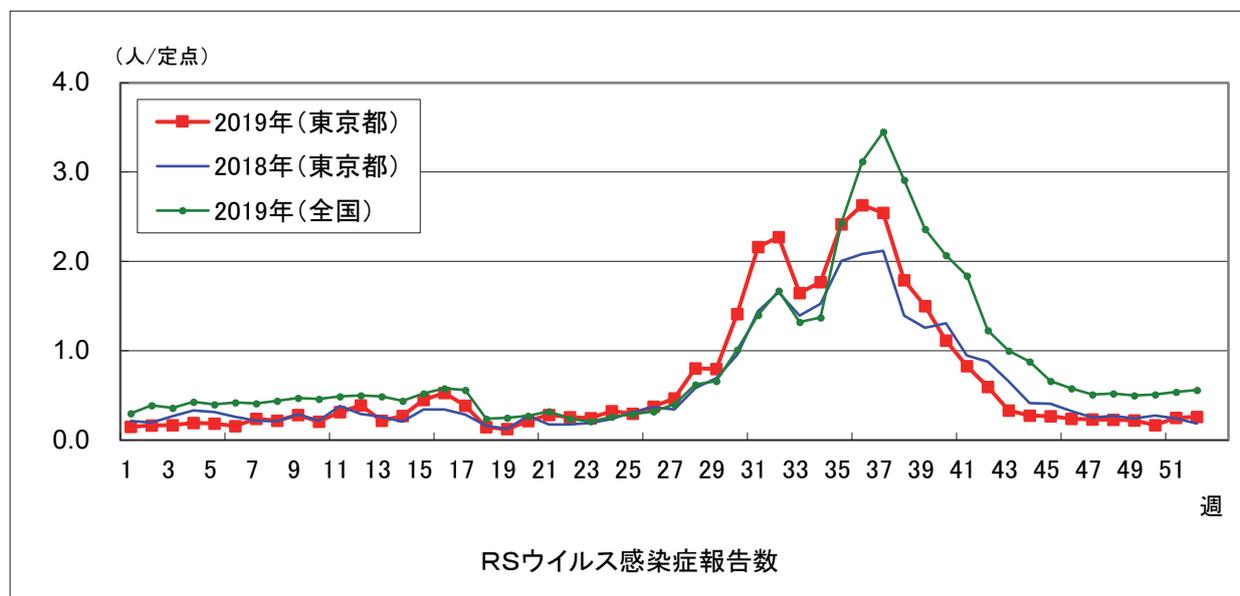
イ RSウイルス感染症

2019年の報告数は8,682人、定点当たりの報告数は34.00人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は25.40人であり、2019年の報告数はここ10年では2017年に次いで2番目に多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では28週(7.8~7.14)から42週(10.14~10.20)にかけて0.5人を超える大きな山があり、ピークは36週(9.2~9.8)の2.63人であった。

保健所別定点当たりの報告数で最も多かったのは荒川区の99.67人であった。

年齢階級別報告数では6か月未満が970人(11.2%)、6か月~12か月未満が1,866人(21.5%)、1歳代が3,385人(39.0%)、2歳代が1,439人(16.6%)と2歳以下で88.2%を占めている。



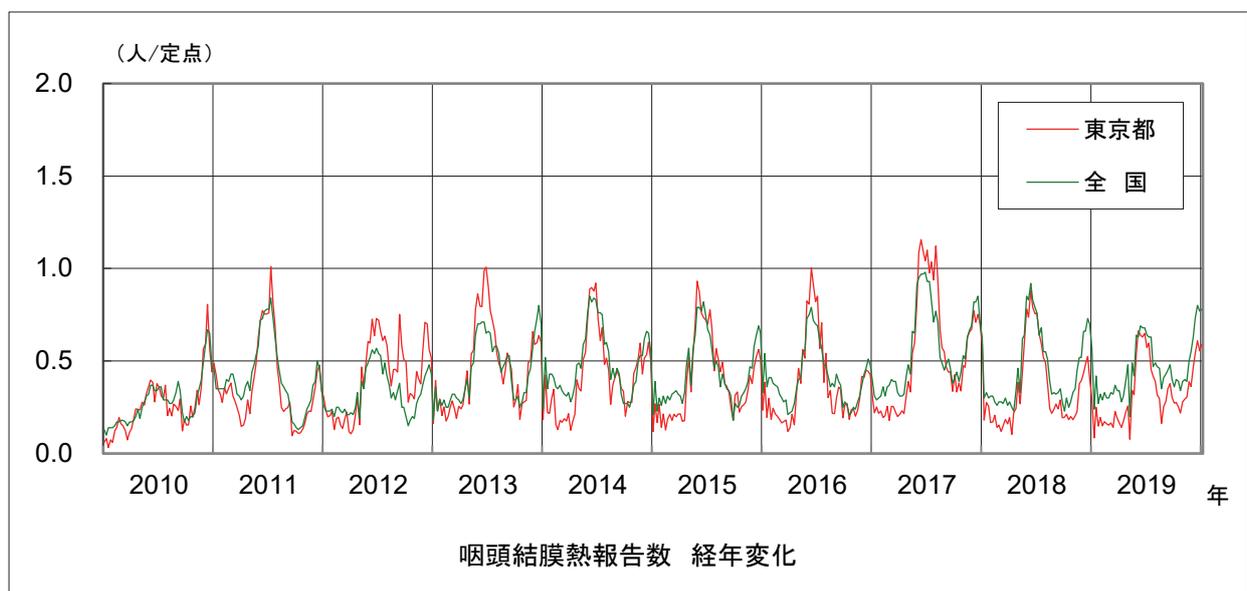
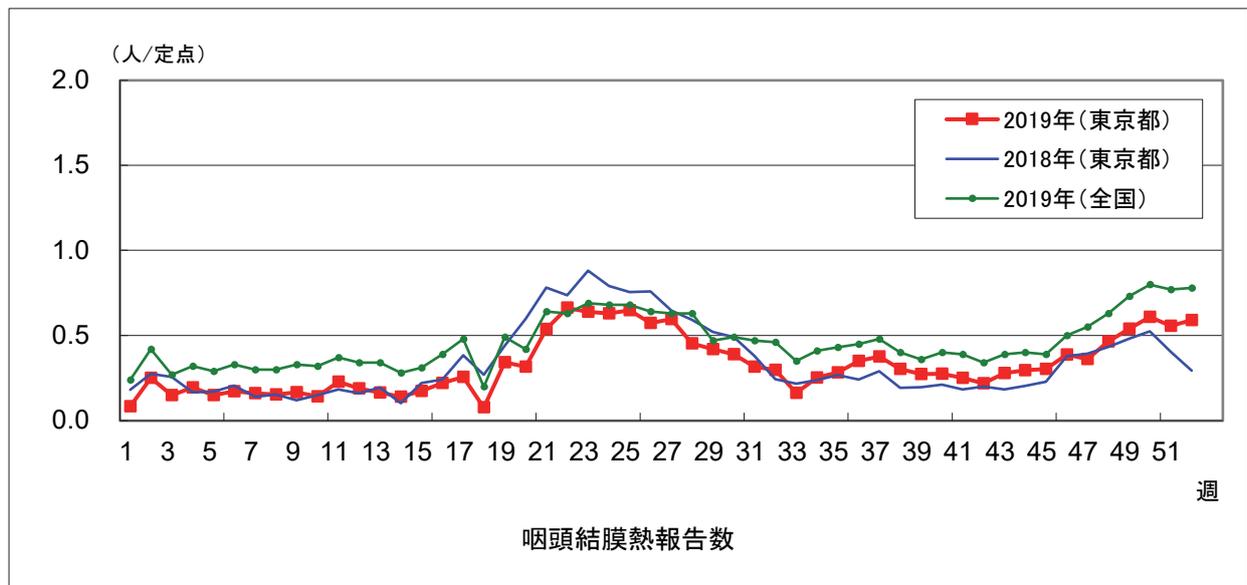
ウ 咽頭結膜熱

2019年の報告数は4,405人、定点当たりの報告は17.04人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は20.23人であり、2019年の報告数はここ10年では2010年に次いで少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数は21週（5.20～5.26）から29週（7.15～7.21）と、48週（11.25～12.1）から52週（12.23～12.29）にかけて0.4人を超える二つの山があり、ピークは22週（5.27～6.2）の0.66人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩小平の57.00人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が1,171人（26.6%）と最も多く、5歳代以下で84.9%を占めている。



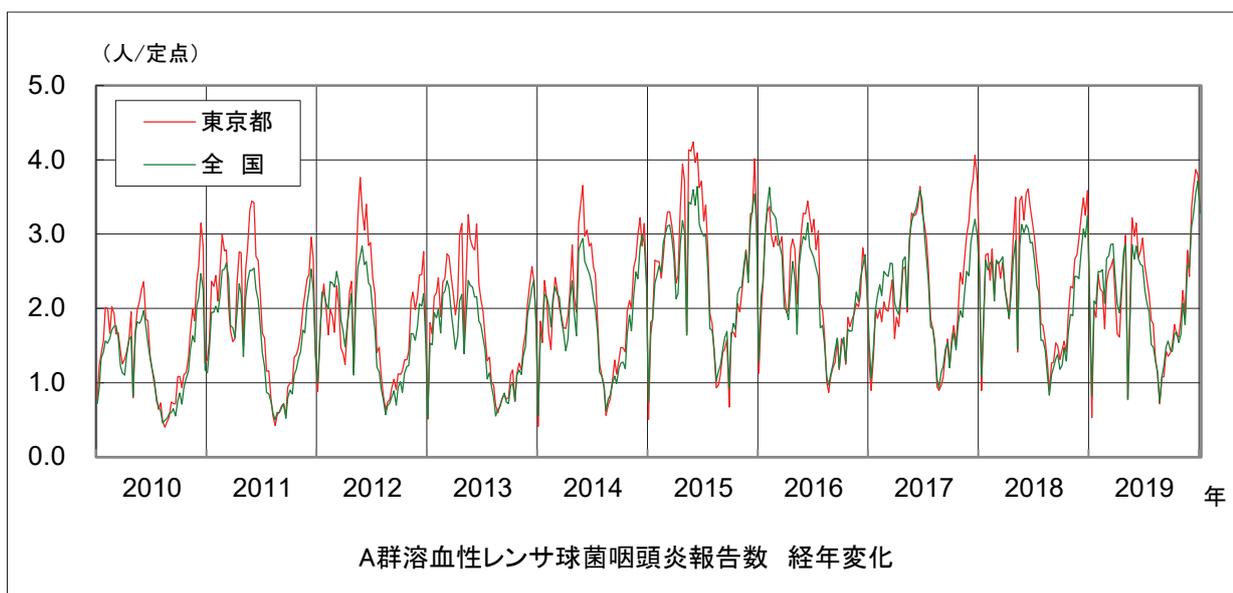
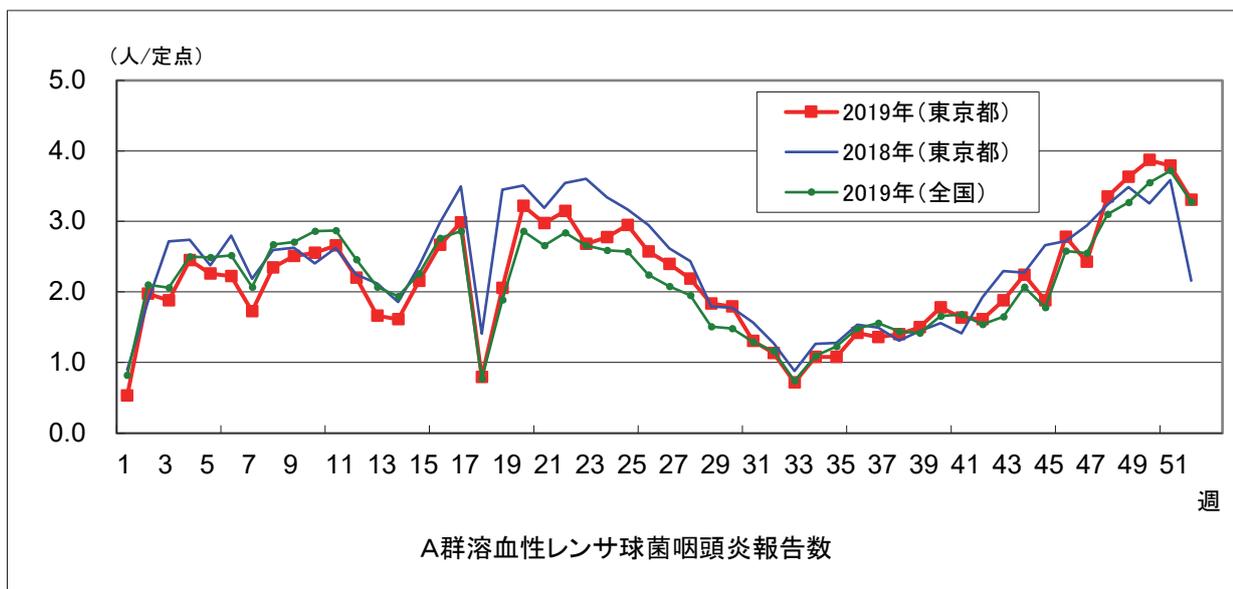
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2019年の報告数は29,223人であり、定点当たりの報告数は112.95人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は107.96人であり、2019年の報告数はここ10年でみれば例年並みと言える。

週別定点当たりの報告数では15週(4.8~4.14)から28週(7.8~7.14)にかけての小さな山と、48週(11.25~12.1)から2020年にかけて3.0人を超える山があり、ピークは20週(5.13~5.19)の3.22人と50週(12.9~12.15)の3.87人であった。なお18週(4.29から5.5)に報告数の減があるのは5月の連休の関係で診療日数の減があったためと思われる。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは中野区の185.67人であった。

年齢階級別報告数では5歳代が4,089(14.0%)と最も多く、3歳代から7歳代で61.3%を占めている。



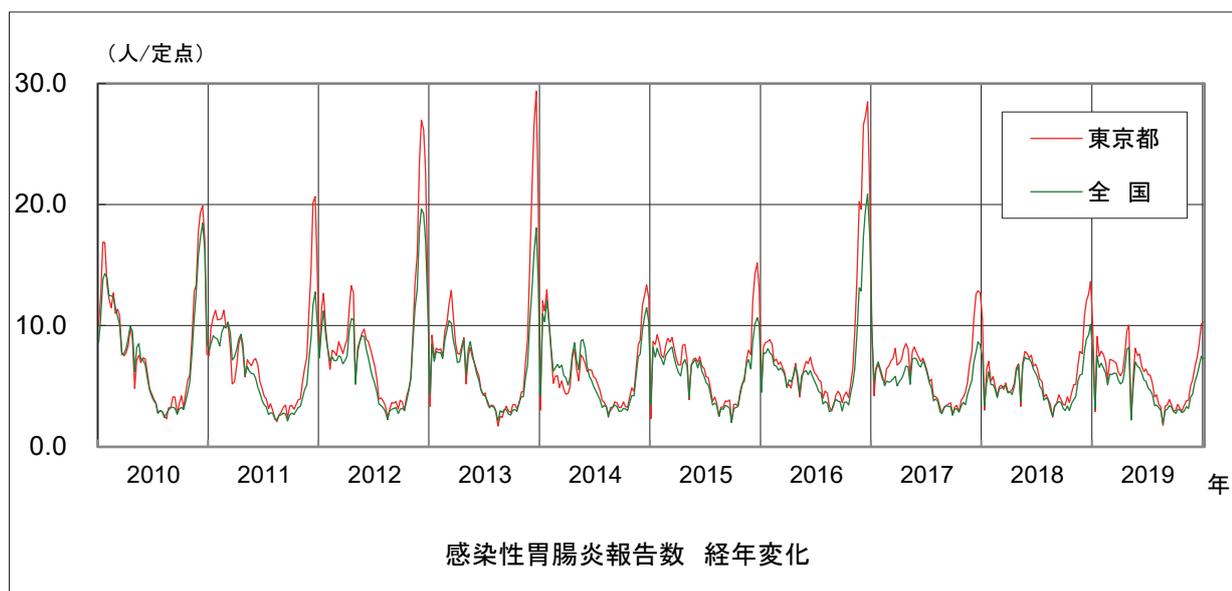
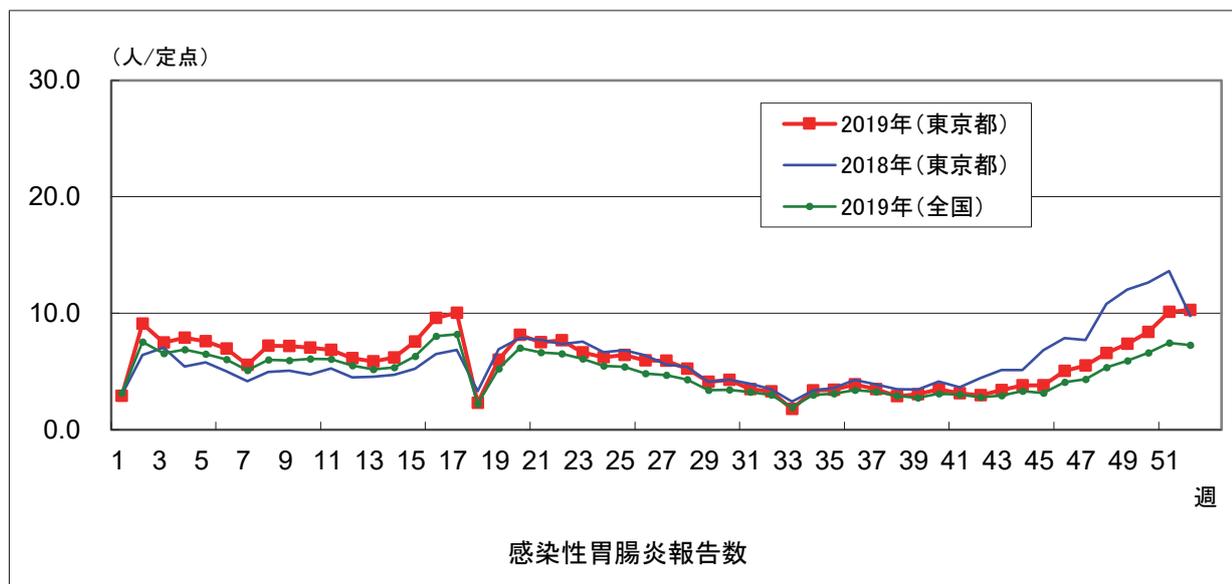
オ 感染性胃腸炎

2019年の報告数は77,421人、定点当たりの報告数は299.71人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均367.36人であり、2019年の報告数はここ10年では最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告では2018年48週から51週にかけて10.0人を超えていたが、2019年に入ると、17週(4.22~4.28)に10.0人と10.0人を超えたものの、28週(7.8~7.14)までは概ね5.0人から10.0人未満の間で推移しており、その後は5.0人未満の報告数であった。46週(11.11~11.17)に5.0人と5.0人を超えて増加に転じ、51週(12.16~12.22)、52週(12.23~12.29)と10.0人を超えた。ピークは52週(12.23~12.29)の10.28人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは台東区の648.50人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が最も多く10,367人(13.4%)であった。



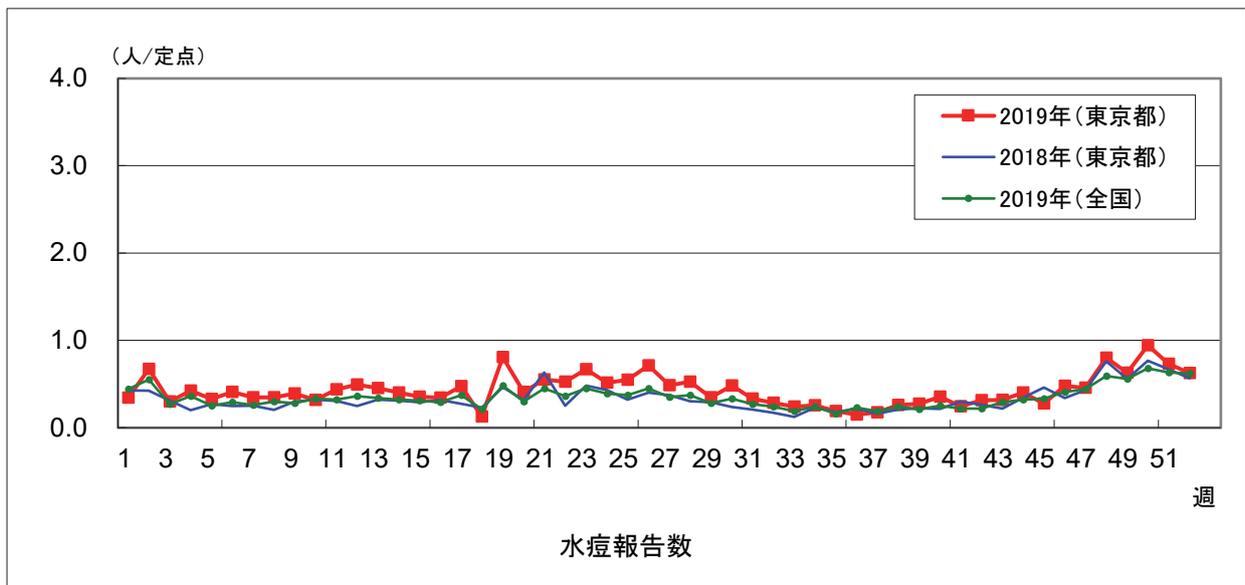
カ 水痘

2019年の報告数は5,739人、定点当たりの報告数は22.25人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は36.44人であり、2019年の報告数はこの10年で4番目に少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、17週（4.22～4.28）から30週（7.22～7.28）にかけて19週（5.6～5.12）の0.81人をピークとする緩やかな山と、46週（11.11～11.17）から52週（12.23～11.29）にかけて50週（12.9～12.15）の0.94人をピークとする緩やかな山がみられた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは文京の37.50人であった。

年齢階級別報告数では7歳代が863人（15.0%）と最も多かった。



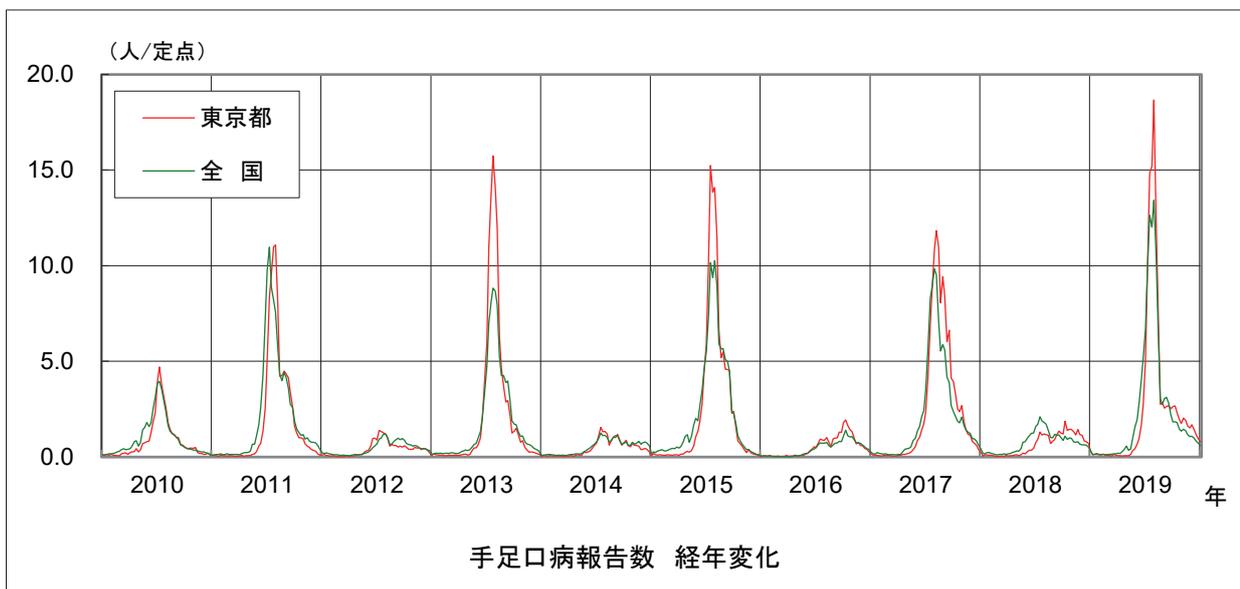
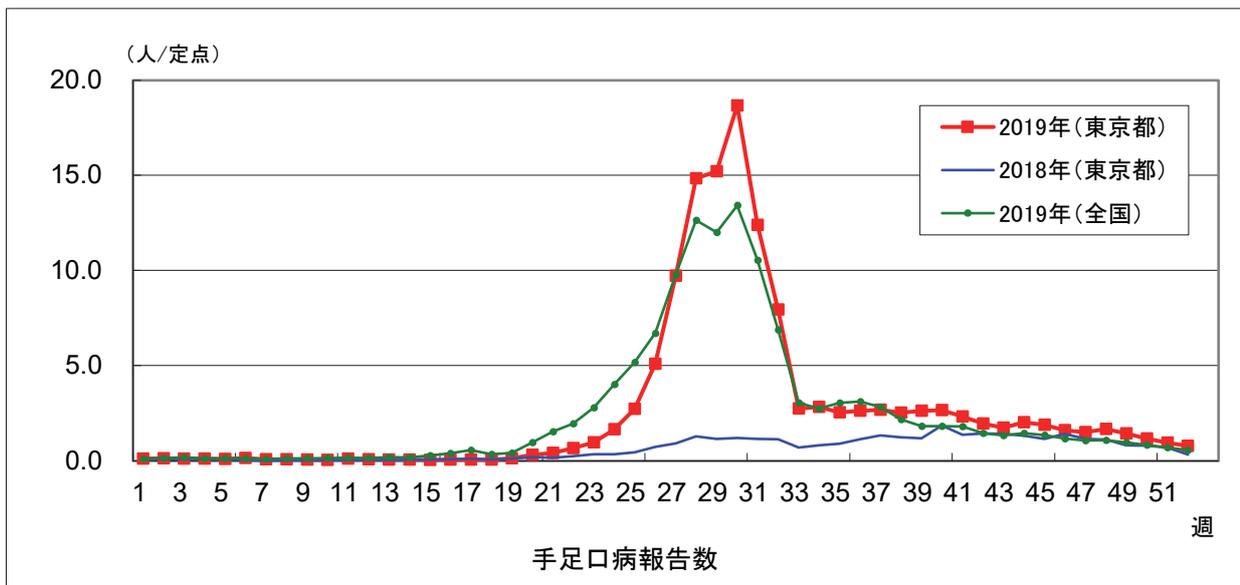
キ 手足口病

2019年の報告数は34,136人、定点当たりの報告数は132.46人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は74.45人であった。ここ10年では、2010年以降1年ごとに報告の多い年と少ない年を繰り返しており、2019年は報告数が多い年にあたった。

週別定点当たりの報告数では24週(6.10～6.16)に1.65人と1.0人を超え、30週(7.22～7.28)の18.66人をピークとする山がみられた。33週(8.12～8.18)には2.74人に減少したが、その後は2.0人前後で推移し、51週(12.16～12.22)に0.94人と1.0人未満となった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩小平の219.38人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が12,147人(35.6%)と最も多かった。



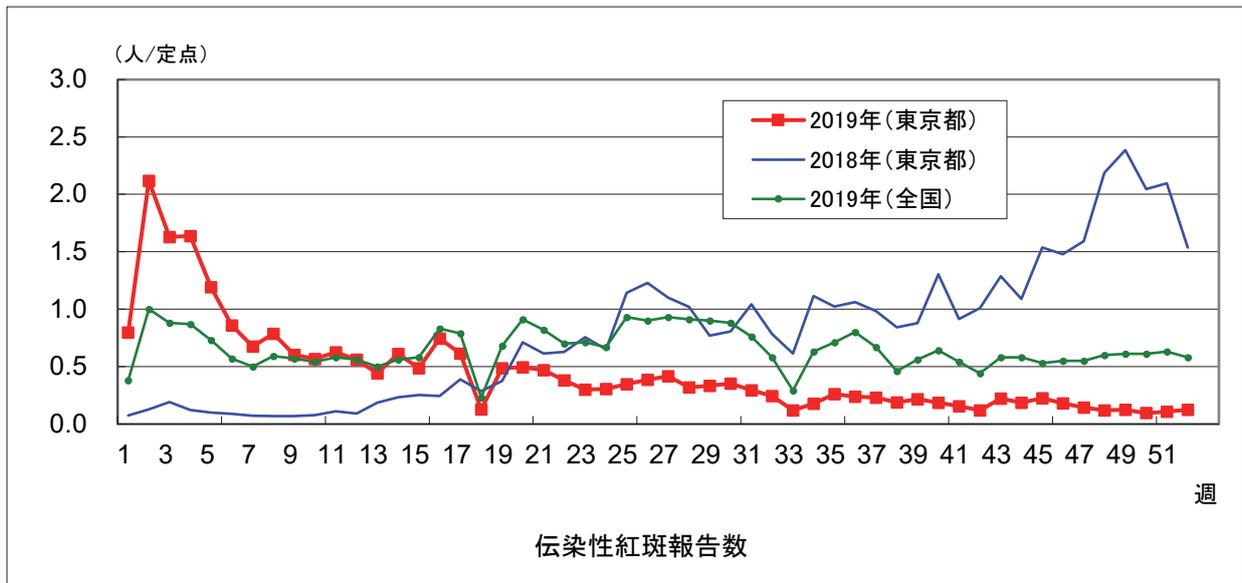
ク 伝染性紅斑

2019年の報告数は6,071人、定点当たりの報告数は23.60人であった。ここ10年の定点当たりの報告の平均は19.45人であった。2019年の定点当たりの報告数はこの10年でみると、年間の報告数としてはやや多めの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では、2018年49週(12.3~12.9)に2.39人とピークになったあと年末年始にかけて減少したが、2019年2週には2.12人と再び増加した。6週(2.4~2.10)には0.86人と1.0人未満となって、以降年末にかけて減少した。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区の59.33人であった。

年齢階級別報告数では4歳代が1,087人(17.9%)、5歳代が1,072人(17.7%)と多かった。



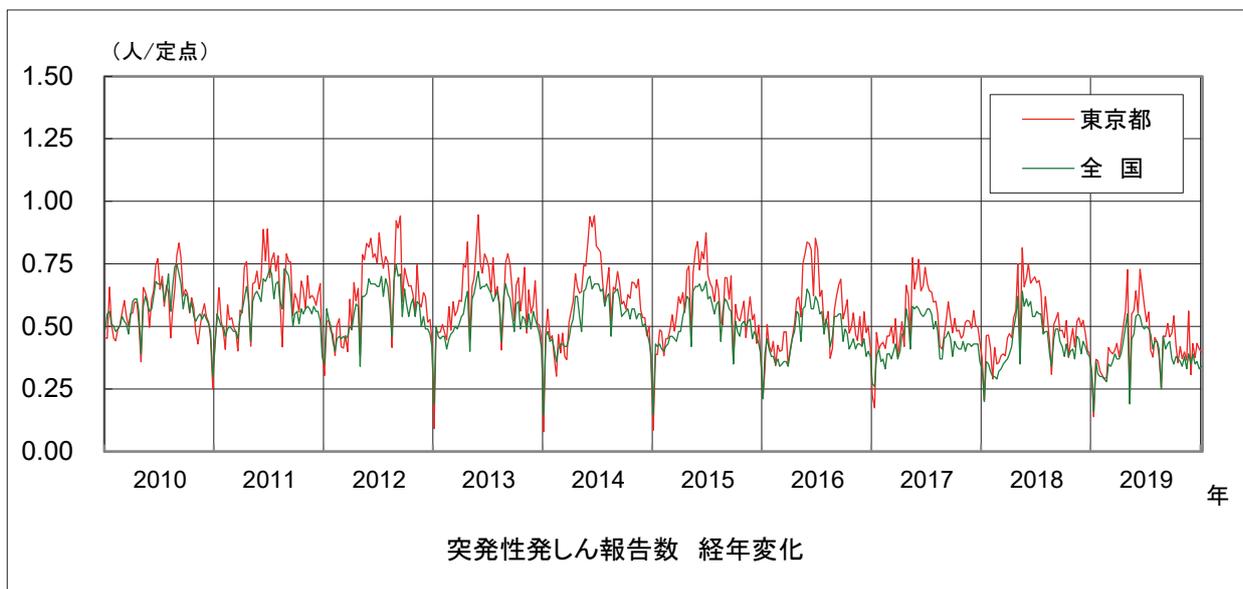
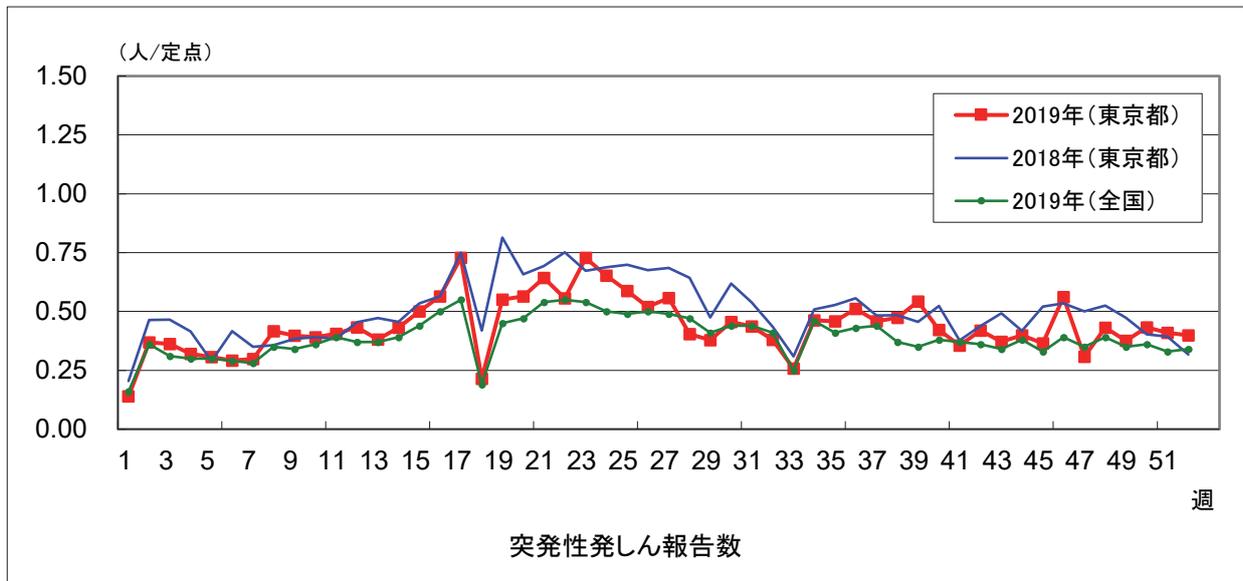
ケ 突発性発しん

2019年の報告数は5,872人、定点当たりの報告数は22.77人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は29.21人であった。2019年の定点当たりの報告数はここ10年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では例年通りやや夏季に多い傾向はみられるが季節変動は少なかった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは荒川区47.83人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が3,055人（52.0%）と最も多かった。



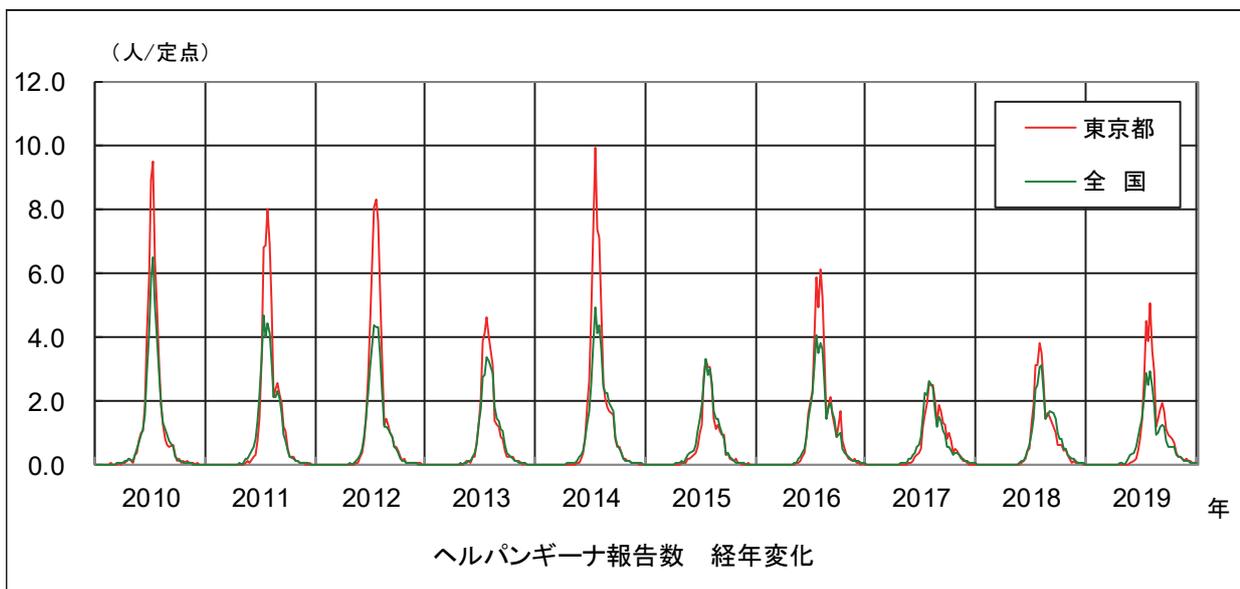
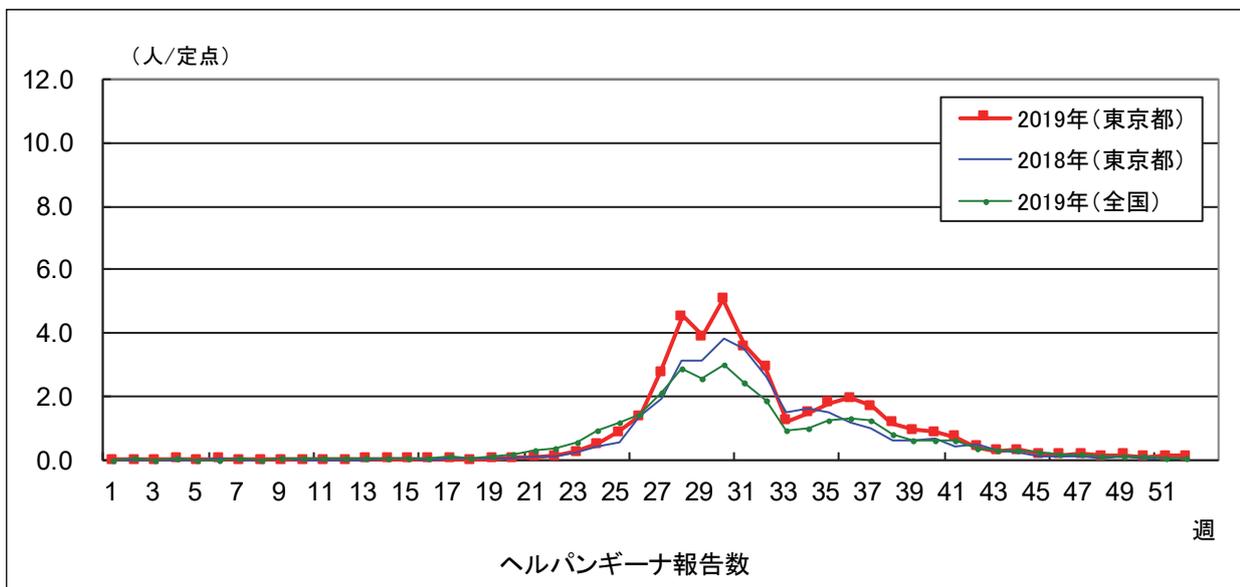
コ ヘルパンギーナ

2019年の報告数は10,341人、定点当たりの報告数は40.26人であった。ここ10年の定点当たりの平均は43.68人であり、2019年の定点当たりの報告数はやや少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では26週(6.24～6.30)から38週(9.16～9.22)にかけて1.0人を超える山があり、ピークは30週(7.22～7.28)の5.07人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは池袋の107.57人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が2,693人(26.0%)と最も多かった。



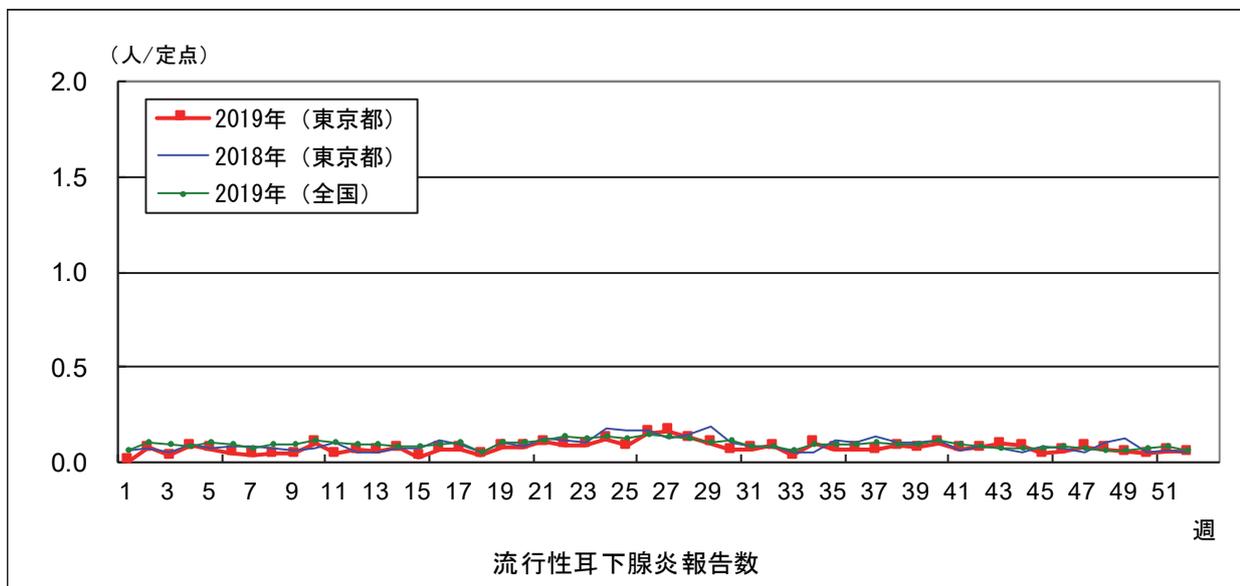
サ 流行性耳下腺炎

2019年の報告数994人、定点当たりの報告数は3.85人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は15.69人であり、2019年の報告数はここ10年で最も少ない報告数であった。ここ10年では2010年と2016年に大きな流行があった。

週別定点当たりの報告数では季節変動は明らかではない。最多の報告数は27週（7.1～7.7）の0.17人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは大田区の8.51人であった。

年齢階級別報告数では5歳代が150人（15.1%）と最も多かった。



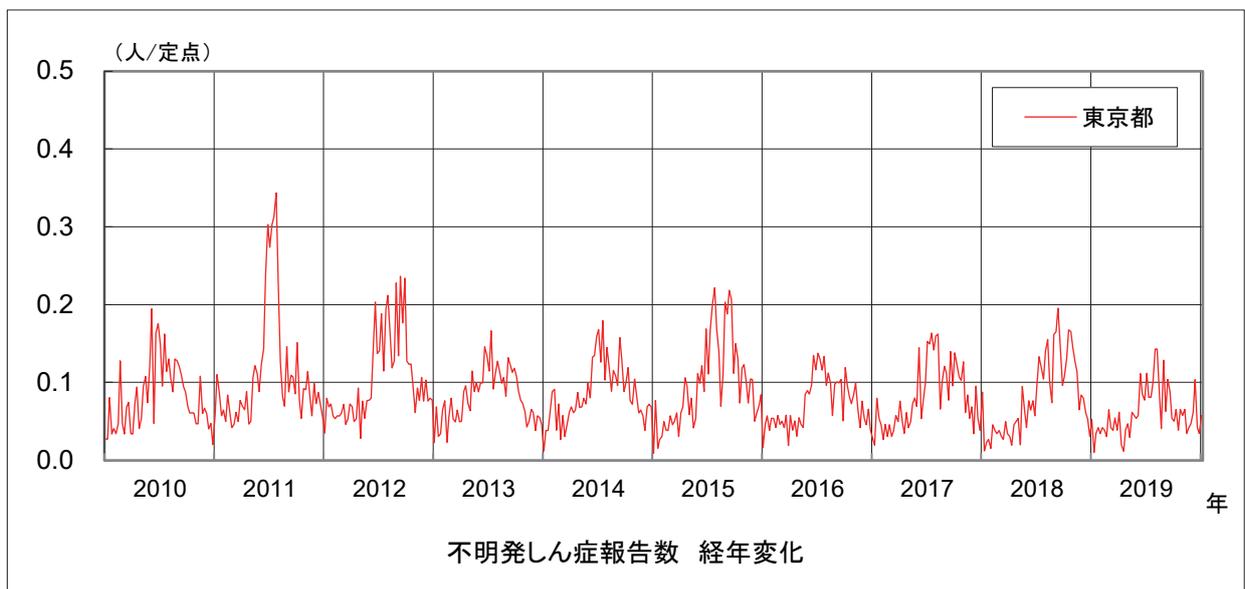
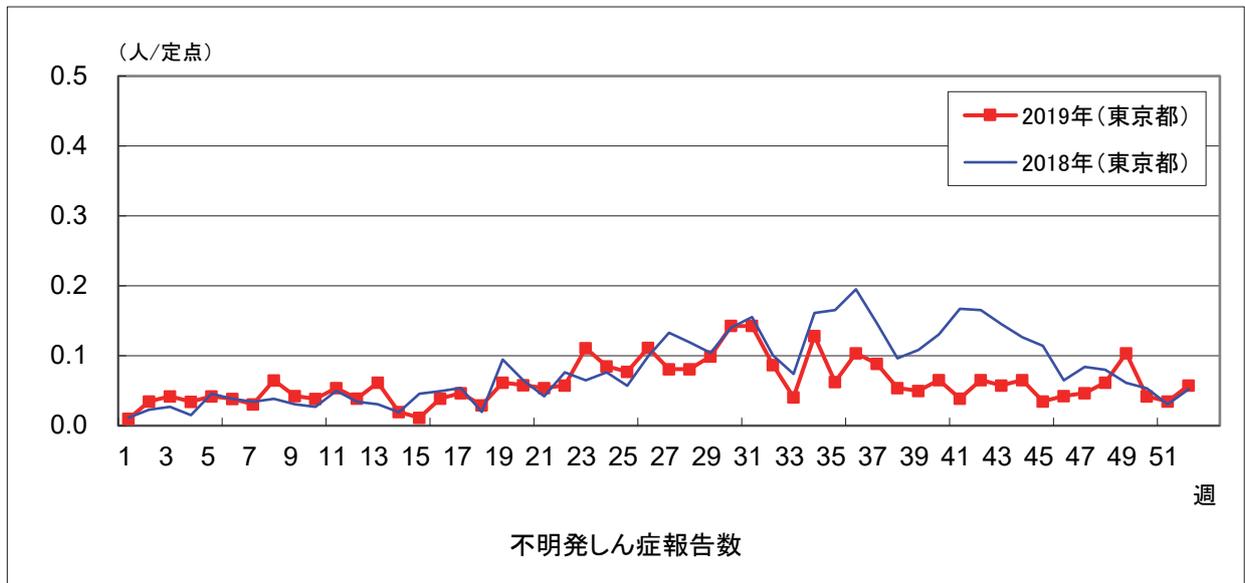
シ 不明発しん症

2019年の報告数は817人であり、定点当たりの報告は3.17人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は4.45人であり、2019年の報告数はここ10年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では23週(6.3～6.9)から37週(9.9～9.15)にかけて緩やかな山が認められるが、季節変動は顕著ではない。最多の報告数は30週(7.22～7.28)と31週(7.29～8.4)の0.14人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは多摩府中の10.61であった。

年齢階級別報告数では1歳代が223人(27.3%)と最も多かった。



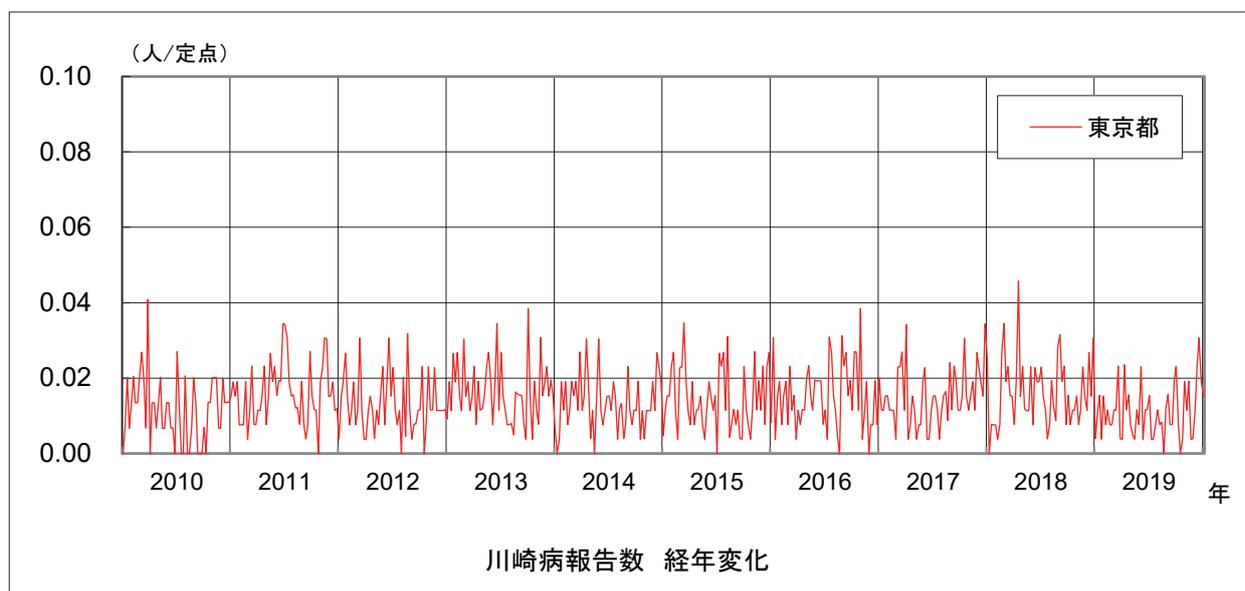
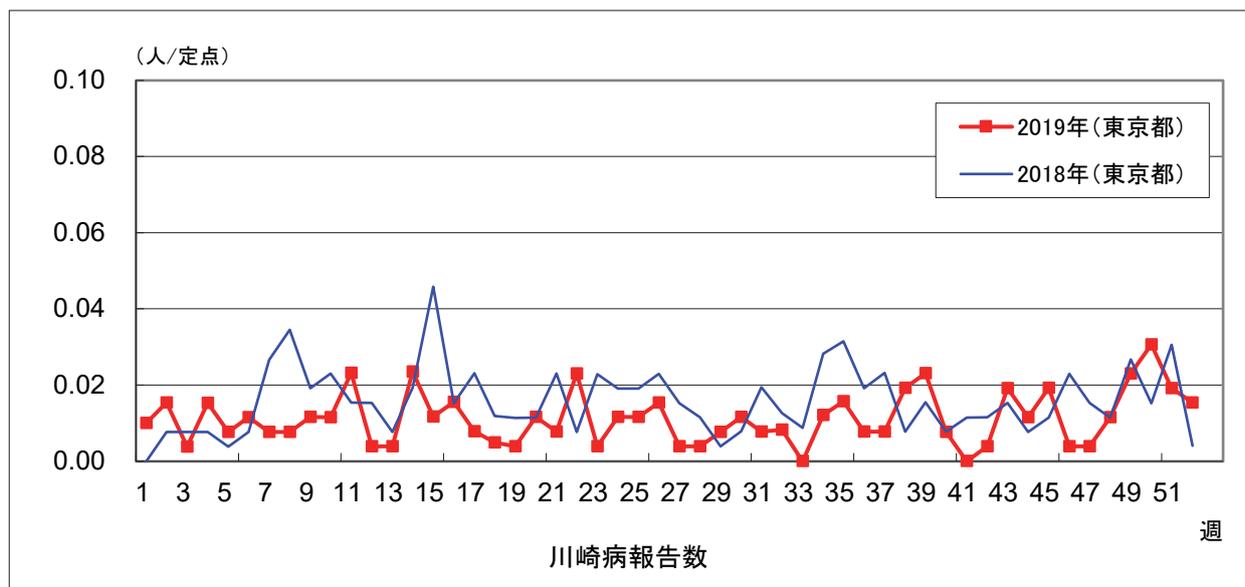
ス 川崎病

2019年の報告数は150人であり、定点当たりの報告数は0.58人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.74人であり、2019年はここ10年でみると最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では例年と同様に季節変動は明確でない。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは新宿区の3.13人であった。

年齢階級別報告数では1歳代が35人（23.3%）と最も多かった。



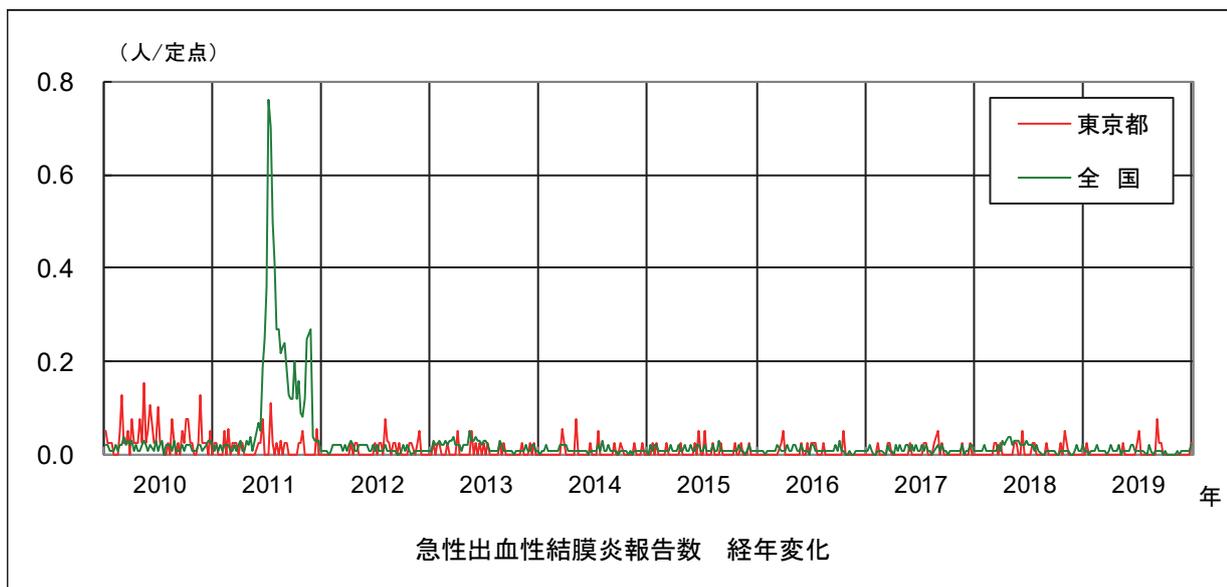
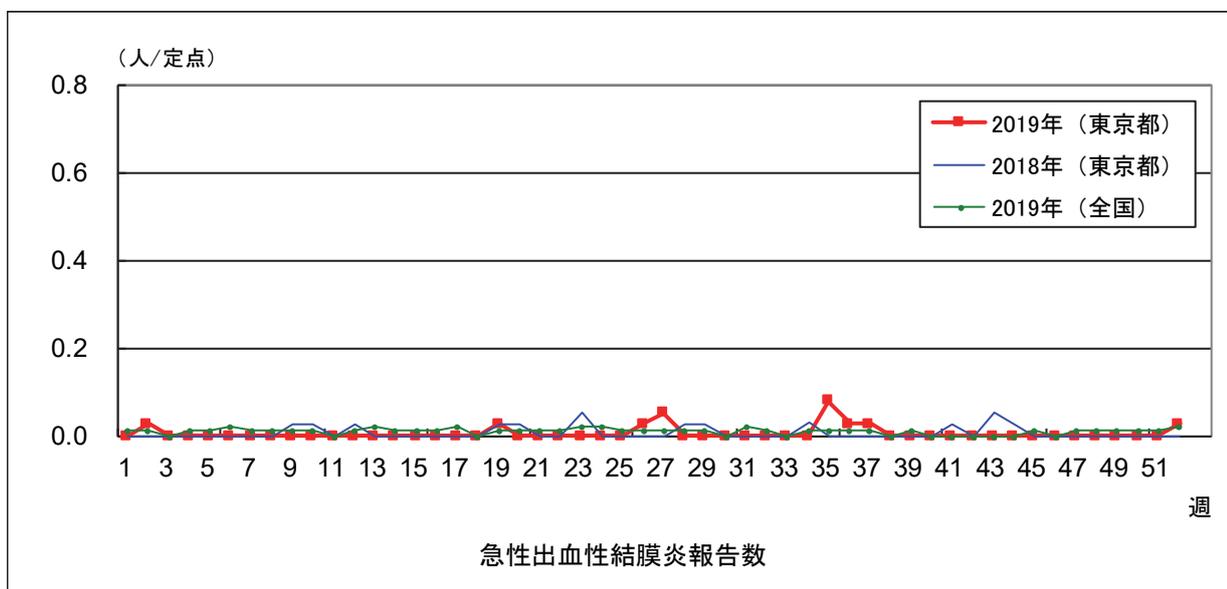
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2019年の報告は11人、定点あたり0.29人だった。過去5年間の定点あたりの報告数はほぼ同等(0.28～0.37人)だった。

患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、27週(7.1～7.7)に2人発生、35週(8.26～9.1)に3人発生した以外は各週1人以下で、年間44週は発生がなかった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京も同様だった。

二次医療圏別では眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは5医療圏で、区西部圏が6人、区西北部圏が2人、区東部圏・北多摩西部圏・北多摩南部圏がそれぞれ1名であった。報告年齢は、20歳以上の成人だけで100%を占めた。

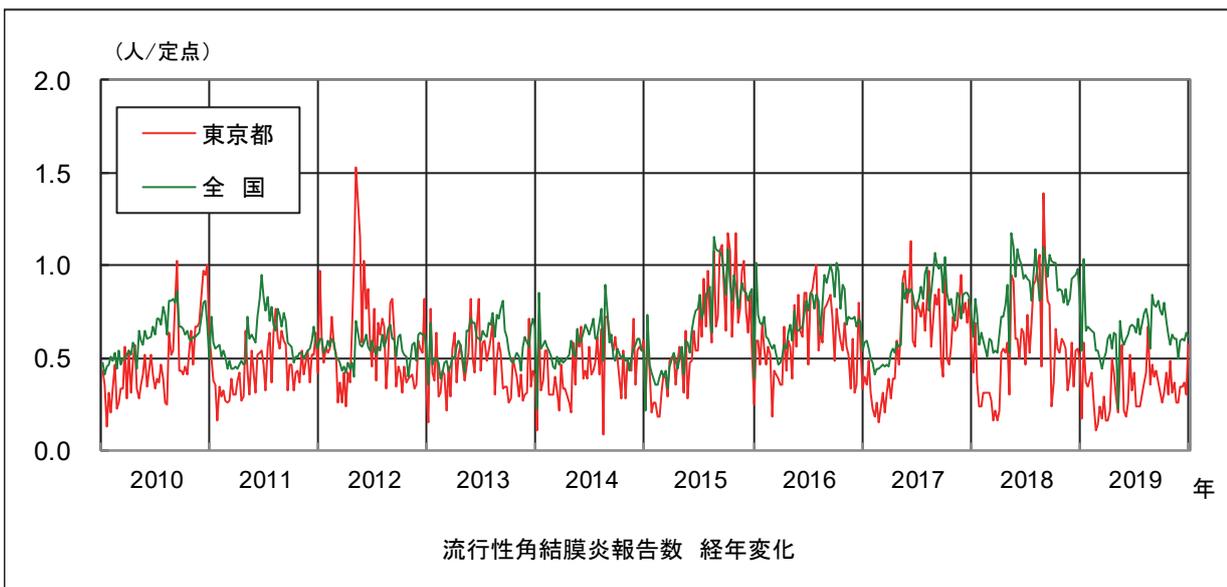
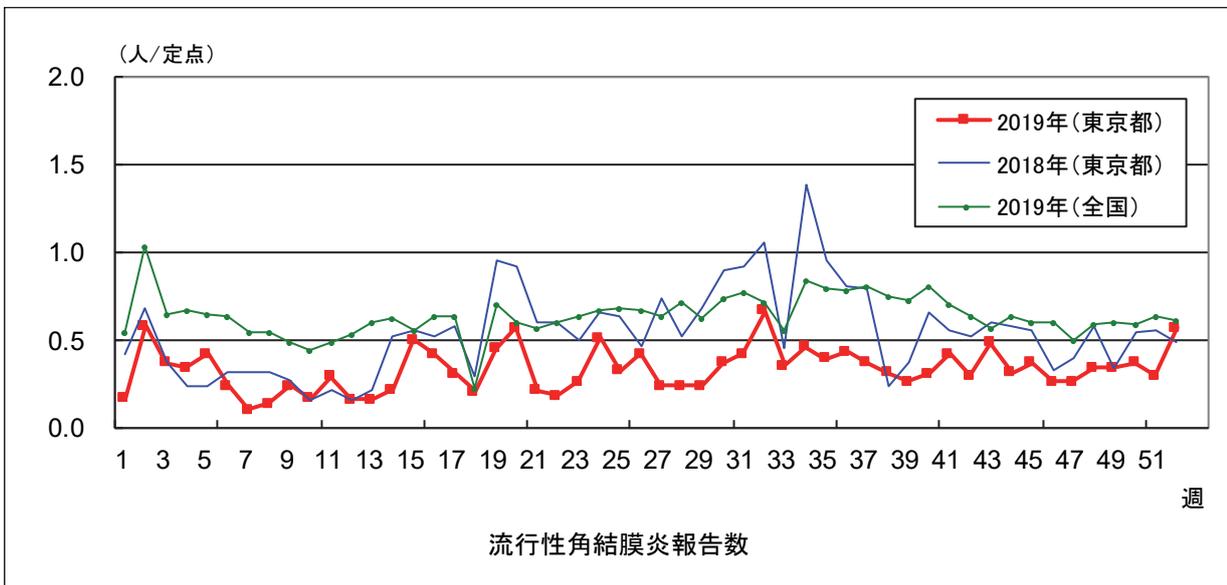


イ 流行性角結膜炎

2019年の報告数は649人、定点あたり17.35人だった。過去10年間では最低となった。

患者発生数は、2週（1.7～1.13）・20週（5.13～5.19）・24週（6.10～6.16）・32週（8.5～8.11）・52週（12.23～12.29）が20人超と多く、その他はほぼ平坦化していた。

二次医療圏別では、定点あたり報告数では区中央圏32.00人、区東北部圏27.50人、北多摩北部圏41.50人で多かった。報告年齢は20歳から49歳が359人と55.3%を占め、20歳以上の成人が483人（74.4%）だった。10歳未満は131人（20.2%）で、各年齢層に分散していた。



(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

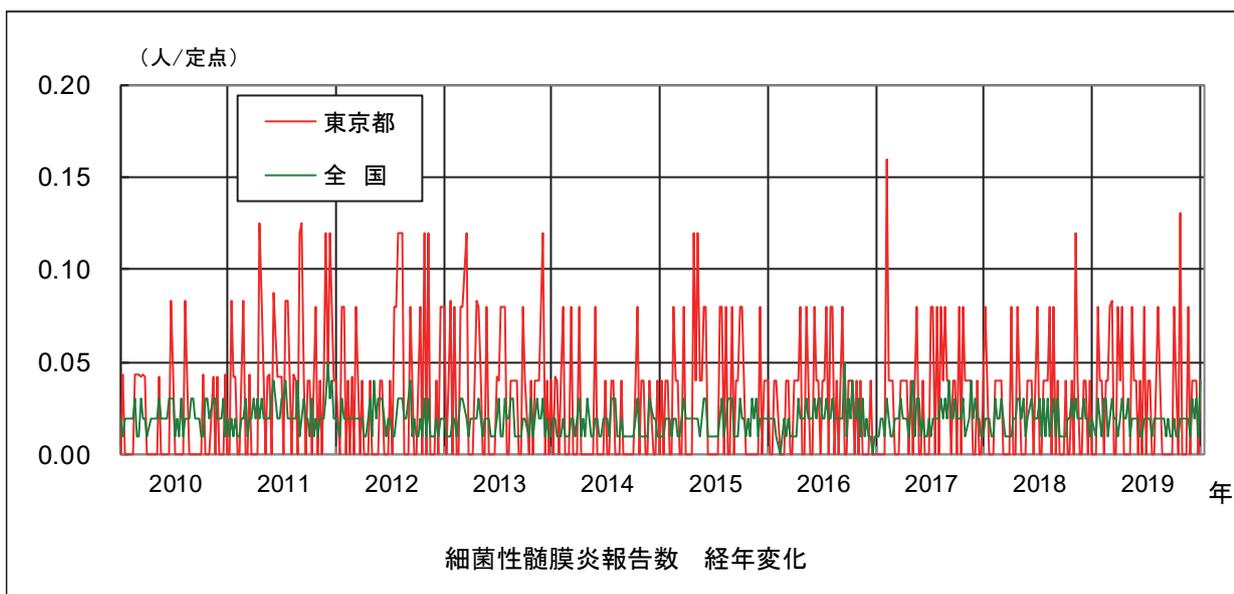
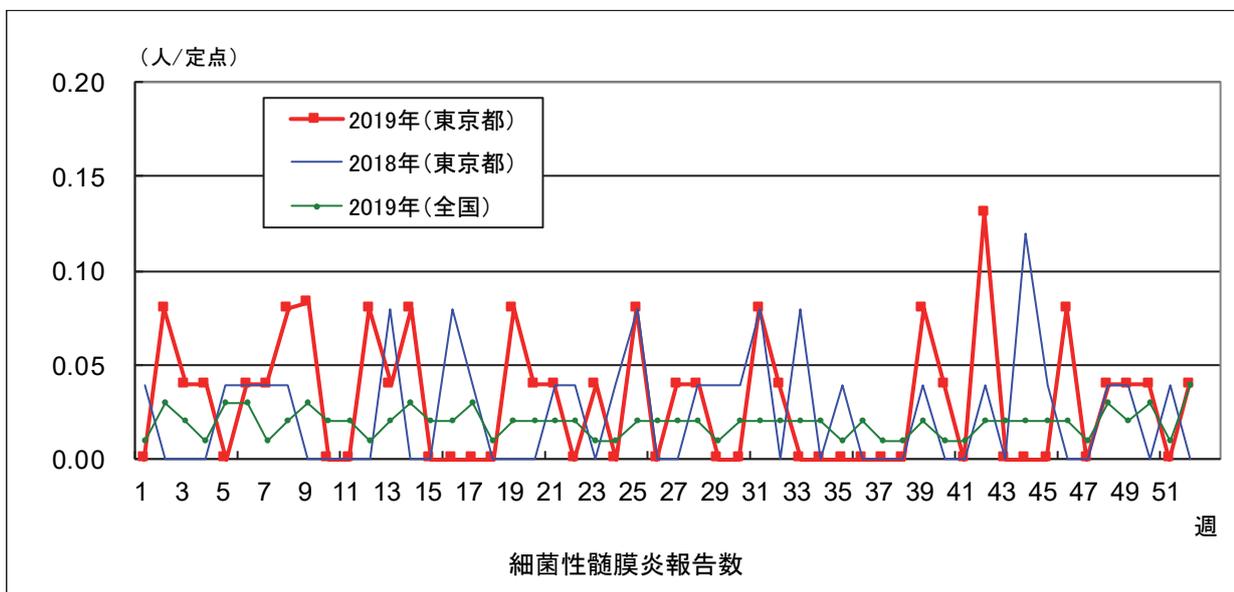
ア 細菌性髄膜炎

2019年の報告数は39人、定点当り報告数は1.57人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.47人であり、2019年はやや多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散発しており季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは墨田区と多摩府中の6.00人であった。

年齢階級別報告数では6か月未満が8人(20.5%)、60歳以上が16人(41.0%)であった。

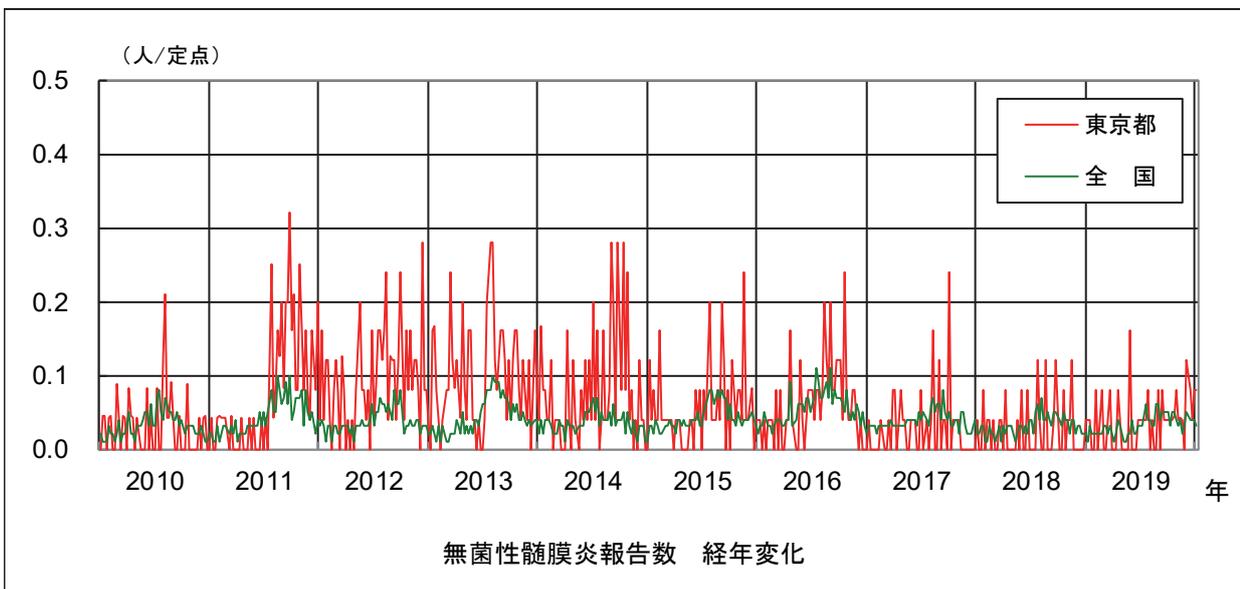
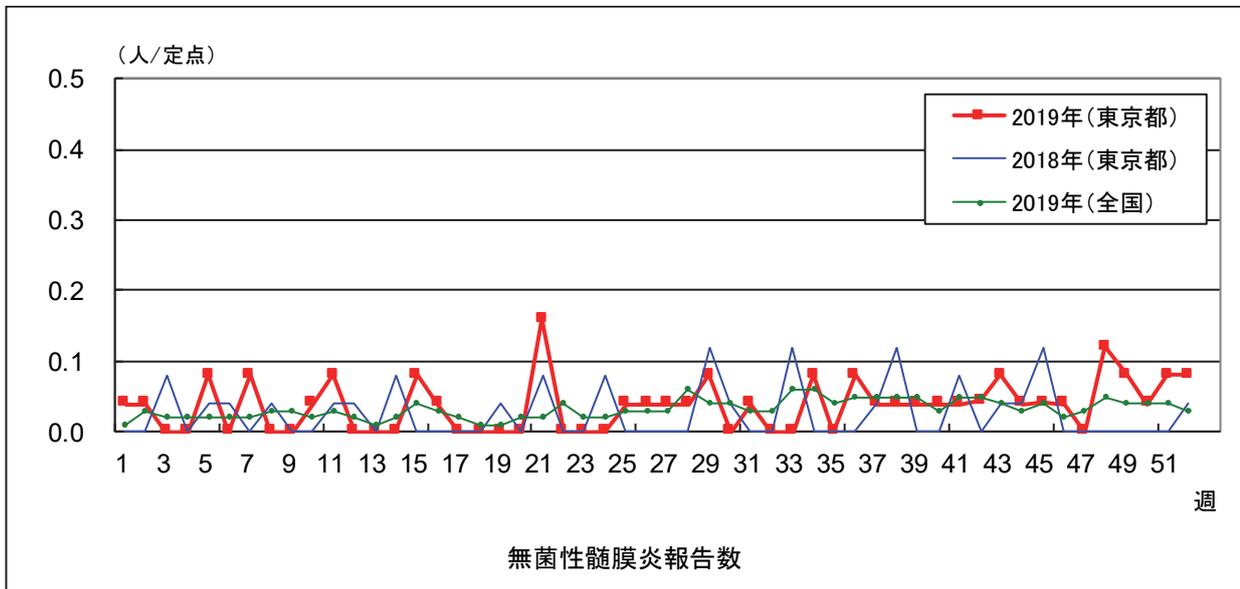


イ 無菌性髄膜炎

2019年の報告数は48人、定点当たり1.93人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は3.03人であり、2019年は、ここ10年では少なめの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散発しており明らかな季節変動は見られなかった。保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは世田谷の8.50人であった。

年齢階級別報告数では6か月未満が10人(20.8%)、60歳台の報告はなく70歳以上が8人(16.7%)であった。



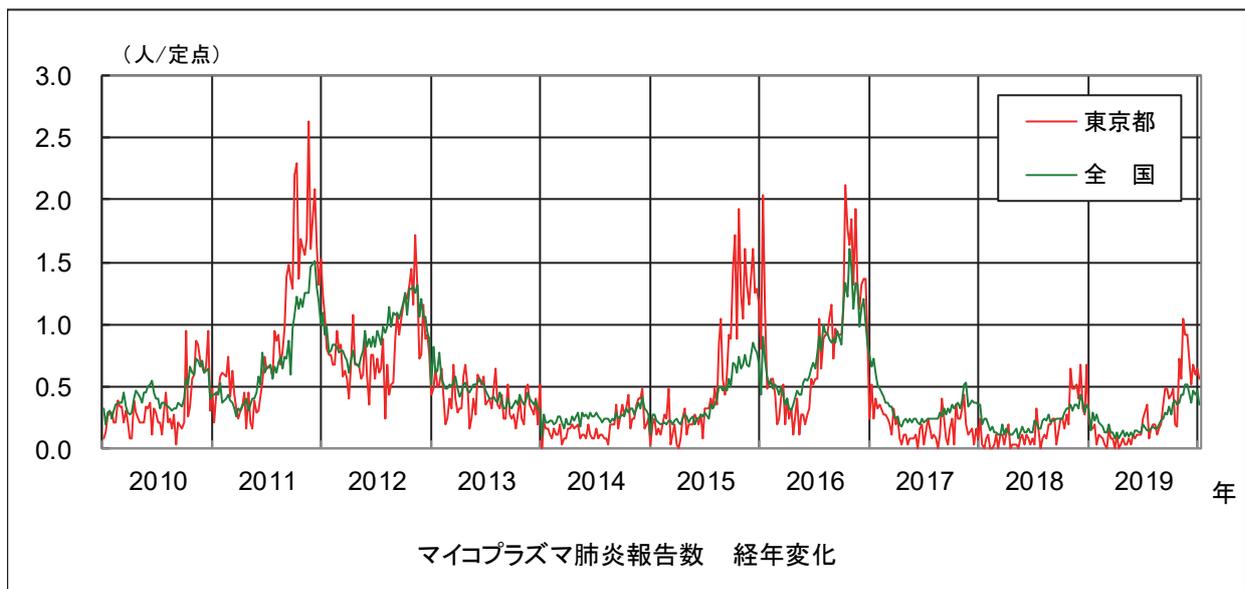
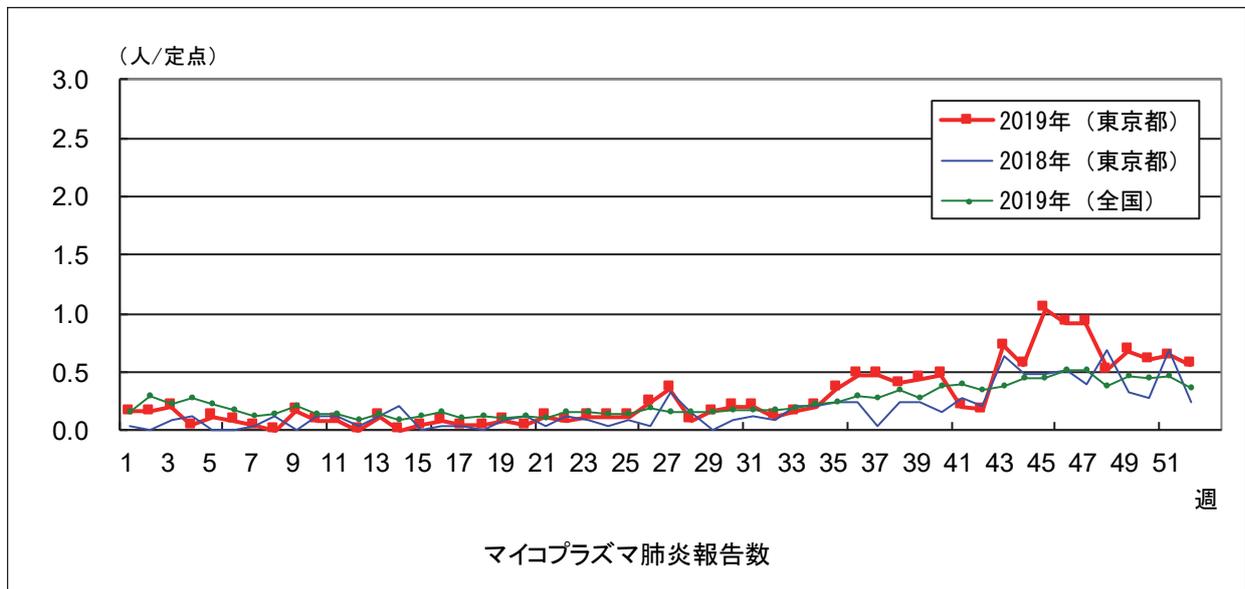
ウ マイコプラズマ肺炎

2019年の報告数は349人、定点当たりの報告数は14.02人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は24.28人であり、2019年はここ10年では少なめの報告数であった。ここ10年では2011年と2012年、および2015年と2016年に大きな流行が見られた。

週別定点当たりの報告数では2016年後半の流行期以降報告数の減少が続いていたが、年間を通してみると年の後半に緩やかな増加がみられピークは45週（11.4～11.10）の1.04人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは墨田区の57.00人であった。

年齢階級別報告数では1歳未満の報告はなく、60歳以上が15人（4.3%）であった。

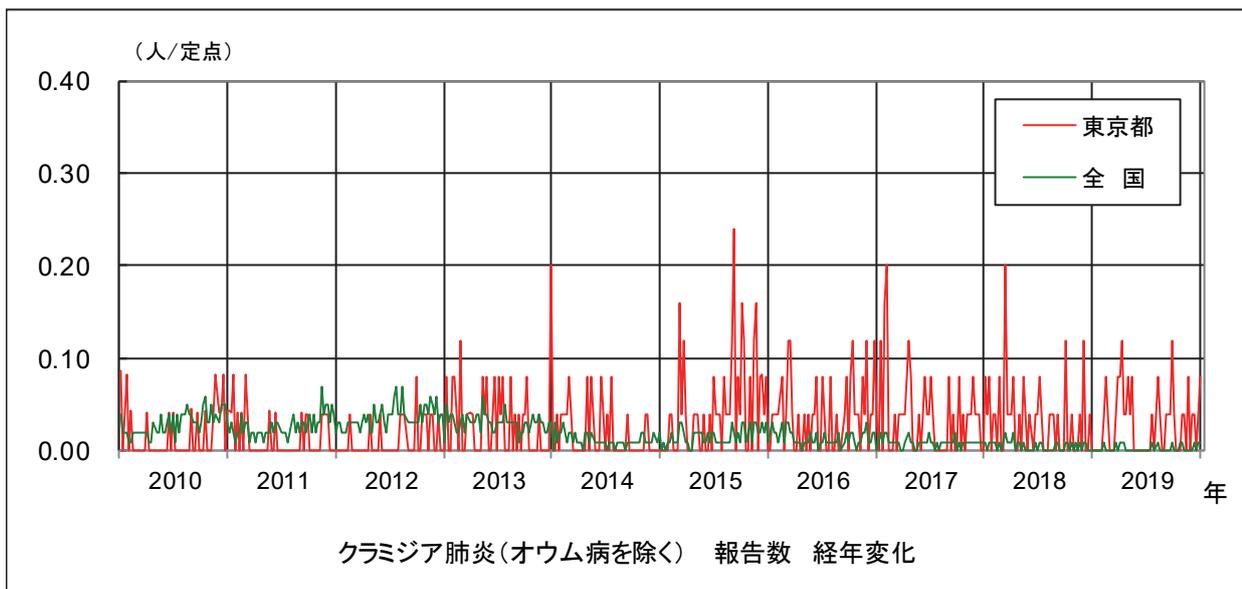
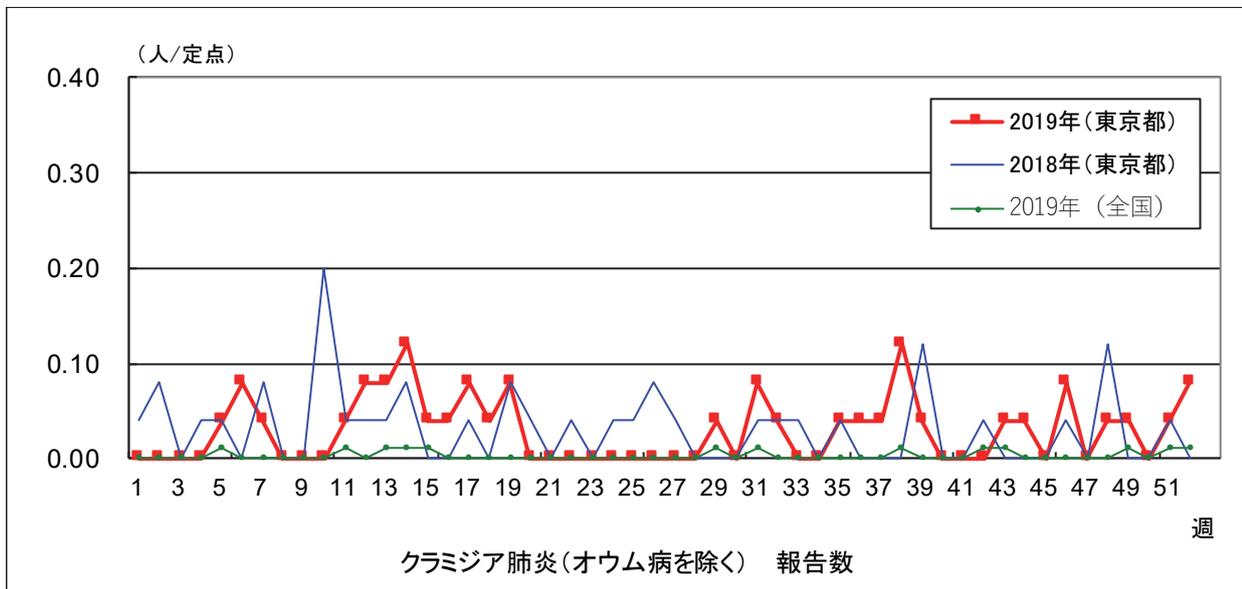


エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2019年の報告数は39人であり、定点当たりの報告数は1.56人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.40人であり平均的な報告数であった。

週別定点当たりの報告数では年間を通じて散発的に発生しており明らかな季節性は見られなかった。保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは、みなとの22.00人であった。

年齢階級別報告数では60歳代が10人(25.6%)、70歳代が7人(17.9%)、80歳以上が8人(20.5%)であった。



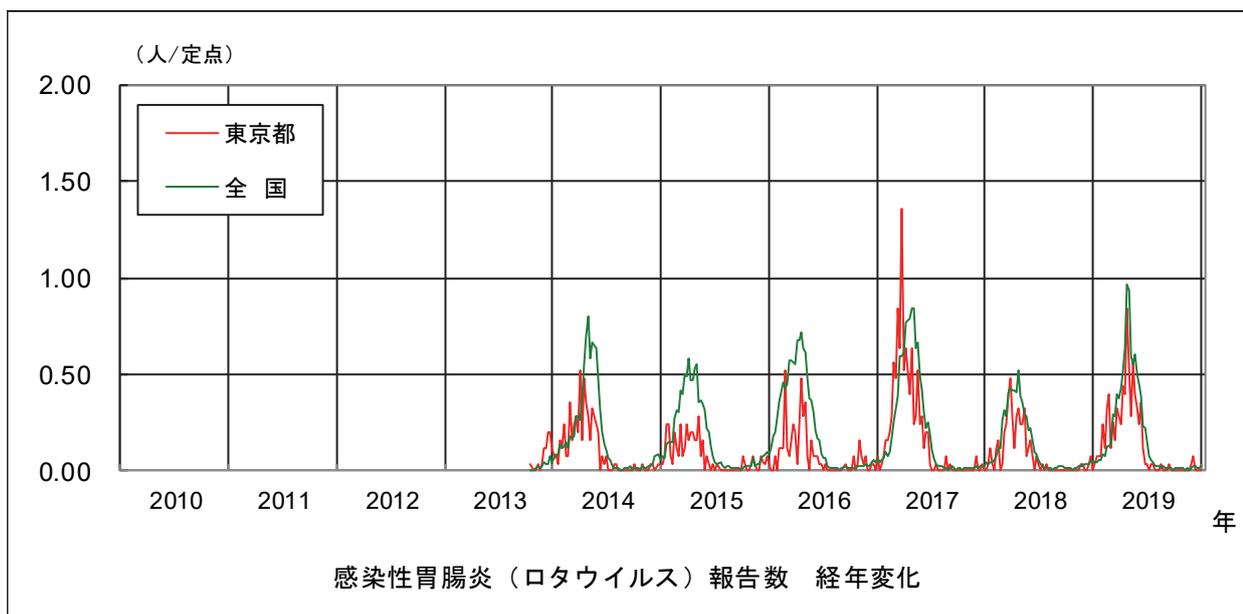
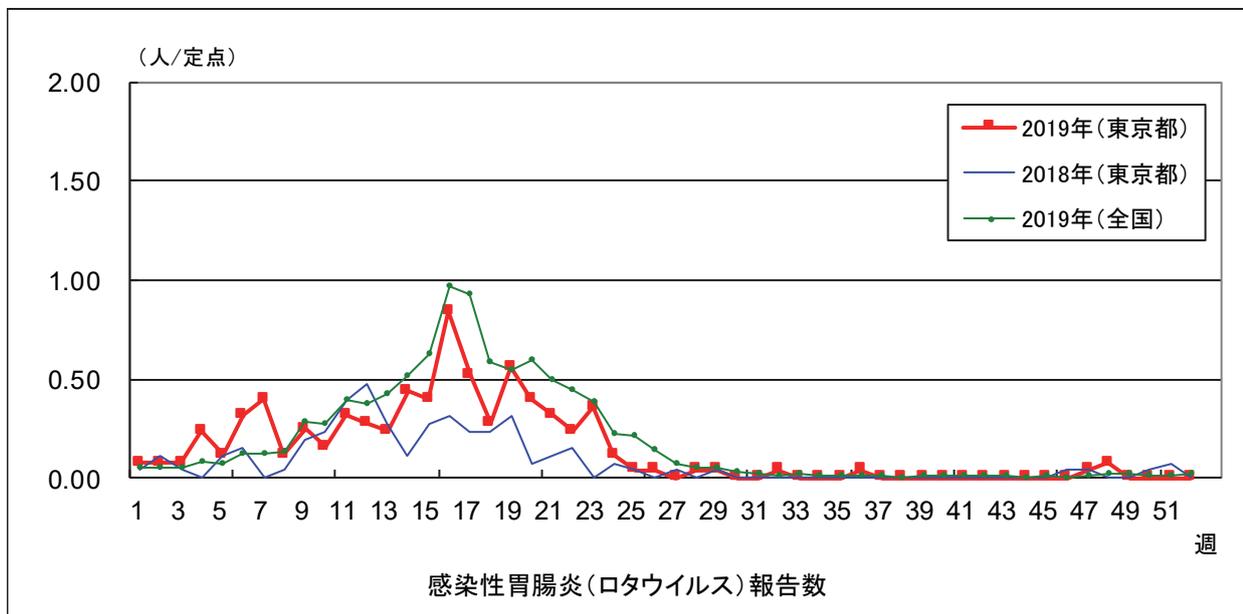
オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2019年の報告数は188人であり、定点当たりの報告数は7.53人であった。報告は2013年42週より開始されている。

週別定点当たりの報告数では2017年ほど明確ではないが16週（4.15～4.21）の0.84人をピークとした山が見られた。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは池袋の29.00人であった。

年齢階級別報告数では7歳以下が153人（81.4%）であった。

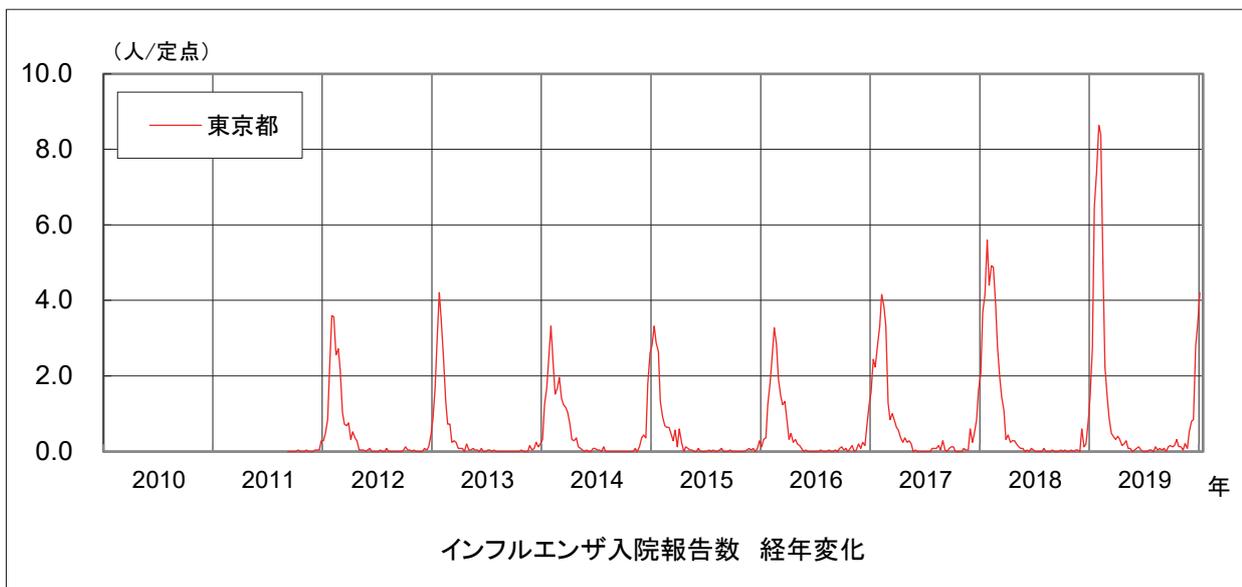
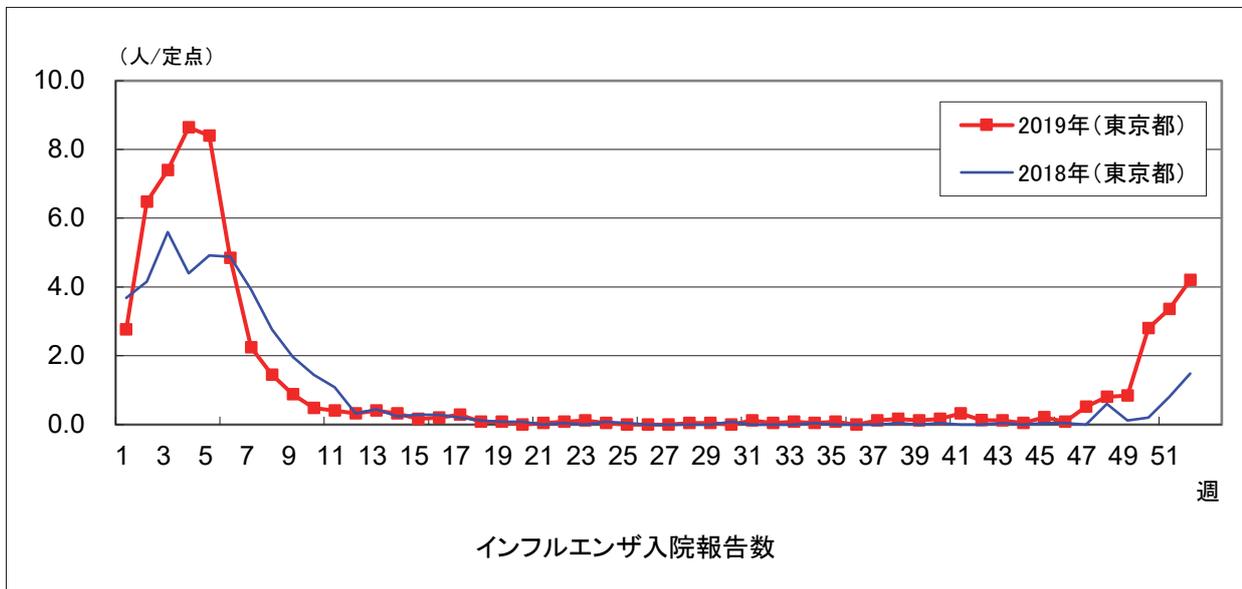


カ インフルエンザ入院

2019年の報告数は1,511人で、定点当たりの報告数は60.49人であった。2011年36週より報告が開始されたが、開始以降最多の報告数となった。ピークは4週（1.21～1.27）の8.64人であった。

保健所別定点当たり報告数で最も多かったのは葛飾区の127.00人であった。

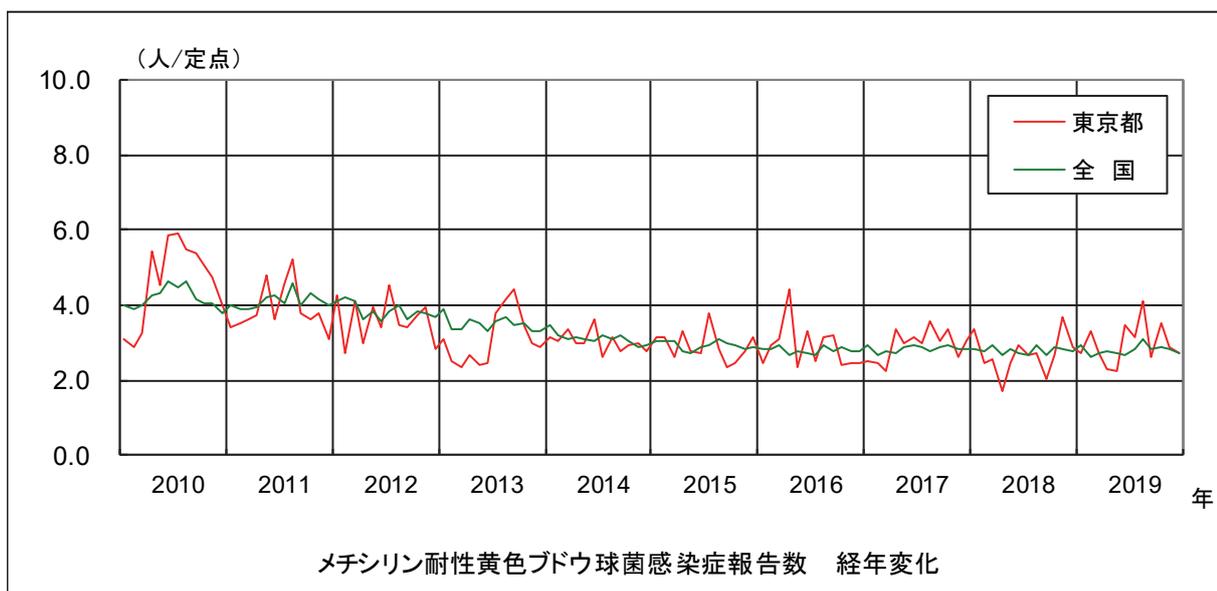
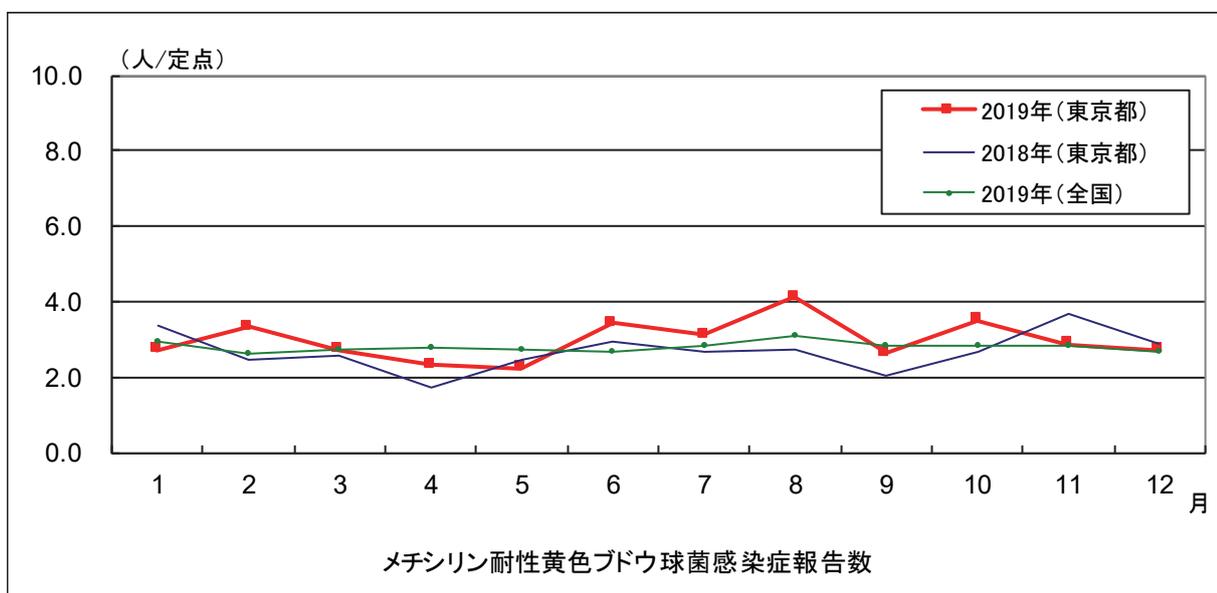
年齢階級別報告数では10歳未満395人（26.1%）、70歳以上805人（53.3%）であった。



(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患

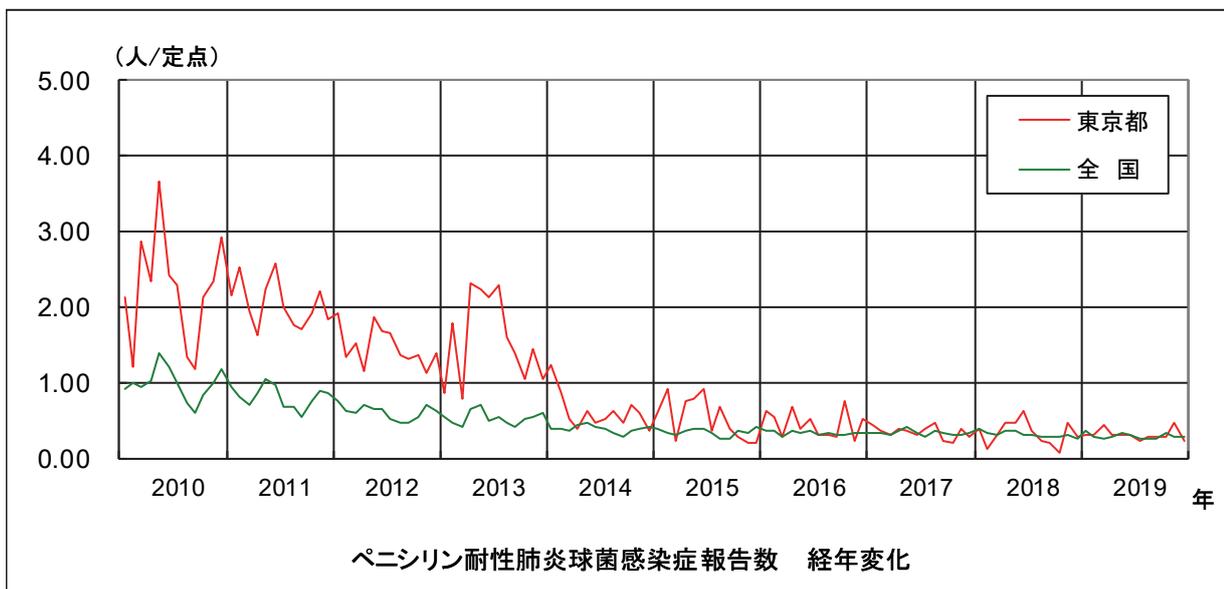
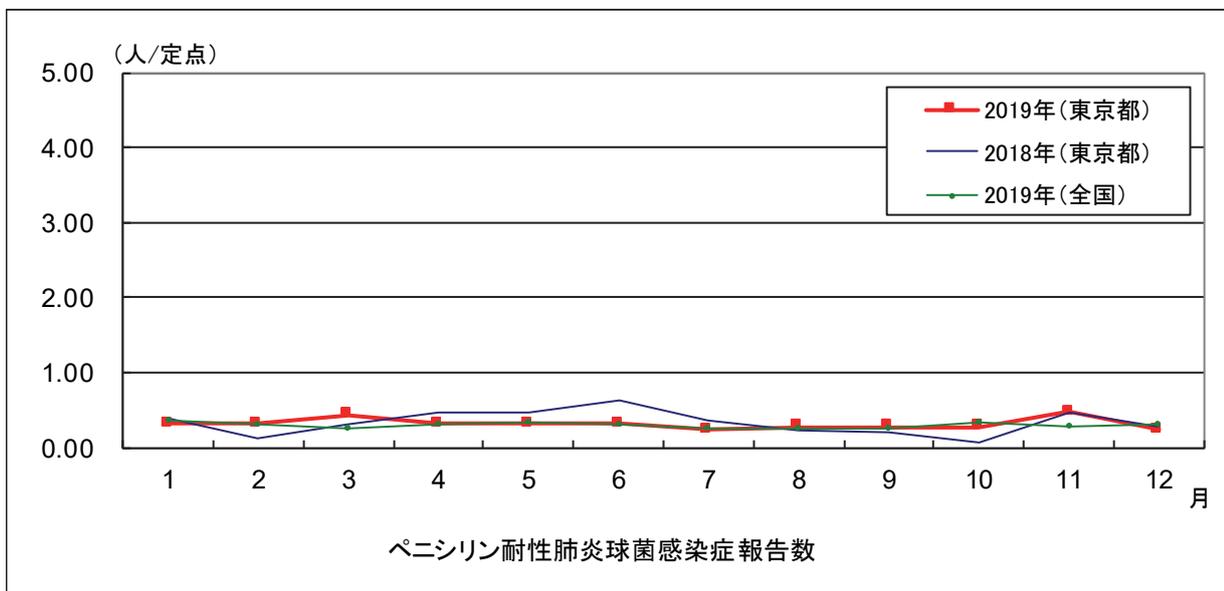
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2019年の報告数は894人、定点当たりの報告数は35.76人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は39.20人であり、2019年はここ10年でみるとやや少ない報告数であった。



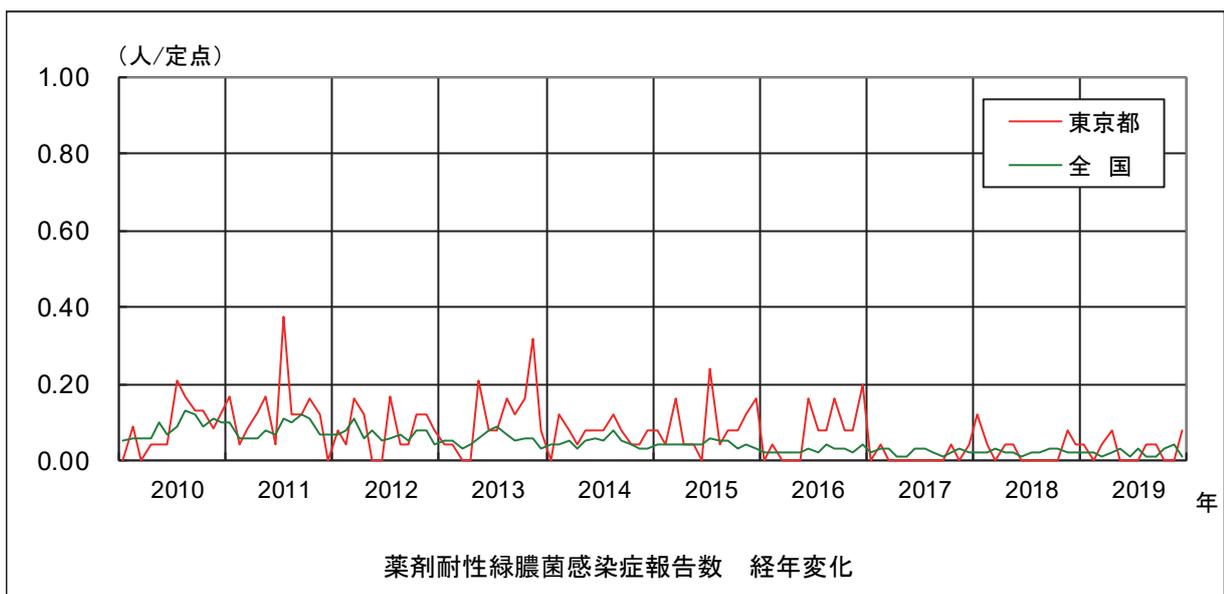
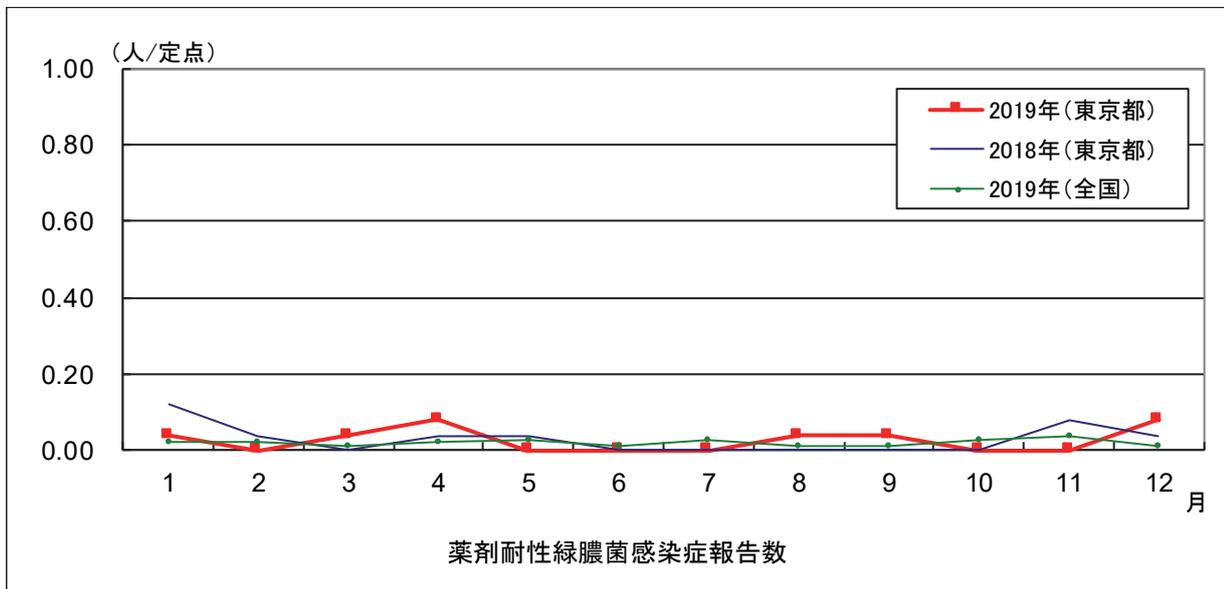
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2019年の報告数は96人、定点当たりの報告数は3.84人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は11.94人であり、2019年はここ10年で最も少ない報告数であった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2019年の報告数は8人、定点当たりの報告数は0.32人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.85人であり、2019年はここ10年では2017年に次いで少ない報告数であった。



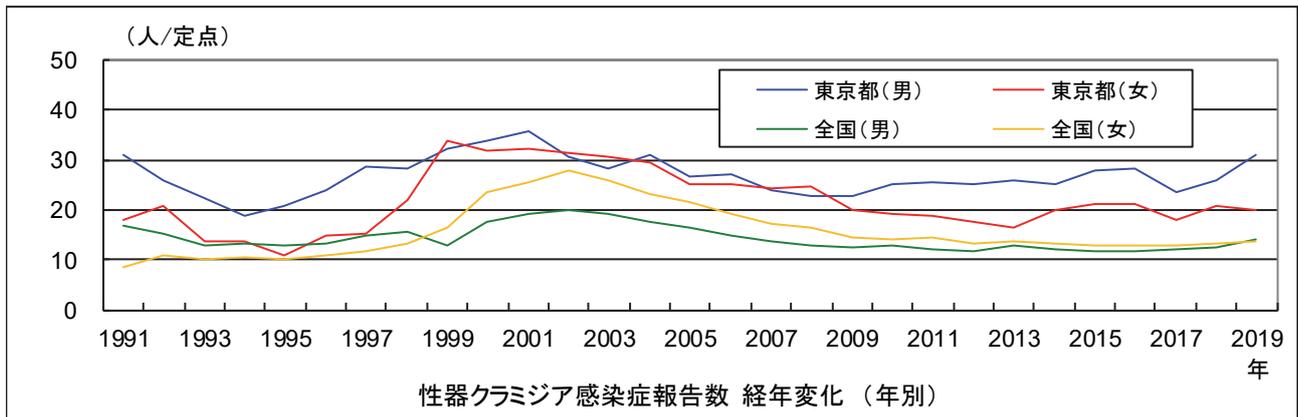
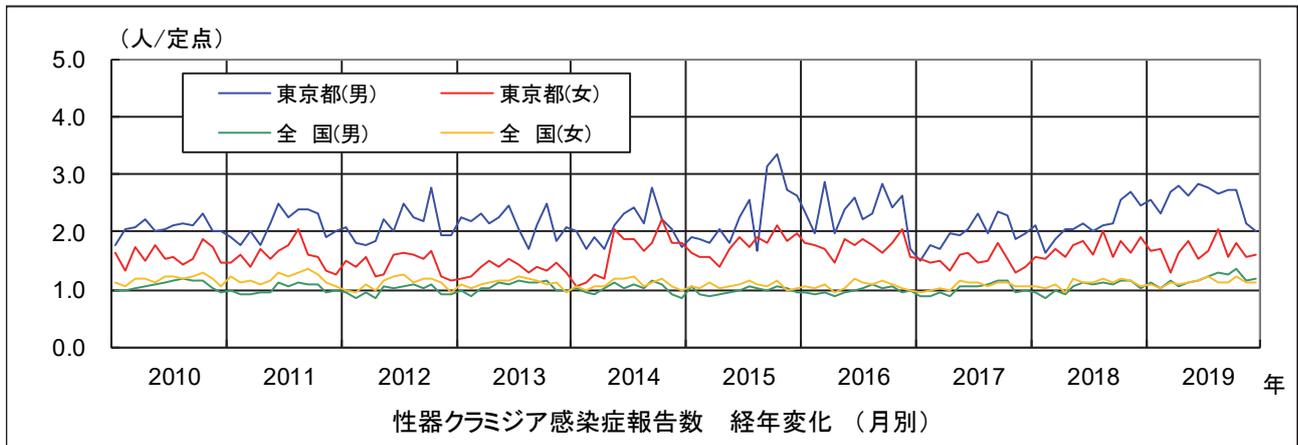
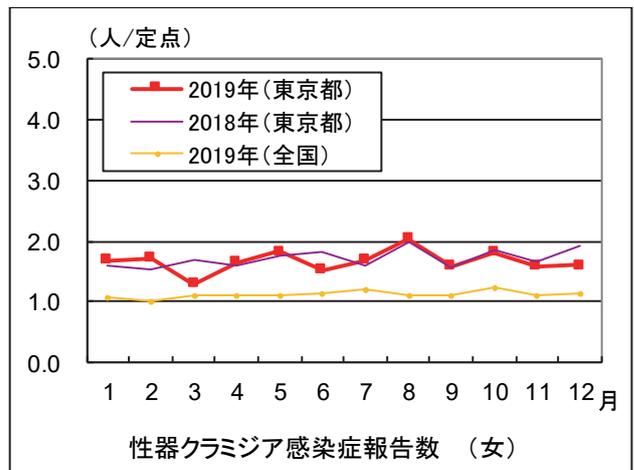
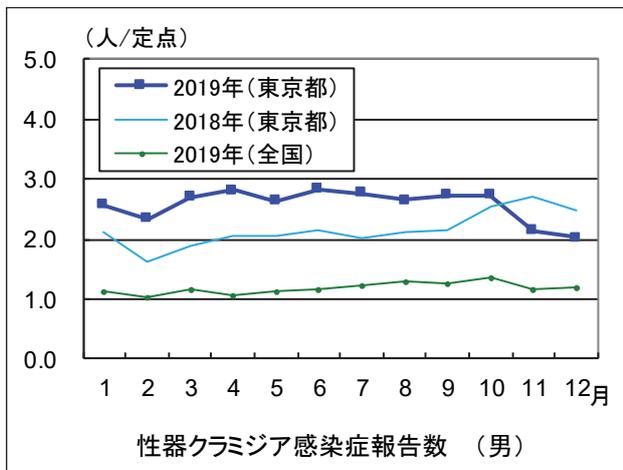
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

年間患者報告数は 2,767 人（定点あたり 50.93 人）で、前年比 1.10 と増加し、過去 10 年で最も多い報告数となった。

性別割合は、男性 60.7%、女性 39.3%であった。性別年齢階級別に見ると、男性は 20 歳～54 歳までが中心で、最も多いのは 25～29 歳の 327 人（19.5%）であった。昨年と比べると、20～24 歳、30～34 歳、50～54 歳の報告数の増加が見られている。女性は 20～39 歳が中心で、最も多いのは 20～24 歳の 341 人（31.3%）だった。女性では 10～14 歳の若年者からも 5 人の報告があった。

月別の届出状況を見ると、男女合わせて定点あたり月平均 4.24 人で、男性は 1 月から 10 月まで例年を上回る報告数が続いたが、女性は例年並みであった。医療圏別では、男性は区西部、女性は北多摩西部が多く、保健所別は男性では品川区、女性は多摩立川が最も多かった。



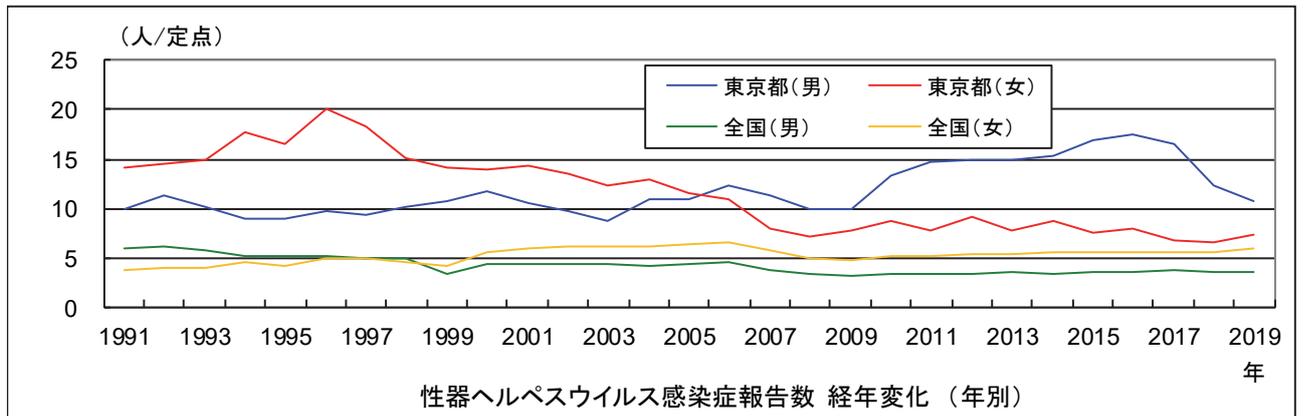
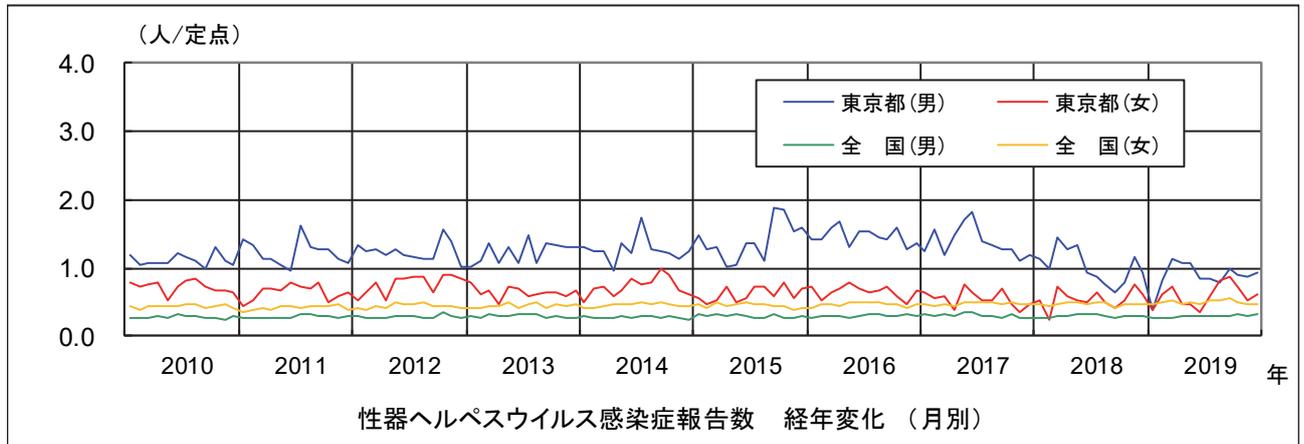
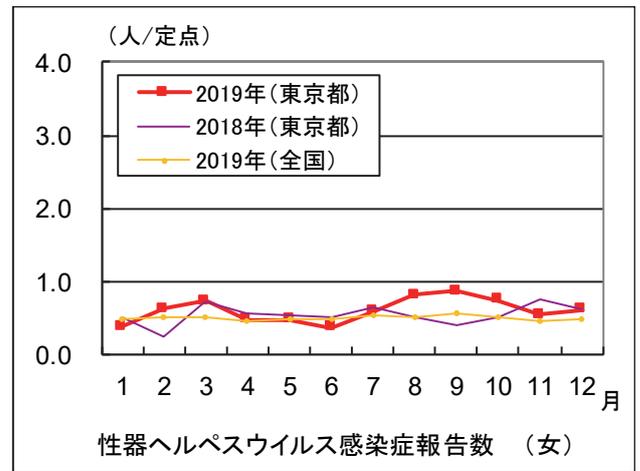
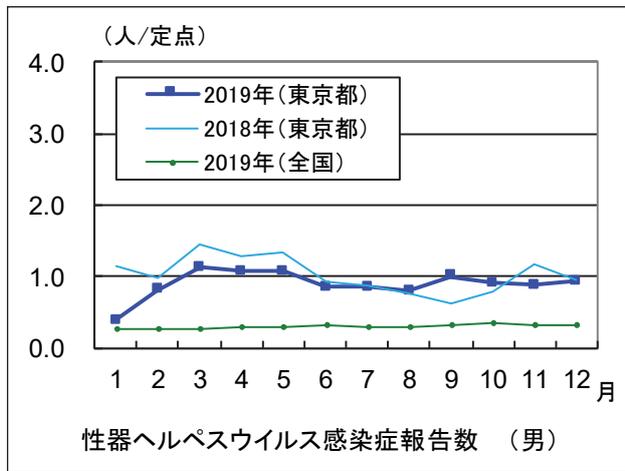
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者報告数は 977 人(定点あたり 17.98 人)で、前年比 0.95 と減少し、過去 10 年間で初めて年間 1000 人を下回った。性別割合は、男性 59.5%、女性 40.5%であった。

性別年齢階級別にみると、男性は 20 歳～49 歳までが中心で、最も多いのは 30～34 歳が 91 人(15.7%)だった。女性は 20 歳代が中心で、最も多いのは 25～29 歳の 84 人(21.2%)だった。男女ともに 10～14 歳がそれぞれ 1 名ずつ報告されていた。

月別の状況を見ると、男女合わせて定点当たり月平均 1.5 人で、男性は 1 月から 6 月まで昨年を下回る報告数が続いていた。

医療圏別にみると男女とも区西南部が多く、保健所別は男性では品川区、女性では町田市が最も多かった。



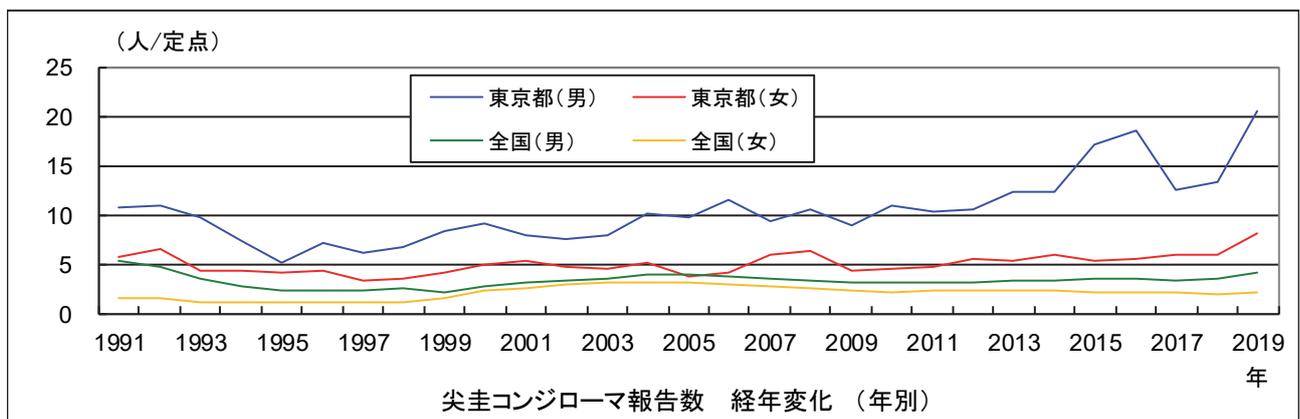
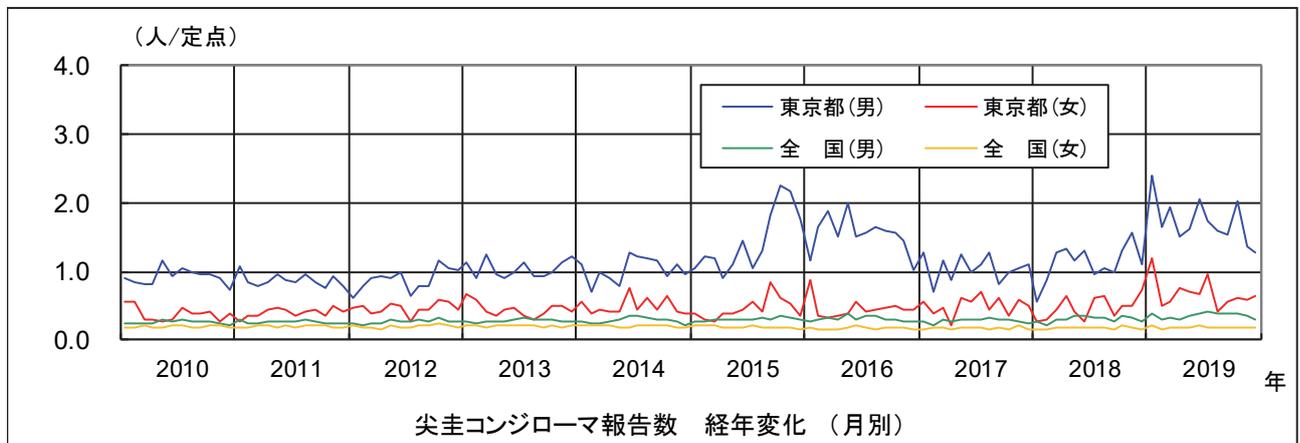
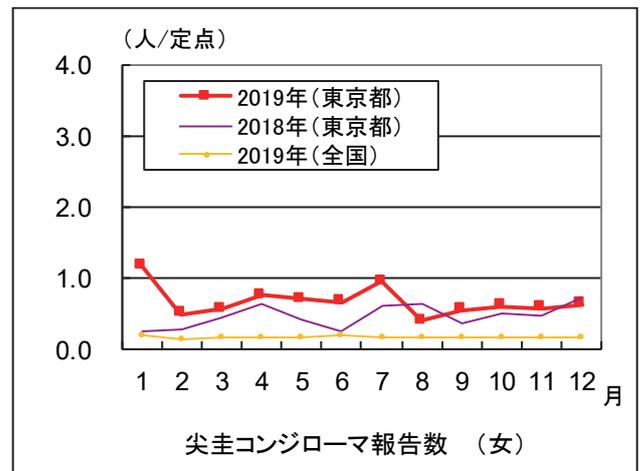
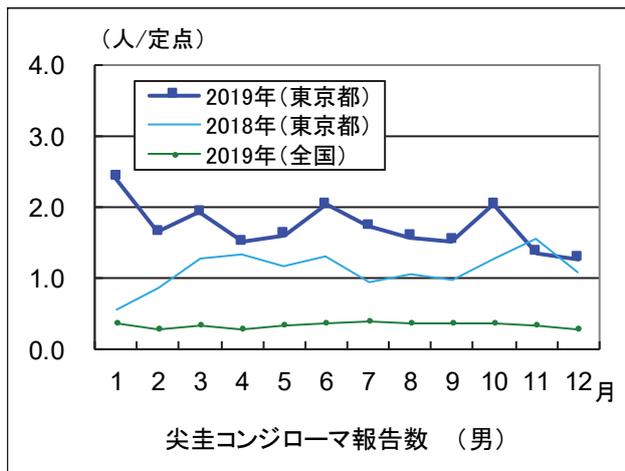
ウ 尖圭コンジローマ

年間患者報告数は 1,564 人(定点あたり 28,81 人)で、前年比 1.51 と増加し、過去 10 年で最も多い報告数となった。性別割合は、男性 71.7%、女性 28.3%であった。

性別年齢階級別では、男性の患者は 25 歳～49 歳が中心で、最も多い年齢層は 30～34 歳の 214 人(19.1%)だった。女性は 20 歳代が中心で、最も多い年齢層は 20～24 歳の 126 人(28.5%)だった。女性では昨年と比べ年齢の高い層の報告が増加した。また、女性で 0 歳の患者が 1 人報告されていた。

月別の届出状況は、男女合わせて定点あたり月平均 2.40 人で、月ごとの推移は、男女とも 1 月が最も多く、その後、男女とも昨年より高い値で推移した。

医療圏別にみると、男女とも区西部が多く、保健所別では新宿区が男女ともに最も多かった。



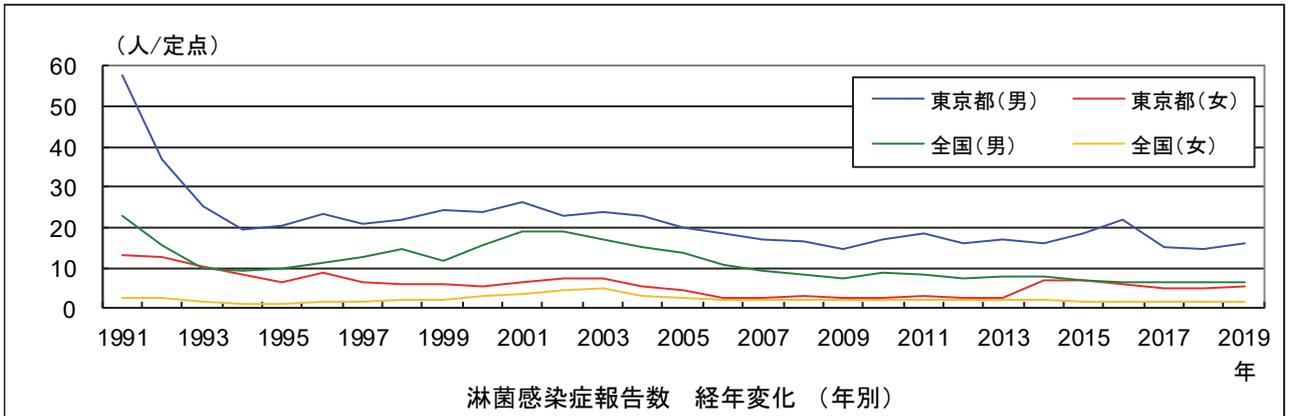
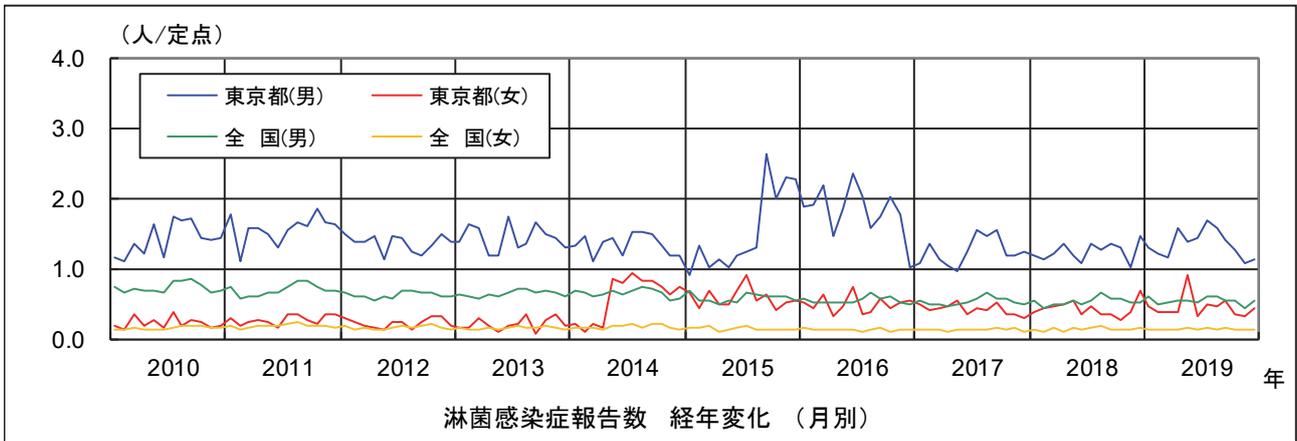
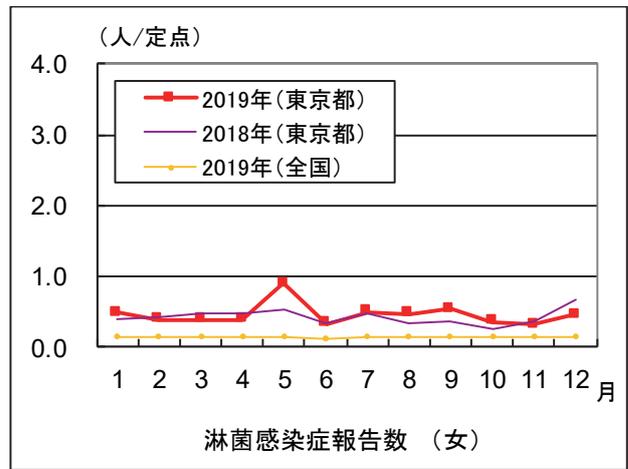
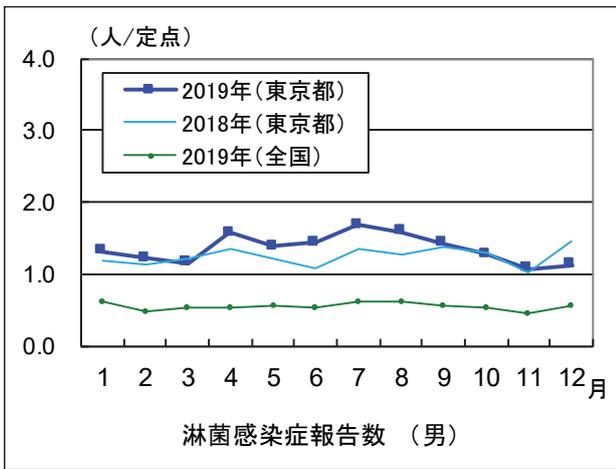
エ 淋菌感染症

年間患者報告数は 1,185 人(定点あたり 21.81 人)で、前年比 1.08 と増加した。性別割合は、男性 74.5%、女性 25.5%であった。

性別年齢階級別にみると、男性の患者は 20 歳～39 歳が中心で、最も多いのは 20～24 歳で 195 人(22.1%)だった。35 歳未満の患者の増加が見られた。女性は 20 歳代が中心で、最も多いのは 20～24 歳の 79 人(26.2%)だった。

月別の届出状況を見ると、男女合わせて定点当たり月平均 1.82 人で、月ごとの推移では、男性は 9 月まで昨年を上回る報告数が続いた。女性は 5 月に一過性に報告数の上昇が見られたがおおむね昨年並みの推移であった。

医療圏別にみると定点当たりの報告数は、男性は区西部、女性は区中央部が最も多く、保健所別は男性では品川区、女性は台東区が最も多かった。



オ 臙トリコモナス症

臙トリコモナス症は、東京都が独自に定点把握疾患に定めている。年間患者報告数は 118 人(定点あたり 2.17 人)で、前年比 0.93 と減少した。性別割合は、男性 5.1%、女性 94.9%であった。

性別年齢階級別にみると、男性は届出数が少ないため、年齢階級ごとの特徴は評価できなかったが、女性は 25～29 歳の 25 人(22.3%)が最も多く、次いで 45～49 歳の 15 人(13.4%)、20～24 歳の 14 人(12.5%)であった。月別の届出状況を見ると、男女合わせて定点当たり月平均 0.18 人で、女性の定点値は 0.1 人から 0.26 人の間で推移している。

医療圏別にみると定点当たりの報告数は、男性は区中央部、女性は北多摩西部が最も多く、保健所別では女性は台東区が最も多かった。

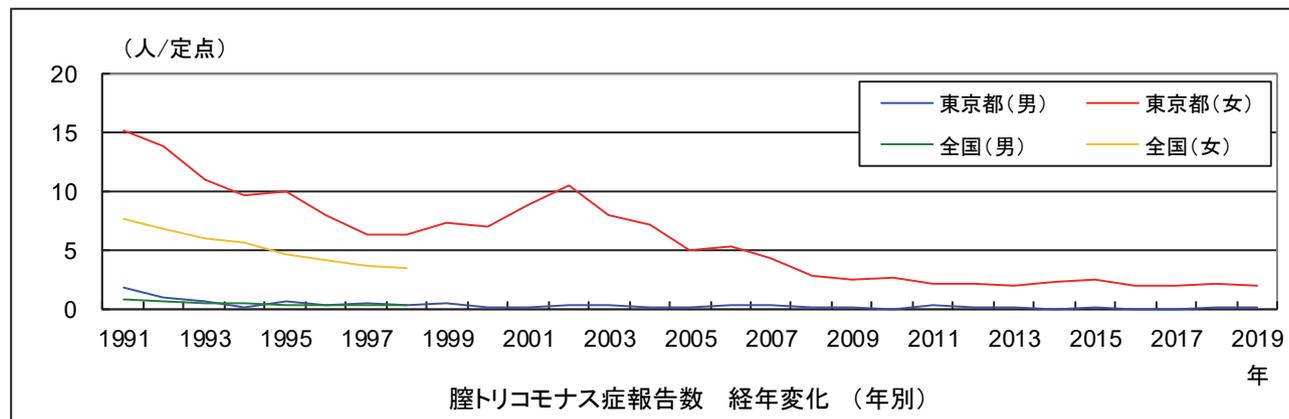
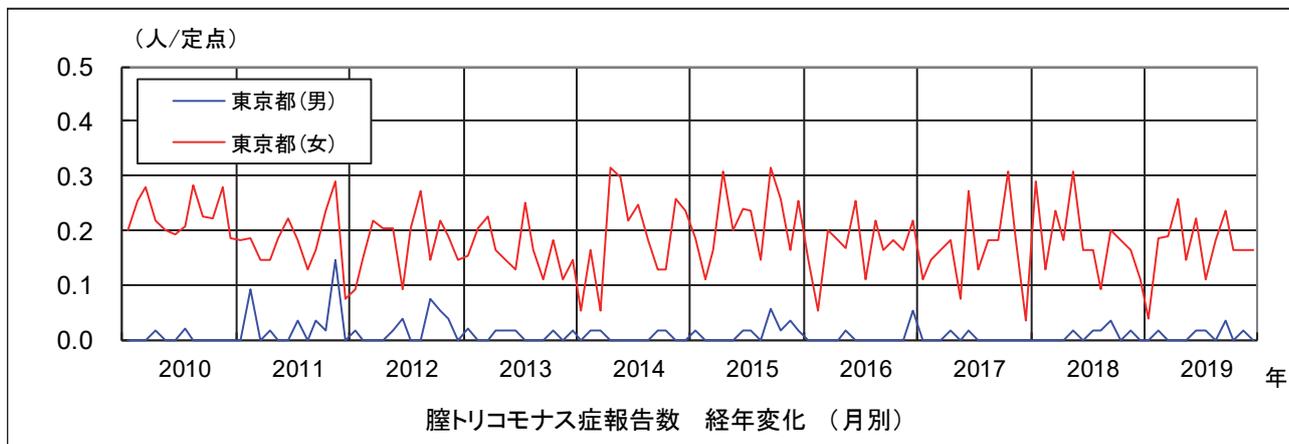
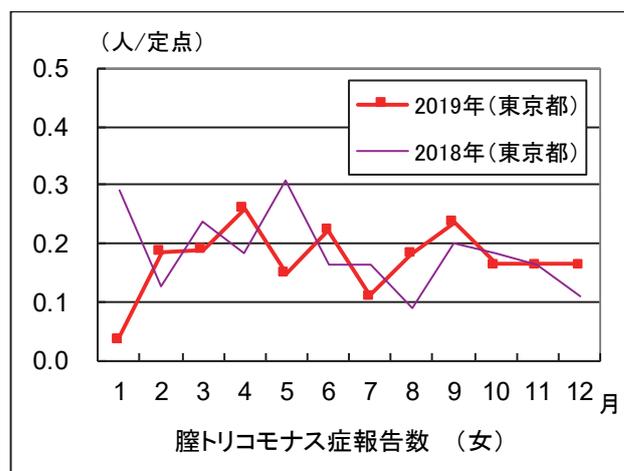
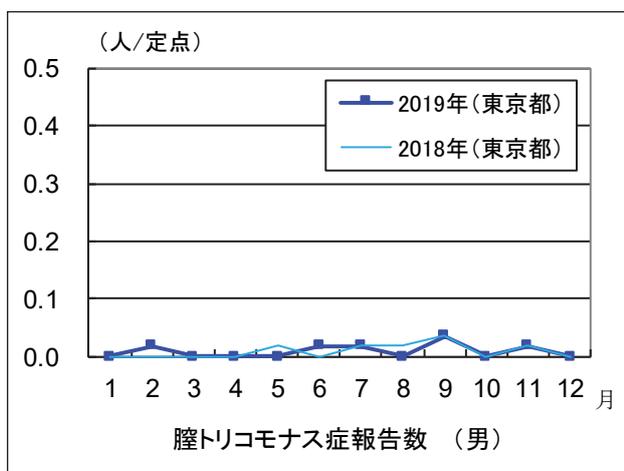


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2019年第1週~第52週

週	期 間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	12.31~ 1. 6	343	3,156	201	30	17	107	581	69	21	160	28		2
2	1. 7~ 1.13	412	13,064	260	43	65	514	2,365	175	32	551	96	3	20
3	1.14~ 1.20	415	21,850	262	44	39	492	1,958	78	30	427	95	3	9
4	1.21~ 1.27	415	26,635	262	50	51	642	2,067	111	28	429	84	6	23
5	1.28~ 2. 3	414	18,926	261	48	39	590	1,981	86	24	311	80	2	19
6	2. 4~ 2.10	414	10,421	261	41	45	580	1,819	107	37	224	76	6	13
7	2.11~ 2.17	415	4,281	262	63	42	452	1,453	91	20	177	78	3	10
8	2.18~ 2.24	414	2,739	262	57	40	615	1,888	91	19	206	109	2	12
9	2.25~ 3. 3	413	1,434	259	73	43	650	1,855	101	17	156	103	3	12
10	3. 4~ 3.10	415	920	261	54	37	667	1,836	83	12	148	102		26
11	3.11~ 3.17	413	525	259	81	59	689	1,775	113	30	162	105	3	11
12	3.18~ 3.24	412	406	259	101	49	570	1,591	128	22	145	112	2	17
13	3.25~ 3.31	414	345	260	57	43	432	1,526	118	16	115	99	4	16
14	4. 1~ 4. 7	409	439	255	69	36	411	1,578	102	15	156	110	6	20
15	4. 8~ 4.14	412	555	258	116	45	556	1,952	91	12	125	129	5	7
16	4.15~ 4.21	410	1,339	257	136	57	686	2,461	88	16	191	145	7	18
17	4.22~ 4.28	409	1,191	257	99	66	767	2,574	122	14	158	187	4	18
18	4.29~ 5. 5	338	229	205	30	16	163	470	26	12	26	44	1	8
19	5. 6~ 5.12	414	337	260	32	89	535	1,562	210	34	126	143	8	21
20	5.13~ 5.19	414	361	259	55	82	834	2,104	106	83	128	146	14	21
21	5.20~ 5.26	413	218	260	73	140	773	1,953	143	109	122	167	24	28
22	5.27~ 6. 2	415	143	261	67	173	821	2,000	137	173	99	145	33	24
23	6. 3~ 6. 9	415	110	261	64	167	700	1,732	174	252	78	190	61	24
24	6.10~ 6.16	412	87	259	84	163	719	1,607	133	428	79	169	127	32
25	6.17~ 6.23	413	67	259	77	168	763	1,661	142	708	90	152	224	22
26	6.24~ 6.30	412	31	260	97	149	669	1,544	185	1,325	100	135	357	40
27	7. 1~ 7. 7	409	24	260	122	155	623	1,536	126	2,528	108	145	719	43
28	7. 8~ 7.14	410	36	260	209	118	569	1,362	137	3,859	83	105	1,179	33
29	7.15~ 7.21	411	36	262	209	110	481	1,074	91	3,982	87	99	1,025	27
30	7.22~ 7.28	410	36	259	365	101	464	1,107	125	4,834	91	118	1,314	17
31	7.29~ 8. 4	409	55	259	560	82	338	900	86	3,209	76	113	927	18
32	8. 5~ 8.11	379	50	242	550	72	274	793	69	1,922	59	92	708	21
33	8.12~ 8.18	358	61	221	364	36	158	389	53	605	26	57	267	8
34	8.19~ 8.25	396	51	249	440	63	268	835	63	703	44	115	370	25
35	8.26~ 9. 1	408	100	255	616	72	275	872	48	649	66	117	458	18
36	9. 2~ 9. 8	414	202	260	684	91	369	1,007	39	682	62	133	505	18
37	9. 9~ 9.15	412	387	260	661	98	353	905	45	696	60	119	440	17
38	9.16~ 9.22	412	437	260	465	79	364	749	67	655	49	123	298	22
39	9.23~ 9.29	414	402	260	390	71	390	788	71	682	56	141	248	20
40	9.30~10. 6	413	435	261	291	72	465	908	92	695	48	110	226	26
41	10. 7~10.13	409	411	259	215	65	423	809	63	600	40	92	183	18
42	10.14~10.20	415	243	260	155	57	419	765	81	509	31	109	109	20
43	10.21~10.27	416	284	261	87	73	491	887	83	453	58	97	75	25
44	10.28~11. 3	414	461	261	72	77	585	990	105	528	48	104	80	22
45	11. 4~11.10	415	460	260	70	79	489	986	72	491	58	95	51	12
46	11.11~11.17	413	828	260	62	101	723	1,312	124	417	47	146	43	16
47	11.18~11.24	410	1,229	257	60	93	624	1,413	117	386	37	79	47	21
48	11.25~12. 1	414	2,550	260	59	121	871	1,711	208	434	31	112	32	18
49	12. 2~12. 8	415	4,293	261	58	141	948	1,922	164	374	32	98	43	15
50	12. 9~12.15	416	7,019	261	44	159	1,010	2,186	246	305	25	113	26	11
51	12.16~12.22	416	9,340	261	65	145	989	2,639	191	246	28	107	29	16
52	12.23~12.29	415	9,622	261	68	154	863	2,683	163	203	32	104	31	14
合 計			148,861		8,682	4,405	29,223	77,421	5,739	34,136	6,071	5,872	10,341	994

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2019年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
2	1.7～1.13	260	9	4	38	1	22	25	2	1	4		2	25	162
3	1.14～1.20	262	11	1	38		14	25	1		5		2	25	185
4	1.21～1.27	262	9	4	38		13	25	1		1		6	25	216
5	1.28～2.3	261	11	2	38		16	25		2	3	1	3	25	210
6	2.4～2.10	261	10	3	38		9	25	1		2	2	8	25	121
7	2.11～2.17	262	8	2	38		4	25	1	2	1	1	10	25	56
8	2.18～2.24	262	17	2	37		5	25	2				3	25	36
9	2.25～3.3	259	11	3	38		9	24	2		4		6	24	21
10	3.4～3.10	261	10	3	36		6	25		1	2		4	25	12
11	3.11～3.17	259	14	6	38		11	25		2	2	1	8	25	10
12	3.18～3.24	259	10	1	38		6	25	2			2	7	25	8
13	3.25～3.31	260	16	1	37		6	25	1		3	2	6	25	10
14	4.1～4.7	255	5	6	37		8	25	2			3	11	25	8
15	4.8～4.14	258	3	3	38		19	25		2	1	1	10	25	4
16	4.15～4.21	257	10	4	38		16	25		1	2	1	21	25	5
17	4.22～4.28	257	12	2	36		11	25			1	2	13	25	7
18	4.29～5.5	205	6	1	29		6	25			1	1	7	25	2
19	5.6～5.12	260	16	1	38	1	17	25	2		2	2	14	25	2
20	5.13～5.19	259	15	3	37		21	25	1		1		10	25	0
21	5.20～5.26	260	14	2	38		8	25	1	4	3		8	25	1
22	5.27～6.2	261	15	6	38		7	25			2		6	25	2
23	6.3～6.9	261	29	1	38		10	25	1		3		9	25	3
24	6.10～6.16	259	22	3	39		20	25			3		3	25	1
25	6.17～6.23	259	20	3	37		12	25	2	1	3		1	25	0
26	6.24～6.30	260	29	4	38	1	16	25		1	6		1	25	0
27	7.1～7.7	260	21	1	38	2	9	25	1	1	9			25	0
28	7.8～7.14	260	21	1	38		9	25	1	1	2		1	25	1
29	7.15～7.21	262	26	2	38		9	25		2	4	1	1	25	1
30	7.22～7.28	259	37	3	38		14	25			5			25	0
31	7.29～8.4	259	37	2	38		16	25	2	1	5	2		25	3
32	8.5～8.11	242	21	2	36		24	25	1		3	1	1	25	1
33	8.12～8.18	221	9		31		11	25			4			25	2
34	8.19～8.25	249	32	3	37		17	25		2	5			25	1
35	8.26～9.1	255	16	4	38	3	15	25			9	1		25	2
36	9.2～9.8	260	27	2	37	1	16	25		2	12	1	1	25	0
37	9.9～9.15	260	23	2	38	1	14	25		1	12	1		25	3
38	9.16～9.22	260	14	5	38		12	25		1	10	3		25	4
39	9.23～9.29	260	13	6	38		10	25	2	1	11	1		25	3
40	9.30～10.6	261	17	2	39		12	25	1	1	12			25	4
41	10.7～10.13	259	10		38		16	25		1	5			25	8
42	10.14～10.20	260	17	1	37		11	23	3	1	4			23	3
43	10.21～10.27	261	15	5	37		18	25		2	18	1		25	3
44	10.28～11.3	261	17	3	38		12	25		1	14	1		25	1
45	11.4～11.10	260	9	5	38		14	24		1	25			24	5
46	11.11～11.17	260	11	1	38		10	25	2	1	23	2		25	2
47	11.18～11.24	257	12	1	38		10	25			23		1	25	13
48	11.25～12.1	260	16	3	38		13	25	1	3	13	1	2	25	20
49	12.2～12.8	261	27	6	38		13	25	1	2	17	1		25	21
50	12.9～12.15	261	11	8	38		14	25	1	1	15			25	70
51	12.16～12.22	261	9	5	37		11	25		2	16	1		25	84
52	12.23～12.29	261	15	4	37	1	21	25	1	2	14	2		25	105
合 計			817	150		11	649		39	48	349	39	188		1,511

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2019年第1週～第52週

週	期間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A 球菌 溶血性 レンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎
1	12.31～1.6	343	9.20	201	0.15	0.08	0.53	2.89	0.34	0.10	0.80	0.14		0.01
2	1.7～1.13	412	31.71	260	0.17	0.25	1.98	9.10	0.67	0.12	2.12	0.37	0.01	0.08
3	1.14～1.20	415	52.65	262	0.17	0.15	1.88	7.47	0.30	0.11	1.63	0.36	0.01	0.03
4	1.21～1.27	415	64.18	262	0.19	0.19	2.45	7.89	0.42	0.11	1.64	0.32	0.02	0.09
5	1.28～2.3	414	45.71	261	0.18	0.15	2.26	7.59	0.33	0.09	1.19	0.31	0.01	0.07
6	2.4～2.10	414	25.17	261	0.16	0.17	2.22	6.97	0.41	0.14	0.86	0.29	0.02	0.05
7	2.11～2.17	415	10.32	262	0.24	0.16	1.73	5.55	0.35	0.08	0.68	0.30	0.01	0.04
8	2.18～2.24	414	6.62	262	0.22	0.15	2.35	7.21	0.35	0.07	0.79	0.42	0.01	0.05
9	2.25～3.3	413	3.47	259	0.28	0.17	2.51	7.16	0.39	0.07	0.60	0.40	0.01	0.05
10	3.4～3.10	415	2.22	261	0.21	0.14	2.56	7.03	0.32	0.05	0.57	0.39		0.10
11	3.11～3.17	413	1.27	259	0.31	0.23	2.66	6.85	0.44	0.12	0.63	0.41	0.01	0.04
12	3.18～3.24	412	0.99	259	0.39	0.19	2.20	6.14	0.49	0.08	0.56	0.43	0.01	0.07
13	3.25～3.31	414	0.83	260	0.22	0.17	1.66	5.87	0.45	0.06	0.44	0.38	0.02	0.06
14	4.1～4.7	409	1.07	255	0.27	0.14	1.61	6.19	0.40	0.06	0.61	0.43	0.02	0.08
15	4.8～4.14	412	1.35	258	0.45	0.17	2.16	7.57	0.35	0.05	0.48	0.50	0.02	0.03
16	4.15～4.21	410	3.27	257	0.53	0.22	2.67	9.58	0.34	0.06	0.74	0.56	0.03	0.07
17	4.22～4.28	409	2.91	257	0.39	0.26	2.98	10.02	0.47	0.05	0.61	0.73	0.02	0.07
18	4.29～5.5	338	0.68	205	0.15	0.08	0.80	2.29	0.13	0.06	0.13	0.21	0.00	0.04
19	5.6～5.12	414	0.81	260	0.12	0.34	2.06	6.01	0.81	0.13	0.48	0.55	0.03	0.08
20	5.13～5.19	414	0.87	259	0.21	0.32	3.22	8.12	0.41	0.32	0.49	0.56	0.05	0.08
21	5.20～5.26	413	0.53	260	0.28	0.54	2.97	7.51	0.55	0.42	0.47	0.64	0.09	0.11
22	5.27～6.2	415	0.34	261	0.26	0.66	3.15	7.66	0.52	0.66	0.38	0.56	0.13	0.09
23	6.3～6.9	415	0.27	261	0.25	0.64	2.68	6.64	0.67	0.97	0.30	0.73	0.23	0.09
24	6.10～6.16	412	0.21	259	0.32	0.63	2.78	6.20	0.51	1.65	0.31	0.65	0.49	0.12
25	6.17～6.23	413	0.16	259	0.30	0.65	2.95	6.41	0.55	2.73	0.35	0.59	0.86	0.08
26	6.24～6.30	412	0.08	260	0.37	0.57	2.57	5.94	0.71	5.10	0.38	0.52	1.37	0.15
27	7.1～7.7	409	0.06	260	0.47	0.60	2.40	5.91	0.48	9.72	0.42	0.56	2.77	0.17
28	7.8～7.14	410	0.09	260	0.80	0.45	2.19	5.24	0.53	14.84	0.32	0.40	4.53	0.13
29	7.15～7.21	411	0.09	262	0.80	0.42	1.84	4.10	0.35	15.20	0.33	0.38	3.91	0.10
30	7.22～7.28	410	0.09	259	1.41	0.39	1.79	4.27	0.48	18.66	0.35	0.46	5.07	0.07
31	7.29～8.4	409	0.13	259	2.16	0.32	1.31	3.47	0.33	12.39	0.29	0.44	3.58	0.07
32	8.5～8.11	379	0.13	242	2.27	0.30	1.13	3.28	0.29	7.94	0.24	0.38	2.93	0.09
33	8.12～8.18	358	0.17	221	1.65	0.16	0.71	1.76	0.24	2.74	0.12	0.26	1.21	0.04
34	8.19～8.25	396	0.13	249	1.77	0.25	1.08	3.35	0.25	2.82	0.18	0.46	1.49	0.10
35	8.26～9.1	408	0.25	255	2.42	0.28	1.08	3.42	0.19	2.55	0.26	0.46	1.80	0.07
36	9.2～9.8	414	0.49	260	2.63	0.35	1.42	3.87	0.15	2.62	0.24	0.51	1.94	0.07
37	9.9～9.15	412	0.94	260	2.54	0.38	1.36	3.48	0.17	2.68	0.23	0.46	1.69	0.07
38	9.16～9.22	412	1.06	260	1.79	0.30	1.40	2.88	0.26	2.52	0.19	0.47	1.15	0.08
39	9.23～9.29	414	0.97	260	1.50	0.27	1.50	3.03	0.27	2.62	0.22	0.54	0.95	0.08
40	9.30～10.6	413	1.05	261	1.11	0.28	1.78	3.48	0.35	2.66	0.18	0.42	0.87	0.10
41	10.7～10.13	409	1.00	259	0.83	0.25	1.63	3.12	0.24	2.32	0.15	0.36	0.71	0.07
42	10.14～10.20	415	0.59	260	0.60	0.22	1.61	2.94	0.31	1.96	0.12	0.42	0.42	0.08
43	10.21～10.27	416	0.68	261	0.33	0.28	1.88	3.40	0.32	1.74	0.22	0.37	0.29	0.10
44	10.28～11.3	414	1.11	261	0.28	0.30	2.24	3.79	0.40	2.02	0.18	0.40	0.31	0.08
45	11.4～11.10	415	1.11	260	0.27	0.30	1.88	3.79	0.28	1.89	0.22	0.37	0.20	0.05
46	11.11～11.17	413	2.00	260	0.24	0.39	2.78	5.05	0.48	1.60	0.18	0.56	0.17	0.06
47	11.18～11.24	410	3.00	257	0.23	0.36	2.43	5.50	0.46	1.50	0.14	0.31	0.18	0.08
48	11.25～12.1	414	6.16	260	0.23	0.47	3.35	6.58	0.80	1.67	0.12	0.43	0.12	0.07
49	12.2～12.8	415	10.34	261	0.22	0.54	3.63	7.36	0.63	1.43	0.12	0.38	0.16	0.06
50	12.9～12.15	416	16.87	261	0.17	0.61	3.87	8.38	0.94	1.17	0.10	0.43	0.10	0.04
51	12.16～12.22	416	22.45	261	0.25	0.56	3.79	10.11	0.73	0.94	0.11	0.41	0.11	0.06
52	12.23～12.29	415	23.19	261	0.26	0.59	3.31	10.28	0.62	0.78	0.12	0.40	0.12	0.05
平均			6.94		0.65	0.33	2.17	5.76	0.43	2.55	0.45	0.44	0.77	0.07

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2019年第1週~第52週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
1	12.31~ 1. 6	201	0.01	0.01	35		0.17	25		0.04	0.16		0.08	25	2.76
2	1. 7~ 1.13	260	0.03	0.02	38	0.03	0.58	25	0.08	0.04	0.16		0.08	25	6.48
3	1.14~ 1.20	262	0.04	0.00	38		0.37	25	0.04		0.20		0.08	25	7.40
4	1.21~ 1.27	262	0.03	0.02	38		0.34	25	0.04		0.04		0.24	25	8.64
5	1.28~ 2. 3	261	0.04	0.01	38		0.42	25		0.08	0.12	0.04	0.12	25	8.40
6	2. 4~ 2.10	261	0.04	0.01	38		0.24	25	0.04		0.08	0.08	0.32	25	4.84
7	2.11~ 2.17	262	0.03	0.01	38		0.11	25	0.04	0.08	0.04	0.04	0.40	25	2.24
8	2.18~ 2.24	262	0.06	0.01	37		0.14	25	0.08				0.12	25	1.44
9	2.25~ 3. 3	259	0.04	0.01	38		0.24	24	0.08		0.17		0.25	24	0.88
10	3. 4~ 3.10	261	0.04	0.01	36		0.17	25		0.04	0.08		0.16	25	0.48
11	3.11~ 3.17	259	0.05	0.02	38		0.29	25		0.08	0.08	0.04	0.32	25	0.40
12	3.18~ 3.24	259	0.04	0.00	38		0.16	25	0.08			0.08	0.28	25	0.32
13	3.25~ 3.31	260	0.06	0.00	37		0.16	25	0.04		0.12	0.08	0.24	25	0.40
14	4. 1~ 4. 7	255	0.02	0.02	37		0.22	25	0.08			0.12	0.44	25	0.32
15	4. 8~ 4.14	258	0.01	0.01	38		0.50	25		0.08	0.04	0.04	0.40	25	0.16
16	4.15~ 4.21	257	0.04	0.02	38		0.42	25		0.04	0.08	0.04	0.84	25	0.20
17	4.22~ 4.28	257	0.05	0.01	36		0.31	25			0.04	0.08	0.52	25	0.28
18	4.29~ 5. 5	205	0.03	0.00	29		0.21	25			0.04	0.04	0.28	25	0.08
19	5. 6~ 5.12	260	0.06	0.00	38	0.03	0.45	25	0.08		0.08	0.08	0.56	25	0.08
20	5.13~ 5.19	259	0.06	0.01	37		0.57	25	0.04		0.04		0.40	25	
21	5.20~ 5.26	260	0.05	0.01	38		0.21	25	0.04	0.16	0.12		0.32	25	0.04
22	5.27~ 6. 2	261	0.06	0.02	38		0.18	25			0.08		0.24	25	0.08
23	6. 3~ 6. 9	261	0.11	0.00	38		0.26	25	0.04		0.12		0.36	25	0.12
24	6.10~ 6.16	259	0.08	0.01	39		0.51	25			0.12		0.12	25	0.04
25	6.17~ 6.23	259	0.08	0.01	37		0.32	25	0.08	0.04	0.12		0.04	25	
26	6.24~ 6.30	260	0.11	0.02	38	0.03	0.42	25		0.04	0.24		0.04	25	
27	7. 1~ 7. 7	260	0.08	0.00	38	0.05	0.24	25	0.04	0.04	0.36			25	
28	7. 8~ 7.14	260	0.08	0.00	38		0.24	25	0.04	0.04	0.08		0.04	25	0.04
29	7.15~ 7.21	262	0.10	0.01	38		0.24	25		0.08	0.16	0.04	0.04	25	0.04
30	7.22~ 7.28	259	0.14	0.01	38		0.37	25			0.20			25	
31	7.29~ 8. 4	259	0.14	0.01	38		0.42	25	0.08	0.04	0.20	0.08		25	0.12
32	8. 5~ 8.11	242	0.09	0.01	36		0.67	25	0.04		0.12	0.04	0.04	25	0.04
33	8.12~ 8.18	221	0.04		31		0.35	25			0.16			25	0.08
34	8.19~ 8.25	249	0.13	0.01	37		0.46	25		0.08	0.20			25	0.04
35	8.26~ 9. 1	255	0.06	0.02	38	0.08	0.39	25			0.36	0.04		25	0.08
36	9. 2~ 9. 8	260	0.10	0.01	37	0.03	0.43	25		0.08	0.48	0.04	0.04	25	
37	9. 9~ 9.15	260	0.09	0.01	38	0.03	0.37	25		0.04	0.48	0.04		25	0.12
38	9.16~ 9.22	260	0.05	0.02	38		0.32	25		0.04	0.40	0.12		25	0.16
39	9.23~ 9.29	260	0.05	0.02	38		0.26	25	0.08	0.04	0.44	0.04		25	0.12
40	9.30~10. 6	261	0.07	0.01	39		0.31	25	0.04	0.04	0.48			25	0.16
41	10. 7~10.13	259	0.04		38		0.42	25		0.04	0.20			25	0.32
42	10.14~10.20	260	0.07	0.00	37		0.30	23	0.13	0.04	0.17			23	0.13
43	10.21~10.27	261	0.06	0.02	37		0.49	25		0.08	0.72	0.04		25	0.12
44	10.28~11. 3	261	0.07	0.01	38		0.32	25		0.04	0.56	0.04		25	0.04
45	11. 4~11.10	260	0.03	0.02	38		0.37	24		0.04	1.04			24	0.21
46	11.11~11.17	260	0.04	0.00	38		0.26	25	0.08	0.04	0.92	0.08		25	0.08
47	11.18~11.24	257	0.05	0.00	38		0.26	25			0.92		0.04	25	0.52
48	11.25~12. 1	260	0.06	0.01	38		0.34	25	0.04	0.12	0.52	0.04	0.08	25	0.80
49	12. 2~12. 8	261	0.10	0.02	38		0.34	25	0.04	0.08	0.68	0.04		25	0.84
50	12. 9~12.15	261	0.04	0.03	38		0.37	25	0.04	0.04	0.60			25	2.80
51	12.16~12.22	261	0.03	0.02	37		0.30	25		0.08	0.64	0.04		25	3.36
52	12.23~12.29	261	0.06	0.02	37	0.03	0.57	25	0.04	0.08	0.56	0.08		25	4.20
平 均			0.06	0.01		0.01	0.33		0.03	0.04	0.27	0.03	0.14		1.16

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2019年第1週~第52週

	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)										
			RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	
千代田	4	987	3	52	17	73	181	13	162	35	27	36	4
中央区	5	1,454	3	70	49	421	1,624	86	500	108	101	153	19
みなと	9	2,499	6	276	103	716	1,320	76	580	173	131	151	29
新宿区	12	3,167	8	609	107	878	1,925	91	518	119	121	221	13
文京	7	2,438	4	64	33	250	827	149	572	84	136	71	20
台東	7	1,744	4	216	125	590	2,474	91	789	93	141	246	23
墨田区	8	2,361	5	181	49	344	796	53	446	33	112	124	5
江東区	14	4,424	9	423	96	1,266	3,793	203	1,222	185	208	282	25
品川区	12	1,984	8	179	128	667	2,195	121	856	163	173	275	20
目黒区	8	2,240	5	285	66	743	1,641	116	911	124	115	124	27
大田区	21	5,897	13	565	336	1,705	5,323	286	1,923	476	325	540	103
世田谷	25	9,917	16	566	345	2,060	4,727	395	2,052	322	271	553	71
渋谷区	7	1,592	4	83	29	115	1,062	35	474	32	63	77	7
中野区	11	3,984	7	179	77	1,114	1,884	96	990	187	194	202	21
杉並	16	4,756	10	227	133	653	2,857	150	954	91	174	210	11
池袋	8	2,293	5	259	65	109	510	24	236	26	32	500	2
北区	11	3,810	7	109	40	324	1,490	81	852	93	211	239	6
荒川区	7	2,995	4	390	109	570	1,666	138	615	237	191	224	16
板橋区	16	4,935	10	95	28	525	2,276	167	815	182	117	241	20
練馬区	21	6,330	13	311	211	1,899	3,415	466	1,551	233	282	677	36
足立	20	6,266	13	601	179	1,261	3,705	308	1,284	241	261	562	32
葛飾区	13	5,126	8	84	40	700	2,964	85	842	225	180	260	17
江戸川	19	7,541	12	347	192	1,607	3,616	166	1,032	334	222	526	77
八王子市	18	9,581	11	535	262	1,952	5,031	366	2,314	438	254	803	80
町田市	13	6,311	8	115	59	1,426	3,528	265	1,362	173	173	394	31
西多摩	14	4,877	8	73	79	500	1,641	106	977	159	118	225	23
南多摩	14	5,836	9	315	160	882	2,168	146	1,173	216	182	317	48
多摩立川	21	7,816	14	294	87	1,157	3,224	285	1,752	195	224	475	45
多摩府中	33	14,042	21	546	412	2,219	5,447	673	3,239	631	560	918	89
多摩小平	23	10,543	15	632	789	2,487	4,047	499	3,031	412	569	694	72
島しょ	2	1,115	1	1		10	64	3	112	51	4	21	2
合計	419	148,861	264	8,682	4,405	29,223	77,421	5,739	34,136	6,071	5,872	10,341	994
定点当たり報告数		361.04		34.00	17.04	112.95	299.71	22.25	132.46	23.60	22.77	40.26	3.85
前年定点当たり報告数		331.57		30.49	17.96	123.25	304.52	17.35	32.65	41.36	26.05	32.01	4.79
当年/前年		1.09		1.12	0.95	0.92	0.98	1.28	4.06	0.57	0.87	1.26	0.80

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2019年第1週~第52週

	小児科			眼科			基幹						
	設置定点数	不明発しん症	川崎病	設置定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く)クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる)感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
千代田	3	7	9				2	2	1	15		6	47
中央区	3	22	2	1		64							
みなの	6	2	1				1			37	22		80
新宿区	8	17	25	2	2	4	2	6	1	62		1	58
文京	4	1	1	1			1						35
台東	4	32	1										
墨田区	5	37	1	1		9	1	6	7	57		21	101
江東区	9	19	12	1		19							
品川区	8	23	2	1		3							
目黒区	5	7		1		3							
大田区	13	56	14	2		52	1		1	6			9
世田谷	16	87		2		9	2	4	17	2		30	235
渋谷区	4	8	1	1		51	1	2	2	29		24	30
中野区	7	6	2	1	4	9							
杉並	10	26	11	1		8	2			14		16	209
池袋	5		4	1	1	46	1			29	4	29	
北区	7	6	4	1		10							
荒川区	4	1		1		26							
板橋区	10	18	2	2	1	22	1	1	2	2		7	26
練馬区	13	23	7	2		27							
足立	13	25	2	2		68							
葛飾区	8	40	2	1		14	1	1		12		26	127
江戸川	12	20	7	2	1	21							
八王子市	11	23	6	2		47	1						40
町田市	8	19	3	1									
西多摩	8	18		1		4	1			12			17
南多摩	9	2	2	1		3							
多摩立川	14	19	2	2	1	18	1			5		8	20
多摩府中	21	209	17	3	1	32	3	15	9	61	13	16	300
多摩小平	15	44	10	2		80	2	2	8	6		4	176
島しょ	1						1						1
合計	264	817	150	39	11	649	25	39	48	349	39	188	1,511
定点当たり報告数		3.17	0.58		0.29	17.35		1.57	1.93	14.02	1.56	7.53	60.49
前年定点当たり報告数		4.14	0.82		0.37	28.22		1.28	1.32	9.20	1.60	4.40	44.52
当年/前年		0.77	0.71		0.78	0.61		1.23	1.46	1.52	0.98	1.71	1.36

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2019年第1週~第52週

	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
千代田	4	246.75	3	17.33	5.67	24.33	60.33	4.33	54.00	11.67	9.00	12.00	1.33
中央区	5	297.93	3	26.67	17.83	156.67	567.17	29.17	184.83	36.67	34.83	53.00	6.67
みなと	9	278.16	6	46.03	17.23	119.87	221.40	12.70	96.70	29.10	21.97	25.17	4.87
新宿区	12	264.15	8	76.42	13.50	110.33	241.29	11.42	64.75	14.96	15.25	27.63	1.63
文京	7	350.14	4	16.25	8.33	62.83	210.00	37.50	149.00	21.25	35.33	18.00	5.17
台東	7	252.98	4	56.33	32.08	151.08	648.50	23.25	200.33	23.92	36.83	64.08	5.75
墨田区	8	295.13	5	36.20	9.80	68.80	159.20	10.60	89.20	6.60	22.40	24.80	1.00
江東区	14	316.00	9	48.02	10.73	140.92	422.21	22.56	136.86	20.59	23.24	31.56	2.81
品川区	12	176.22	8	22.75	16.00	83.90	277.02	15.44	108.39	20.64	21.97	35.04	2.50
目黒区	8	301.29	5	57.00	13.20	148.60	328.20	23.20	182.20	24.80	23.00	24.80	5.40
大田区	21	284.90	13	47.93	27.46	137.64	428.09	23.03	163.27	37.61	26.35	46.59	8.51
世田谷	25	401.54	16	36.36	22.10	131.01	299.72	24.98	129.76	20.62	17.09	35.24	4.47
渋谷区	7	227.43	4	20.75	7.25	28.75	265.50	8.75	118.50	8.00	15.75	19.25	1.75
中野区	11	398.40	7	29.83	12.83	185.67	314.00	16.00	165.00	31.17	32.33	33.67	3.50
杉並	16	285.96	10	21.27	12.31	60.56	265.20	14.53	87.95	8.85	16.17	19.56	1.01
池袋	8	319.46	5	66.12	14.92	25.73	119.80	5.63	59.88	6.80	7.73	107.57	0.53
北区	11	347.11	7	15.86	5.71	46.68	214.82	11.60	123.20	13.38	30.29	35.27	0.90
荒川区	7	436.81	4	99.67	27.42	143.50	426.42	34.50	155.33	59.33	47.83	57.08	4.00
板橋区	16	312.54	10	9.65	2.82	52.90	230.96	17.91	83.33	18.40	12.54	24.98	2.07
練馬区	21	304.63	13	24.67	16.41	147.32	265.37	36.50	121.74	18.31	22.05	53.99	2.77
足立	20	320.59	13	47.96	14.31	100.15	293.05	24.69	101.98	19.04	20.70	44.47	2.53
葛飾区	13	396.80	8	10.58	5.00	87.65	371.70	10.70	105.25	28.65	22.58	32.50	2.13
江戸川	19	399.29	12	29.18	16.15	135.06	304.37	14.03	86.12	28.16	18.69	43.90	6.48
八王子市	18	535.90	11	48.77	23.85	177.66	459.85	33.41	210.43	40.36	23.16	73.00	7.27
町田市	13	485.46	8	14.38	7.38	178.25	441.00	33.13	170.25	21.63	21.63	49.25	3.88
西多摩	14	349.33	8	9.21	9.93	63.02	207.48	13.36	123.61	20.23	14.88	28.39	2.93
南多摩	14	418.30	9	35.50	17.82	98.47	243.50	16.39	130.67	24.13	20.49	35.47	5.38
多摩立川	21	372.75	14	21.24	6.26	84.34	236.11	20.84	125.42	14.27	16.38	34.01	3.29
多摩府中	33	430.92	21	28.24	20.50	110.04	271.28	33.31	163.02	31.30	27.96	46.03	4.45
多摩小平	23	483.68	15	46.21	57.00	179.10	292.43	36.20	219.38	30.45	41.37	50.57	5.20
島しょ	2	557.50	1	1.00		10.00	64.00	3.00	112.00	51.00	4.00	21.00	2.00
定点当たり報告数		361.04		34.00	17.04	112.95	299.71	22.25	132.46	23.60	22.77	40.26	3.85
前年定点当たり報告数		331.57		30.49	17.96	123.25	304.52	17.35	32.65	41.36	26.05	32.01	4.79
当年/前年		1.09		1.12	0.95	0.92	0.98	1.28	4.06	0.57	0.87	1.26	0.80

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2019年第1週~第52週

	小児科			眼科			基幹						
	設置定点数	不明発しん症	川崎病	設置定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	2.33	3.00				2	1.00	0.50	7.50		3.00	23.50
中央区	3	7.83	0.67	1		64.00							
みなの	6	0.33	0.17				1			37.00	22.00		80.00
新宿区	8	2.17	3.13	2	2.00	3.50	2	3.00	0.50	31.00		0.50	29.00
文京	4	0.25	0.25	1			1						35.00
台東	4	8.08	0.33										
墨田区	5	7.40	0.20	1		9.00	1	6.00	7.00	57.00		21.00	101.00
江東区	9	2.17	1.37	1		19.00							
品川区	8	2.93	0.27	1		3.00							
目黒区	5	1.40		1		3.00							
大田区	13	4.67	1.10	2		26.00	1		1.00	6.00			9.00
世田谷	16	5.50		2		4.50	2	2.00	8.50	1.00		15.00	117.50
渋谷区	4	2.00	0.25	1		51.00	1	2.00	2.00	29.00		24.00	30.00
中野区	7	1.00	0.33	1	4.00	9.00							
杉並	10	2.43	1.02	1		8.00	2			7.00		8.00	104.50
池袋	5		1.03	1	1.00	46.00	1			29.00	4.00	29.00	
北区	7	0.86	0.57	1		10.00							
荒川区	4	0.25		1		26.00							
板橋区	10	1.87	0.20	2	0.50	11.50	1	1.00	2.00	2.00		7.00	26.00
練馬区	13	1.79	0.54	2		13.50							
足立	13	1.97	0.15	2		35.50							
葛飾区	8	5.00	0.25	1		14.00	1	1.00		12.00		26.00	127.00
江戸川	12	1.67	0.58	2	0.50	10.50							
八王子市	11	2.16	0.55	2		23.50	1						40.00
町田市	8	2.38	0.38	1									
西多摩	8	2.25		1		4.00	1			12.00			17.00
南多摩	9	0.22	0.22	1		3.00							
多摩立川	14	1.38	0.14	2	0.50	9.00	1			5.00		8.00	20.00
多摩府中	21	10.61	0.84	3	0.33	11.67	3	6.00	3.00	20.67	4.33	5.33	100.83
多摩小平	15	3.15	0.73	2		41.50	2	1.00	4.00	3.00		2.00	88.00
島しょ	1						1						1.00
定点当たり報告数		3.17	0.58		0.29	17.35		1.57	1.93	14.02	1.56	7.53	60.49
前年定点当たり報告数		4.14	0.82		0.37	28.22		1.28	1.32	9.20	1.60	4.40	44.52
当年/前年		0.77	0.71		0.78	0.61		1.23	1.46	1.52	0.98	1.71	1.36

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹) 2019年 第1週～第52週

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6か月未満	394	970	29	13	680	48	274	2	60	48	1
12か月未満	1,480	1,866	309	89	4,919	152	3,536	53	1,554	928	5
1歳	5,157	3,385	1,171	721	10,367	222	12,147	301	3,055	2,693	30
2歳	5,644	1,439	744	1,491	7,802	213	7,150	502	734	1,993	64
3歳	6,658	588	594	2,780	7,104	304	3,804	794	246	1,388	90
4歳	8,104	252	509	3,990	7,086	483	2,678	1,087	106	1,035	143
5歳	8,719	94	386	4,089	6,392	656	1,587	1,072	57	743	150
6歳	8,895	29	223	3,764	5,232	728	915	797	25	423	130
7歳	8,897	17	136	3,278	4,151	863	470	487	14	245	102
8歳	8,071	6	80	2,443	3,543	747	323	375	5	202	83
9歳	6,807	7	38	1,799	2,745	520	197	231	3	113	58
10～14歳	22,688	9	83	3,030	7,078	692	440	281	9	195	106
15～19歳	7,062	1	6	257	1,716	41	55	15		31	18
20～29歳	9,051	19	97	1,479	8,606	70	560	74	4	304	14
30～39歳	11,255										
40～49歳	13,625										
50～59歳	7,876										
60～69歳	4,278										
70～79歳	2,747										
80歳以上	1,453										
合計	148,861	8,682	4,405	29,223	77,421	5,739	34,136	6,071	5,872	10,341	994

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(除く)	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院
6か月未満	20	6		5	8	10			14	32
12か月未満	130	22		6		2			13	17
1歳	223	35		29	2	2	6		28	65
2歳	98	29		21	1		12		17	53
3歳	78	19		10		1	25		16	42
4歳	59	13		9			20		17	49
5歳	60	15		7		1	24		17	33
6歳	33	7		16			27	1	13	34
7歳	28	2		14			32		18	29
8歳	11	1		10		2	23		10	19
9歳	20			4		1	25		10	22
10～14歳	33			21	2	1	80		11	50
15～19歳	5	1		14		3	15	1		13
20～29歳	19		3	110	2	8	15		1	15
30～39歳			1	154	1	4	15	1		27
40～49歳			2	95	6	4	9	4		39
50～59歳			1	55	1	1	6	7		44
60～69歳			3	47	4		4	10	1	123
70～79歳			1	22	7	3	6	7	2	251
80歳以上					5	5	5	8		554
合計	817	150	11	649	39	48	349	39	188	1,511

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2019年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	9,122	20	678	327	2,050	6,426	415	2,603	493	536	657	95
2 区南部圏	33	7,881	21	744	464	2,372	7,518	407	2,779	639	498	815	123
3 区西南部圏	40	13,749	25	934	440	2,918	7,430	546	3,437	478	449	754	105
4 区西部圏	39	11,907	25	1015	317	2,645	6,666	337	2,462	397	489	633	45
5 区西北部圏	56	17,368	35	774	344	2,857	7,691	738	3,454	534	642	1,657	64
6 区東北部圏	40	14,387	25	1075	328	2,531	8,335	531	2,741	703	632	1,046	65
7 区東部圏	41	14,326	26	951	337	3,217	8,205	422	2,700	552	542	932	107
8 西多摩圏	14	4,877	8	73	79	500	1,641	106	977	159	118	225	23
9 南多摩圏	45	21,728	28	965	481	4,260	10,727	777	4,849	827	609	1,514	159
10 北多摩西部圏	21	7,816	14	294	87	1,157	3,224	285	1,752	195	224	475	45
11 北多摩南部圏	33	14,042	21	546	412	2,219	5,447	673	3,239	631	560	918	89
12 北多摩北部圏	23	10,543	15	632	789	2,487	4,047	499	3,031	412	569	694	72
13 島しょ圏	2	1,115	1	1		10	64	3	112	51	4	21	2
合計	419	148,861	264	8,682	4,405	29,223	77,421	5,739	34,136	6,071	5,872	10,341	994

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	64	14	2		64	4	2	1	52	22	6	162
2 区南部圏	21	79	16	3		55	1		1	6			9
3 区西南部圏	25	102	1	4		63	3	6	19	31		54	265
4 区西部圏	25	49	38	4	6	21	4	6	1	76		17	267
5 区西北部圏	35	47	17	6	2	105	2	1	2	31	4	36	26
6 区東北部圏	25	66	4	4		108	1	1		12		26	127
7 区東部圏	26	76	20	4	1	49	1	6	7	57		21	101
8 西多摩圏	8	18		1		4	1			12			17
9 南多摩圏	28	44	11	4		50	1						40
10 北多摩西部圏	14	19	2	2	1	18	1			5		8	20
11 北多摩南部圏	21	209	17	3	1	32	3	15	9	61	13	16	300
12 北多摩北部圏	15	44	10	2		80	2	2	8	6		4	176
13 島しょ圏	1						1						1
合計	264	817	150	39	11	649	25	39	48	349	39	188	1,511

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2019年第1週～第52週

	設置定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	32	287.45	20	34.99	16.58	104.07	326.96	20.99	132.76	25.16	27.33	33.71	4.84
2 区南部圏	33	246.88	21	37.74	22.94	116.77	369.19	20.20	140.75	31.08	24.60	41.80	6.11
3 区西南部圏	40	351.55	25	38.19	17.79	117.79	299.42	22.03	138.54	19.36	18.16	30.62	4.24
4 区西部圏	39	308.63	25	41.40	12.85	106.92	269.62	13.70	99.15	16.15	19.80	25.54	1.82
5 区西北部圏	56	317.29	35	23.42	10.12	84.00	226.77	21.97	103.15	15.93	18.95	49.54	1.90
6 区東北部圏	40	365.64	25	43.90	13.34	103.07	339.48	21.72	111.40	28.82	25.75	42.53	2.63
7 区東部圏	41	350.40	26	36.94	13.04	124.25	317.36	16.32	104.32	21.37	20.98	36.00	4.15
8 西多摩圏	14	349.33	8	9.21	9.93	63.02	207.48	13.36	123.61	20.23	14.88	28.39	2.93
9 南多摩圏	45	484.68	28	34.58	17.20	152.44	384.45	27.86	173.32	29.73	21.81	54.14	5.69
10 北多摩西部圏	21	372.75	14	21.24	6.26	84.34	236.11	20.84	125.42	14.27	16.38	34.01	3.29
11 北多摩南部圏	33	430.92	21	28.24	20.50	110.04	271.28	33.31	163.02	31.30	27.96	46.03	4.45
12 北多摩北部圏	23	483.68	15	46.21	57.00	179.10	292.43	36.20	219.38	30.45	41.37	50.57	5.20
13 島しょ圏	2	557.50	1	1.00		10.00	64.00	3.00	112.00	51.00	4.00	21.00	2.00

	設置定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	設置定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	ク(オウム病を除く) ラミジア肺炎	感(ロタウイルスによる) 染性胃腸炎	インフルエンザ入院
1 区中央部圏	20	3.26	0.71	2		32.00	4	0.50	0.25	13.00	5.50	1.50	40.50
2 区南部圏	21	3.97	0.78	3		18.33	1		1.00	6.00			9.00
3 区西南部圏	25	4.10	0.04	4		16.00	3	2.00	6.33	10.33		18.00	88.33
4 区西部圏	25	2.00	1.54	4	1.92	6.92	4	1.50	0.25	19.00		4.25	66.75
5 区西北部圏	35	1.40	0.51	6	0.33	17.70	2	0.50	1.00	15.50	2.00	18.00	13.00
6 区東北部圏	25	2.68	0.16	4		27.50	1	1.00		12.00		26.00	127.00
7 区東部圏	26	2.94	0.77	4	0.25	12.25	1	6.00	7.00	57.00		21.00	101.00
8 西多摩圏	8	2.25		1		4.00	1			12.00			17.00
9 南多摩圏	28	1.58	0.40	4		12.50	1						40.00
10 北多摩西部圏	14	1.38	0.14	2	0.50	9.00	1			5.00		8.00	20.00
11 北多摩南部圏	21	10.61	0.84	3	0.33	11.67	3	6.00	3.00	20.67	4.33	5.33	100.83
12 北多摩北部圏	15	3.15	0.73	2		41.50	2	1.00	4.00	3.00		2.00	88.00
13 島しょ圏	1						1						1.00

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2019年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	25	68	8	1
2月	25	83	8	
3月	25	68	11	1
4月	25	58	8	2
5月	25	56	8	
6月	25	86	8	
7月	25	78	6	
8月	25	103	7	1
9月	25	66	7	1
10月	25	88	7	
11月	25	72	12	
12月	25	68	6	2
合計		894	96	8

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2019年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	25	2.72	0.32	0.04
2月	25	3.32	0.32	
3月	25	2.72	0.44	0.04
4月	25	2.32	0.32	0.08
5月	25	2.24	0.32	
6月	25	3.44	0.32	
7月	25	3.12	0.24	
8月	25	4.12	0.28	0.04
9月	25	2.64	0.28	0.04
10月	25	3.52	0.28	
11月	25	2.88	0.48	
12月	25	2.72	0.24	0.08
平均		2.98	0.32	0.03
合計		35.76	3.84	0.32
前年合計		32.16	4.08	0.36
当年/前年		1.11	0.94	0.89

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2019年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	45	23	3	5	1	
2月	55	28	3	5		
3月	46	22	7	4		1
4月	37	21	5	3	2	
5月	44	12	4	4		
6月	61	25	5	3		
7月	53	25	4	2		
8月	62	41	1	6	1	
9月	32	34	6	1		1
10月	58	30	3	4		
11月	48	24	9	3		
12月	39	29	3	3	1	1
合計	580	314	53	43	5	3

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2019年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	89	37	6	4		
1~4歳	38	24	15	12		
5~9歳	20	17	6	2		
10~14歳	22	12		1		
15~19歳	9	3	1	1		
20~24歳	3	9				
25~29歳	4	5				
30~34歳	3	6			3	
35~39歳	9	9	1	1		
40~44歳	19	4		1		1
45~49歳	17	11				1
50~54歳	25	9		2		
55~59歳	26	12	1	1		
60~64歳	27	8	3	1		1
65~69歳	35	10	2	3	1	
70歳以上	234	138	18	14	1	
合計	580	314	53	43	5	3
定点当たり報告数	23.20	12.56	2.12	1.72	0.20	0.12
前年定点当たり報告数	19.52	12.64	2.32	1.76	0.32	0.04
当年/前年	1.19	0.99	0.91	0.98	0.63	3.00

表9-1 月別患者報告数(性感染症) 表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)

2019年1月~12月

2019年1月~12月

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス 感 染 症	尖 圭 コ ン ジ ロ マ	淋 菌 感 染 症	膺 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	54	230	42	194	97	2
2月	54	219	78	116	87	11
3月	53	212	99	132	82	10
4月	54	241	84	123	106	14
5月	54	241	84	125	124	8
6月	54	235	66	146	96	13
7月	54	240	78	146	118	7
8月	55	258	89	109	113	10
9月	55	237	103	115	108	15
10月	55	250	91	146	90	9
11月	55	205	78	107	77	10
12月	55	199	85	105	87	9
合計		2,767	977	1,564	1,185	118

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス 感 染 症	尖 圭 コ ン ジ ロ マ	淋 菌 感 染 症	膺 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	54	4.26	0.78	3.59	1.80	0.04
2月	54	4.06	1.44	2.15	1.61	0.20
3月	53	4.00	1.87	2.49	1.55	0.19
4月	54	4.46	1.56	2.28	1.96	0.26
5月	54	4.46	1.56	2.31	2.30	0.15
6月	54	4.35	1.22	2.70	1.78	0.24
7月	54	4.44	1.44	2.70	2.19	0.13
8月	55	4.69	1.62	1.98	2.05	0.18
9月	55	4.31	1.87	2.09	1.96	0.27
10月	55	4.55	1.65	2.65	1.64	0.16
11月	55	3.73	1.42	1.95	1.40	0.18
12月	55	3.62	1.55	1.91	1.58	0.16
平均		4.24	1.50	2.40	1.82	0.18
合計		50.93	17.98	28.81	21.81	2.17
前年合計		46.46	18.88	19.14	20.11	2.33
当年/前年		1.10	0.95	1.51	1.08	0.93

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2019年1月~12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	139	91	21	21	130	64	71	26		2
2月	54	126	93	44	34	89	27	66	21	1	10
3月	53	143	69	60	39	102	30	61	21		10
4月	54	152	89	58	26	82	41	85	21		14
5月	54	142	99	58	26	87	38	75	49		8
6月	54	153	82	46	20	110	36	78	18	1	12
7月	54	149	91	46	32	94	52	91	27	1	6
8月	55	146	112	44	45	87	22	87	26		10
9月	55	150	87	55	48	84	31	78	30	2	13
10月	55	150	100	50	41	112	34	70	20		9
11月	55	118	87	48	30	75	32	59	18	1	9
12月	55	111	88	51	34	70	35	62	25		9
合計		1,679	1,088	581	396	1,122	442	883	302	6	112

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2019年1月~12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	2.57	1.69	0.39	0.39	2.41	1.19	1.31	0.48		0.04
2月	54	2.33	1.72	0.81	0.63	1.65	0.50	1.22	0.39	0.02	0.19
3月	53	2.70	1.30	1.13	0.74	1.92	0.57	1.15	0.40		0.19
4月	54	2.81	1.65	1.07	0.48	1.52	0.76	1.57	0.39		0.26
5月	54	2.63	1.83	1.07	0.48	1.61	0.70	1.39	0.91		0.15
6月	54	2.83	1.52	0.85	0.37	2.04	0.67	1.44	0.33	0.02	0.22
7月	54	2.76	1.69	0.85	0.59	1.74	0.96	1.69	0.50	0.02	0.11
8月	55	2.65	2.04	0.80	0.82	1.58	0.40	1.58	0.47		0.18
9月	55	2.73	1.58	1.00	0.87	1.53	0.56	1.42	0.55	0.04	0.24
10月	55	2.73	1.82	0.91	0.75	2.04	0.62	1.27	0.36		0.16
11月	55	2.15	1.58	0.87	0.55	1.36	0.58	1.07	0.33	0.02	0.16
12月	55	2.02	1.60	0.93	0.62	1.27	0.64	1.13	0.45		0.16

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2019年1月~12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	130	10	17	2	37	3	73	1		2	257	18
中央区	3	84	14	39		13		23	2	3	2	162	18
みなと	2	98	35	38	8	93	1	32	3		4	261	51
新宿区	7	382	158	178	130	692	331	254	56		8	1,506	683
文京	1	53		8		12		15		1		89	
台東	2	25	123	5	19	11	22	7	173		18	48	355
墨田区	2	31	15	12	3	21	2	14	1		2	78	23
江東区	2	100	13	28	8	29	3	46	3	1	2	204	29
品川区	1	89	1	49	4	18	1	47				203	6
大田区	2	22	12	2	1	7	1	9	1		4	40	19
渋谷区	5	213	120	118	78	114	22	108	8		1	553	229
中野区	2	84	2					60	3	1	17	145	22
杉並	2	93	24	6	2	18	3	28	1			145	30
池袋	3	160	107	67	45	36	18	118	21		14	381	205
北区	1	8				3		3				14	
荒川区	1		18		1		1						20
板橋区	2	22	43	3	8	5	3	11	1		2	41	57
足立	2	10	53		7		3	5	1		6	15	70
江戸川	2	60	85	11	14	11	11	22	3		13	104	126
八王子市	4		57		29		4		10		4		104
町田市	1		44		27		10				3		84
多摩立川	2	6	146		2		3	1	13		9	7	173
多摩府中	3	9	1		8	2		7	1			18	10
多摩小平	1		7								1		8
合 計	55	1,679	1,088	581	396	1,122	442	883	302	6	112	4,271	2,340
定点当たり報告数		30.92	20.01	10.70	7.28	20.67	8.14	16.25	5.56	0.11	2.06	78.64	43.06
前年定点当たり報告数		25.90	20.56	12.27	6.61	13.47	5.99	14.90	5.21	0.11	2.22	66.65	40.59
当年/前年		1.19	0.97	0.87	1.10	1.53	1.36	1.09	1.07	1.01	0.93	1.18	1.06
区中央部圏	10	390	182	107	29	166	26	150	179	4	26	817	442
区南部圏	3	111	13	51	5	25	2	56	1		4	243	25
区西南部圏	5	213	120	118	78	114	22	108	8		1	553	229
区西部圏	11	559	184	184	132	710	334	342	60	1	25	1,796	735
区西北部圏	6	190	150	70	53	44	21	132	22		16	436	262
区東北部圏	3	10	71		8		4	5	1		6	15	90
区東部圏	6	191	113	51	25	61	16	82	7	1	17	386	178
南多摩圏	5		101		56		14		10		7		188
北多摩西部圏	2	6	146		2		3	1	13		9	7	173
北多摩南部圏	3	9	1		8	2		7	1			18	10
北多摩北部圏	1		7								1		8

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2019年1月~12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	65.00	5.00	8.50	1.00	18.50	1.50	36.50	0.50		1.00	128.50	9.00
中央区	3	28.00	4.67	13.00		4.33		7.67	0.67	1.00	0.67	54.00	6.00
みなと	2	49.00	17.50	19.00	4.00	46.50	0.50	16.00	1.50		2.00	130.50	25.50
新宿区	7	60.14	24.45	27.88	20.10	109.24	52.60	40.12	8.88		1.26	237.38	107.29
文京	1	53.00		8.00		12.00		15.00		1.00		89.00	
台東	2	12.50	61.50	2.50	9.50	5.50	11.00	3.50	86.50		9.00	24.00	177.50
墨田区	2	15.50	7.50	6.00	1.50	10.50	1.00	7.00	0.50		1.00	39.00	11.50
江東区	2	50.00	6.50	14.00	4.00	14.50	1.50	23.00	1.50	0.50	1.00	102.00	14.50
品川区	1	89.00	1.00	49.00	4.00	18.00	1.00	47.00				203.00	6.00
大田区	2	11.00	6.00	1.00	0.50	3.50	0.50	4.50	0.50		2.00	20.00	9.50
渋谷区	5	42.60	24.00	23.60	15.60	22.80	4.40	21.60	1.60		0.20	110.60	45.80
中野区	2	42.00	1.00					30.00	1.50	0.50	8.50	72.50	11.00
杉並	2	46.50	12.00	3.00	1.00	9.00	1.50	14.00	0.50			72.50	15.00
池袋	3	53.33	35.67	22.33	15.00	12.00	6.00	39.33	7.00		4.67	127.00	68.33
北区	1	8.00				3.00		3.00				14.00	
荒川区	1		18.00		1.00		1.00						20.00
板橋区	2	11.00	21.50	1.50	4.00	2.50	1.50	5.50	0.50		1.00	20.50	28.50
足立	2	5.00	26.50		3.50		1.50	2.50	0.50		3.00	7.50	35.00
江戸川	2	33.00	42.50	5.50	7.50	5.50	5.50	11.00	1.50		6.5	55.00	63.50
八王子市	4		14.25		7.25		1.00		2.50		1.00		26.00
町田市	1		44.00		27.00		10.00				3.00		84.00
多摩立川	2	3.00	73.00		1.00		1.50	0.50	6.50		4.50	3.50	86.50
多摩府中	3	3.00	0.33		2.67	0.67		2.33	0.33			6.00	3.33
多摩小平	1		7.00								1.00		8.00
合 計	55	1,679	1,088	581	396	1,122	442	883	302	6	112	4,271	2,340
定点当たり報告数		30.92	20.01	10.70	7.28	20.67	8.14	16.25	5.56	0.11	2.06	78.64	43.06

区中央部圏	10	39.00	18.20	10.70	2.90	16.60	2.60	15.00	17.90	0.40	2.60	81.70	44.20
区南部圏	3	37.00	4.33	17.00	1.67	8.33	0.67	18.67	0.33		1.33	81.00	8.33
区西南部圏	5	42.60	24.00	23.60	15.60	22.80	4.40	21.60	1.60		0.20	110.60	45.80
区西部圏	11	53.91	17.59	17.70	12.60	68.58	32.41	33.02	5.83	0.10	2.40	163.27	66.82
区西北部圏	6	31.67	25.00	11.67	8.83	7.33	3.50	22.00	3.67		2.67	72.67	43.67
区東北部圏	3	3.33	23.67		2.67		1.33	1.67	0.33		2.00	5.00	30.00
区東部圏	6	32.50	18.87	8.63	4.20	10.40	2.67	13.77	1.20	0.17	2.83	64.33	29.67
南多摩圏	5		20.20		11.20		2.80		2.00		1.40		37.60
北多摩西部圏	2	3.00	73.00		1.00		1.50	0.50	6.50		4.50	3.50	86.50
北多摩南部圏	3	3.00	0.33		2.67	0.67		2.33	0.33			6.00	3.33
北多摩北部	1		7.00								1.00		8.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2019年1月~12月

	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳						1						1
1~4歳												
5~9歳												
10~14歳		5	1	1							1	6
15~19歳	28	83	3	19	11	13	20	12		8	62	135
20~24歳	306	341	59	81	99	126	195	79		14	659	641
25~29歳	327	261	83	84	196	120	162	67	2	25	770	557
30~34歳	287	160	91	53	214	75	131	32	1	11	724	331
35~39歳	241	107	85	50	165	32	146	26		12	637	227
40~44歳	165	52	72	23	123	24	83	31	1	8	444	138
45~49歳	137	40	57	22	113	26	72	25		15	379	128
50~54歳	105	32	36	28	95	10	30	18		3	266	91
55~59歳	46	5	38	14	59	10	24	8	1	3	168	40
60~64歳	22		21	11	23	1	14	2	1	2	81	16
65~69歳	13	1	18	5	13	3	5	1			49	10
70歳以上	2	1	17	5	11	1	1	1		11	31	19
合 計	1,679	1,088	581	396	1,122	442	883	302	6	112	4,271	2,340

表10 検査結果別報告数(基幹) 2019年1月~12月

病原体	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	合計
<i>Streptococcus agalactiae</i>	3					3
<i>Listeria monocytogenes</i>	2					2
<i>Staphylococcus aureus</i>	2					2
<i>Clostridium perfringens</i>	1					1
<i>Escherichia coli</i> K1	1					1
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1					1
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1					1
<i>Staphylococcus sp.</i>	1					1
Group G Streptococcus	1					1
Other bacteria	1					1
Mumps virus			2			2
Varicella-zoster virus			2			2
Herpes simplex virus nt			1			1
Enterovirus nt.			1			1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>				279		279
<i>Chlamydomphila pneumoniae</i>				36		36
<i>Chlamydia sp.</i>				1		1
Rotavirus group unknown					187	187
Negative	5	12				17
記載無し	20	30	70	2	1	123
合 計	39	48	349	39	188	663

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア インフルエンザ

① 2018/2019年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年9月（第36週）を境にシーズン分けがされており、2019年第1週～第35週は2018/2019年シーズン、2019年第36週～第52週は2019/2020年シーズンとなる。2018/2019年シーズン（2018年第36週～2019年第35週）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より578検体が搬入された。遺伝子検査ではAH1pdm09 163件（33.7%）、AH3亜型 275件（56.9%）、B型45件（Victoria系統43件：8.9%、B型Yamagata系統2件：0.4%）の計483件が検出され、流行の半数以上をAH3亜型が占めていた（図1a、図2a）。ウイルス分離検査では、AH1pdm09 142株、AH3亜型 231株、B型34株（Victoria系統33株、Yamagata系統1株）の計407株が分離された。

② 2019/2020年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2019/2020年シーズン（2019年第36週～2020年第13週）は、インフルエンザ病原体定点医療機関より509検体が搬入された。遺伝子検査ではAH1pdm09 343件（82.5%）、AH3亜型 7件（1.7%）、B型66件（Victoria系統66件：15.9%、Yamagata系統0件：0%）の計416件が検出され、流行の8割以上をAH1pdm09が占めていた（図1b、図2b）。2019/2020年シーズンは、第38週から都内流行期に入り、第46週から検出数の増加が見られたが、ピーク時の検出数は40件で2018/2019年シーズンのピーク（58件）よりも少なかった。ウイルス分離検査ではAH1pdm09 323株、AH3亜型 7株、B型64株（Victoria系統64株、Yamagata系統0株）の計394株が分離された。

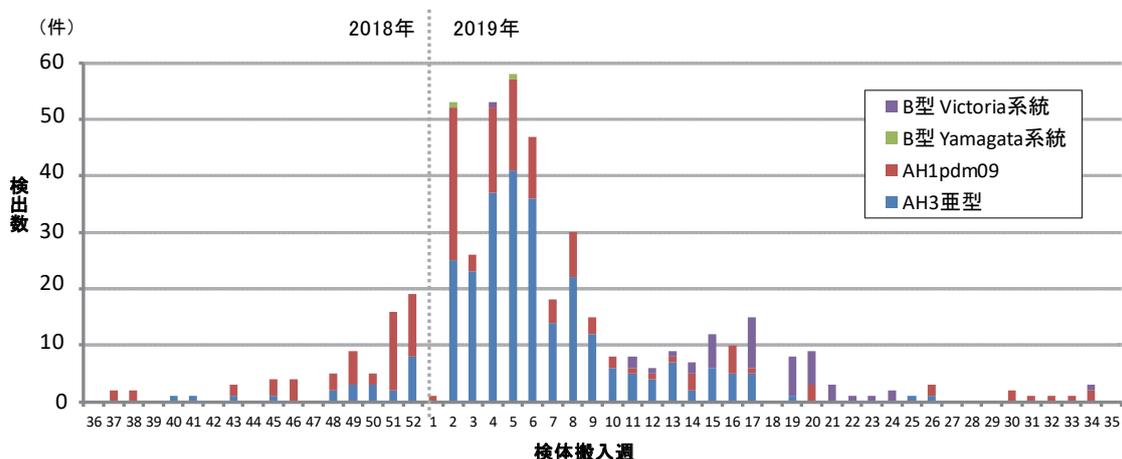


図 1a. 2018/2019年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数

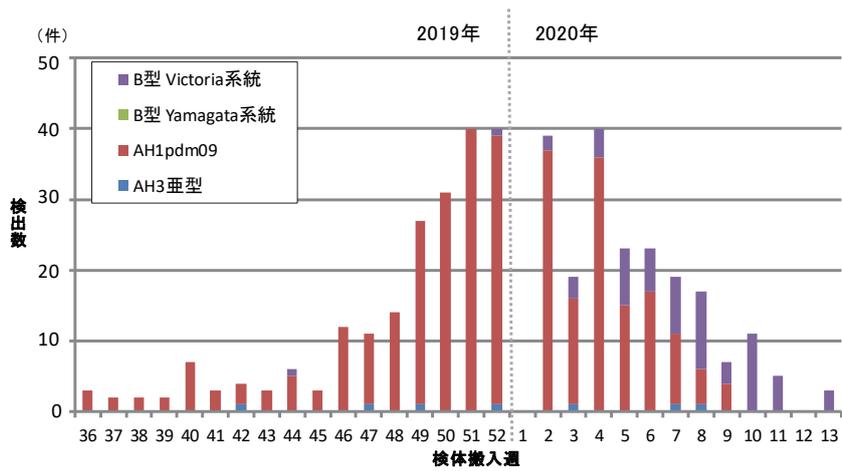


図 1b. 2019/2020 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出数 (2020 年 3 月末現在)

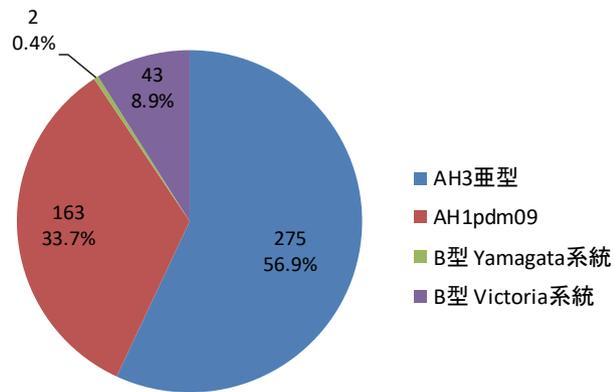


図 2a. 2018/2019 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況

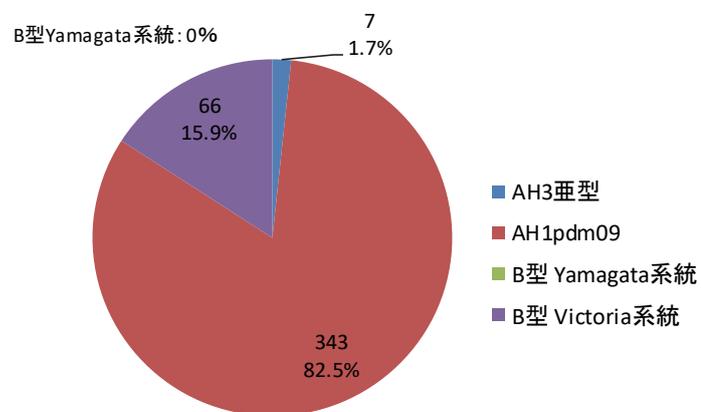


図 2b. 2019/2020 年シーズンのインフルエンザウイルス遺伝子検出状況 (2020 年 3 月末現在)

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、インフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested PCR 検査によって得られたヘマグルチニン (HA) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

AH1pdm09 は、2018/2019 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/Singapore/GP1908/2015) を比較したところ、解析範囲 (569 塩基) の遺伝子変異は 8~13 塩基 (塩基一致率: 97.7%~98.5%) であった。これらの株は系統樹上ではワクチン株と同じクレードに属し、HI 試験による抗原性状ではワクチン株と同等の反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された (図 3)。2019/2020 年シーズンはワクチン株が A/Singapore/GP1908/2015 から A/Brisbane/02/2018 に変更された。2019/2020 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲で遺伝子変異は 5~7 塩基 (塩基一致率: 98.7%~99.1%) であり、系統樹上ではワクチン株と同じクレードに属し、HI 試験による抗原性状を比較したところ、ワクチン株と同等の反応性がみられた。

AH3 亜型は、2018/2019 年シーズンの流行株とワクチン株 (A/Singapore/INFIMH-16-0019/2016) を比較すると、解析範囲 (329 塩基) の遺伝子変異は 3~9 塩基 (塩基一致率: 97.2%~99.0%) であった。系統樹上では、流行株の多くはワクチン株と同じクレードに属していたが、ワクチン株とは異なるクレードに属する株もあった (図 4)。HA 価が 8 倍未満のため、ほとんどの分離株で HI 試験が実施できなかったが、HA 価が 8 倍以上あり HI 試験が実施できた 1 株は、ワクチン株と同等の反応性が見られた。2019/2020 年シーズンはワクチン株が A/Singapore/INFIMH-16-0019/2016 から A/Kansas/14/2017 に変更された。2019/2020 年シーズンの流行株とワクチン株を比較すると、解析範囲で 15~20 の塩基の変異 (塩基一致率: 93.9%~95.4%) がみられ、系統樹上では流行株はワクチン株と異なるクレードに属していた (図 4)。分離株の HA 価は、すべて 8 倍未満で HI 試験が実施できなかった。

B 型 Victoria 系統では、2018/2019 年シーズンの流行株とワクチン株 (B/Maryland/15/2016) では、解析範囲 (288 塩基) での遺伝子変異は 6~7 塩基 (塩基一致率: 97.5~97.8%) であった。HI 試験では、33 株中 19 株でワクチン株抗体との反応性の低下が見られ、14 株はワクチン株と同等の反応性が見られた。2019/2020 年シーズンの流行株とワクチン株では、解析範囲での遺伝子変異は 5~7 塩基 (塩基一致率: 97.1%~97.8%) であり、HI 試験による抗原性状を比較したところ、ワクチン株と同等の反応性がみられた。

B 型 Yamagata 系統では、2018/2019 年シーズンの検出株 (1 株) とワクチン株 (B/Phuket/3073/2013) を比較すると、解析範囲 (288 塩基) での遺伝子変異は 11 塩基、相同性は 96.1%であった。HI 試験では、ワクチン株と同等の反応性が見られた。2019/2020 年シーズンは、B 型 Yamagata 系統は検出されなかった。

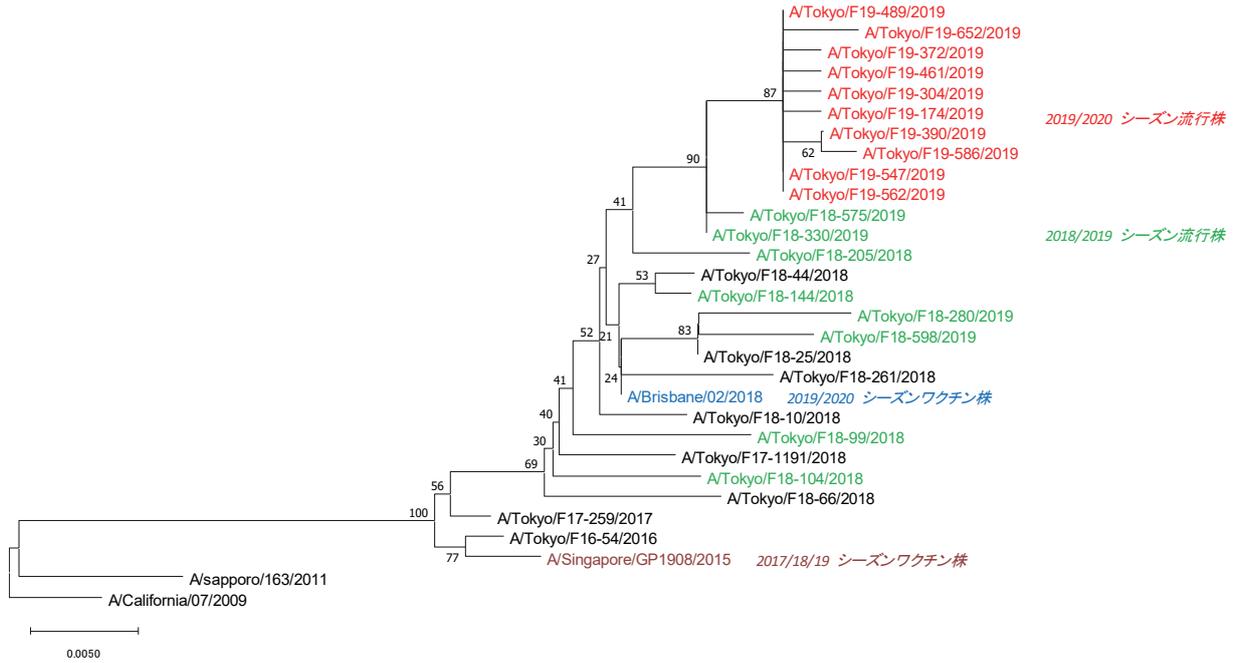


図3. 東京都におけるAH1pdm09インフルエンザウイルスのHA分子系統樹

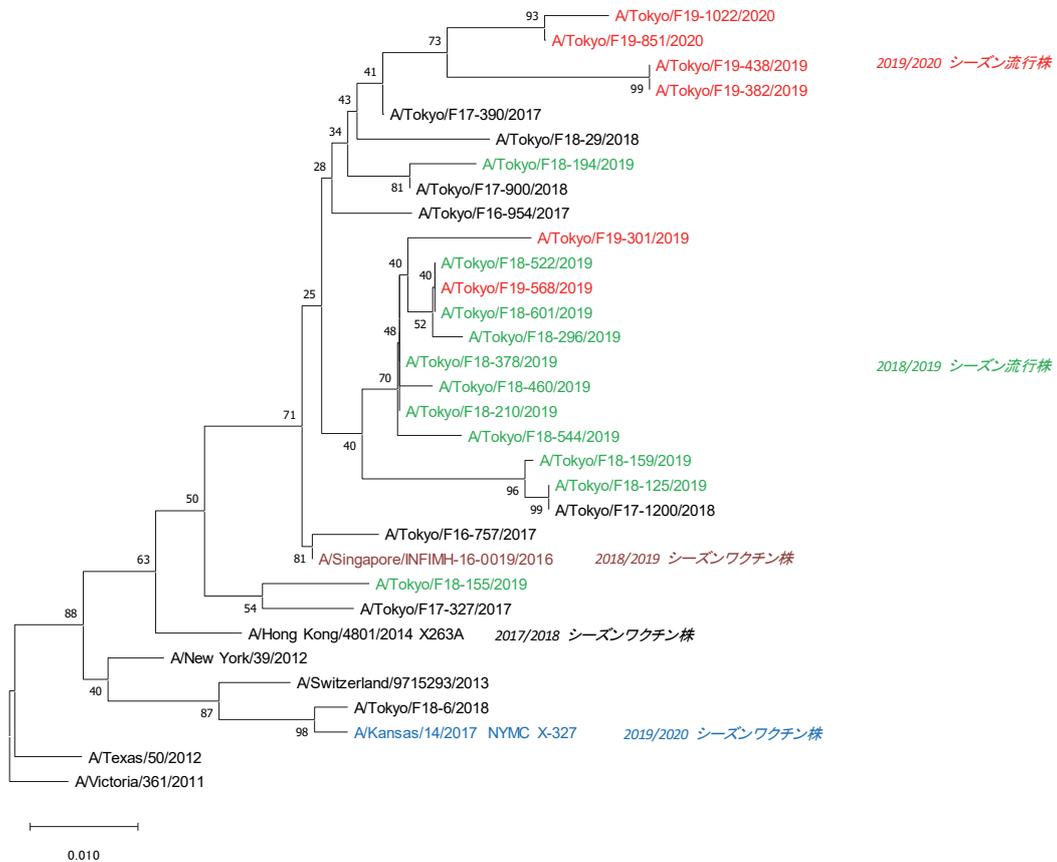


図4. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA分子系統樹

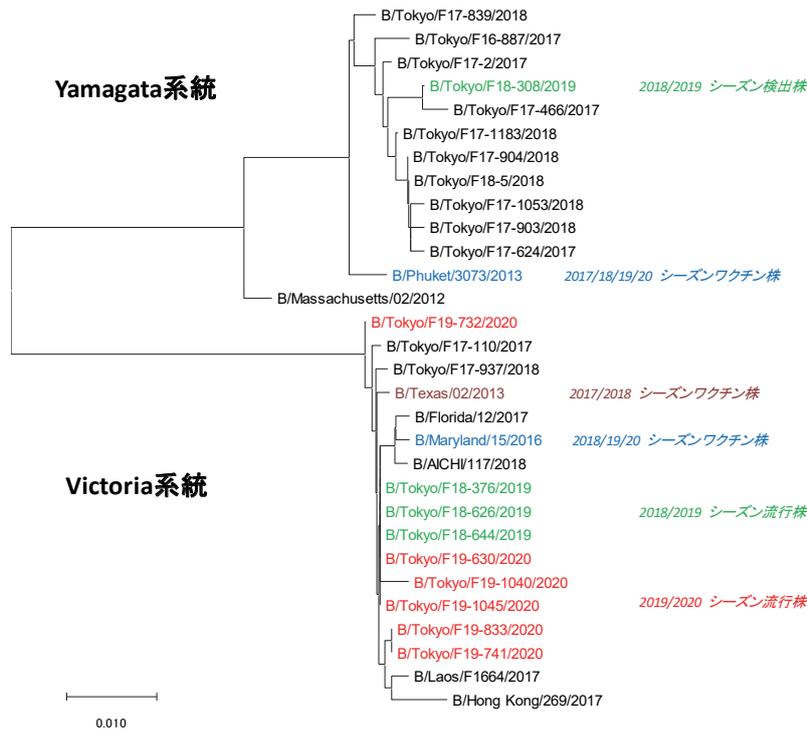


図 5. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

④ その他のウイルスの検出状況

インフルエンザウイルスの検査と同時にエンテロウイルス、アデノウイルス等の遺伝子検査を行った。2018/2019 年シーズンは 578 検体が搬入され、エンテロウイルス 8 件、ライノウイルス 9 件、アデノウイルス 17 件が検出された (図 6a)。また、ヘルペスウイルス 1 型が検出された検体が 3 件あり、うち 1 件は単独で検出され、2 件でインフルエンザウイルス (AH1pdm09 : 1 件、AH3 亜型 : 1 件) が同時に検出された。これらに加え、ヒトパルボウイルス B19 とインフルエンザ (AH3 亜型) が同時に検出された検体が 1 件あった。2019/2020 年シーズンでは 509 検体が搬入され、エンテロウイルス 8 件、ライノウイルス 18 件、アデノウイルス 8 件が検出された (図 6b)。両シーズンともライノウイルスとアデノウイルスは、インフルエンザの流行期ではインフルエンザウイルスと同時に検出される例が多かった。

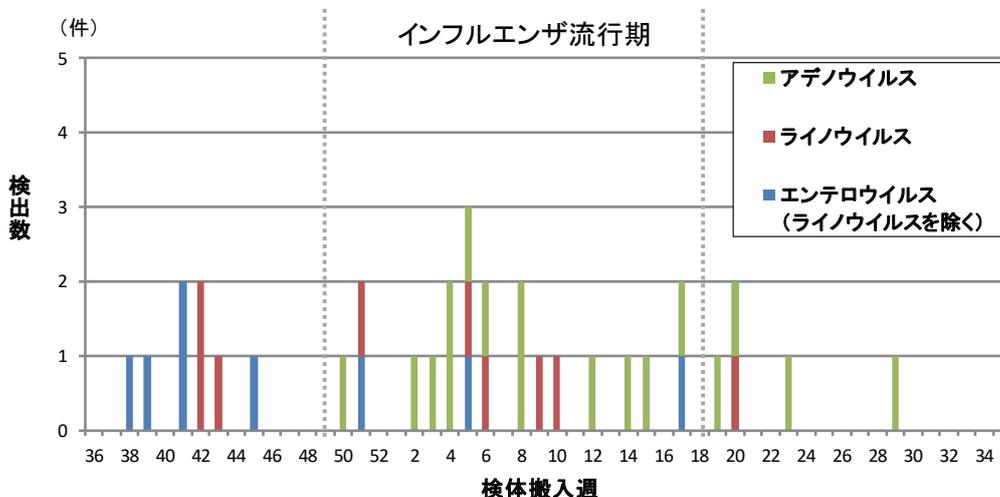


図 6a. 2018/2019 年シーズンのエンテロウイルス、アデノウイルス遺伝子検出数

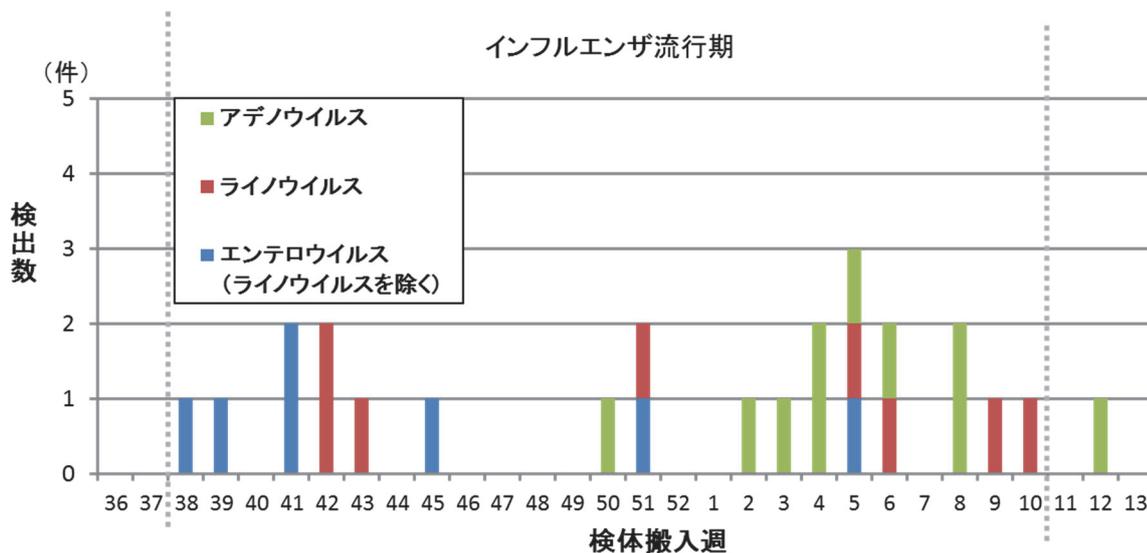


図 6b. 2019/2020 年シーズンのエンテロウイルス、アデノウイルス遺伝子検出数 (2020 年 3 月末現在)

イ RS ウイルス感染症

小児科定点医療機関で RS ウイルス感染症と診断され、当センターに搬入された患者検体 35 件について RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。35 件中 31 件から RS ウイルス遺伝子 (A 型 22 件、B 型 9 件) が検出され、2018 年は B 型が多数をしめていたが 2019 年は A 型が多く検出された。さらに RS ウイルス A 型 10 株、B 型 3 株が分離された (表 1)。RS ウイルスの検出状況を搬入月別に見ると、ピークの 8 月に B 型の検出はみられなかったが、5 月から 11 月に A,B 型を含めて検出が集中していた (図 7)。

表 1. RS ウイルス感染症患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
RS ウイルス A 型	22	10
RS ウイルス B 型	9	3
陰性	4	22

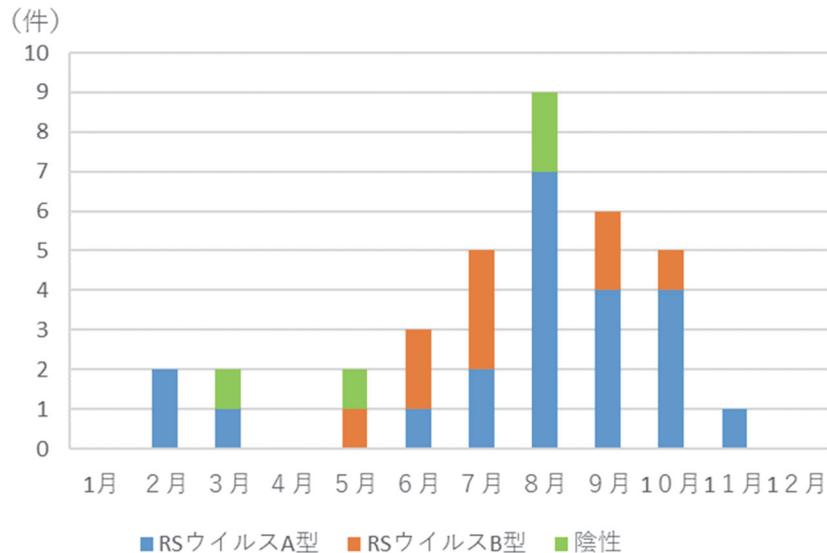


図 7. RS ウイルス感染症患者検体からのウイルス検出状況

ウ 咽頭結膜熱

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され、当センターに搬入された患者検体 47 件についてアデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。47 件中 29 件からアデノウイルス遺伝子（2 型：7 件、3 型：7 件、1 型：5 件、5 型：3 件、7 型：3 件、4 型・54 型：各 1 件、型別不能：2 件）が検出された。また、2 件からヒトヘルペスウイルス 6 型、1 件からヒトヘルペスウイルス 6 型および RS ウイルス B 型がそれぞれ検出された（表 2）。加えて、アデノウイルス 1 型：4 件、2 型：4 件、5 型：3 件、3 型：1 件、型別不能：2 件およびコクサッキーウイルス A10 型 1 件がそれぞれ分離された。

表 2. 咽頭結膜熱患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出数	分離件数
アデノウイルス 1 型	5	4
アデノウイルス 2 型	7	4
アデノウイルス 3 型	7	1
アデノウイルス 4 型	1	
アデノウイルス 5 型	3	3
アデノウイルス 7 型	3	
アデノウイルス 54 型	1	
アデノウイルス型別不能	2	2
ヒトヘルペスウイルス 6 型	2	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	1	
コクサッキーウイルス A10 型		1
RS ウイルス B 型	1	
陰性	15	32

月別の検査件数については6月が最多で、咽頭結膜熱は「プール熱」とも呼ばれ一般に夏に発生が多いと認識されるが、夏季の検査数は少ない傾向がみられ、12月も5月と検査数は同数であった。(図8)。

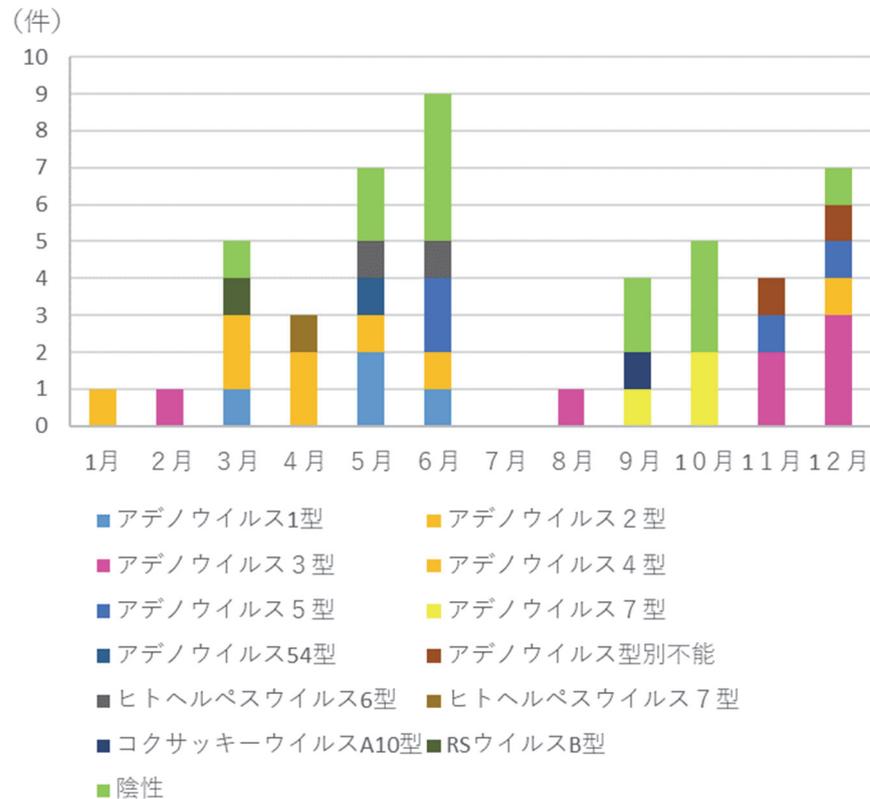


図8. 咽頭結膜熱患者検体からのウイルス検出状況(重複検出を含む)

エ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第36週から翌年の第35週までの1年間を流行シーズンとしているため、2019年第1週～第35週は2018/2019年シーズン、第36週～第52週は2019/2020年シーズンとなる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎と診断され、当センターに搬入された患者検体について、小児科定点の検体についてはノロウイルス、サポウイルス、A群ロタウイルス、アデノウイルス及びアストロウイルス、基幹定点の検体ではA群ロタウイルス及びC群ロタウイルスの遺伝子検査を実施した。

小児科定点医療機関から搬入された84件について検査を実施した結果、54件からノロウイルス等が検出された。内訳は、ノロウイルスが最も多く22件、A群ロタウイルスが17件、サポウイルスが6件、アデノウイルスが3件、アストロウイルスが3件であった。ノロウイルスとA群ロタウイルスの重複検出が1件、サポウイルスとA群ロタウイルスの重複検出も2件確認された。ノロウイルスの遺伝子型についてはGⅡ.4が多い傾向がみられた(表3及び図9)。

基幹定点医療機関から搬入された8件について検査を実施した結果、A群ロタウイルスが8件すべてから検出され、C群ロタウイルスは検出されなかった。

表 3. 感染性胃腸炎患者から検出されたウイルス遺伝子の内訳（小児科定点）

検出遺伝子	検出数
ノロウイルス G I . 2	1
ノロウイルス G II . 2	1
ノロウイルス G II . 3	4
ノロウイルス G II . 4	10
ノロウイルス G II . 6	6
サポウイルス	6
A 群ロタウイルス	17
アデノウイルス	3
アストロウイルス	3
ノロウイルス G II . 3, A 群ロタウイルス	1
サポウイルス, A 群ロタウイルス	2
計	54

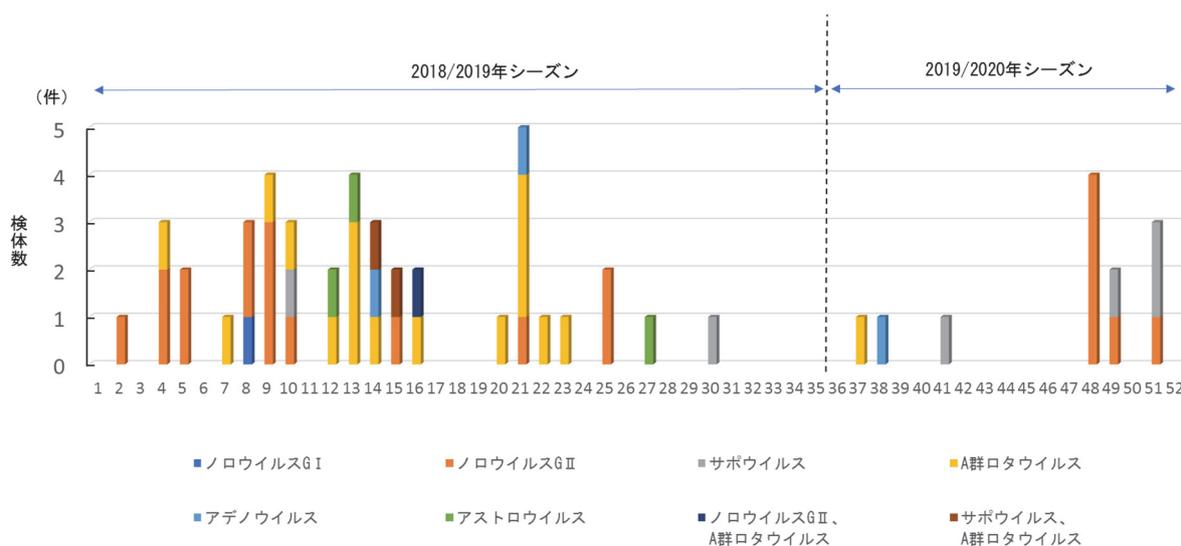


図 9. 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体 30 件について、水痘帯状疱疹ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。30 検体中 12 件から当該遺伝子が検出され、1 検体からはライノウイルスおよびヘルペスウイルス 6 型と 7 型が、他の 1 検体からコクサッキーウイルスがそれぞれ検出された。また、1 件からエコーウイルス 25 型が分離された（表 4、図 10）。

表 4. 水痘患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
水痘帯状疱疹ウイルス	12	
ライノウイルス	1	
ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	1	
コクサッキーウイルス A6 型	1	
エコーウイルス 25 型		1
陰性	16	29

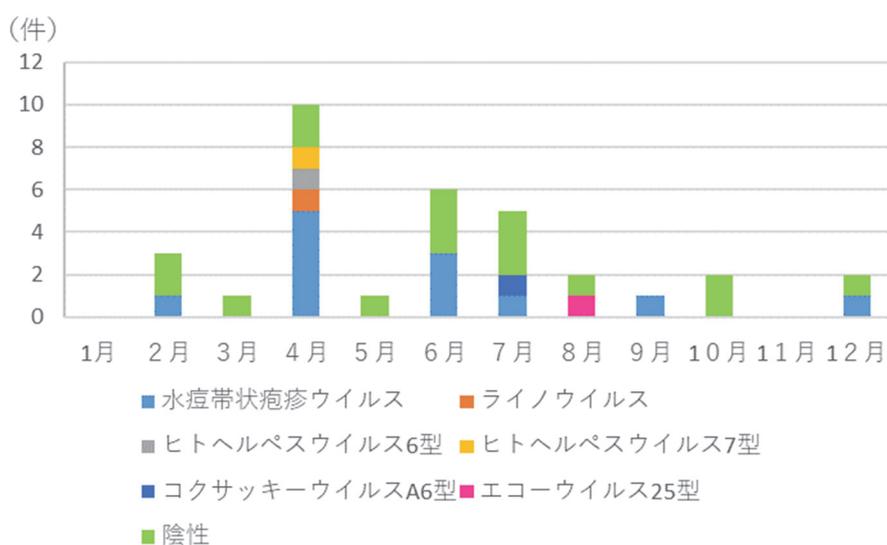


図 10. 水痘患者検体からのウイルス検出状況 (重複検出を含む)

カ 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され、当センターに搬入された患者検体 134 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。複数のウイルス遺伝子が検出された検体もみられ、検出されたエンテロウイルスはコクサッキーウイルス A6 型が 66 件と最多で、次いでコクサッキーウイルス A16 型が 26 件であった。エンテロウイルス以外では、パレコウイルス 9 件、単純ヘルペスウイルス 1 型 1 件が検出され、2019 年は夏季にパレコウイルスの検出がみられた。分離試験ではコクサッキーウイルス A6 型が 9 株、A16 型が 16 株、10 型が 1 株、パレコウイルスが 2 株、エコーウイルス 11 型が 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型が 1 株、型別不能であったエンテロウイルスが 1 株それぞれ分離された (表 5)。搬入月別に検出状況を見ると、7 月がピークであり、昨年と傾向が異なっていたほか、前半はコクサッキーウイルス A6 型が主流であったが、後半は A16 型が主に検出されていた。(図 11)。

表 5. 手足口病患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出数	分離件数
コクサッキーウイルス A6 型	66	9
コクサッキーウイルス A16 型	26	16
コクサッキーウイルス A5 型	1	
コクサッキーウイルス A10 型	1	1
ライノウイルス	4	
エコーウイルス 11 型	1	1
エンテロウイルス型別不能	3	1
パレコウイルス 1 型	4	1
パレコウイルス 3 型	2	
パレコウイルス 6 型	1	
パレコウイルス型別不能	1	1
ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	2	
単純ヘルペスウイルス 1 型	1	1
陰性	26	103

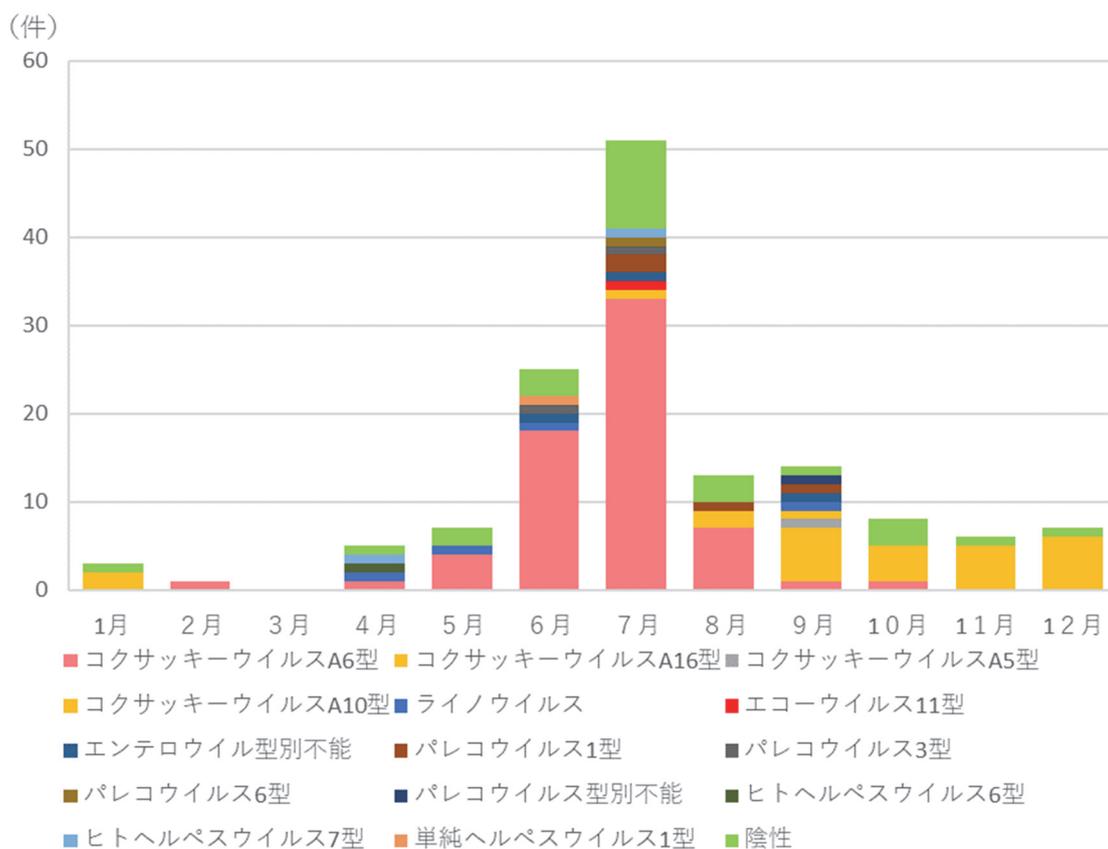


図 11. 手足口病患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

キ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され、当センターに搬入された患者検体 29 件についてヒトパルボウイルス B19 等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。29 検体中 12 件からヒトパルボウイルス B19 が検出された。その他、アデノウイルス 2 型が 1 件検出された（表 6、図 12）。

表 6. 伝染性紅斑患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
ヒトパルボウイルス B19	12	
アデノウイルス 2 型		1
陰性	17	28

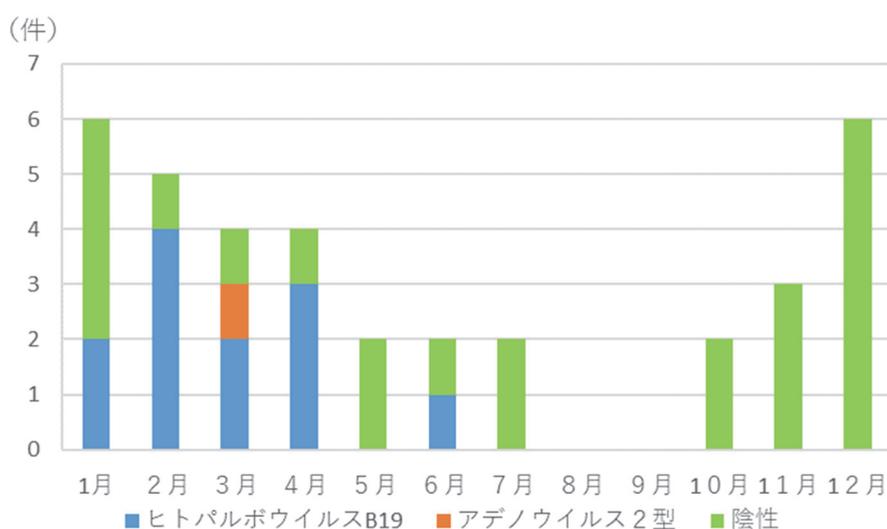


図 12. 伝染性紅斑患者検体からのウイルス検出状況

ク 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発しんと診断され、当センターに搬入された患者検体 36 件について遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。36 件中 17 件からヒトヘルペスウイルス 6 型、2 件からヒトヘルペスウイルス 7 型、1 件からヒトパルボウイルス B19 型が検出された。また、風しんウイルスが 1 件検出されたが、これはヒトヘルペスウイルス 6 型との重複感染であった（表 7）。検査数にばらつきはみられたものの、ほぼ一年を通じてヒトヘルペスウイルス 6 型が検出された（図 13）。

表 7. 突発性発しんの患者から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出数	分離件数
ヒトヘルペスウイルス 6 型	17	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	2	
ヒトパルボウイルス B19 型	1	
風しんウイルス	1	
陰性	16	36

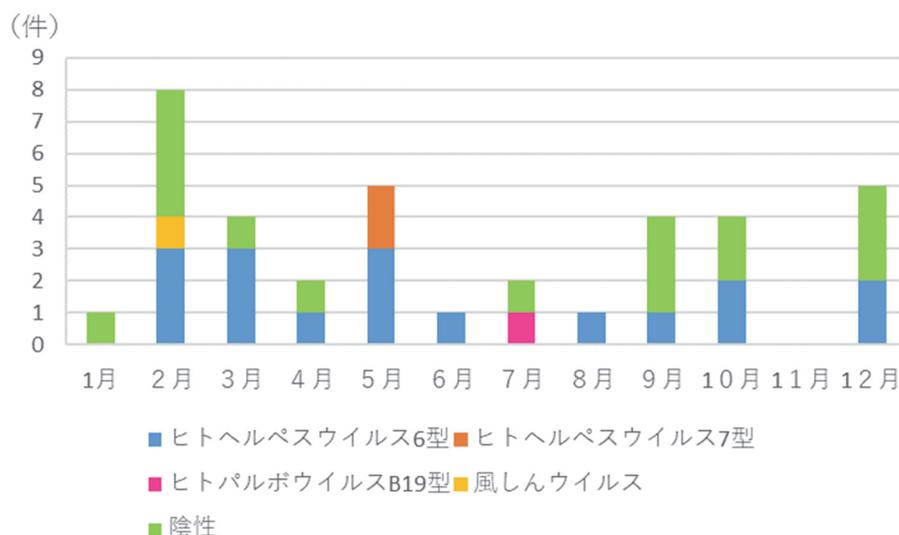


図 13. 突発性発しん患者検体からのウイルス検出状況（重複検出を含む）

ケ ヘルパンギーナ

小児科定点医療機関でヘルパンギーナと診断され、当センターに搬入された患者検体 23 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、最も多く検出されたのはコクサッキーウイルス A6 型の 8 件であった（表 8）。また遺伝子検査で検出されなかったコクサッキーウイルス A9 型、アデノウイルス 1 型がそれぞれ 1 株ずつ分離された。搬入月別に検出状況を見ると、7 月をピークとして、5 月から 10 月までの間、なんらかのウイルスが検出された（図 14）。

表 8. ヘルパンギーナ患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
コクサッキーウイルス A6 型	8	
コクサッキーウイルス A5 型	5	
コクサッキーウイルス A2 型	1	
コクサッキーウイルス A10 型	1	
コクサッキーウイルス A9 型		1
ライノウイルス	1	
アデノウイルス 1 型		1
陰性	7	21

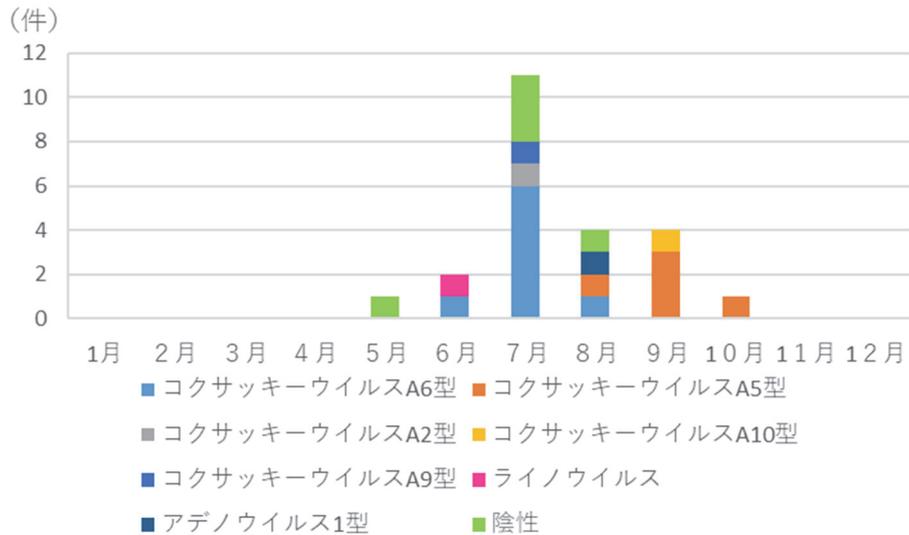


図 14. ヘルパンギーナ患者検体からのウイルス検出状況

コ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 43 件についてムンプスウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。このうち 4 件からムンプスウイルス、6 件から EB ウイルス遺伝子が検出され、ムンプスウイルス、コクサッキーウイルス A5 型および 10 型、エコーウイルス 11 型がそれぞれ 1 株ずつ分離された（表 9、図 15）。

表 9. 流行性耳下腺炎の患者から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
ムンプスウイルス	4	1
EB ウイルス	6	
コクサッキーウイルス A5 型		1
コクサッキーウイルス A10 型		1
エコーウイルス 11 型		1
陰性	33	39

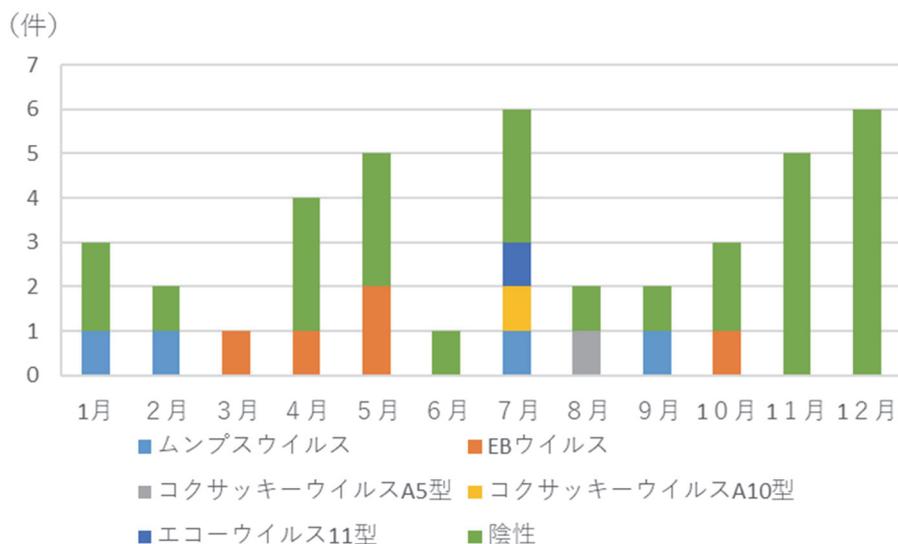


図 15. 流行性耳下腺炎患者検体からのウイルス検出状況

サ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され、当センターに搬入された患者検体 159 件について麻しんウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、ヒトヘルペスウイルス 6 型・7 型、エンテロウイルス、アデノウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。

遺伝子検査では、99 件（重複検出を含む）からウイルス遺伝子が検出され、最も多く検出されたのはヒトヘルペスウイルス 6 型 26 件であり、次いでライノウイルス 18 件、コクサッキーウイルス A6 型 16 件、ヒトパルボウイルス B19 が 12 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型 7 件であった。昨年もっとも多く検出されたコクサッキーウイルス A9 型は検出されなかった。また、麻しん・風しんウイルスについては遺伝子解析による型別を実施し、麻しんウイルス 4 件は全てワクチン株、風しんウイルス 4 件のうち 1 件がワクチン株であった。ウイルス分離試験では、遺伝子検査で検出されなかったアデノウイルス 2 型、RS ウイルス、コクサッキーウイルス A10 型、パレコウイルス 3 型がそれぞれ 1 株分離された（表 10）。

なお、16 検体から遺伝子の検出されたコクサッキーウイルス A6 型は手足口病やヘルパンギーナからも多く検出されており、2019 年はこのウイルスの大きな流行が考えられた（図 16）。

表 10. 不明発しん症患者検体から検出されたウイルスの内訳（重複検出を含む）

	遺伝子検出数	分離件数
ヒトヘルペスウイルス 6 型	26	
ヒトヘルペスウイルス 7 型	7	
ヒトパルボウイルス B19 型	12	
ライノウイルス	18	1
コクサッキーウイルス A6 型	16	4
コクサッキーウイルス A10 型	2	
コクサッキーウイルス A16 型	1	1
コクサッキーウイルス B3 型	1	1
エコーウイルス 18 型	1	1
エコーウイルス 25 型	1	2
エンテロウイルス型別不明	1	
RS ウイルス		1
EB ウイルス	2	
アデノウイルス 2 型		1
パレコウイルス 3 型		1
麻しんウイルス	4	
風しんウイルス	4	
陰性	75	147

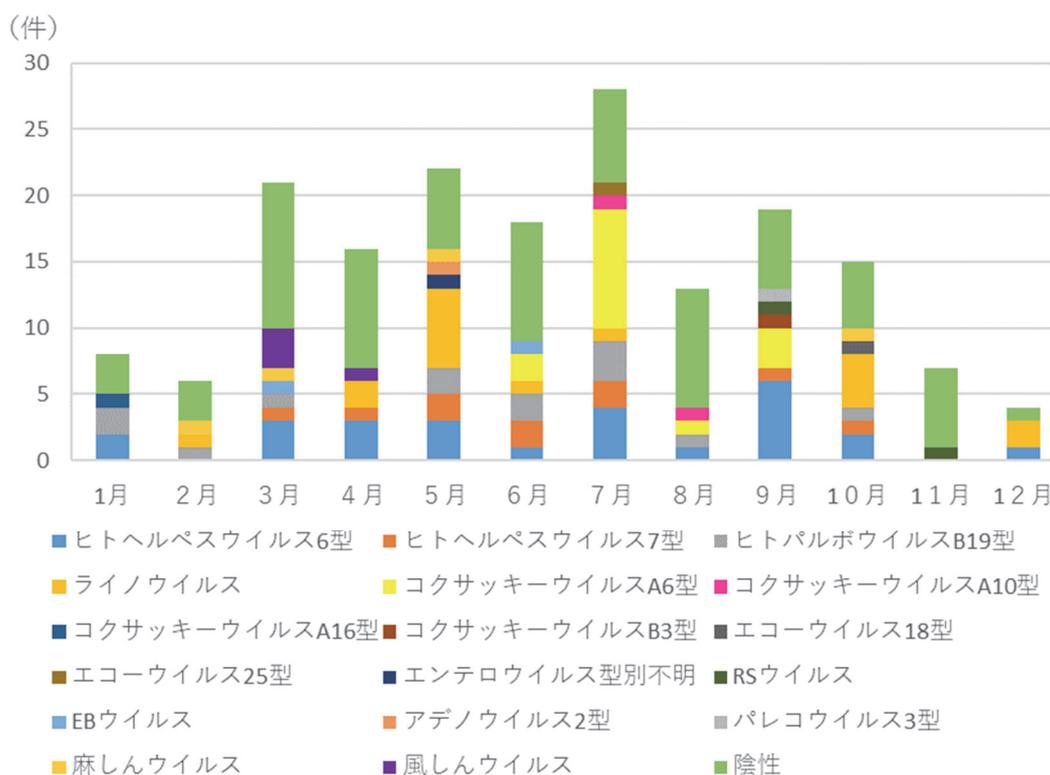


図 16. 不明発しん症患者検体からの月別ウイルス検出状況（重複検出を含む）

シ 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され、当センターに搬入された患者検体 11 件についてアデノウイルス、エンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、遺伝子検査でライノウイルスが 1 件検出された。

ス 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され、当センターに搬入された患者検体 27 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。その結果、3 件からエンテロウイルス、1 件からヒトヘルペスウイルス 6 型の遺伝子が検出された。また、分離試験ではエコーウイルスが 1 株、コクサッキーウイルス 2 株、それぞれ分離された（表 11、図 17）。

表 11. 無菌性髄膜炎患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	
エコーウイルス 30 型	1	1
コクサッキーウイルス A6 型	1	
コクサッキーウイルス B5 型	1	1
陰性	23	25

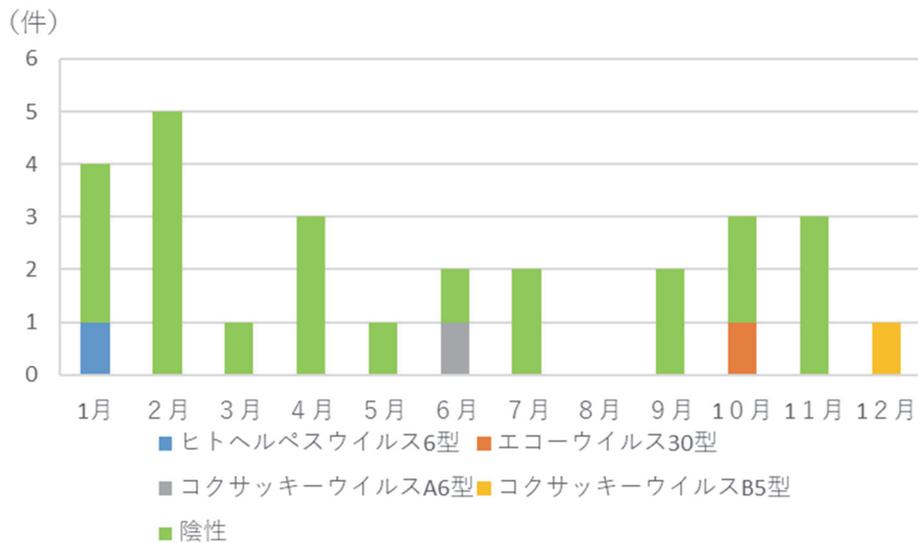


図 17. 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

(2) 眼科病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 11 件について、アデ

ノウイルス及びエンテロウイルスの遺伝子検査及び分離検査を実施した。このうち9件からアデノウイルス遺伝子が検出され、1件からアデノウイルス2型が分離された（表12、図18）。

表 12. 流行性角結膜炎患者検体から検出されたウイルスの内訳

	遺伝子検出数	分離件数
アデノウイルス2型		1
アデノウイルス7型	2	
アデノウイルス46型	1	
アデノウイルス54型	5	
アデノウイルス56型	1	
陰性	2	10

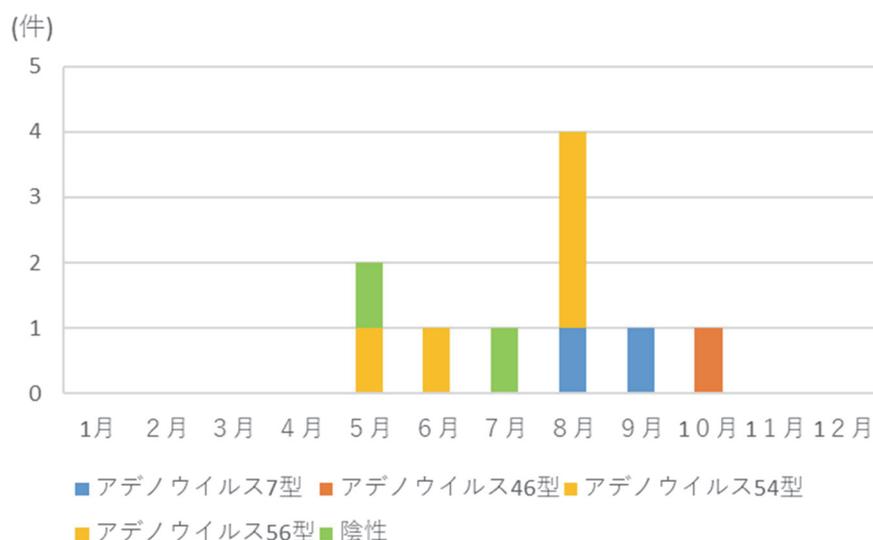


図 18. 流行性角結膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

(3) 性感染症 (STI) 病原体定点医療機関からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

STI 病原体定点医療機関から 43 件（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、又は水泡内容物）が搬入された。このうち、43 件中 9 件（20.9%）から HSV-1 型、18 件（41.9%）から HSV-2 型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

STI 病原体定点医療機関から 38 件（陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料）が搬入された。このうち、38 件中 35 件（92.1%）から HPV 遺伝子が検出された。1 検体から 1 種類の HPV 遺伝子型が検出されたのは 28 件（73.7%）で、子宮頸がん等のリスク評価による分類で見ると、未分類リスク群に分類されたものが 1 件（22 型）、Low リスク群に分類されたものが 27 件であった [6 型：13 件（48.1%）、11 型：13 件（48.1%）、61 型：1 件（3.7%）。ま

た、7件からは同時に2種類のHPV遺伝子が検出された [HighリスクとLowリスク:5件(71.4%)、LowリスクとLowリスク:2件(28.6%)]。

ウ ウイルス性尿道炎

STI病原体定点医療機関から51件(尿又は陰部尿道擦過物)が搬入された。

アデノウイルス(ADV)については、ヘキソン領域を対象としたPCR法によるADV遺伝子の検出を行った。HSVについては、リアルタイムPCR法によるHSV(HSV-1型及びHSV-2型)の遺伝子検査を実施した。その結果、51件中1件(2.0%)からHSV-2型が検出され、HSV-1型およびアデノウイルスは検出されなかった。

(4) 積極的疫学調査による搬入検体

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群(MERS コロナウイルス)

都内医療機関でMERS コロナウイルス感染疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体2件について遺伝子検査を実施した。その結果、MERS コロナウイルスについてはいずれも陰性であった。なお、類症鑑別のために行った季節性インフルエンザ検査でも陰性であった。

② 鳥インフルエンザ(A/H5N1亜型、A/H7N9亜型)

都内医療機関で鳥インフルエンザウイルス感染疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体はなかった。

イ 四類感染症

① A型肝炎

医療機関でA型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体111件について遺伝子検査を実施した。107件からA型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型はIA型103件、IB型1件、IIIA型3件であった。

② E型肝炎

医療機関でE型肝炎と診断され、当センターに搬入された患者検体91件について遺伝子検査を実施した。43件からE型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行った結果、遺伝子型は3型42件、4型1件であった。

③ 蚊媒介感染症(デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症)

都内の医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体129件(血液107件、尿22件)について検査を実施した。その結果、海外感染疑い例のうち56件からデングウイルス遺伝子(1型22件、2型20件、3型11件、4型3件)、3件からチクングニアウイルス遺伝子が検出された。なお、国内感染を疑う検体は全て陰性であった。

④ リケッチア等関連疾患（Q 熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病）

都内の医療機関でリケッチア関連疾患疑いと診断され、保健所を通じて当センターに患者検体17件（つつが虫病 5件、日本紅斑熱 2件、ライム病 4件、リケッチア等関連疾患疑い6件）が搬入された。つつが虫患者の急性期血液 5検体中 1件から *Orientia tsutsugamushi* の Kawasaki 株様遺伝子を検出した。リケッチア症を疑われた4検体からは病原性のあるリケッチアの遺伝子は検出されず、ライム病疑いの1検体からも病原性のあるボレリアの遺伝子は検出されなかった。また、ライム病を疑う4件について抗体検査を実施したところ、1件についてライム病のボレリアに対するIgM抗体が陽性であった。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内の医療機関で急性脳炎と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 2 件についてエンテロウイルスの遺伝子検査を実施したが、エンテロウイルスは検出されなかった。うち 1 件については RS ウイルス遺伝子が検出された。

② 水痘（入院を要するもの）

都内の医療機関で水痘と診断され入院に至った事例で、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 10 件について水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）の遺伝子検査を行ったところ、6 件から VZV 遺伝子が検出された。

③ 急性弛緩性麻痺

都内の医療機関で急性弛緩性麻痺と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 15 件について、エンテロウイルスの遺伝子検査を実施したところ、いずれも陰性であった。

④ 麻しん及び風しん

都内医療機関で麻しん、あるいは風しん（疑い含む）と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 1,436 件について麻しんウイルス及び風しんウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、麻しんウイルス遺伝子が 112 件から検出され、遺伝子型別を行ったところ D8 型が 65 件、B3 型が 43 件、A 型が 4 件であった。一方、風しんウイルス遺伝子は 583 件から検出され、遺伝子型別を行ったところ 1E 型が 531 件、2B 型が 8 件、1a 型が 7 件、型別不能が 37 件であった。

また、麻しん及び風しんウイルスが陰性となった検体については、病原体レファレンス事業によりヒトパルボウイルス B19 等の遺伝子検索も実施した。その結果、ヒトパルボウイルス B19 は 46 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型は 30 件検出された。

2 細菌検査結果

(1) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

患者由来株 6 株(6 事例)が搬入された。血清型別試験を実施した結果、1 群が 4 株、2 群が 1 株、6 群が 1 株であった。

(2) 五類感染症(全数把握対象)の病原体検索

ア カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

患者由来株 78 株が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella aerogenes* と *Klebsiella pneumoniae* が最も多く 17 株、次いで *Enterobacter cloacae* が 10 株、*Klebsiella oxytoca* が 7 株、*Escherichia coli* と *Citrobacter freundii* が 6 株、*Serratia marcescens* が 2 株であった。その他、*Proteus mirabilis* なども搬入された。

PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、NDM 遺伝子保有株が 4 株であった。また、IMP-1 遺伝子保有株が 20 株、KPC 遺伝子保有株が 1 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 13 株、CTX-M-2 group 遺伝子保有株が 6 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 7 株、EBC 遺伝子保有株が 6 株、CIT 遺伝子保有株が 4 株、DHA 遺伝子保有株が 3 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 31 株であった。

イ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2019 年に、劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来株として搬入された患者由来株は 120 株(114 事例)で、Lancefield 分類による群別の結果、A 群が 51 株、B 群が 17 株、C 群が 2 株、F 群が 1 株、G 群が 49 株であった。

A 群レンサ球菌 51 株のうち 48 株は *Streptococcus pyogenes* であり、その T 血清型は 1 型:10 株、11 型、12 型、22 型及び 28 型がそれぞれ 4 株、B3264 型:9 株、4 型及び 14/49 型が各 1 株ずつであり、型別不能が 11 株であった。M タンパクをコードする遺伝子により型別を行う emm 型別を実施した結果、1 型が 11 株と最も多く、次いで 89 型が 10 株、81 型が 6 株などであった。

B 群レンサ球菌 17 株の血清型別を実施した結果、Ib 型と V 型が各 3 株、II 型と III 型が各 2 株、VI 型が 1 株であり、型別不能が 6 株であった。

また、A 群レンサ球菌のうち 3 株、C 群レンサ球菌のうち 1 株及び G 群レンサ球菌 49 株の合計 53 株は、*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であり、その emm 型別を実施した結果、stG485 型が 13 株、stG6792 型が 11 株などであった。さらに、C 群レンサ球菌のうち 1 株は *S.constellatus*、F 群レンサ球菌 1 株は *S.anginosas* と同定された。

ウ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

搬入された患者由来のインフルエンザ菌は 75 株(70 事例)であり、それぞれについて免疫血清を用いた血清型別及び PCR 法による莢膜血清型別試験を実施した。その結果、a 型が 1 株、b 型が 2 株(1 事例)、e 型が 2 株(2 事例)、f 型が 1 株であり、無莢膜型が 67 株(63 事例)であった。また、2 株(2 事例)は菌株死滅のため検査不能であった。

エ 侵襲性髄膜炎菌感染症

搬入された患者由来の髄膜炎菌は 4 株であり、それぞれについて PCR 法による型別を実施した結果、W-

135 群は 2 株、B 群は 1 株、Y 群は 1 株となった。

オ 侵襲性肺炎球菌感染症

搬入された患者由来の肺炎球菌は 123 株 (119 事例) であり、それぞれについて莢膜血清型別試験を実施した。その結果は表 13 に示した通りであり、1 株は菌死滅のため検査不能であった。

表 13. 肺炎球菌血清型別結果

血清型	株数	血清型	株数	血清型	株数
24B	11	15A	4	35B	2
12F	8	20	4	37	2
22F	8	33F	4	6C	1
24F	8	3	3	9N	1
10A	7	11A	3	9V	1
19A	7	15C	3	23F	1
23A	7	34	3	28F	1
7C	5	38	3	31	1
7F	5	1	2	型別不能	3
15B	5	16F	2		
35F	5	19F	2	菌死滅	1

カ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

搬入された菌株は患者由来株 10 株であり、*Enterococcus faecium* が 6 株、*Enterococcus faecalis* が 4 株であった。そのうち、1 株は *vanA* 遺伝子を保有しており、8 株は *vanB* 遺伝子を保有していた。また、1 株はいずれの *van* 遺伝子も保有していなかった。

キ 百日咳

搬入された患者由来の百日咳菌は 3 株 (3 事例) であり、LAMP 法による百日咳菌同定検査及び MLST 型別試験を実施した。その結果、2 株が百日咳菌と同定され、MLST-2 に型別された。また、1 株は菌死滅のため検査不能であった。

ク 薬剤耐性アシネトバクター感染症

搬入された本疾患患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 1 株であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、OXA-51-like β -ラクタマーゼをコードする遺伝子とプロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAbal) 保有株が 1 株、OXA-51-like β -ラクタマーゼをコードする遺伝子保有株が 1 株であった。

(3) 五類感染症 (定点把握対象) の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌感染症患者由来咽頭スワブが 138 件搬入された。

搬入されたスワブから 132 株の A 群溶血性レンサ球菌が分離され、T 血清型別試験を実施した。その結果、T1 型が 34 株と最も多く、次いで T28 型が 29 株、T12 型が 20 株、TB3264 型が 17 株であり、その他、T4 型及び T6 型がそれぞれの 10 株、T25 型が 4 株、T3 型が 3 株、T2 型が 1 株であり、型別不能株は 4 株であっ

た。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 4 件について腸管系の細菌検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

ウ マイコプラズマ肺炎

都内の定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 21 検体搬入され、遺伝子検査及び分離同定を実施した。その結果、21 検体すべてから肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、16 株の肺炎マイコプラズマが分離された。

エ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

都内の定点医療機関から MRSA 感染症患者由来検体が 58 検体搬入され、58 株の MRSA が分離された。分離された MRSA 株について、コアグラウゼ型別試験を実施した結果、I 型:2 株、II 型:4 株、III 型:24 株、V 型:2 株、VII 型:25 株であり、型別不能は 1 株であった。

（４） 性感染症（STI）病原体定点医療機関のからの搬入検体

2019 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より 52 検体が搬入された。搬入検体の内訳は、男性は陰部擦過物（スワブ）18 例、尿 14 例の合計 32 例、女性はスワブ 20 例であった。

ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌

52 例（男性：32 例、女性：20 例）についてクラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査を実施した。性別および年齢階級別の病原体検査成績を表 14 に示した。クラミジア・トラコマチスについては、男性 9 例（28.1%）、女性 18 例（90.0%）が陽性となった。淋菌は男性 18 例（56.3%）、女性 3 例（15.0%）が陽性となった。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出されたのは、男性 6 例（18.8%）、女性 3 例（15.0%）であった。年齢階級別では、男性・女性とも 20 歳代がクラミジア・トラコマチス遺伝子及び淋菌遺伝子の陽性数・陽性率ともに最多であった。

淋菌遺伝子が検出された 21 例のうち 7 例（33.3%）から淋菌が分離された。分離された淋菌菌株については薬剤感受性試験を行った。

イ 膣トリコモナス

女性の膣スワブ 1 例について膣トリコモナスの遺伝子検査を行った結果、膣トリコモナス遺伝子が検出された。この例はクラミジア・トラコマチス遺伝子も陽性であった。

ウ 性別および臨床診断別の性感染症病原体検査結果

性別および臨床診断別の病原体検査結果を表 15 に示した。男性では、性器クラミジア感染症と診断された 16 例中 3 例（18.8%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例（12.5%）から淋菌遺伝子が検出された。また、淋菌感染症と診断された 16 例中 6 例（37.5%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、16 例全例（100.0%）から淋菌遺伝子が検出され、

うち7例から淋菌が分離された。

女性では、性器クラミジア感染症と診断された17例中15例（87.5%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、また1例（5.9%）から淋菌遺伝子が検出された。また、性器クラミジア感染症+膣トリコモナス症と診断された1例（100.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子と膣トリコモナス遺伝子が検出された。また、淋菌感染症と診断された2例中2例（100.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子が検出された。

表 14. 性別および年齢階級別の病原体検査結果

	年齢階級	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	10歳代	1	1	1		1
	20歳代	10	4	7		3
	30歳代	10	2	6		
	40歳代	4	1	1		1
	50歳代	5	1	2		2
	60歳代	1		1		
	70歳代	1				
	計	32	9	18	0	7
女性	10歳代	6	5	1	1	
	20歳代	12	11	2		
	30歳代	1	1			
	40歳代	1	1			
	計	20	18	3	1	0
合計		52	27	21	1	7

表 15. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

	臨床診断 (疑い例含む)	検体数	遺伝子検査陽性			分離培養陽性
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	膣トリコモナス	淋菌
男性	性器クラミジア感染症	16	3	2		
	淋菌感染症	16	6	16		7
	計	32	9	18	0	7
女性	性器クラミジア感染症	16	14	1		
	性器クラミジア感染症+淋菌感染症	1	1			
	性器クラミジア感染症+膣トリコモナス症	1	1		1	
	淋菌感染症	2	2	2		
	計	20	18	3	1	0
合計		52	27	21	1	7

エ クラミジア・トラコマチスの血清型別遺伝子検査

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいてA～L型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型のA～C型、トラコーマ非流行地で

主に検出される性器クラミジア感染症型の D~K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起因菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

遺伝子検査陽性の 27 例のうち、遺伝子解析により 13 例の血清型が型別出来た。血清型別判定の内訳を表 16 に示した。

日本を含む諸外国で主要な血清型とされている D、E、F の 3 つの型の合計は 46.2%であった。この他、性器クラミジア感染症型の G 型を除く H~K 型もそれぞれ検出されたが、トラコーマ型 (A~C 型) や鼠径リンパ肉芽腫症型 (L 型) は検出されなかった。なお、遺伝子検査陽性の 14 例については、血清型別に用いるターゲット部位の核酸増幅が行えず、血清型が不明となった。

表 16. クラミジア・トラコマチスの血清型別結果

検体数	血清型						
	D 及び D/Da	E	F	H	I	J 及び Ja	K
13	1	3	2	1	2	3	1
(%)	(7.7)	(23.1)	(15.4)	(7.7)	(15.4)	(23.1)	(7.7)

オ 淋菌分離株の薬剤感受性

分離された淋菌 7 株の薬剤耐性試験の結果を表 17 に示した。ペニシリンに対しては全株が中等度耐性 (0.12µg/ml) 以上の株であった。テトラサイクリンに対しては中等度耐性 (0.5µg/ml) 以上の耐性株は 6 株 (85.7%) であった。シプロフロキサシンに対する耐性株 (≥1µg/ml) は 4 株 (57.1%) であった。セフロキシムに対する中等度 (2µg/ml) 以上の耐性株は 3 株 (42.9%) であった。セフトアキシム、セフトリアキソン、スペクチノマイシンに対しては全株が感受性を示した。

表 17. 淋菌分離株 (7 株) の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン	テトラサイクリン	シプロフロキサシン	セフロキシム	セフトアキシム	セフトリアキソン	スペクチノマイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性 (%)	1 (14.3)	2 (28.6)	4 (57.1)	3 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
中等度耐性 (%)	6 (85.7)	4 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
感受性 (%)	0 (0.0)	1 (14.3)	3 (42.9)	4 (57.1)	7 (100.0)	7 (100.0)	7 (100.0)

第 3 章

資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿

小児科 (264定点)

2019年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
千代田	滝医院	滝 正彦	102-0074	千代田区九段南4-3-1	03-3264-3101	
千代田	加賀医院	加賀 一兄	101-0051	千代田区神田神保町1-35	03-3291-9951	
千代田	東京通信病院	小野 正恵	102-8798	千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111	○*
中央区	小坂こども元気クリニック	小坂 和輝	104-0052	中央区月島3-30-3	03-5547-1191	
中央区	わたなべこどもクリニック	渡邊 浩志	104-0052	中央区月島1-8-1 アイ・マークタワー202	03-5548-2511	
中央区	埴小児科医院	埴 佳生	103-0007	中央区日本橋浜町2-20-2	03-3666-6035	
みなと	ぼれぼれクリニック	三浦 麻子	108-0074	港区高輪1-5-21 ルート高輪ビル4F	03-5422-7626	○
みなと	とよら小児科	豊浦 多喜雄	108-0023	港区芝浦3-11-5 第三協栄ビル2階	03-5442-8872	
みなと	小田原医院	行岡 紀子	106-0045	港区麻布十番3-11-12	03-3451-4595	
みなと	白金タワークリニック	小出 浩史	108-0072	港区白金1-17-1-106	03-5789-3882	
みなと	南青山おおつかクリニック	大塚 伸行	107-0062	港区南青山4-9-17	03-5786-3288	
みなと	東京都済生会中央病院	小児科外来	108-0073	港区三田1-4-17	03-3451-8211	○*
新宿区	岡田小児科クリニック	岡田 和子	169-0072	新宿区大久保1-5-15	03-3200-1236	
新宿区	村橋医院	村橋 眞	162-0042	新宿区早稲田町73	03-3203-3538	
新宿区	川尻医院	川尻 敦夫	162-0041	新宿区早稲田鶴巻町534	03-3209-7701	
新宿区	オリエンタル診療所	近 裕	161-0031	新宿区西落合2-20-1	03-3565-3411	
新宿区	牛山医院	牛山 允	169-0075	新宿区高田馬場4-11-5	03-5386-3167	
新宿区	(社)聖母会 聖母病院 小児科	猪野 雅孝	161-8521	新宿区中落合2-5-1	03-3951-1111	○*
新宿区	星野こどもクリニック	星野 洋	161-0032	新宿区中落合2-16-26	03-5988-7133	
新宿区	国立国際医療研究センター 病院	七野 浩之	162-8655	新宿区戸山1-21-1	03-3202-7181	
文京	保坂こどもクリニック	保坂 篤人	112-0001	文京区白山5-27-12	03-3946-0641	
文京	石原医院	藤原 陽子	112-0006	文京区小日向1-6-6	03-3941-8526	
文京	大塚診療所	大塚 宜一	113-0034	文京区湯島3-31-6	03-3831-2294	
文京	吉村小児科	内海 裕美	112-0012	文京区大塚2-18-6	03-3943-3806	
台東	いりやキッズクリニック	浅野 由美子	110-0004	台東区下谷3-11-12	03-5808-0415	
台東	柴田小児科医院	柴田 雄介	111-0036	台東区松ヶ谷3-16-4	03-3841-2291	
台東	柳澤小児科医院	山崎 薫	111-0033	台東区花川戸1-14-18	03-3844-0668	2019年3月31日から
	クローバーこどもクリニック	眞々田 容子	111-0051	台東区蔵前4-20-4 蔵前四ビル1F	03-5825-9608	2019年5月1日から
台東	小川こどもクリニック	小川 淳子	111-0053	台東区浅草橋1-25-5 小川ハイム201	03-3861-2429	
墨田区	増田小児科	増田 敬	130-0005	墨田区東駒形1-19-8	03-3622-9641	
墨田区	鈴木こどもクリニック	鈴木 洋	131-0031	墨田区墨田4-45-1	03-3619-4970	○
墨田区	平野医院	平野 圭	131-0043	墨田区立花6-1-14-1F	03-3611-2947	
墨田区	唐澤医院	唐澤 賢祐	130-0023	墨田区立川1-12-13	03-3631-2336	
墨田区	にしじま小児科	西島 由美	131-0046	墨田区京島1-6-3	03-3619-9585	
江東区	竹内小児科医院	竹内 透	135-0011	江東区扇橋2-1-3 ET21ビル2F	03-5606-0303	
江東区	笠井小児クリニック	笠井 秀明	136-0072	江東区大島9-5-1 コアシティ東大島103	03-3636-2577	
江東区	のづえ小児科	野末 富男	135-0062	江東区東雲1-9-11-102	03-5560-6071	
江東区	までのこうじクリニック	萬里小路 直樹	135-0016	江東区東陽3-27-32 玉河ビル2階	03-5683-5519	
江東区	たけうちこどもクリニック	竹内 敏雄	135-0061	江東区豊洲4-9-13 東京フロントコート132号	03-3533-2415	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。
備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
江東区	城田小児科医院	城田 夙男	135-0048	江東区門前仲町1-6-9	03-3641-4056	
江東区	亀戸キッズクリニック	杉本 佳乃	136-0071	江東区亀戸2-42-5 くらまえ三洋ビル2F	03-5875-3387	
江東区	正木医院	正木 忠明	136-0073	江東区北砂7-1-25	03-3644-5794	○
江東区	なおやこどもクリニック	坂口 直哉	136-0074	江東区東砂7-19-13 ペルコモン南砂2F	03-5653-0708	
品川区	東品川クリニック	安座間 薫	140-0002	品川区東品川3-18-3	03-3472-6684	2019年3月31日まで
	千葉医院	千葉 光雄	140-0001	品川区北品川2-20-6	03-3471-3493	2019年4月1日から
品川区	宮平医院	宮平 寛	141-0031	品川区西五反田4-22-3	03-3491-0366	
品川区	林小児科医院	林 紋子	140-0014	品川区大井4-24-20	03-3777-7127	
品川区	村井こどもクリニック	村井 孝安	142-0053	品川区中延5-8-19	03-3782-3415	
品川区	鈴の木こどもクリニック	鈴木 博	142-0041	品川区戸越1-3-1 夢のこども館	03-5759-5605	
品川区	田辺小児科医院	田辺 充子	142-0064	品川区旗の台6-30-1	03-3785-9003	
品川区	藤川医院	藤川 敏	140-0014	品川区大井7-29-2	03-3771-1764	
品川区	吉原医院	吉原 幸子	142-0041	品川区戸越5-8-5	03-3781-4030	
目黒区	自由が丘メディカルプラザ2	高嶋 能文	152-0035	目黒区自由が丘2-11-16 ニューパルビュウ3F	03-5731-3565	
目黒区	目黒通りこどもクリニック	藤田 秀樹	153-0064	目黒区下目黒6-1-27 アメニティハウス 2F	03-6303-1091	
目黒区	田口医院	田口 豊	152-0003	目黒区碑文谷6-7-4 KYレジデンス	03-3714-0188	
目黒区	井手小児科	井手 郁	152-0002	目黒区目黒本町6-17-27	03-5704-3819	
目黒区	仲村医院	仲村 和子	153-0053	目黒区五本木1-8-9	03-3712-7776	
大田区	かげ山小児科	景山 敦	146-0082	大田区池上7-14-11	03-3752-8182	
大田区	井上小児科医院	井上 清	143-0023	大田区山王3-30-2	03-3771-2514	
大田区	宮下クリニック	宮下 守	143-0014	大田区大森中3-35-9	03-5764-1003	
大田区	田園小児科クリニック	高橋 茂	145-0071	大田区田園調布5-36-3	03-3722-0765	
大田区	岡小児科内科クリニック	岡 哲康	146-0091	大田区鵜の木1-16-19	03-3758-3387	
大田区	原口小児科クリニック	原口 道夫	144-0032	大田区北糀谷1-11-8	03-3742-1517	
大田区	奥山こどもクリニック	奥山 裕子	146-0095	大田区多摩川1-21-3	03-5482-0415	2019年7月31日まで
	森岡小児科医院	森岡 新	144-0056	大田区西六郷1-19-15	03-3738-5918	2019年12月1日から
大田区	加藤内科小児科医院	加藤 瑞規	146-0093	大田区矢口1-19-25	03-3759-6169	
大田区	神川小児科クリニック	神川 晃	144-0044	大田区本羽田1-6-22	03-3741-5005	
大田区	斎藤医院	斎藤 洋子	143-0025	大田区南馬込5-26-7	03-3772-2791	
大田区	どうどうクリニック	小柳 英樹	146-0081	大田区仲池上1-31-13	03-5747-2333	○
大田区	うちやまこどもクリニック	内山 浩志	146-0085	大田区久が原3-36-13-3F	03-3753-7172	
大田区	木村こどもクリニック	木村 方美	144-0045	大田区南六郷2-27-1	03-3733-9080	
世田谷	いなみ小児科	稲見 誠	154-0002	世田谷区下馬3-10-7	03-3421-4885	
世田谷	吉川小児科	吉川 弘二	156-0043	世田谷区松原3-28-8-2階	03-5329-4153	
世田谷	橋本小児科医院	橋本 倫太郎	157-0072	世田谷区祖師谷3-37-5	03-3482-4668	○
世田谷	かねみつ小児クリニック	金光 岳文	157-0062	世田谷区南鳥山4-7-14	03-5384-3355	
世田谷	小林クリニック	小林 俊夫	157-0067	世田谷区喜多見2-10-3-101	03-3416-7119	
世田谷	山口小児科内科	山口 義哉	158-0091	世田谷区中町4-35-6	03-3702-6180	
世田谷	永井小児科内科医院	永井 雄一	158-0081	世田谷区深沢6-20-14	03-5707-0624	
世田谷	田宮小児科医院	田宮 貞和	156-0052	世田谷区経堂5-21-3	03-3427-7974	
世田谷	うめはらこどもクリニック	梅原 実	154-0004	世田谷区太子堂3-38-18	03-6809-7878	
世田谷	つだ小児科クリニック	津田 正彦	154-0017	世田谷区世田谷4-5-8 アルス世田谷ネクステージ1F	03-5477-7736	
世田谷	えんどう小児科クリニック	遠藤 大一	156-0045	世田谷区桜上水1-7-10 クールセリシエ1F	03-6379-7127	
世田谷	三宅小児科	三宅 健	156-0057	世田谷区上北沢4-21-13	03-3302-2771	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
世田谷	直宮医院	直宮 晃一	155-0031	世田谷区北沢3-11-14	03-3468-2867	
世田谷	臼井医院	臼井 弘人	157-0066	世田谷区成城5-7-12	03-3482-2253	
世田谷	用賀クリニック	川崎 浩司	158-0096	世田谷区玉川台2-22-16 パークヒル用賀Ⅲ 1F	03-3709-6255	
世田谷	藤井医院	藤井 秀樹	158-0083	世田谷区奥沢1-38-19	03-3728-0383	
渋谷区	坂本クリニック	坂本 純一	151-0073	渋谷区笹塚1-31-11 ピラージュ笹塚 1-101	03-3469-3926	
渋谷区	医療法人社団 育心会 稲垣クリニック	稲垣 稔	151-0053	渋谷区代々木5-7-17-1F	03-5453-1399	
渋谷区	かずえキッズクリニック	川上 一恵	151-0072	渋谷区幡ヶ谷3-81-7	03-3376-1662	
渋谷区	内藤小児科内科医院	内藤 章文	150-0022	渋谷区恵比寿南2-5-9	03-3713-2526	
中野区	高木小児科医院	高木 英行	165-0031	中野区上鷲宮4-19-10	03-5241-5823	
中野区	江原町小児科耳鼻科	金 慶彰	165-0023	中野区江原町3-35-8	03-5988-7705	
中野区	田沼内科・小児科医院	田沼 美昭	164-0012	中野区本町6-23-3	03-3380-2622	
中野区	小池小児科医院	小池 林太郎	165-0033	中野区若宮1-43-11	03-3330-0743	
中野区	宇野医院	宇野 真二	164-0001	中野区中野1-6-2	03-3369-2090	
杉並	立正佼成会附属佼成病院	倉山 亮太	166-0012	杉並区和田2-25-1	03-3383-1281	○*
中野区	しばたこども&アレルギー クリニック	柴田 淳	164-0003	中野区東中野5-1-1 ユニゾンタワー3F	03-3360-5569	
杉並	柿田医院	柿田 豊	167-0022	杉並区下井草2-23-5	03-3395-3602	
杉並	長沼内科医院	長沼 裕一郎	166-0015	杉並区成田東3-36-8	03-3311-1803	
杉並	中里医院	中里 恵美子	167-0043	杉並区上荻4-2-3	03-3390-5258	
杉並	はら医院	原 みさ子	168-0062	杉並区方南2-28-3	03-3317-0380	
杉並	松野医院	松野 哲彦	166-0001	杉並区阿佐谷北3-42-10	03-3330-4656	
杉並	宮下小児科医院	佐々木 礼子	166-0016	杉並区成田西3-20-3	03-3392-3855	
杉並	宮崎クリニック	宮崎 素子	168-0063	杉並区和泉4-51-14	03-3317-7701	
杉並	岩崎小児科医院	岩崎 由紀夫	166-0012	杉並区和田3-49-7	03-5377-0015	
杉並	セキこどもクリニック	関 兼英	166-0004	杉並区阿佐谷南2-1-27	03-3318-1625	
杉並	高井戸こどもクリニック	柳垣 繁	168-0071	杉並区高井戸西1-27-22	03-3331-6644	
池袋	金澤医院	金澤 義之	170-0003	豊島区駒込3-5-7	03-3910-4952	
池袋	みなと小児科	湊 通嘉	171-0043	豊島区要町 3-22-10-301	03-3973-5080	
池袋	田村医院	田村 仁	170-0011	豊島区池袋本町1-45-16	03-3971-4922	
池袋	平井医院	平井 貴志	171-0032	豊島区雑司が谷1-26-10	03-3971-8064	
池袋	南長崎こみ山医院	込山 賢次	171-0052	豊島区南長崎3-14-17	03-3953-0086	
北区	斉藤小児科医院	斉藤 十紀	114-0003	北区豊島2-8-6	03-3911-0569	
北区	ほくとクリニック	金子 清志	115-0045	北区赤羽2-9-6	03-3901-4926	
北区	富士見診療所	越田 利弘	114-0031	北区十条仲原3-1-5	03-3900-5354	
北区	かとうクリニック	加藤 隆司	115-0043	北区神谷1-12-9	03-3913-1103	○
北区	中山医院	伊藤 佳子	114-0016	北区上中里1-17-8	03-3910-6805	
北区	桑畑医院	桑畑 圭子	114-0003	北区豊島2-6-1	03-3919-0700	
北区	はんだ・こどもクリニック	繁田 龍雄	115-0045	北区赤羽2-69-4 クリニックプラザ21 2F	03-3901-7433	
荒川区	鈴木小児科医院	鈴木 博之	116-0012	荒川区東尾久3-1-9	03-3892-1266	
荒川区	まつおかこどもクリニック	松岡 郁美	116-0002	荒川区荒川2-1-5 荒川セントラルビルディング2F	03-5604-1567	
荒川区	いなばキッズクリニック	稲葉 八興	116-0003	荒川区南千住4-7-1 BiVi南千住3D	03-5604-1710	
荒川区	加藤小児科内科医院	加藤 薫	116-0014	荒川区東日暮里5-44-1-1F	03-3803-3377	
板橋区	青木小児科医院	青木 恒春	175-0045	板橋区西台2-9-3	03-3932-3849	
板橋区	上原内科医院	上原 章	173-0004	板橋区板橋3-6-11	03-5375-9981	
板橋区	石川医院	宮川 美知子	174-0071	板橋区常盤台1-61-3	03-3960-3940	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
板橋区	井上医院	井上 文正	175-0092	板橋区赤塚4-17-11	03-5968-5777	
板橋区	杉内医院	杉内 孝謙	175-0094	板橋区成増3-17-16	03-3930-2331	
板橋区	こうのファミリーケア・クリニック	河野 嘉英	174-0056	板橋区志村3-20-26-1F	03-3965-1649	
板橋区	あべこどもクリニック	阿部 和子	175-0082	板橋区高島平1-28-5 KAZZビル2F	03-3559-8115	
板橋区	えがおこどもクリニック	渡部 浩平	174-0063	板橋区前野町3-31-3	03-5994-7250	
板橋区	鈴木医院	鈴木 育夫	173-0023	板橋区大山町10-10	03-3956-1788	
板橋区	よりふじ医院	依藤 壽	173-0031	板橋区大谷口北町27-4	03-3956-1255	
練馬区	岩崎小児科医院	岩崎 章宣	178-0061	練馬区大泉学園町8-7-17	03-3867-5501	
練馬区	秋田医院	秋田 博伸	176-0013	練馬区豊玉中4-10-3	03-3991-1151	
練馬区	飯島医院	飯島 健志	179-0072	練馬区光が丘7-3-6	03-3976-6087	
練馬区	うすきクリニック	白杵 一	178-0064	練馬区南大泉4-47-9 コンフォート南大泉1F	03-3924-0443	
練馬区	牧田医院	牧田 郁夫	176-0002	練馬区桜台1-45-15 グランドールマキノ1F	03-3948-0600	○
練馬区	沼口整形外科・小児科	沼口 俊平	179-0072	練馬区光が丘5-2-5-102	03-3976-0131	○
練馬区	浅村こどもクリニック	浅村 信二	177-0041	練馬区石神井町2-8-21 星ビル2F	03-5372-6686	
練馬区	上石神井サン・クリニック	小西 佐知子	177-0044	練馬区上石神井3-6-34	03-5910-3888	
練馬区	佐藤皮膚科小児科クリニック	佐藤 徳枝	177-0045	練馬区関町北1-23-10 井口ビル4F	03-3928-2767	
練馬区	のと小児科クリニック	能登 信孝	179-0083	練馬区平和台4-12-6	03-5945-9855	
練馬区	マサキ小児科アレルギー科	正木 拓朗	178-0063	練馬区東大泉2-5-10	03-3923-1515	
練馬区	わたなべこどもクリニック	渡辺 克也	176-0023	練馬区中村北4-5-2	03-3990-9998	
練馬区	わたなべこどもクリニック	渡辺 久幸	178-0063	練馬区東大泉1-26-16	03-5947-3577	
足立	和田小児科医院	和田 紀之	121-0812	足立区西保木間2-15-23	03-3884-2301	○
足立	曙町クリニック	泉田 京子	120-0023	足立区千住曙町41-2-107	03-3879-9116	
足立	日比谷医院	日比谷 一郎	121-0011	足立区中央本町5-5-27	03-3889-4601	
足立	ちばこどもクリニック	千葉 康之	121-0801	足立区東伊興1-12-16	03-3857-0222	
足立	三原小児科医院	三原 章	123-0857	足立区本木北町14-6	03-3890-0205	
足立	勝楽堂病院	芦田 光則	120-0032	足立区千住柳町5-1	03-3881-0137	
足立	梅津クリニック	梅津 亮二	120-0005	足立区綾瀬3-15-20 遠藤ビル2F	03-5616-8214	
足立	中島小児科	中島 正樹	120-0015	足立区足立4-41-6	03-3852-5241	
足立	中西医院	中西 隆	123-0852	足立区関原3-44-7	03-3852-1122	
足立	千葉小児科内科医院	千葉 昭典	121-0061	足立区花畑7-14-9	03-3850-8523	
足立	しみず医院	清水 博史	121-0823	足立区伊興3-18-21	03-5691-1212	
足立	師田内科小児科	師田 基	121-0801	足立区東伊興3-2-7	03-3897-7320	
足立	木村耳鼻咽喉科小児科医院	木村 康子	123-0872	足立区江北6-22-1	03-3896-3387	
葛飾区	伊藤メディカルクリニック	伊藤 民恵	124-0006	葛飾区堀切4-57-5	03-3602-4205	
葛飾区	高橋小児科医院	高橋 紀久雄	124-0023	葛飾区東新小岩5-17-1	03-3692-3021	
葛飾区	菊島小児科医院	菊島 秀丸	124-0013	葛飾区東立石3-24-16	03-3697-1556	
葛飾区	的場医院	伊藤 隆一	125-0042	葛飾区金町6-13-9	03-3607-0517	
葛飾区	永寿堂医院	松永 貞一	125-0061	葛飾区亀有3-43-5	03-3604-2101	○
葛飾区	白井医院	白井 泰生	124-0024	葛飾区新小岩1-37-11	03-3653-5774	
葛飾区	三尾医院	三尾 仁	125-0041	葛飾区東金町3-16-12	03-3607-2917	
葛飾区	鈴木医院	鈴木 敏克	125-0061	葛飾区亀有3-4-11	03-3690-2211	
江戸川	吉岡医院	吉岡 和之	133-0056	江戸川区南小岩5-16-8	03-3657-1037	
江戸川	小松川医院	田崎 ゆき	132-0025	江戸川区松江3-12-13	03-3651-0057	
江戸川	久田医院	久田 和子	132-0035	江戸川区平井1-27-5	03-3681-0081	
江戸川	みやのこどもクリニック	宮野 孝一	134-0085	江戸川区南葛西2-18-27	03-3869-4133	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
江戸川	なかにし小児科クリニック	中西 茂則	134-0088	江戸川区西葛西5-1-8 トーショービル1F	03-3675-6678	
江戸川	石橋こどもクリニック	石橋 涼子	132-0021	江戸川区中央2-4-18 ほっと館1F	03-5661-5336	
江戸川	はるやま小児科・アレルギー科	春山 次男	133-0065	江戸川区南篠崎町2-10-1 カームコート1F	03-3679-1188	
江戸川	千葉クリニック	千葉 友幸	132-0024	江戸川区一之江8-19-6 彦新ビル1階	03-3651-8833	○
江戸川	星田小児クリニック	星田 宏	134-0083	江戸川区中葛西2-3-10	03-3680-2028	
江戸川	本橋医院	本橋 俊和	132-0024	江戸川区一之江8-15-1 エクセルイテノエ1A	03-5662-8755	
江戸川	ながきこどもクリニック	永木 幸子	133-0051	江戸川区北小岩6-15-5 小岩メディカルセンター新館3F	03-5612-0661	
江戸川	アンヌ小児科	布上 孝志	133-0071	江戸川区東松本1-14-9	03-3672-1071	
西多摩	笹本医院	笹本 隆夫	198-0084	青梅市住江町58	0428-24-3955	
西多摩	わかさぎ医院	道佛 雅克	205-0001	羽村市小作台2-7-16	042-579-0311	
西多摩	星野小児科内科クリニック	星野 誠	197-0822	あきる野市小川東1-19-20-1	042-559-7332	○
西多摩	鈴木内科	鈴木 道彦	190-0163	あきる野市館谷156	042-596-2307	
西多摩	新井クリニック	新井 敏彦	190-1232	瑞穂町長岡1-51-2	042-557-0018	2019年3月31日まで
	ばば子どもクリニック	馬場 一徳	205-0011	羽村市五ノ神352-22	042-555-3788	2019年4月1日から
西多摩	ナルケンキッズクリニック	成井 研治	198-0036	青梅市河辺町4-20-4	0428-21-0252	
西多摩	大堀医院	大堀 洋一	198-0023	青梅市今井5-2440-159	0428-31-9098	
西多摩	東福生むさしの台クリニック	川島 雅之	197-0013	福生市武蔵野台1-1-7 センチュリー武蔵野台1F	042-539-1223	
八王子市	加地医院	加地 はるみ	193-0816	八王子市大楽寺町137	042-651-5341	○
八王子市	まつもと小児・アレルギークリニック	松本 勉	192-0364	八王子市南大沢2-2 パオレ5F	042-679-6051	
八王子市	のま小児科	野間 清司	192-0916	八王子市みなみ野3-1-8	042-632-7327	
八王子市	京王八王子クリニック	末松 隆二	192-0046	八王子市明神町4-7-14 八王子ONビル2F	042-645-7878	
八王子市	北野小児科	廣田 保蔵	192-0906	八王子市北野町545-3 きたのタウン6F	042-645-8715	
八王子市	小児科加藤醫院	加藤 直樹	192-0919	八王子市七国4-9-3	042-632-7950	
八王子市	なかよしこどもクリニック	朝長 香	192-0355	八王子市堀之内2-6-5 森本ビル201	042-679-6778	
八王子市	こどもクリニック南大沢	保坂 暁子	192-0364	八王子市南大沢2-27 フレスコ南大沢4F	042-670-8700	
八王子市	はしもと小児科	橋本 政樹	193-0942	八王子市栞田町557-3	042-668-8555	
八王子市	こども診療所	小島 直樹	192-0054	八王子市小門町10-3	042-625-0023	
八王子市	スマイルこどもクリニック	森脇 弘隆	193-0832	八王子市散田町5-4-20	042-661-5529	
南多摩	須賀小児科	須賀 康正	191-0031	日野市高幡328	042-593-7888	
南多摩	佐々木クリニック	佐々木 榮一	191-0062	日野市多摩平1-8-10	042-585-2591	
南多摩	こどもクリニックしみず	清水 伸泰	206-0034	多摩市鶴牧1-24-1 新都心センタービル3F	042-373-0512	○
南多摩	桜井医院	櫻井 健彦	206-0811	稲城市押立1254-1	042-378-3224	
南多摩	牛尾医院	牛尾 方信	191-0043	日野市平山6-5-13	042-591-2001	
南多摩	おおしろクリニック	大城 清彦	191-0016	日野市神明3-6-16 アメニティ明和館1F-1	042-589-6780	
南多摩	唐木田こどもクリニック	飛田 正俊	206-0035	多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル2C	042-355-8505	
南多摩	まえはら小児科	前原 幸治	206-0011	多摩市関戸4-72 聖蹟桜ヶ丘オーパ5F	042-374-5028	
南多摩	平尾内科クリニック	竹田 有為子	206-0823	稲城市平尾3-7-26	042-331-8221	
町田市	風の子こどもクリニック	風張 眞由美	194-0015	町田市金森東1-25-29 金森メディカルプラザA-2	042-851-8630	
町田市	はやしクリニック	林 泉彦	194-0035	町田市忠生2-28-7	042-793-3055	○

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
町田市	やもりこどもクリニック	矢守 利次	195-0057	町田市真光寺2-37-11 鶴川台メディカルヴィレッジ 総合棟1F-A	042-737-3675	
町田市	しのはら小児クリニック	篠原 治	194-0003	町田市小川1-2-8	042-795-3003	
町田市	キッズクリニック智	渡邊 智子	194-0211	町田市相原町1652-1	042-700-6315	
町田市	豊川小児科内科医院	豊川 達記	194-0001	町田市つくし野2-18-18	042-795-4465	
町田市	村野小児科・アレルギー科	村野 浩太郎	196-0063	町田市野津田町1083	042-735-5777	
町田市	やすだこどもクリニック	保田 由喜治	194-0032	町田市本町田920-1	042-725-9056	
多摩立川	野上医院	五十嵐 弥生	190-0021	立川市羽衣町2-42-7	042-522-6010	○
多摩立川	内野産婦人科外科小児科	内野 孝子	186-0002	国立市東1-8-6 メディカルセンター	042-580-0112	
多摩立川	藤田医院	藤田 仁	208-0031	武蔵村山市岸1-25-1	042-560-0363	○
多摩立川	太陽こども病院	木内 巻男	196-0003	昭島市松原町1-2-1	042-544-7511	
多摩立川	医療法人社団瑞涼会 くぼしまこどもクリニック	久保嶋 慎二	185-0024	国分寺市泉町2-9-3 ハートフル西晴3F	042-300-1801	
多摩立川	めぐろクリニック まつなかクリニック	目黒 隆毅	190-0034	立川市西砂町6-6-16	042-520-1234	2019年7月1日から 医療機関名称変更
多摩立川	さいわいこどもクリニック	宮田 章子	190-0002	立川市幸町1-11-3	042-536-7280	○
多摩立川	大田医院	大田 眞也	196-0022	昭島市中神町1237	042-541-0311	
多摩立川	マシマロこどもクリニック	富士川 善直	185-0003	国分寺市戸倉4-45-5	042-320-1155	
多摩立川	くろさわ子ども&内科クリニック	黒澤 サト子	180-0011	国分寺市本多3-7-25	042-323-9630	○
多摩立川	大久保医院	新井 ゆみ	186-0011	国立市谷保7224	042-572-7775	
多摩立川	有村クリニック	有村 章	207-0014	東大和市南街4-10-6	042-590-0377	
多摩立川	さくらこどもクリニック	野口 幸男	207-0023	東大和市上北台3-393-1	042-566-8177	
多摩立川	伊奈平南クリニック	田中 こずえ	208-0023	武蔵村山市伊奈平4-4-1	042-560-1311	
多摩府中	ささもとこどもクリニック	笹本 和広	182-0036	調布市飛田給1-41-5 T・Oビル2F	042-498-4153	
多摩府中	ぬきいこどもクリニック	貫井 清孝	182-0022	調布市国領町4-8-1 プラザバレット2F	042-440-0215	
多摩府中	松本医院	松本 悦雄	180-0002	武蔵野市吉祥寺東町1-23-3	0422-22-5755	
多摩府中	おぎわらこどもクリニック	荻原 篤	180-0006	武蔵野市中町3-3-2	0422-60-5177	
多摩府中	きたのこどもクリニック	内藤 英紀	181-0003	三鷹市北野4-12-17 きたのメディカルパーク1階	0422-70-4150	
多摩府中	若林医院	若林 研司	181-0001	三鷹市井の頭4-16-10	0422-43-0526	
多摩府中	まつおか小児クリニック	松岡 典子	183-0034	府中市寿町2-4-42 コープ府中3F	042-319-1020	○
多摩府中	東小金井駅前こどもクリニック	道下 崇史	184-0002	小金井市梶野町5-3-25-209 クリオ東小金井パークフロント	042-387-1030	
多摩府中	石戸谷小児科	石戸谷 尚子	201-0012	狛江市中和泉1-1-1 狛江YSビル4F	03-3430-1070	
多摩府中	長谷川小児科医院	長谷川 正子	180-0001	武蔵野市吉祥寺北町2-8-5	0422-22-6804	
多摩府中	渡辺こどもクリニック	渡邊 直幸	181-0013	三鷹市下連雀9-5-1 泰成マンション1F	0422-41-1550	
多摩府中	つちや小児科	土屋 正己	181-0013	三鷹市下連雀4-16-11	0422-40-1488	
多摩府中	さくらんぼこどもクリニック	三日市 薫	183-0026	府中市南町4-43-1	042-340-8288	
多摩府中	おき医院	隠岐 直紀	183-0011	府中市白糸台5-24-1	042-354-1277	
多摩府中	日野クリニック	日野 佳昭	183-0034	府中市住吉町2-15-9	042-330-3600	
多摩府中	すみれクリニック	篠崎 昌子	183-0021	府中市片町3-26-14	042-401-8461	
多摩府中	野々田小児科内科	野々田 昶	183-0013	府中市小柳町3-32-26	042-369-2561	
多摩府中	佐々木こどもクリニック	佐々木 伸彦	182-0006	調布市西つつじヶ丘3-37-2 横田ファイブ107	042-487-2433	
多摩府中	麻生こどもクリニック	麻生 泰二	182-0026	調布市小島町1-5-6 アールアンドエスビル3F	042-480-7810	
多摩府中	三枝耳鼻咽喉科・小児科医院	三枝 歌子	184-0004	小金井市本町5-19-32 三枝ビル2F	042-381-8221	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
多摩府中	神保クリニック小児科	神保 修	201-0003	狛江市和泉本町1-2-13	03-3430-2818	
多摩小平	清水小児科内科医院	清水 達也	187-0001	小平市大沼町4-43-32	042-343-2255	
多摩小平	わかばこどもクリニック	渡邊 孫衛	189-0024	東村山市富士見町3-13-14	042-390-2700	
多摩小平	大塚小児科アレルギー科クリニック	大塚 武	203-0053	東久留米市本町3-1-23	042-479-7300	
多摩小平	すぎはらこどもクリニック	杉原 聡	188-0004	西東京市西原町5-1-17	042-451-8680	
多摩小平	斉藤小児科内科クリニック	斉藤 喜親	202-0004	西東京市下保谷4-2-21	042-421-7201	
多摩小平	鈴木小児科内科医院	鈴木 昌和	187-0045	小平市学園西町2-11-28	042-341-0353	○
多摩小平	中山小児科医院	中山 康子	187-0011	小平市鈴木町1-30-20	042-322-1231	
多摩小平	ちあきこどもクリニック	辻 千秋	187-0034	小平市栄町2-3-7	042-349-2012	
多摩小平	武こどもクリニック	深堀 俊彦	189-0013	東村山市栄町2-32-20-201	042-397-3374	○
多摩小平	あきつこどもクリニック	村上 綾子	189-0001	東村山市秋津町4-31-16	042-390-1150	
多摩小平	いくせ医院	木村 憲人	203-0013	東久留米市新川町1-4-18 わかさとビル1F	042-471-2304	
多摩小平	ひばりこどもクリニック	高山 順	188-0001	西東京市谷戸町3-11-9 長谷川ビル1F	042-438-8824	
多摩小平	すくすくkidsクリニック	高田 佳宜	188-0012	西東京市南町5-9-17	042-451-3027	
多摩小平	宇都宮小児科内科クリニック	宇都宮 庄司	204-0021	清瀬市元町1-8-2 清水ビル3F	042-491-5556	
島しょ	大島医療センター	清水 忠典	100-0101	大島町元町3-2-9	04992-2-2345	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、小児科病原体定点を兼ねる医療機関である。

2020年変更医療機関

2020年5月1日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
板橋区	青木小児科医院	青木 恒春	175-0045	板橋区西台2-9-3	03-3932-3849	2019年12月31日まで
	共助会医院	堀内 敏行	174-0051	板橋区小豆沢2-26-8	03-3966-2577	2020年1月1日から
葛飾区	鈴木医院	鈴木 敏克	125-0061	葛飾区亀有3-4-11	03-3690-2211	2019年12月31日まで
	かめありこどもクリニック	角田 由里	125-0061	葛飾区亀有3-14-9 プリムローズ島田2階	03-3602-3206	2020年1月1日から
多摩小平	宇都宮小児科内科クリニック	宇都宮 庄司	204-0021	清瀬市元町1-8-2 清水ビル3F	042-491-5556	2019年12月31日まで
	とみまつ小児科循環器クリニック	富松 ふみ子	204-0021	清瀬市元町1-1-14 ブランドールJ2F	042-497-3456	2020年1月1日から
江戸川	吉岡医院	吉岡 和之	133-0056	江戸川区南小岩5-16-8	03-3657-1037	2019年12月31日まで
	南小岩クリニック	渡邊 直哉	133-0056	江戸川区南小岩7-5-18	03-3657-0056	2020年2月1日から
江戸川	石橋こどもクリニック	石橋 涼子	132-0021	江戸川区中央2-4-18 ほっと館1F	03-5661-5336	2020年3月31日まで
	医療法人社団向日葵会 まつしま病院	山脇 真智	132-0031	江戸川区松島1-41-29	03-3653-5541	2020年4月1日から

内科（155定点）

2019年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
千代田	神田診療所	高橋 淳	101-0047	千代田区内神田2-8-14	03-3256-0086	
中央区	松本内科院	松本 章一	104-0031	中央区京橋2-11-5-5F	03-4405-7480	
中央区	中央内科クリニック	村松 弘康	103-0013	中央区日本橋人形町2-7-8	03-3668-0088	
みなと	馬場クリニック	馬場 繁二	106-0045	港区麻布十番2-13-2	03-3454-7788	
みなと	もとやまクリニック	元山 幹雄	108-0072	港区白金1-8-9	03-3473-2866	
みなと	新田町ビル診療所	坪田 淳	108-0014	港区芝5-34-6 新田町ビル2F	03-3451-2619	
新宿区	高橋医院	高橋 秀和	169-0074	新宿区北新宿3-21-8	03-3371-8064	
新宿区	早稲田クリニック	小西 洋之	162-0045	新宿区馬場下町10 早稲田レストハイツ2F	03-3208-2007	
新宿区	石井外科	石井 正彌	162-0065	新宿区住吉町8-2	03-3351-9338	
新宿区	磯貝クリニック	磯貝 祐貴子	169-0051	新宿区西早稲田2-4-8	03-3232-1776	
文京	八千代診療所	井上 博和	113-0001	文京区白山1-5-8	03-3811-4519	
文京	森谷医院	森谷 茂樹	113-0022	文京区千駄木5-43-11	03-3821-0128	
文京	大橋内科クリニック	大橋 誠	113-0024	文京区西片2-15-11	03-5842-8670	
台東	関戸クリニック	関戸 俊樹	111-0035	台東区西浅草2-14-3	03-3844-8666	
台東	城所医院	城所 功文	110-0014	台東区北上野2-26-5	03-3844-0510	○
台東	かとう医院	加藤 元浩	110-0003	台東区根岸3-12-14	03-5603-7161	
墨田区	大室医院	大室 博之	130-0012	墨田区太平3-2-7	03-3622-0629	
墨田区	東京曳舟病院	古城 資久	131-0032	墨田区東向島2-27-1	03-5655-1120	
墨田区	さとう内科クリニック	佐藤 和子	130-0004	墨田区本所4-13-3-1F	03-5819-6505	○
江東区	小林クリニック	小林 昭夫	136-0072	江東区大島4-1-6-105	03-3684-0481	
江東区	みやたけクリニック	宮武 俊秀	136-0074	江東区東砂4-23-6	03-5677-3232	
江東区	大陽ビルクリニック	中木 基江	135-0016	江東区東陽3-23-6 大陽ビル102	03-5635-5715	
江東区	望月内科クリニック	望月 俊男	135-0005	江東区高橋13-2 ヴィアロイヤル森下1F	03-5669-1531	
江東区	辰巳中央診療所	鳴海 章人	135-0053	江東区辰巳1-9-49-102	03-3521-0163	
品川区	白井クリニック	白井 寛	140-0014	品川区大井2-4-1	03-3771-7265	
品川区	千葉医院	千葉 光雄	140-0001	品川区北品川2-20-6	03-3471-3493	2019年3月31日まで
	さとうクリニック	佐藤 慶一	140-0004	品川区南品川2-17-25	03-3450-0010	2019年4月1日から
品川区	遠藤医院	遠藤 紀雄	141-0021	品川区上大崎2-24-13-305	03-3492-6422	
品川区	青柳医院	青柳 豊	142-0042	品川区豊町1-4-15	03-3788-0801	
目黒区	駒場クリニック	下津浦 末博	153-0041	目黒区駒場2-4-5	03-6279-7557	
目黒区	清水クリニック	清水 嘉一	153-0051	目黒区上目黒5-19-40	03-3715-3290	
目黒区	阿部医院	清水 恵一郎	152-0032	目黒区平町2-5-7	03-3717-2288	
大田区	テクノポートクリニック	宮島 良征	144-0035	大田区南蒲田2-16-1 トキメックビル別館2F	03-5703-5522	
大田区	馬込中央診療所	寺門 節雄	143-0027	大田区中馬込1-5-8	03-3775-5631	
大田区	北條医院	北條 稔	143-0016	大田区大森北3-4-5	03-3768-0066	○
大田区	井出内科クリニック	井出 雅生	146-0092	大田区下丸子3-13-11	03-3757-2484	
大田区	松坂医院	松坂 聡	144-0047	大田区萩中1-6-28	03-3741-0985	
大田区	溝谷医院	溝谷 弘成	143-0012	大田区大森東2-1-4	03-3763-7371	
大田区	並木医院	並木 敦也	145-0065	大田区東雪谷5-27-13	03-3720-8041	
大田区	竹内内科小児科医院	竹内 昭一	145-0072	大田区田園調布本町40-12-201	03-3721-5222	2019年7月31日まで
	せせらぎクリニック多摩川	富塚 太郎	145-0071	大田区田園調布1-33-3	03-5755-5207	2019年8月1日から
世田谷	亀井内科神経内科クリニック	亀井 敦行	158-0083	世田谷区奥沢4-15-7	03-3726-1108	
世田谷	古畑病院	古畑 正	154-0001	世田谷区池尻2-33-10	03-3424-0705	○ 2019年8月31日まで
	世田谷下田総合病院	下田 重人	157-0062	世田谷区南島山4-9-23	03-3308-5221	○ 2019年10月1日から
世田谷	幸野メディカルクリニック	幸野 敬子	157-0072	世田谷区祖師谷3-30-28	03-3483-1808	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
世田谷	竹川内科医院	竹川 享	156-0051	世田谷区宮坂1-41-20	03-3706-2341	
世田谷	医療法人社団 シンセリティ いなみ内科クリニック	稲見 真木子	154-0024	世田谷区三軒茶屋1-13-7 三茶JOYビル2F	03-3413-1730	
世田谷	こうらクリニック	兒浦 利哉	154-0021	世田谷区豪徳寺1-23-22	03-3425-2333	
世田谷	高橋医院	高橋 由光	158-0094	世田谷区玉川3-23-22	03-3700-0232	
世田谷	荏原医院	荏原 包臣	158-0097	世田谷区用賀4-13-11	03-3700-0135	
世田谷	西島内科クリニック	西島 敬之郎	157-0068	世田谷区宇奈根3-1-21	03-5494-2020	
渋谷区	小林医院	小林 晴二郎	151-0064	渋谷区上原1-23-1	03-3467-3577	
渋谷区	しおぎき内科	塩崎 正英	150-0002	渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ2F	03-5485-3123	○
渋谷区	渡辺クリニック	渡辺 豊	151-0071	渋谷区本町3-10-3-202	03-3375-7361	
中野区	大場診療所	渡辺 茂	165-0034	中野区大和町3-40-6	03-3330-0073	
中野区	山田クリニック	山田 千津子	165-0026	中野区新井2-6-10	03-3386-0415	
中野区	東中野クリニック	飯国 紀一郎	164-0003	中野区東中野1-58-12	03-3361-2732	
中野区	溝口医院	溝口 雅康	164-0013	中野区弥生町2-12-9	03-3372-0035	
杉並	藤多クリニック	藤多 和義	167-0043	杉並区上荻1-9-1	03-3392-8811	
杉並	富士見丘医院	加茂 隆	168-0082	杉並区久我山5-20-1	03-3332-2401	○
杉並	河合内科クリニック	河合 章	167-0043	杉並区上荻3-1-11	03-3399-8563	
杉並	内山クリニック	内山 克己	168-0063	杉並区和泉3-6-2	03-5355-3535	
杉並	石井こども・内科循環器科 クリニック	石井 哲哉	166-0014	杉並区松ノ木1-6-21	03-3314-5677	
杉並	清水内科クリニック	清水 聡	166-0003	杉並区高円寺南1-7-4	03-3318-2431	
池袋	武藤クリニック	武藤 敬	171-0051	豊島区長崎1-22-11	03-3957-7065	
池袋	山下診療所大塚	山下 巖	170-0004	豊島区北大塚2-13-1 GHYビル5F	03-3910-6711	
池袋	目白おかの内科	岡野 晃	171-0031	豊島区目白3-16-15 茜ビル1F	03-5988-3363	
北区	青木内科クリニック	青木 薫	114-0024	北区西ヶ原1-46-17 旭レヂデンス1F	03-5961-1855	
北区	共和堂医院	増田 幹生	114-0001	北区東十条2-5-1	03-3911-0665	
北区	王子神谷齋藤クリニック	齋藤 広重	114-0003	北区豊島8-24-4	03-3911-5433	
北区	医療法人社団景星会赤羽 赤羽東口病院	河 一京	115-0045	北区赤羽1-38-5	03-3902-2131	
荒川区	水野クリニック	水野 武昭	116-0002	荒川区荒川1-49-2 サクラハイツ2F	03-3891-0219	
荒川区	飯土用内科	飯土用 誠也	116-0002	荒川区荒川3-23-13	03-3891-5858	
荒川区	東京リバーサイド病院	森野 文敏 坂井 暢子	116-0003	荒川区南千住8-4-4	03-5850-0311	2019年7月1日から 担当医師の変更
板橋区	平山医院	平山 貴度	174-0064	板橋区中台1-46-3	03-3932-3598	
板橋区	岡部医院	岡部 洋太郎	173-0004	板橋区板橋3-37-1	03-3961-0416	
板橋区	天木診療所	天木 聡	174-0053	板橋区清水町47-7	03-3961-3913	○
板橋区	高島平東口クリニック	梅原 有弘	175-0082	板橋区高島平8-5-10 MAビル3F	03-3933-1213	
板橋区	伊藤内科小児科クリニック	伊藤 景樹	175-0094	板橋区成増1-17-10	03-3930-5114	
板橋区	多比良医院	多比良 清	175-0094	板橋区成増4-13-2	03-3975-8139	
練馬区	川邊内科	川邊 敏之	177-0044	練馬区上石神井2-26-15	03-3920-6810	○
練馬区	練馬第一診療所	矢田 毅	179-0083	練馬区平和台4-20-16	03-3933-8957	
練馬区	すずしろ診療所	黒部 信一	176-0001	練馬区練馬1-15-1 堀越ビル2階	03-3557-1131	
練馬区	金谷クリニック	金谷 斎	179-0072	練馬区光が丘2-4-11-102	03-3979-2331	
練馬区	豊島医院	豊島 良一	177-0041	練馬区石神井町1-22-8	03-3996-0014	
練馬区	若井内科・呼吸器科	若井 安理	178-0061	練馬区大泉学園町7-15-16 ハナブサ第一ビル3階	03-5933-2011	
練馬区	長嶺医院	稲田 直行	178-0063	練馬区東大泉7-7-9	03-3922-6122	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
練馬区	水谷内科呼吸器科クリニック	水谷 清二	178-0063	練馬区東大泉6-51-4 TKマンション1F	03-3867-8141	
足立	城北診療所	山村 彰義	123-0852	足立区関原2-38-21	03-3840-5474	
足立	久勝医院	久勝 章司	120-0013	足立区弘道2-1-3	03-3889-4714	
足立	健愛クリニック	鈴木 篤	120-0023	足立区千住曙町37-8	03-5813-1805	
足立	山一ビル内科クリニック	有野 亨	121-0815	足立区島根3-8-1	03-3884-8888	
足立	天沼医院	天沼 満	121-0812	足立区西保木間4-5-14-2	03-3883-8855	
足立	佐々木医院	佐々木 照	120-0005	足立区綾瀬2-26-17	03-5680-0566	
足立	旭医院	青木 哲	120-0026	足立区千住旭町9-15	03-3888-3508	
葛飾区	吉川内科医院	吉川 昌一	125-0063	葛飾区白鳥3-31-2-101	03-3602-8723	
葛飾区	遠藤医院	遠藤 啓一郎	125-0052	葛飾区柴又3-12-18	03-3607-1636	
葛飾区	富田医院	富田 秀人	124-0022	葛飾区奥戸5-1-18	03-3692-3026	
葛飾区	久保島医院	久保嶋 武仁	124-0001	葛飾区小菅2-25-10	03-3602-2746	
葛飾区	猪口医院	猪口 幸子	125-0052	葛飾区柴又4-6-14	03-5693-1511	
江戸川	同愛会病院	椿 浩司	132-0031	江戸川区松島1-42-21	03-3654-3311	
江戸川	医療法人社団美友梨会 福田クリニック	福田 徹	133-0065	江戸川区南篠崎町2-38-13	03-3679-2011	
江戸川	京谷医院	京谷 淳	133-0051	江戸川区北小岩6-17-7	03-3671-8103	
江戸川	小暮医院	小暮 堅三	133-0042	江戸川区興宮町16-13	03-3653-5347	
江戸川	中川医院	中川 陽之	132-0034	江戸川区小松川3-75	03-3684-2534	
江戸川	葛西中央病院	土谷 明男	134-0091	江戸川区船堀7-10-3	03-3680-8121	
江戸川	恵仁堂医院	山上 恵一	133-0052	江戸川区東小岩4-10-5	03-3657-4416	○
西多摩	福生クリニック	玉木 一弘	197-0012	福生市加美平3-35-13	042-551-2312	
西多摩	日の出ヶ丘病院	神尾 重則	190-0181	日の出町大久野310	042-597-0811	
西多摩	片平医院	片平 潤一	198-0036	青梅市河辺町10-16-20	0428-21-1741	○
西多摩	近藤医院	近藤 之暢	197-0827	あきる野市油平35	042-558-0506	
西多摩	双葉クリニック	松崎 潤	205-0022	羽村市双葉町1-1-15	042-570-1588	
西多摩	石畑診療所	小林 康弘	190-1211	瑞穂町石畑207	042-557-0072	
八王子市	秋山内科医院	秋山 幸久	192-0904	八王子市子安町1-32-7	042-643-0212	
八王子市	京王八王子駅前診療所	田中 光彦	192-0046	八王子市明神町4-7-1 京王駅前ビル5F	042-645-8228	○
八王子市	近藤内科医院	近藤 一英	193-0824	八王子市長房町1502-30	042-661-6035	
八王子市	遠山内科・循環器クリニック	遠山 博	192-0916	八王子市みなみ野2-16-3 モンパルテ1F	042-632-8033	
八王子市	伊藤内科消化器医院	伊藤 均	192-0045	八王子市大和田町4-15-14	042-642-6734	
八王子市	南大沢クリニック	佐々木 容三	192-0364	八王子市南大沢5-14-4-1	042-674-7766	
八王子市	横川内科クリニック	島村 嘉一	192-0823	八王子市横川町550-23 矢野ビル1F	042-625-7711	
南多摩	斉藤内科呼吸器科	斉藤 宣照	206-0025	多摩市永山4-2-6-202	042-373-2522	
南多摩	土方クリニック	土方 英史	191-0024	日野市万願寺1-13-1	042-587-7171	
南多摩	中川クリニック	中川 均	191-0041	日野市南平7-18-11	042-594-0313	
南多摩	やはの内科・胃腸科クリニック	矢羽野 壮光	206-0011	多摩市関戸1-11-9 桜ヶ丘富沢ビル6F	042-356-3761	
南多摩	長峰クリニック	武井 滋	206-0821	稲城市長峰2-2-2	042-350-7171	
町田市	こばやし医院	小林 信正	194-0012	町田市金森1-26-15	042-726-3431	
町田市	中村クリニック	中村 豊	194-0036	町田市木曽東3-20-28	042-792-0033	
町田市	泰生医院	金沢 健雅	194-0212	町田市小山町2470-5	042-797-7423	
町田市	成田クリニック	成田 雅弘	194-0011	町田市成瀬ヶ丘2-23-16	042-795-1281	○
町田市	はやし内科クリニック	林 淳弘	195-0057	町田市真光寺2-37-11	042-736-5501	
多摩立川	つづきクリニック	奥平 圭輔	190-0013	立川市富士見町4-10-18	042-540-4180	医療機関名称変更 2019年10月31日まで
	奥平クリニック					
	唯善クリニック 内科・呼吸器内科	竹口 甲三	190-0013	立川市富士見町1-34-9-1F	042-527-6711	2019年11月1日から

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
多摩立川	平田循環器・内科	平田 俊吉	190-0002	立川市幸町2-45-9	042-537-4850	○
多摩立川	まことクリニック	腰塚 誠二	196-0003	昭島市松原町2-9-1	042-546-2800	
多摩立川	国分寺内科中央病院	松本 めぐみ	185-0022	国分寺市東元町2-3-19	042-322-0131	
多摩立川	新田クリニック	新田 國夫	186-0005	国立市西2-26-29	042-574-3355	
多摩立川	半田医院	半田 宏一	208-0013	武蔵村山市大南3-54-16	042-564-8649	
多摩立川	高橋医院	高橋 英樹	207-0021	東大和市立野2-3-17	042-565-7001	
多摩府中	赤須内科クリニック	赤須 文彰	183-0006	府中市緑町2-17-9	042-334-0780	
多摩府中	小林内科	小林 肇	182-0035	調布市上石原2-30-22	042-482-8623	
多摩府中	田原医院	田原 順雄	180-0014	武蔵野市関前3-3-9	042-251-8458	
多摩府中	渡辺医院	渡辺 滋	180-0004	武蔵野市吉祥寺本町4-7-9	0422-22-8937	
多摩府中	岡庭医院	岡庭 孝	181-0001	三鷹市井の頭3-21-16	0422-43-8367	
多摩府中	いりえ内科クリニック	入江 哲也	181-0003	三鷹市北野4-5-30 キューブコート鳥山101号	03-5314-3577	
多摩府中	府中よつやクリニック	市川 雅	183-0035	府中市四谷3-37-14	042-336-7222	
多摩府中	仙川さとうクリニック	佐藤 正邦	182-0002	調布市仙川町2-18-15 メゾン仙川1F	03-5315-7373	
多摩府中	武蔵小金井クリニック	金光 寛承	184-0004	小金井市本町5-19-33	042-384-0080	
多摩府中	柏田内科クリニック	柏田 和子	201-0001	狛江市西野川1-15-19	03-3430-0222	○
多摩府中	中村内科クリニック	中村 公彦	183-0031	府中市西府町2-12-1	042-362-2112	
多摩府中	辻医院	荒井 敏	182-0034	調布市下石原3-60-4	042-482-2891	
多摩小平	松岡内科クリニック	松岡 緑郎	187-0002	小平市花小金井1-1-11 エメラルドビル3F	042-426-8080	
多摩小平	高橋内科クリニック	高橋 英二	189-0011	東村山市恩多町4-1-23	042-395-3553	
多摩小平	水谷医院	水谷 良子	189-0013	東村山市栄町1-13-1	042-390-5522	
多摩小平	宮本医院	宮本 兼吾	204-0022	清瀬市松山1-42-6	042-491-0547	
多摩小平	山口内科・呼吸器科クリニック	山口 規夫	203-0053	東久留米市本町3-12-2	042-472-2386	○
多摩小平	廣川クリニック	廣川 豊	202-0012	西東京市東町4-8-28 JUN西東京市101	042-425-6476	
多摩小平	保谷内科・呼吸器科クリニック	保谷 功	202-0005	西東京市住吉町6-1-26	042-458-7870	
多摩小平	井上内科クリニック	井上 玄	187-0042	小平市仲町268-6 サライ仲町102	042-342-0056	
島しょ	小笠原村診療所	野沢 有 二	100-2101	小笠原村父島清瀬	04998-2-3800	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、内科病原体定点を兼ねる医療機関である。

眼科 (39定点)

2019年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
中央区	宮下眼科医院	宮下 公男	104-0031	中央区京橋2-5-18 3F	03-3564-0240	
新宿区	東京女子医科大学病院眼科	篠崎 和美	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111	○*
新宿区	東京医科大学病院眼科	森 秀樹	160-0023	新宿区西新宿6-7-1	03-3342-6111	
文京	順天堂大学医学部眼科	村上 晶	113-0033	文京区本郷3-1-3	03-3813-3111	
墨田区	毛塚眼科医院	毛塚 剛司	131-0033	墨田区向島1-5-7	03-3622-0941	
江東区	さとう眼科	佐藤 明	136-0076	江東区南砂6-1-11	03-3645-5441	
品川区	濱崎眼科医院	濱崎 陞	140-0014	品川区大井3-18-17	03-3776-4197	
目黒区	にっこのクリニック	入戸野 晋	152-0011	目黒区原町2-1-24	03-5704-4092	
大田区	朝広眼科	朝広 信彦	146-0085	大田区久が原5-17-9	03-3751-7757	
大田区	下丸子眼科クリニック	藤井 孝	146-0092	大田区下丸子1-6-24 グランドステラ下丸子1F	03-5741-2400	
世田谷	烏山眼科医院	福下 公子	157-0062	世田谷区南烏山5-16-20 二番館ハラジマビル3F	03-3308-0777	
世田谷	喜多見眼科	熊川 美代子	157-0067	世田谷区喜多見8-18-10 小泉ビル3F	03-5494-7878	
渋谷区	細川眼科クリニック	細川 可奈	150-0012	渋谷区広尾5-14-2 広尾KKビル4F	03-5423-7023	○
中野区	福田眼科医院	福田 敏雅	165-0026	中野区新井2-33-1	03-3386-3700	
杉並	荒木眼科医院	荒木 博子	167-0042	杉並区西荻北2-9-10	03-3395-3091	○
池袋	大木眼科	大木 孝太郎	171-0014	豊島区池袋2-17-1	03-3971-2598	
北区	秋山眼科医院	秋山 健一	114-0023	北区滝野川3-4-14	03-3915-5210	
荒川区	眼科アリモト	有本 啓三	116-0014	荒川区東日暮里5-51-7	03-3806-3720	
板橋区	フルヤ眼科クリニック	古谷 和正	173-0004	板橋区板橋1-22-8 古谷ビル2F	03-5375-4930	
板橋区	小暮眼科	小暮 慎二	175-0094	板橋区成増3-10-5	03-3979-3555	
練馬区	荻野眼科医院	荻野 公嗣	177-0041	練馬区石神井町1-25-10	03-3996-2021	
練馬区	氷川台眼科	長松 淳一	179-0084	練馬区氷川台3-38-8 内観堂ビル2F	03-5984-1900	
足立	三原眼科医院	三原 敬	123-0857	足立区本木北町14-6	03-3890-0785	
足立	菅田眼科	菅田 裕久	120-0034	足立区千住2-6	03-3881-2641	
葛飾区	的場眼科クリニック	伊藤 景子	125-0042	葛飾区金町6-13-9	03-3607-0657	
江戸川	松江八木橋眼科	八木橋 修	132-0025	江戸川区松江2-1-5 目々沢ビル	03-5607-3505	
江戸川	安田医院	安田 尚美	132-0011	江戸川区瑞江1-43-12	03-5666-7038	
八王子市	倉田眼科医院	倉田 美樹	192-0073	八王子市寺町55	042-622-1440	
八王子市	大熊眼科医院	大熊 京子	193-0835	八王子市千人町2-19-15 長塚ビル3F	042-667-3477	
西多摩	馬詰眼科	馬詰 良比古	197-0023	福生市志茂224-1	042-553-9521	
南多摩	小川眼科	小川 昭彦	206-0011	多摩市関戸2-40-1 ニッセイ聖蹟桜ヶ丘ビル3F	042-337-6660	
町田市	吉川眼科クリニック	吉川 啓司	194-0021	町田市中町1-3-1 小田桐ビル2F	042-739-0781	
多摩立川	天佑眼科医院	岡本 晴彦	207-0014	東大和市南街1-27-5	042-561-2965	
多摩立川	曾根医院	曾根 隆一郎	185-0012	国分寺市本町4-19-8	042-322-0516	
多摩府中	こはら眼科	小原 真樹夫	180-0006	武蔵野市中町1-4-4 スクウェア三鷹1F	0422-52-8871	
多摩府中	武蔵境眼科医院	村松 隆次	180-0023	武蔵野市境南町1-8-1 武蔵野STビル2F	0422-34-2117	
多摩府中	平山眼科医院	平山 信隆	183-0023	府中市宮町1-20-19 大津ビル2F	042-364-0300	
多摩小平	徳島診療所	中川 尚	189-0024	東村山市富士見町1-2-14	042-391-2525	○
多摩小平	つしま眼科医院	對馬 一仁	204-0021	清瀬市元町1-8-19 アーク清瀬201	042-496-2240	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、眼科病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

2020年変更医療機関

2020年5月1日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
町田市	吉川眼科クリニック	吉川 啓司	194-0021	町田市中町1-3-1 小田桐ビル2F	042-739-0781	2020年1月31日まで
	すずかけ台眼科クリニック	吉利 尚	194-0002	町田市南つくし野3-4-2 久保田ビル2階	042-788-5505	2020年2月1日から
北区	秋山眼科医院	秋山 健一	114-0023	北区滝野川3-4-14	03-3915-5210	2020年3月31日まで
	クリスタル眼科	野牛 千鶴	114-0004	北区船堀3-18-3	03-5902-5089	2020年4月1日から
足立	菅田眼科	菅田 裕久	120-0034	足立区千住2-6	03-3881-2641	2020年3月31日まで
	こばやし眼科クリニック	小林 康彦	120-0043	足立区千住宮元町1-1 宮元ビル2F	03-5244-6080	2020年4月1日から
八王子市	倉田眼科医院	倉田 美樹	192-0073	八王子市寺町55	042-622-1440	2020年3月31日まで
	きむら眼科	木村 隆	194-0904	八王子市子安町4-10-1	042-680-7430	2020年4月1日から
西多摩	馬詰眼科	馬詰 良比古	197-0023	福生市志茂224-1	042-553-9521	2020年3月31日まで
	後藤眼科診療所	後藤 晋	198-0089	青梅市森下町508	0428-22-3202	2020年4月1日から
世田谷	烏山眼科医院	福下 公子	157-0062	世田谷区南烏山5-16-20 二番館ハジマビル3F	03-3308-0777	2020年3月31日まで
	福地眼科	福地 郁子	156-0057	世田谷区上北沢3-17-3 NKビル2F	03-3304-5586	2020年5月1日から

性感染症（55定点）

2019年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
千代田	スバル医院	中村 憲司	100-0006	千代田区有楽町1-2-6	03-3580-9559	
千代田	(公社)東京都教職員互助会 三楽病院	平澤 潔	101-8326	千代田区神田駿河台2-5	03-3292-3981	
中央区	前田医院	前田 立雄	104-0045	中央区築地1-3-6	03-3541-0396	
中央区	弓削医院	弓削 文一	103-0014	中央区日本橋蠣殻町1-28-7	03-3666-3979	
中央区	対馬ルリ子女性ライフクリニック 銀座	対馬 ルリ子	104-0061	中央区銀座2-6-5 銀座トレンシヤビル7F	03-3538-0283	
みなと	大原皮膚泌尿器科	大原 正雄	107-0052	港区赤坂2-14-33 栄屋清水ビル5階	03-3584-4821	
みなと	赤枝六本木診療所	赤枝 恒雄	106-0046	港区元麻布3-1-30	03-3405-1388	
新宿区	新宿さくらクリニック	澤村 正之	169-0073	新宿区百人町2-11-22	03-3364-6333	
新宿区	峰岸医院	峰岸 宏年	160-0023	新宿区西新宿5-9-19	03-3373-1686	2019年3月31日まで
	たつきクリニック	矢谷 達樹	160-0023	新宿区西新宿7-16-14 ミクラ西新宿ビル2F	03-5348-7074	2019年8月1日から
新宿区	植松医院	植松 幹雄	169-0075	新宿区高田馬場1-32-14 UKビル2F	03-3209-5608	
新宿区	阿蘇医院	阿蘇 哲	160-0008	新宿区三栄町1-1	03-3351-3224	
新宿区	竹下医院	竹下 寿子	169-0075	新宿区高田馬場2-14-22	03-3200-1281	
新宿区	(財)東京都保健医療公社 大久保病院	高田 淳子	160-8488	新宿区歌舞伎町2-44-1	03-5273-7711	
新宿区	しらかば診療所	井戸田 一朗	162-0065	新宿区住吉町8-28 B・STEPビル2階	03-5919-3127	
文京	細部医院	細部 高英	113-0031	文京区根津1-1-15	03-3822-6858	
台東	佐々木医院	佐々木貴子	111-0032	台東区浅草5-33-7	03-3872-6776	
台東	永寿総合病院	高橋 峰夫	110-8645	台東区東上野2-23-16	03-3833-8381	
墨田区	南外科泌尿器科	南 孝明	131-0032	墨田区東向島5-38-14	03-3614-2511	
墨田区	賛育会病院	鈴木 正明	130-0012	墨田区太平3-20-2	03-3622-9191	
江東区	尾関皮膚泌尿器科	尾関 全彦	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3階	03-3630-1241	○
江東区	江東病院	宮崎 亮一郎	136-0072	江東区大島6-8-5	03-3685-2166	
品川区	東五反田クリニック	小川 秀彌	141-0022	品川区東五反田4-11-12 パラドール池田山102	03-3280-6762	
大田区	前村医院	前村 由美	143-0014	大田区大森中2-19-17	03-3761-3955	
大田区	東京蒲田病院	小山 豊	144-0051	大田区西蒲田7-10-1	03-3733-0525	
渋谷区	ムラキクリニック	村木 淳郎	151-0064	渋谷区上原1-33-10	03-5790-8333	2019年11月30日まで
	渋谷新南口クリニック	秋山 昭人	150-0002	渋谷区渋谷3-28-8 第三久我屋ビル2F	03-3406-6301	2019年12月1日から
渋谷区	赤阪医院	赤阪 雄一郎	150-0001	渋谷区神宮前3-31-9	03-3401-7506	
渋谷区	JR東京総合病院	奥山 伸彦	151-8528	渋谷区代々木2-1-3	03-3320-2204	
渋谷区	東クリニック	東 哲徳	151-0073	渋谷区笹塚1-30-3 ピラージュ笹塚III4F	03-3481-0380	
渋谷区	都立広尾病院	秋山 邦久	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181	
中野区	やなだクリニック	築田 周一	164-0013	中野区弥生町6-2-20	03-5342-9511	
中野区	新渡戸記念中野総合病院	吉野 修司	164-8607	中野区中央4-59-16	03-3382-1231	
杉並	荻窪駅前クリニック	吉田 正林	167-0051	杉並区荻窪5-27-8 FCビル4F	03-3220-9622	
杉並	荻窪病院	杉山 武	167-0035	杉並区今川3-1-24	03-3399-1101	
池袋	安康レディースクリニック	安康 善雄	171-0014	豊島区池袋2-42-3 オスカービル2F	03-3971-3544	
池袋	真和クリニック	森田 博人	171-0021	豊島区西池袋1-25-1	03-3971-3272	
池袋	渡辺胃腸科医院	渡辺 伸介	170-0005	豊島区南大塚1-53-1	03-3943-6371	○

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、「性感染症病原体定点」を兼ねる医療機関である。

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
北区	十条銀座診療所	平林 徹	114-0034	北区上十条2-27-17	03-3908-1826	
荒川	加藤産婦人科医院	加藤 寛彦	116-0001	荒川区町屋2-9-21	03-3895-3521	
板橋区	本多医院	本多 章乃	173-0023	板橋区大山町18-12	03-3959-0807	
板橋区	板橋中央総合病院	大橋 浩文	174-8691	板橋区小豆沢2-12-7	03-3967-1181	
足立	長門クリニック	渡邊 秀樹	120-0002	足立区中川2-5-8	03-3605-3131	
足立	博慈会記念総合病院	林 達郎	123-0864	足立区鹿浜5-11-1	03-3899-1311	
江戸川	岩倉病院	岩倉 弘毅	133-0056	江戸川区南小岩7-28-4	03-3659-3215	○
江戸川	とおるクリニック	田中 徹	132-0011	江戸川区瑞江2-3-1-3F	03-5664-8020	
八王子市	新クリニック	福嶺 紀隆	193-0931	八王子市台町2-16-8	042-621-6203	
八王子市	西島産婦人科	西島 重信	193-0835	八王子市千人町1-8-5	042-661-6642	○
八王子市	米山産婦人科病院	花岡 素美	192-0065	八王子市新町2-12	042-642-5225	
八王子市	はぎの医院	萩野 陽一郎	192-0066	八王子市本町11-6	042-622-2206	
町田市	町田産婦人科菜の花クリニック	町田 利正	194-0045	町田市南成瀬7-14-1	042-728-1101	
多摩立川	泉医院	泉 康二	190-0012	立川市曙町2-14-16	042-522-2233	
多摩立川	こむかい産婦人科	小武海 成之	190-0022	立川市錦町2-3-30	050-3588-0123	
多摩府中	武蔵野陽和会病院	長倉 和彦	180-0012	武蔵野市緑町2-1-33	0422-52-3212	
多摩府中	武蔵野赤十字病院	泌尿器科部長	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111	*
多摩府中	都立多摩総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8524	府中市武蔵台2-8-29	042-323-5111	
多摩小平	真能クリニック	真能 純一	187-0045	小平市学園西町2-13-37 カミデビル2F	042-342-8280	

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、性感染症病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、基幹定点を兼ねる医療機関である。

2020年変更医療機関

2020年5月1日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
町田市	町田産婦人科菜の花クリニック	町田 利正	194-0045	町田市南成瀬7-14-1	042-728-1101	2020年3月31日まで
	産婦人科ベルンの森クリニック	松下 径広	194-0215	町田市小山ヶ丘4-3-1	042-775-3553	2020年4月1日から
江東区	尾関皮膚泌尿器科	尾関 全彦	135-0048	江東区門前仲町2-6-2 幸栄ビル3階	03-3630-1241	○ 2020年3月31日まで
	西大島駅と亀戸駅の間のいわぶち内科と泌尿器科のクリニック	岩渕 敏久	136-0072	江東区大島3-4-3 タワーレジデンス西大島2階	03-3683-3137	○ 2020年5月1日から

基幹 (25定点)

2019年12月31日 現在

保健所名	医療機関名	氏名	郵便番号	所在地	電話番号	備考
千代田	東京通信病院	小野 正恵	102-8798	千代田区富士見2-14-23	03-5214-7111	○ *
千代田	(公社) 東京都教職員互助会 三楽病院	総務課長	101-8326	千代田区神田駿河台2-5	03-3292-3981	
みなと	東京都済生会中央病院	小児科外来	108-0073	港区三田1-4-17	03-3451-8211	○ *
新宿区	(社) 聖母会 聖母病院	猪野 雅孝	161-8521	新宿区中落合2-5-1	03-3951-1111	○ *
新宿区	東京女子医科大学病院	病院長	162-8666	新宿区河田町8-1	03-3353-8111	○ #
文京	がん・感染症センター 都立駒込病院	医事課長	113-8677	文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101	○
墨田区	都立墨東病院	医事課長	130-8575	墨田区江東橋4-23-15	03-3633-6151	○
大田区	(公財) 東京都保健医療公社 荏原病院	医事課長	145-0065	大田区東雪谷4-5-10	03-5734-8000	○
世田谷	国立成育医療研究センター	医事課長	157-8535	世田谷区大蔵2-10-1	03-3416-0181	
世田谷	公立学校共済組合 関東中央病院	医事課長	158-8531	世田谷区上用賀6-25-1	03-3429-1171	
渋谷区	都立広尾病院	医事課長	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	03-3444-1181	○
杉並	立正佼成会附属佼成病院	倉山 亮太	166-0012	杉並区和田2-25-1	03-3383-1281	○ *
杉並	河北総合病院	岡井 隆広	166-8588	杉並区阿佐谷北1-7-3	03-3339-2121	
池袋	都立大塚病院	病歴係長	170-8476	豊島区南大塚2-8-1	03-3941-3211	○
板橋区	(公財) 東京都保健医療公社 豊島病院	医事課長	173-0015	板橋区栄町33-1	03-5375-1234	○
葛飾	(公財) 東京都保健医療公社 東部地域病院	医事課長	125-8512	葛飾区亀有5-14-1	03-5682-5111	○
西多摩	青梅市立総合病院	医事課長	198-0042	青梅市東青梅4-16-5	0428-22-3191	○
八王子市	東京医科大学 八王子医療センター	医事課長	193-0998	八王子市館町1163	042-665-5611	○
多摩立川	国家公務員共済組合連合会 立川病院	医事課長	190-8531	立川市錦町4-2-22	042-523-3131	○
多摩府中	都立多摩総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8524	府中市武蔵台2-8-29	042-323-5111	○
	都立小児総合医療センター	医事課 医事管理係	183-8561	府中市武蔵台2-8-29	042-300-5111	○
多摩府中	武蔵野赤十字病院	総務課長	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111	○
多摩小平	(公財) 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター	医事課長	189-8511	東村山市青葉町1-7-1	042-396-3811	○
多摩小平	公立昭和病院	医事課長	187-8510	小平市花小金井8-1-1	042-461-0052	○
島しょ	町立八丈病院	業務課長	100-1511	八丈町三根26-11	04996-2-1188	○

(注) 備考欄に「○」の表示がある医療機関は、基幹病原体定点を兼ねる医療機関である。

備考欄に「*」の表示がある医療機関は、「小児科定点」を兼ねる医療機関である。

備考欄に「#」の表示がある医療機関は、「眼科定点」を兼ねる医療機関である。

疑似症 (36定点)

2019年12月31日 現在

保健所名	種別	医療機関名	郵便番号	所在地	備考
千代田		東京通信病院	102-0071	千代田区富士見2-14-23	2019年9月1日から
中央		聖路加国際病院	104-8560	中央区明石町9-1	2019年8月1日から
みなと		虎の門病院	105-8470	港区虎ノ門2-2-2	2019年8月1日から
みなと		東京慈恵会医科大学附属病院	105-0003	港区西新橋3-19-18	2019年9月1日から
新宿	特定	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター	162-8655	新宿区戸山1-21-1	2019年4月1日から
新宿		東京女子医科大学病院	162-8666	新宿区河田町8-1	2019年9月1日から
文京	一種	がん・感染症センター 都立駒込病院	113-8677	文京区本駒込3-18-22	2019年4月1日から
台東区		永寿総合病院	110-8645	台東区東上野2-23-16	2019年8月1日から
墨田区	一種	東京都立墨東病院	130-8575	墨田区江東橋4-23-15	2019年4月1日から
江東		昭和大学江東豊洲病院	135-8577	江東区豊洲5-1-38	2019年8月1日から
品川		昭和大学病院	142-8666	品川区旗の台1-5-8	2019年8月1日から
大田区	一種	公益社団法人東京都保健医療公社 荏原病院	145-0065	大田区東雪谷4-5-10	2019年4月1日から
大田		東邦大学医療センター大森病院	143-8541	大田区大森西6-11-1	2019年9月1日から
目黒		独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	152-8902	目黒区東が丘2-5-1	2019年8月1日から
世田谷	一種	自衛隊中央病院	154-0001	世田谷区池尻1-2-24	2019年4月1日から
渋谷区		日本赤十字社医療センター	150-0012	渋谷区広尾4-1-22	2019年8月1日から
渋谷区		東京都立広尾病院	150-0013	渋谷区恵比寿2-34-10	2019年9月1日から
中野区		東京警察病院	164-8541	中野区中野4-22-1	2019年8月1日から
杉並区		河北総合病院	166-0001	杉並区阿佐谷北1-7-3	2019年8月1日から
池袋		東京都立大塚病院	170-8476	豊島区南大塚2-8-1	2019年8月1日から
北区		公益社団法人 地域医療振興協会 東京北医療センター	115-0053	北区赤羽台4-17-56	2019年8月1日から
荒川区		東京女子医科大学東医療センター	116-8567	荒川区西尾久2-1-10	2019年9月1日から
板橋	二種	公益財団法人東京都保健医療公社 豊島病院	173-0015	板橋区栄町33-1	2019年8月1日から
練馬		練馬光が丘病院	179-0072	練馬区光が丘2-11-1	2019年8月1日から
足立		博慈会記念総合病院	123-0864	足立区鹿浜5-11-1	2019年8月1日から
葛飾		東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター	125-8506	葛飾区青戸6-41-2	2019年8月1日から
江戸川		日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院	134-0086	江戸川区臨海町14-2	2019年9月1日から
八王子	二種	東京医科大学八王子医療センター	193-0998	八王子市館町1163	2019年8月1日から
町田		町田市市民病院	194-0023	町田市旭町2-15-41	2019年9月1日から
西多摩	二種	青梅市立総合病院	198-0042	青梅市東青梅4-16-5	2019年8月1日から
南多摩		公益財団法人東京都保健医療公社 多摩南部地域病院	206-0036	多摩市中沢2-1-2	2019年8月1日から
多摩立川	二種	国家公務員共済組合連合会 立川病院	190-8531	立川市錦町4-2-22	2019年8月1日から
多摩立川		社会医療法人社団健生会 立川相互病院	190-8578	立川市緑町4-1	2019年11月1日から
多摩府中	二種	武蔵野赤十字病院	180-8610	武蔵野市境南町1-26-1	2019年8月1日から
多摩小平	二種	公立昭和病院	187-8510	小平市花小金井8-1-1	2019年8月1日から
島しょ	二種	町立八丈病院	100-1511	八丈町三根26-11	2019年8月1日から

【RWC大会期間限定】

保健所名	種別	医療機関名	郵便番号	所在地	備考
多摩府中		杏林大学医学部付属病院	181-8611	三鷹市新川6-20-2	2019年9月1日から 2019年11月30日まで
多摩府中		東京慈恵会医科大学附属第三病院	201-8601	狛江市和泉本町4-11-1	2019年9月1日から 2019年11月30日まで

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2019年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 桜 山 豊 夫	公益財団法人東京都結核予防会理事長
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 萩 原 温 久	萩原医院（東京小児科医会）
永 井 英 明	独立行政法人 国立病院機構東京病院統括診療部長
尾 形 英 雄	結核予防会複十字病院安全管理特任部長
前 田 秀 雄	北区保健所長
河 合 江 美*	町田市保健所長
今 村 顕 史	東京都立駒込病院感染症科部長
永 渕 恒 幸*	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
石 川 貴 敏	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
砂 川 富 正*	国立感染症研究所感染症疫学センター第二室長
中 坪 直 樹*	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長谷川 道 彦	はせがわクリニック（東京泌尿器科医会）
北 村 邦 夫	一般社団法人日本家族計画協会理事長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	くろさわ子ども&内科クリニック（東京小児科医会）
吉 見 裕美子*	野近眼科医院（東京都眼科医会）
美 田 敏 宏	順天堂大学医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座教授
山 下 隆 博*	恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院副院長
池 田 忠 生	元日本大学医学部准教授
川 上 一 恵	東京都医師会理事（疾病担当）

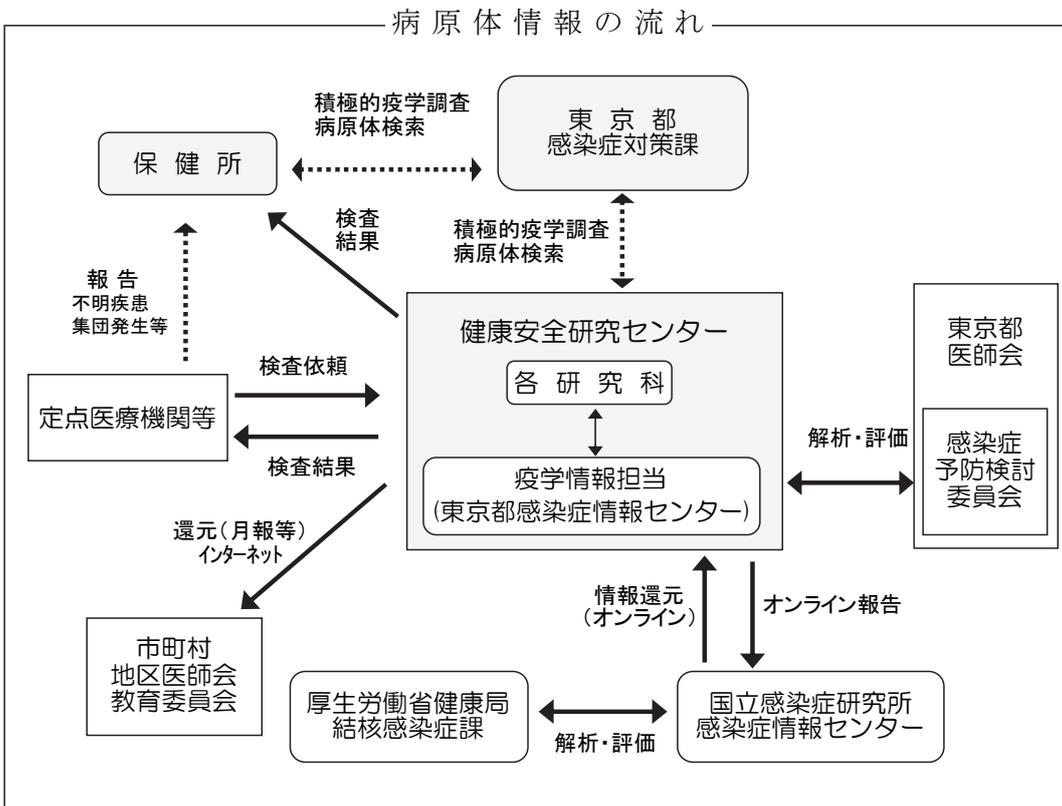
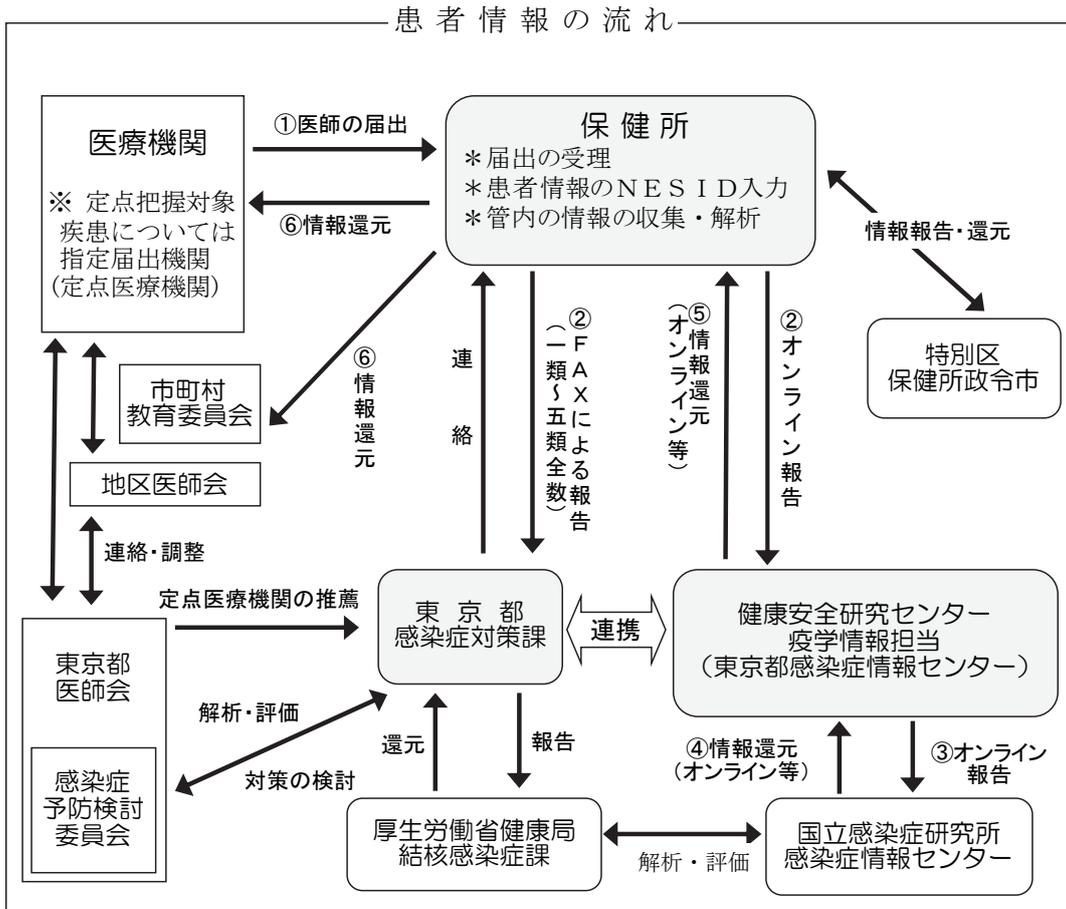
* 2019年4月1日から

◎委員長 ○副委員長

2019年3月31日まで

◎ 長 岡 常 雄	社会福祉法人 土佐希望の家 副施設長
広 松 恭 子	町田市保健所長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
井 上 賢 治	お茶の水・井上眼科クリニック（東京都眼科医会）
杉 下 由 行	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
稲 見 成 之	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号
平成12年3月30日
最終改正 2 福保健感675号
令和2年7月8日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

- (1) 東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

- (2) 東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

3 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症（別表1の新型コロナウイルス感染症を除く）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、令和2年6月25日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、本要綱の別記様式8から9、及び11から75を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等を提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき

当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から求められた場合にあつては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 新型コロナウイルス感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

新型コロナウイルス感染症を届出基準等通知に基づき診断した場合は、別に定める基準に基づき、直ちに最寄りの保健所に届け出を行う。当該届出は、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（以下「HER-SYS」という。）への入力により行うことを基本とするが、HER-SYSの入力環境がない場合には、最寄りの保健所が定める方法により行って差し支えない。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあつては、検体等を提供する。

ウ 保健所

- (ア) 届出を受けた保健所は、直ちに届出内容の確認を行うとともに、診断した医師の医療機関にHER-SYSの入力環境がない場合には、当該届出内容をHER-SYSに入力するものとする。ただし、HER-SYSの入力環境が整うまでの間は、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。
- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、HER-SYSを活用し、管内の患者情報について保健所か

らの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。ただし、保健所においてHER-SYSの入力環境が整うまでの間は、感染症発生動向調査システムに入力された情報についても確認を行う。

- (イ) 健康安全研究センター検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、HER-SYS及び感染症発生動向調査システムを活用し、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 福祉保健局健康安全部感染症対策課

福祉保健局健康安全部感染症対策課は、保健所等がHER-SYS及び感染症発生動向調査システムに入力した情報、健康安全研究センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、福祉保健局健康安全部感染症対策課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ その他

病原体検査を行政検査として医療機関に委託している場合には、当該医療機関において、保健所及び都道府県等に必要な情報提供を行うこと。当該情報共有は、HER-SYSへの入力により行うことを基本とすること。

3 全数把握対象の五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるものを除く。）

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（別表1の75、85及び86に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5-1から5-11、5-13から5-15、5-17から5-21、5-24並びに本要綱の別記様式10を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあつては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検

査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の88から99までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の100に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点

のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関(主として内科医療を提供しているもの)を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の101及び102に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関(主として眼科医療を提供しているもの)を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の103から107までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科(産婦人科系)、医療法施行令(昭和二十三年政令第三百二十六号)第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関(主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の100に掲げるインフルエンザ(届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される)、別表1の108から115までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とし、別表1の88から99までを対象感染症とする。

(ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とし、別表1の100を対象感染症とする。また、インフルエンザ病原体定点を、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。

(エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表1の101及び102を対象感染症とする。

(オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表1の103から107を対象感染症とする。

(カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表1の100に掲げるインフルエンザ(入院患者に限る。)、別表1の108から115までを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

イ 病原体情報

病原体情報のうち、(2)のイの(ウ)により選定された病原体定点に関するものについて

は、別表1の100に掲げるインフルエンザの流行期（(2)のアの(イ)により選定された患者定点あたりの患者発生数が東京都全体で1を超えた時点から1を下回るまでの間）には1週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期（流行期以外の期間）には各月を調査単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式1の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

(ウ) (2)のイの(イ)により選定された病原体定点においては、別表1の88から97までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を送付するものとする。

(エ) (2)のイの(ウ)により選定された病原体定点においては、別表1の100に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

エ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

オ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情

報の確認を行う。

- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の選定

東京都は、関係医師会の協力を得て、国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱第5の4(2)に定める基準を満たす医療機関の中から疑似症定点を選定する。また、疑似症定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) 疑似症定点として選定された医療機関は、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を国の定める届出基準の別記様式6-7に記載する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 保健所

(ア) 保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、随時福祉保健局健康安全部感染症対策課に報告する。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 福祉保健局健康安全部感染症対策課

福祉保健局健康安全部感染症対策課は保健所から得られた疑似症情報を健康安全研究センターに報告する。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、汎用サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

6 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

- この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成23年9月5日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成25年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成25年5月22日から施行し、同年5月6日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成25年10月14日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成26年6月12日から施行し、同年5月12日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成26年8月13日から施行し、同年7月26日から適用する。附 則
この実施要綱は、平成26年9月19日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成27年2月25日から施行し、同年1月21日から適用する。
- 附 則
この実施要綱は、平成27年5月21日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成28年1月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成28年2月15日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成28年4月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成30年1月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成30年5月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成31年1月1日から施行する。
- 附 則
この実施要綱は、平成31年4月1日から施行する。
- 附 則

この実施要綱は、令和元年5月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年2月3日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年5月13日から施行する。

附 則

この実施要綱は、令和2年6月24日から施行し、5月29日から適用する。

附 則

この実施要綱は、令和2年6月25日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	13 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
	14 鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○		
三類	15 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	16 細菌性赤痢	○	—	○		
	17 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18 腸チフス	○	—	○		
	19 パラチフス	○	—	○		
四類	20 E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	21 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22 A型肝炎	○	—	○		
	23 エキノコックス症	○	—	○		
	24 黄熱	○	—	○		
	25 オウム病	○	—	○		
	26 オムスク出血熱	○	—	○		
	27 回帰熱	○	—	○		
	28 キヤサヌル森林病	○	—	○		
	29 Q熱	○	—	○		
	30 狂犬病	○	—	○		
	31 コクシジオイデス症	○	—	○		
	32 サル痘	○	—	○		
	33 ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	35 腎症候性出血熱	○	—	○		
	36 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38 炭疽	○	—	○		
	39 チクングニア熱	○	—	○		
	40 つつが虫病	○	—	○		
	41 デング熱	○	—	○		
	42 東部ウマ脳炎	○	—	○		
43 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○			
44 ニパウイルス感染症	○	—	○			
45 日本紅斑熱	○	—	○			

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
46	日本脳炎	○	—	○		
47	ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
48	Bウイルス病	○	—	○		
49	鼻疽	○	—	○		
50	ブルセラ症	○	—	○		
51	ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
52	ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
53	発しんチフス	○	—	○		
54	ボツリヌス症	○	—	○		
55	マラリア	○	—	○		
56	野兎病	○	—	○		
57	ライム病	○	—	○		
58	リッサウイルス感染症	○	—	○		
59	リフトバレー熱	○	—	○		
60	類鼻疽	○	—	○		
61	レジオネラ症	○	—	○		
62	レプトスピラ症	○	—	○		
63	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		
指定感染症	新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	○	○	○	全数	直ちに

2 五類感染症(全数把握)

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
64	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	—	—		
67	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	○	—	—		
68	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
69	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
70	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
72	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
73	ジアルジア症	○	—	—		
74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
75	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—		
76	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内
77	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)	○	—	—		
78	先天性風しん症候群	○	—	—		
79	梅毒	○	—	○		
80	播種性クリプトコックス症	○	—	—		
81	破傷風	○	—	—		
82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
84	百日咳	○	—	—		
85	風しん	○	—	—		
86	麻しん	○	—	—		
87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
116	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
117	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時期
88	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
89	咽頭結膜熱	○	—	—		
90	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
91	感染性胃腸炎	○	—	—		
92	水痘	○	—	—		
93	手足口病	○	—	—		
94	伝染性紅斑	○	—	—		
95	突発性発しん	○	—	—		
96	ヘルパンギーナ	○	—	—		
97	流行性耳下腺炎	○	—	—		
98	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
99	川崎病 (都単独)	○	—	—		
100	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
101	急性出血性結膜炎	○	—	—		
102	流行性角結膜炎	○	—	—		
103	性器クラミジア感染症	○	—	—		
104	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
105	尖圭コンジローマ	○	—	—		
106	淋菌感染症	○	—	—		
107	膻トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
108	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
109	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
110	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	○	—	—		
111	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
112	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
113	無菌性髄膜炎	○	—	—		
114	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
115	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
118	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの。	—	○	—	別表3参照	

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾患名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)			
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届出対象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。	随時	直ちに

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

※ただし、2019年3月までの疑似症の届出対象および報告時期については下記のとおりとなっている。

5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時 期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
118	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
119	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届出対象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

感染症発生動向調査事業報告書
平成31年・令和元年（2019年）

令和2年9月

登録番号 (2) 12

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電話 (03) 3363-3231
印刷所 有限会社 雄久社
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷1-24-7
電話 (03) 5451-7030



リサイクル適性[®](A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

